

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	3141000001
開設科目名	分子生物化学特論			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	山中 明			区分	
授業の概要					
無脊椎動物および脊椎動物の生体防御機構(免疫学)を学ぶ。					
授業の一般目標					
無脊椎動物および脊椎動物の生体防御機構(免疫学)の基本的な知識の習得ならびに進化系統学的な知見から生体防御機構を説明できる。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 無脊椎動物ならびに脊椎動物の基本的な生体防御機構が説明できる。					
思考・判断の観点: 各動物が進化系統学的に獲得してきた生体防御機構の繋がりを説明できる。					
関心・意欲の観点: 生物の持つ種の多様性に対し、さまざまな視点から問題意識を持つ。					
技能・表現の観点: 文章で適切な表現による説明ができる。					
成績評価方法(総合)					
期末テストおよび課題に対する理解度との総合判断で評価する。					
教科書					
参考書					
ヒトと動植物のディフェンス-巧妙な異物との戦い-, / 日本生体防御学会編. 菜根出版, 1996					
動物免疫学入門 / 和合治久. 朝倉書店, 1994					
メッセージ					
連絡先					
山中明(総合研究棟506西)・yamanaka@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
火曜日 18:00-19:00					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	3141000002
開設科目名	分子生物化学演習			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	山中 明			区分	
授業の概要					
動物がその生命を維持するために必要な生体防御機構は、分子生物化学領域の進歩とともに複雑かつ多様化している。本演習では、無脊椎動物(種に節足動物、特に昆虫類と甲殻類)の生体防御機構と脊椎動物の免疫機構に関する最新の論文発表を行い、最新の知識の習得、発表内容に関する議論の展開とともに、プレゼンテーション能力の向上を目指す。					
授業の一般目標					
特定のテーマについて学生と教員の相互討論などで進行する双方向の授業で、テーマの内容をより深く理解し、討論する能力を養う。					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
原著論文や総説の理解度、プレゼンテーションの内容により評価					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
総合研究棟506西; yamanaka@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
火曜日 18:00-19:00					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	314100003
開設科目名	天然物有機化学特論			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	阿部 憲孝			区分	
授業の概要					
<p>自然は、人類の生活・福祉に役立つような化合物、医薬品、農薬、香辛料、毒、染料等を提供してきた。動・植物によって生成される天然物有機化合物の化学は、薬学、医学の基本となる。本講義においては、この天然物の化学を、生成の観点から幾つかの化合物について概観し、代表的な化合物の構造と全合成について概説する。また、アルカロイド等の天然物を、それらの特徴ある「生理活性」の立場から解説する。</p>					
授業の一般目標					
<p>天然物有機化合物の性質と生物活性についての理解するとともに、生体中でどのように生成されるか、また、化学合成による全合成法についての基本的考え方を理解する。</p>					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点:有機化学反応の理解のもとに、天然物有機化合物の合成、生成について理解できる。</p> <p>思考・判断の観点:有機化学および薬学的観点から天然物について考えることができる。</p> <p>関心・意欲の観点:天然物有機化合物の役割に興味を抱き、意欲的に学問に取り組む。</p>					
成績評価方法(総合)					
<p>レポートと発表により、天然物有機化合物の性質と生物活性についての理解度や天然物の化学合成についての理解度を評価する。</p>					
教科書					
<p>医薬品天然物化学 原著第2版 / 海老塚豊監訳: 南江堂, 2004</p>					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	3141000004
開設科目名	天然物有機化学演習			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	阿部 憲孝			区分	
授業の概要					
有機化学反応をもちいての天然有機化合物合成法への理解を深める目的で、演習を行う。その方法としては、天然物化学に関する外国語論文の講読と発表を行うことにより、最新の合成法を理解し身につけるとともに、古典的な合成法と最新の化学合成による合成法を比較検討する演習を行う。					
授業の一般目標					
薬理活性を有する複雑な構造の天然物の全合成の演習を通して、天然物の合成方法への理解を深めるとともに、化学反応と生物活性の関連も理解する。さらに、発表を通して、プレゼンテーション能力をやしなう。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 有機反応をもとに、天然物の構造、全合成、生合成について理解できる。					
思考・判断の観点: 天然物について考えるとき、有機化学的思考ができる。					
成績評価方法(総合)					
プレゼンテーションによる内容の理解度、問題演習による化学反応に関する理解度を評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	3141000005
開設科目名	応用分析化学特論			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	藤原 勇			区分	
授業の概要					
化学反応に伴う情報の発現をとらえることが分析化学の基本である。物質と物質の相互作用に伴う分子認識によって発生する信号を応用した最近の分析方法について説明する。					
授業の一般目標					
分析化学の基礎的なとらえ方を考える					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 分析化学の基本である化学反応に伴う情報の発現をとらえる					
成績評価方法(総合)					
レポート、演習、出席により総合的に判断する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
総合科学実験センター 排水処理センター 藤原 勇 Tel 083-933-5137 Fax 083-933-5138					
オフィスアワー					
特になし、連絡して質問等きてください					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	3141000006
開設科目名	反応有機化学特論			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	石黒 勝也			区分	
授業の概要					
反応機構の理解に必要な実験的手法および実験事実と反応機構の結びつき、また、有機化学反応の機構解明に用いられる物理有機化学的手法について講義し、介在する中間体の正体がどうやってつきとめられ、ブラックボックスの中身がどのように明らかにされてきたのかについて、また、特異な反応の例について順次解説する。また、特異な構造・反応性をもつ化学種が拓く有機化学の新領域について紹介する。					
授業の一般目標					
反応を制御するための基本的な要因である置換基効果・溶媒効果・同位体効果・立体電子的效果などを理解し、反応速度の取り扱いや、時間分解スペクトル、磁気共鳴、電気化学的手法、理論計算など、有機化学反応の機構解明に用いられる物理有機化学的手法を理解する。反応機構の理解に必要な実験的手法および反応機構を理解し、また、電子移動や光エネルギーの流れ、有機化合物の電子物性や分子機能についてその基礎を理解する。毎回の演習を通して、反応機構を考える力を身につける。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 反応機構を理解し、反応を制御するための基本的な要因である置換基効果・溶媒効果・同位体効果・立体電子的效果などを修得する。					
思考・判断の観点: 反応速度や、時間分解スペクトル、磁気共鳴、電気化学的手法、理論計算などの手法が、機構解明にどのように役立つかを思考する。					
関心・意欲の観点: 未来技術として、光機能性材料において重要な電子移動や光エネルギーの流れ、また、分子材料における基礎となる有機化合物の電子物性や分子機能について関心をもつ。					
態度の観点: 毎回の演習に意欲的に取り組み、レポート課題に対し、自主的な調査・考察を行う。					
成績評価方法(総合)					
毎回の授業における演習やレポートから総合的に評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
総合研究棟208東室 内線5727					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	3141000007
開設科目名	有機金属反応化学特論			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	藤井 寛之			区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	3142000001
開設科目名	分子発生学特論			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	村上 柳太郎			区分	
授業の概要					
<p>ショウジョウバエを中心として、胚発生過程とそこに関わるシグナル伝達経路と転写因子について概説するとともに、現在の研究動向を論じる。また、ショウジョウバエ発生遺伝学関係の論文を例として、執筆から受理されるまでの過程を紹介する。受講者の研究内容を英語の論文形式でまとめること、または英語による口頭発表を課題として検討している。</p>					
授業の一般目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. ショウジョウバエ胚の発生過程で見られるパターン形成、細胞分化などの諸問題の概略を理解する。 2. 多細胞動物胚で広く保存されているシグナル伝達系の概略と、その研究手法について理解する。 3. 研究内容を英文でまとめることに親しむ。 					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
レポートまたはプレゼンテーションを評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
<p>村上柳太郎 理学部 1号館 332号室(内線 5696) ryu@yamaguchi-u.ac.jp</p>					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	3142000002
開設科目名	分子発生物学演習			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	村上 柳太郎			区分	
授業の概要					
分子発生物学分野の最新の論文の紹介、受講者の特別研究の紹介をプレゼンテーション形式で行い、その内容について議論する。					
授業の一般目標					
論文の読みこなしと適確な内容紹介、自分の研究内容をわかりやすく紹介する。					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
プレゼンテーションと議論への参加度を評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	3142000003
開設科目名	細胞進化学特論			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	藤島 政博			区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	3142000004
開設科目名	物性化学特論			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	川俣 純			区分	
授業の概要					
さまざまな物質が示す性質、機能および現象を、化学結合の種類や形態、原子や分子の配列、配向やそれらの間の距離、電子状態や電子相関、次元性等をパラメーターとして考える物理化学の研究分野の一つ、物性化学を概観します。					
授業の一般目標					
物質から魅力ある性質や機能を引き出し、優れた物性を示す材料を得るために必要な基礎的な考え方を身につける。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 様々な物性や機能が発現するメカニズムを理解する。					
思考・判断の観点: 異方性に関する概念を身につけ、非晶質と結晶質の違いを明確に区別できるようにする。					
関心・意欲の観点: 物質の光・電子機能に関心をもつ。					
態度の観点: 日常生活や実験室で目にする現象が、物質のもつどのような個性から発現しているのかを思考できるようになる。					
技能・表現の観点: 自身の特別研究課題中の物性化学的側面について、論理的に記述できる。					
成績評価方法(総合)					
授業内テストやレポート(宿題)を総合的に判断する。					
教科書					
物性化学 / 松永義夫: 裳華房, 1981					
物理化学 下 第6版 / アトキンス: 東京化学同人, 2001					
参考書					
分子エレクトロニクスの話 / 齋藤軍治: 化学同人, 2008					
有機物性化学の基礎 / 齋藤軍治: 化学同人, 2006					
メッセージ					
化学のおもしろさの一つは、新しい物質を作り出せることです。物質の持つ構造上の特徴と物理的性質との関係について理解を深め、新しい機能を持った材料を創造する際に必要な「物質設計」の考え方を身につけてください。					
連絡先					
理学部本館 434 号室					
オフィスアワー					
随時					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	3142000005
開設科目名	物性化学演習			単位	2 単位
対象学生				学年	~
担当教員	川俣 純			区分	
授業の概要					
導電性や磁性、光学特性などの機能を、分子、あるいは分子集合体から効果的に引き出すために必要な分子設計技術を、英語を中心とした文献から学ぶ、国際的に通用する英文読解力に加え、機能分子の創製分野に関する専門知識及びそれらを問題解決に利用できる能力、ならびにプレゼンテーションやディベートもとり入れることで科学的な話題を効果的に他人に伝える技術を本演習により身につける事を目的とする。					
授業の一般目標					
英語で書かれた最先端の研究論文の内容を、自力で理解できるようになることを目標とする。当該論文に書かれている内容を理解するために必要な関連文献を見つけ出すための情報収集能力や、理解した内容を他人に正確につたえる伝達する能力を身につける。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 物性化学分野における先端的な研究の特色、背景にある問題点や解決方法を知る。					
思考・判断の観点: 新しい原理に基づく高機能・高性能な有用分子を設計するための戦略を身につける。					
関心・意欲の観点: 自分の特別研究と他の研究とを比べ、それぞれの位置づけができる。					
態度の観点: 自分以外の研究を理解することで、自分の特別研究の方向性を見極める。					
技能・表現の観点: 最先端の研究をわかりやすく説明できる。					
成績評価方法(総合)					
積極的に講義に参加し、講義で取り上げられた内容や講義中に行った議論から、機能性分子創製に関する研究の最新の動向を確実に理解できているかどうか確かめるために、随時口頭試問を行い、総合的な成績評価を行う。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
理学部 434 号室					
オフィスアワー					
随時					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	3142000006
開設科目名	分析化学特論			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	田頭 昭二			区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	3142000007
開設科目名	配位化学特論			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	右田 耕人			区分	
授業の概要					
遷移金属の配位化合物の構造の特徴を説明し、配位構造によって遷移金属錯体のスピン状態や占有電子軌道が決まるしくみについて解説する。電子スピン共鳴法及び核磁気共鳴法の原理とこれらの測定方法について説明し、磁気共鳴スペクトルから遷移金属錯体のスピン状態や対電子軌道を決定する方法について解説する。自然界に存在する金属酵素の活性中心の構造及びその機能について、遷移金属錯体の配位構造と電子状態の面からの説明を行う。					
授業の一般目標					
遷移金属の配位化合物の構造と電子状態の関係について学ぶ。配位化合物の構造研究に、電子スピン共鳴法と核磁気共鳴法が有用であることを理解する。これらの方法による研究例を理解していく過程で、それらの磁気共鳴分光法の測定方法とその原理を理解する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 遷移金属の配位化合物の構造と電子状態の関係を理解する。磁気共鳴分光法の原理と測定方法を理解する。					
思考・判断の観点: 電子スピン共鳴法の測定結果から、遷移金属の配位構造が予測できるようになる。					
関心・意欲の観点: 遷移金属の配位化合物がいろいろな金属タンパク質や金属酵素の機能に関係することを学んで、これらの化合物の構造と性質を調べてみるという意欲をもつようになる。					
態度の観点: 遷移金属を含む金属タンパク質や金属酵素を配位構造の面から理解できるようになる。					
技能・表現の観点: 電子スピン共鳴スペクトルを測定できるようになる。					
成績評価方法(総合)					
課題に対するレポートによって総合的に評価する。					
教科書					
参考書					
配位子場理論とその応用 / 上村, 菅野, 田辺: 裳華房, 1969					
Electron Paramagnetic Resonance / J. A. Weil, J. R. Bolton, and J. E. Wertz: John Wiley & Sons, Inc., 1994					
Principles of Magnetic Resonance, 3rd Ed. / C. P. Slichter: Springer-Verlag, 1989					
Modern NMR Spectroscopy / J. K. M. Sanders & B. K. Hunter: Oxford University Press, 1993					
Inorganic Electronic Structure and Spectroscopy, Vol. I & II / E. I. Solomon & A. B. P. Lever: John Wiley & Sons, Inc., 1999					
メッセージ					
この講義で磁気共鳴の方法論を学び、研究に取り入れて欲しい。					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	3151000001
開設科目名	生命倫理学特論			単位	1単位
対象学生				学年	~
担当教員	谷田 憲俊			区分	
授業の概要					
医学の発展で生み出される様々な新医療技術に対して旧来の価値観では一律の判断が困難である。そこでは、新しい医療の問題点を理解することが必要であり、研究と臨床においてはパターンリズムではなく医療受給者の意思を重視する姿勢が問われている。それに応えるために、生命倫理学の基礎と理論を修得し、研究と臨床に応用できるようになるため、理論的、実践的な生命倫理学の教育を行う。					
授業の一般目標					
生命倫理の諸問題について自らが考え・判断する能力の素養を修得し、被験者や患者の意思を尊重する研究と臨床を実践することができる。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 生命倫理の問題を理解し、解決への道筋を考えられる。					
思考・判断の観点: 自己の価値観を大切にし、異なる価値観の他者と対話できるようになる。					
関心・意欲の観点: 課題を分析し生命倫理的な解決方法を模索できる。					
態度の観点: 生命倫理の学びを深め、研究と臨床に実践できる。					
技能・表現の観点: コミュニケーション術を学び、応用できる基礎を得る。					
成績評価方法(総合)					
出席を重視し、課題に関するレポートを評価する。					
教科書					
インフォームド・コンセント その誤解・曲解・正解 / 谷田憲俊: NPO 医薬ビジランスセンター, 2008					
参考書					
患者の権利 患者本位で安全な医療の実現のために / ジョージ・J・アナス: 明石書店, 2007					
メッセージ					
講義資料を希望する者は、tanida@yamaguchi-u.ac.jp に連絡のこと。					
連絡先					
tanida@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
学生はいつでも訪問歓迎(留守の時はご容赦を)。					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	3151000002
開設科目名	医療情報倫理学特論			単位	1単位
対象学生				学年	～
担当教員	井上 裕二			区分	
授業の概要					
<p>医学・医療の知識はネットワークを前提にした新しいメディアの上に広がり、情報コミュニケーション技術を駆使することが前提になっている。急速な変化を遂げる情報化社会にあって、問題解決のための情報処理技術に留まらず、情報コミュニケーション技術の行使にどのような責任を伴うのか、つまり、セキュリティ管理、プライバシー保護など、医学・医療に特有の社会的・倫理的な課題に対応できる知識と技術を修得する。</p>					
授業の一般目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・情報とは何か、医療における Decision Making の観点から理解する ・医療を取り巻く環境の変化を、情報コミュニケーション技術の観点から説明できる ・個人情報としての患者データの扱いを、患者および医療者の立場から評価できる ・電子カルテについて具体的に述べる事ができる ・情報ネットワークについて、地域連携の課題を修得する ・情報セキュリティについて、管理者と利用者の立場を区別して説明できる 					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	315100003
開設科目名	医工学基礎科目			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	小林 誠			区分	
授業の概要					
生体を扱う実験実習等の研究活動に必要とされる特殊あるいは専門的な考え方、および手技等について、研究対象、分析方法、RI 等の特殊実験、データ解析などについて学習する。					
授業の一般目標					
生体を扱う医学系の実験実習に必要な専門的な考え方や手技等について学習する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 生体を扱う実験実習等に必要とされる専門的な知識を知る。					
思考・判断の観点: 生体を扱う実験実習等に必要とされる専門的な考え方について指摘できる。					
態度の観点: 生体を扱う実験実習等に必要とされる					
技能・表現の観点: 生体を扱う実験実習等に必要とされる					
その他の観点: 生体を扱う実験実習等に必要とされる倫理観につき、理解できる。					
成績評価方法(総合)					
成績評価は基本的に、出席(60%)と授業態度(40%)で行う。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	3151000004
開設科目名	医工学生物実験学			単位	1単位
対象学生				学年	~
担当教員	大和田 祐二			区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	3151000005
開設科目名	医化学特論			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	中井 彰			区分	
授業の概要					
ヒトの体は、生命活動の最小単位である様々な細胞が集合し、個体として統御されて成り立っています。多様な細胞は、それぞれ個性ある蛋白質の活動により維持されており、その指令を行うのがゲノム DNA です。本授業では、生命の基本単位である細胞の基本的な営みを、蛋白質や DNA などの分子の働きとして理解します。					
授業の一般目標					
生命の基本単位である細胞の基本的な営みが蛋白質や遺伝子の働きにより成り立っていることを理解します。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 細胞の基本的な営みの基盤となる分子の働きについて論理的に説明できる。					
思考・判断の観点: 分子から個体の営みまでを統合的に関連づけられる。					
関心・意欲の観点: 与えられたテーマに関して自発的に学習する。					
態度の観点: 意欲的に講義に出席する。					
成績評価方法(総合)					
成績評価は、出席(60%)と授業態度(40%)で行う。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	3151000006
開設科目名	細胞シグナル解析学特論			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	河野 道生			区分	
授業の概要					
細胞レベル、特に造血器腫瘍細胞でのシグナル伝達機構の基本的な知識を理解する。					
授業の一般目標					
造血器腫瘍、中でも骨髄腫につき、基礎的知識を勉強する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 造血器腫瘍につき理解する。					
思考・判断の観点: 腫瘍細胞の増殖機構につき問題点を指摘できる。					
態度の観点: 骨髄腫の問題点につき議論できる。					
成績評価方法(総合)					
成績評価は基本的には、出席(60%)と授業態度(40%)で行う。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	3151000007
開設科目名	病態制御内科学特論			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	谷澤 幸生			区分	
授業の概要					
<p>内分泌・代謝疾患、血液疾患の病因や病態の基礎を学習し、分子レベルで理解する。診断法、治療法の開発に役立てるために必要な事項について考察を加える。</p> <p>関連の海外文献から最新の情報を得る。</p>					
授業の一般目標					
<p>内分泌・代謝疾患、血液疾患の病因や病態の基礎を分子レベルで理解し、診断法、治療法の開発に役立てる。</p>					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点: 内分泌・代謝疾患、血液疾患の病因や病態の基礎を学習し、分子レベルで理解する。</p> <p>関連の海外文献から最新の情報を得る。</p> <p>思考・判断の観点: 診断法、治療法の開発に役立てるために必要な事項について考察を加える。</p>					
成績評価方法(総合)					
<p>出席と受講態度、積極的に討論に参加したか等を加味して評価する。</p>					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	3151000008
開設科目名	生体機能分子制御学特論			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	岸 博子			区分	
授業の概要					
細胞機能,特に血管平滑筋細胞,心筋細胞等の機能を制御する主要な細胞内シグナル伝達機構の分子細胞メカニズム(細胞内カルシウムイオンの動態,低分子G蛋白等)についての基礎を学習する。					
授業の一般目標					
血管平滑筋細胞,心筋細胞等の機能を制御する主要な細胞内シグナル伝達機構の分子細胞メカニズムについて理解し,説明できる。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 細胞内シグナル伝達機構の分子細胞メカニズムについて理解し,説明できる。					
思考・判断の観点: 細胞内シグナル伝達機構の分子細胞メカニズムについて理解し,考察できる。					
関心・意欲の観点: 細胞内シグナル伝達機構の分子細胞メカニズムについて理解し,自分の現在あるいは将来的な研究テーマとの関連について検討できる。					
成績評価方法(総合)					
成績評価は基本的に,出席(50%)と授業態度(50%)で行う。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	3151300001
開設科目名	生命倫理学特論			単位	1単位
対象学生				学年	~
担当教員	谷田 憲俊			区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	3151300002
開設科目名	医療情報倫理学特論			単位	1単位
対象学生				学年	~
担当教員	井上 裕二			区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	3151300003
開設科目名	応用分子生命科学基礎科目 (生命系)			単位	1単位
対象学生				学年	~
担当教員	岡 正朗			区分	
授業の概要					
オムニバス方式で、生命科学、医学、医療、化学等の関連分野の基礎知識修得に必要な特別講義を行う。					
授業の一般目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・細胞増殖において最も重要な事象である DNA 複製と細胞分裂のメカニズム、およびそれらの制御機構について理解する。 ・動物の発生の基本メカニズムである配子形成、受精、および初期発生のしくみについて理解する。 ・遺伝子工学の基礎的な技術や原理ならびに遺伝子発現制御の基本的分子機構について理解する。 ・細胞を構成する4種の生体成分:糖、蛋白質、脂質、核酸についてその構造と機能を学習する。 ・タンパク質工学:タンパク質の機能を論じる上での立体構造解析についてその理論と技術の基礎を理解する。 					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 生命科学、医学、医療、化学等の関連分野の基礎知識を説明できる。					
関心・意欲の観点: 生命科学、医学、医療、化学等の関連分野の基礎知識について討議できる。					
態度の観点: 生命科学、医学、医療、化学等の関連分野について積極的に考察できる。					
成績評価方法(総合)					
成績評価は、出席と授業態度で行う。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	3151300004
開設科目名	応用分子生命科学基礎科目 (医学系)			単位	1単位
対象学生				学年	~
担当教員	岡 正朗			区分	
授業の概要					
生命科学, 医学, 医療, 化学等の関連分野の基礎知識修得に必要な特別講義を行う。					
授業の一般目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・腫瘍性病変の原因, 発生機序さらにはその病態を病理学および遺伝子レベルで理解する。 ・各疾患の病態について理解し, 分子生物学的手法とインフォームドコンセントに基づいた内科学診断・治療法を理解する。 ・外科治療の基本概念とその効果, 癌治療のアウトライン, 遺伝子や蛋白とのかかわりを学び, 外科治療の概要を理解する。 					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 生命科学, 医学, 医療, 化学等の関連分野の基礎知識を説明できる。					
関心・意欲の観点: 生命科学, 医学, 医療, 化学等の関連分野の基礎知識について討議できる。					
態度の観点: 生命科学, 医学, 医療, 化学等の関連分野について積極的に考察できる。					
成績評価方法(総合)					
成績評価は, 出席と授業態度で行う。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	3151300005
開設科目名	応用分子生命科学基礎科目 (化学系)			単位	1単位
対象学生				学年	~
担当教員	岡 正朗			区分	
授業の概要					
生命科学, 医学, 医療, 化学等の関連分野の基礎知識修得に必要な特別講義を行う。					
授業の一般目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・芳香族化合物の反応と構造並びに合成に必要な基本概念について理解する。 ・典型元素, 遷移金属元素からなる機能性分子の設計と合成について理解する。 ・高分子材料の基礎と機能高分子材料の基本概念およびドラッグデリバリーシステムに用いられる材料について理解する。 ・酵素, 細胞の触媒機能の基礎的な特性を理解する。 ・統計的パターン認識における Bayes 識別系の設計理論及び誤識別率の推定に関する基礎理論について理解する。 ・情報の効率的な表現と正確な通信のための様々な方法を理解する。 					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 生命科学, 医学, 医療, 化学等の関連分野の基礎知識を説明できる。					
思考・判断の観点: 生命科学, 医学, 医療, 化学等の関連分野の基礎知識について討議できる。					
関心・意欲の観点: 生命科学, 医学, 医療, 化学等の関連分野について積極的に考察できる。					
成績評価方法(総合)					
成績評価は, 出席と授業態度で行う。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	3151300006
開設科目名	応用分子生命科学基礎科目			単位	2単位
対象学生				学年	～
担当教員	岡 正朗			区分	
授業の概要					
<p>生体機能, 機能分子, 有用分子, バイオ技術に関する基礎知識を習得する特別講義を行う。</p>					
授業の一般目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・細胞生理学実験法: 細胞内の分子の動態を生きたまま観察する最新の光学顕微鏡技術の原理とその応用について理解する。 ・発生生物学実験法: ショウジョウバエを中心としたシグナル経路解析の実験法について理解する。 ・生物化学実験法: 無脊椎動物の特有の代謝系に関わる実験法(内分泌学・生化学・分子生物学)について理解する。 ・生命分子学研究法: 酵素, 受容体, 輸送体などのさまざまな研究方法を理解した後, その構造と作用機構について理解する。 ・光機能化学研究法: 光と物質の相互作用について理解する。 ・分子細胞遺伝学的解析法: 癌の分子細胞遺伝学的解析の基礎を学習し, がんの発生・進展の機序についての理解を深め, 解析データのがんの診断・治療への利用について理解する。 ・細胞分離培養法: 肝臓を構成する細胞を分離培養し, 各細胞がもっている特有の機能およびその評価法を理解する。 ・遺伝子導入法: 癌細胞への遺伝子導入に関連する, 癌細胞の培養法, 遺伝子導入用ベクター作成法, 癌細胞に遺伝子を導入する技術, 実験動物への癌細胞移植法について理解する。 ・有機分子の構造決定法: 有機分子の構造を知るために欠かせないNMRに関する基礎的知識と, それに基づく静的ないしは動的な分子構造の情報を引き出すための基礎的理論を理解する。 ・遺伝子とゲノムの操作法: 遺伝子(DNA)の構造決定から, タンパク質構造と機能に関する基礎知識, それらの静的, 動的な分子反応や相互作用を解析するための基礎的理論を理解する。 ・応用生理学解析法: 運動制御の中心的役割を果たす脊髄内運動ニューロンと骨格筋細胞を含む運動系システムの生理生化学的解析法について理解する。 ・植物分子遺伝解析法: 植物特有の生命現象を分子レベルから解析する方法について理解する。 ・モデリング・数値解析: モデリングについて数値化する方法を理解する。 ・動物実験法: 動物実験における倫理を理解し, 基本的な手技を身につける。 					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点: 生体機能, 機能分子, 有用分子, バイオ技術に関する基礎知識を説明できる。</p> <p>関心・意欲の観点: 生体機能, 機能分子, 有用分子, バイオ技術に関する基礎知識について討議できる。</p> <p>態度の観点: 生体機能, 機能分子, 有用分子, バイオ技術に関して積極的に考察できる。</p>					
成績評価方法(総合)					
成績評価は, 出席と授業態度で行う。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	3151500006
開設科目名	バイオ分子機能工学特論			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	赤田 倫治			区分	
授業の概要					
生命を物質として捉え、生命体を構成する重要分子であるタンパク質の構造形成原理を学ぶ。さらに、構造と機能との関連、最新のバイオインフォマティクスによるタンパク質およびDNAの操作と構造機能抽出法について学ぶ。加えてゲノミクス、プロテオミクスなどの最新生物学についても講義する。					
授業の一般目標					
生命を分子の統合体として捉え、最新のゲノミクス、プロテオミクス、および、バイオインフォマティクスに対応できる知識と考え方を習得する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 生命体を分子から説明できるようにする。 さらに、生命体全体からも概観できるようにする。					
思考・判断の観点: 生命体を構成する物質の概念を捉え、それを応用できるようにする。					
関心・意欲の観点: 生物学や医療、食品などの生物を利用した産業への関心を深める。					
成績評価方法(総合)					
出席と演習、発表で評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
rinji@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	3151500007
開設科目名	分子パターン認識特論			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	浜本 義彦			区分	
授業の概要					
統計的パターン認識による遺伝子発現情報解析について講述し、遺伝子診断システムにおける識別系の設計理論とその評価理論の習得を目的とする。					
授業の一般目標					
(1) 統計的パターン認識による遺伝子発現情報の解析についての基礎的概念を理解する。					
(2) 教師あり学習と教師なし学習について理解する。					
(3) 識別系の設計と評価について理解する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: (1) 統計的パターン認識の概念を説明できる。					
(2) 教師あり学習と教師なし学習の違いを説明できる。					
(3) 識別系の設計と評価の仕方を説明できる。					
成績評価方法(総合)					
小テストとレポートを総合的に評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
線形代数と確率統計の初歩について予備知識が必要					
連絡先					
hamamoto@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
hamamoto@yamaguchi-u.ac.jp					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	3151600002
開設科目名	ヘルスプロモーション特論			単位	2単位
対象学生				学年	～
担当教員	守田 孝恵			区分	
授業の概要					
ヘルスプロモーションは、地域保健活動の実践の中で、人々の健康づくりを社会全体の取り組みとして捉えられる能力を開発する。さらに、地域保健や産業保健活動の実践の中で展開されるプロセスをヘルスプロモーションの理論で分析し、計画策定、活動の推進方法、評価方法について議論し考察する。					
授業の一般目標					
1.ヘルスプロモーションが健康をコントロールし改善できるプロセスであることを認識し、社会全体の取り組みとして捉えることを理解する。2.ヘルスプロモーションの理論を踏まえ、実地的な地域保健活動を考察する。3.職場のヘルスプロモーションを考察する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 1.ヘルスプロモーションの理念・歴史・背景等を説明できる。2.各種地域保健計画策定プロセスを説明できる。3.職場環境に応じた環境づくり・健康づくりを説明できる。4.健康・健康づくり活動の評価方法を説明できる。					
思考・判断の観点: 1.ヘルスプロモーションにおける実践的な取り組みを論理的に分析し課題解決策等について議論することができる。2.地域保健活動に関する環境評価や健康評価について科学的に説明できる。					
関心・意欲の観点: 1.ヘルスプロモーションに関する関心を広げ問題意識を高める。2.社会全体の取り組みとしての地域保健活動に興味を持つ。3.職場環境での配慮や取り組みに興味を持つ。					
態度の観点: 1.人々の健康づくりを社会全体の取り組みとの関係で考えることができる。2.実践的な地域保健活動の内容・方法等について議論することができる。3.職場環境において健康を左右する要因について議論することができる。					
技能・表現の観点: 1.地域(県・市町村)での実態調査(インタビュー等も含めて)を実施できる。2.多様な環境(物理的・化学的等)を把握・分析できる。3.健康・健康づくり活動を科学的に評価できる。4.プレゼンテーションを効果的・適切に行うことができる。					
成績評価方法(総合)					
授業における課題を提出し、プレゼンテーション内容で評価する。					
教科書					
地域看護学 / 平野かよ子: 建白社, 2005					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	3151600003
開設科目名	看護学研究方法特論			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	山勢 博彰			区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	3151600004
開設科目名	生体情報学研究方法特論			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	石川 敏三, 渡部 省二, 山本 美佐			区分	
授業の概要					
<p>幅広い保健学領域の研究には多様な研究方法が取り入れられている。</p> <p>研究計画の立て方、データの収集法、測定法、分析・処理法等には様々な方法があることをオムニバス形式で、幅広く教授し、高度な保健学領域の研究課題を発展させるために必要な研究方法の基礎知識を身につけさせる。</p>					
授業の一般目標					
<p>1)保健学領域におけるさまざまな研究方法の情報収集、仮説、計画立案、また戦力が分かる。</p> <p>2)統計的思考ができ、その実際ができる。</p> <p>3)科学論文の書き方が分かる。</p> <p>4)より良い発表の具体的方法が分かる。</p>					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 情報収集の方法が理解できる。					
思考・判断の観点: 研究の仮説が立てられる。研究の概要が的確に把握できる。					
関心・意欲の観点: 実験の様々な技法の原理がわかり、実際に行える。					
技能・表現の観点: 実験の様々な技法の原理がわかり、実際に行える。					
成績評価方法(総合)					
課題及び口頭試問					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
22-2888					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	3151600005
開設科目名	発達心理学特論			単位	2単位
対象学生				学年	～
担当教員	清 俊夫			区分	
授業の概要					
医療の専門職業人として発達する過程を専門職への社会化としてとらえ、心理学、社会学、社会心理学、文化人類学の知見を取り入れて、総合的にアプローチする。内容的には、社会化、専門職、社会的役割と地位、医療専門職－患者(患者家族を含む)関係などについて、原書購読、演習、講義を組み合わせ、14回の授業で構成する。					
授業の一般目標					
医療専門職として、自らが同機能しているかを理解するために、自己の発達過程を専門職への社会化過程としてとらえ、専門職が持つ有効性と限界を理解する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 専門職業人の特質を理解するのに有用な社会学、心理学、文化人類学、社会心理学の諸概念を理解する。					
思考・判断の観点: 上記の諸概念を総合して、専門職の機能の効用と限界をとらえることができる。					
関心・意欲の観点: 医療の社会科学および人文科学的な理解への関心と意欲を高める。					
態度の観点: 自己や他者を、身体・生理、心理、社会・文化の側面の統合として理解する態度を形成する。					
技能・表現の観点: 人文科学および社会科学の文献を読み、理解し、自分なりの批判的な意見を表現できる。					
成績評価方法(総合)					
期末試験、エッセー、事業への積極的参加度を総合的に評価する。					
教科書					
ナースのための社会学入門 / 勝又正直:医学書院, 1999					
参考書					
患者の心理とケアの指針 / 岡堂哲雄:編:金子書房, 1997					
Medical Sociology, 8th ed. / Wiliam C. Cockerham, : Prentice-Hall, 2001					
メッセージ					
医療の世界は、その中にどっぷりつかってしまえば、見ることは難しいものです。外部の視点から、相対化して初めて、自らをあるがままに見て、洞察することができます。そのようにして初めて、専門家の名に値する存在への重要な条件を一つ手に入れることができます。ぜひ、この授業で、自らを振り返ってみてください。					
連絡先					
:22-2802					
email:toshisei@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
随時					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	3151600006
開設科目名	遺伝医療学特論			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	塚原 正人, 服部 幸夫			区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	3151600007
開設科目名	看護管理学科特論			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	藤澤 怜子			区分	
授業の概要					
看護管理の基礎となる、組織論、マネジメント論、人的資源の活用等についての知識を体系的に学び、看護管理に関する理解を深めると共に、文献や事例検討から、より実践的な視点で看護管理が捉えられるような能力を養う					
授業の一般目標					
1. 看護の機能を効果的に発揮するための看護管理の基礎となる理論を理解する 2. 事例、文献を通して実践的な管理の手法を身につける					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 看護管理の基礎となる、組織論、マネジメント論、人的資源の活用について説明できる					
思考・判断の観点: 1. 看護サービス提供上の問題点を客観的に分析できる 2. 看護専門職としての責務について述べることができる					
関心・意欲の観点: 課題について積極的にプレゼンテーションできる					
態度の観点: 事例検討、文献検討時自分の意見が述べるができる					
成績評価方法(総合)					
プレゼンテーション、レポート、討議への参加状況で総合的に評価する					
教科書					
参考書					
メッセージ					
事前に担当教員と連絡を取り、授業日を確認して下さい。少人数であれば授業日を移動することは可能です。					
連絡先					
0836-22-2814 reiko@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
水 18:00 ~ 19:00 事前に連絡を下さい					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	3151600008
開設科目名	看護理論特論			単位	2単位
対象学生				学年	～
担当教員	稲垣 順子			区分	
授業の概要					
看護理論の発達の歴史を概観し、看護理論の理解に必要な基礎的知識を学ぶとともに、大理論・中範囲理論を看護実践との関連で理解し、実践への適用をはかる。また、理論検証研究の評価ができるように教受する。					
授業の一般目標					
大理論・中範囲理論を看護実践との関連で理解し、実践への適用をはかる。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 大理論・中範囲理論の分析と評価ができる。					
思考・判断の観点: 臨床事例への理論の適用・分析・評価ができる。					
関心・意欲の観点: 看護実践の質の向上に向けての看護理論の有効性を実感できる。					
態度の観点: 看護実践の質の向上を目指して、看護理論を実践に活用しようという意志がある。					
技能・表現の観点: 看護理論の正しい理解・適切な活用を指導できる。					
成績評価方法(総合)					
講義への参加状況、及びレポートにより総合的に行う。					
教科書					
看護理論 / 筒井真優美編、南江堂、2008					
参考書					
看護理論家とその業績 / 都留伸子監訳、医学書院、2008					
メッセージ					
臨床事例への理論の適用については、院生がプレゼンテーションを行うので、準備してください。CNS の申請時、活用できるように、皆でディスカッションします。					
連絡先					
稲垣順子: Tel/Fax:0836-22-2851 E-mail:jnagaki@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
月曜日:16:00 から 17:40 まで					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	3151600009
開設科目名	臨床治療管理学特論			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	山勢 博彰, 藤澤 怜子			区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	3151600010
開設科目名	基礎看護学特論			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	正村 啓子, 藤澤 怜子, 稲垣 順子			区分	
授業の概要					
技術を卓越した看護ケアへと創造すること、看護師の職務ストレスマネジメント、及び、看護管理の諸理論、看護管理者の役割、看護技術・看護介入に関する研究の構築について教授し、実践に活用することにより看護ケアの質の向上を目指す。					
授業の一般目標					
1. 看護基礎技術を卓越した看護ケアへと創造し、適用することの重要性、方法、効果を考究する。2. 看護ケアの質の向上において重要な看護師の職務ストレスとその影響因子、看護師の職務ストレスマネジメントについて理解する。3. 看護の専門職としての能力を有効に機能させるための看護管理の諸理論、看護管理の要素とプロセス、医療安全管理について教授し、人的資源管理としてのキャリア開発、医療安全管理について看護の課題を明確にしていく。4. 看護技術、看護介入に関する研究の構築について教授する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 看護基礎技術の卓越した看護ケアへの創造、看護師の職務ストレス、看護管理、看護技術・看護介入に関する研究における基礎的知識を理解することができる。					
思考・判断の観点: 知識を状況に応じて判断し実践の質の向上のために活用できる。					
関心・意欲の観点: 積極的に実践に移す意思を持つことができる。					
態度の観点: 実践現場の問題を解決しようという気持ちで主体的に学ぶことができる。					
技能・表現の観点: 自分の考えをわかりやすく述べることができる。他者の意見を尊重することができる。効果的なプレゼンテーションができる。					
成績評価方法(総合)					
プレゼンテーション、講義への参加状況、及びレポートにより総合的に行う。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
正村啓子:e-mail, masamura@yamaguchi-u.ac.jp, Tel. 0836 22 2860					
藤澤怜子:e-mail, reiko@yamaguchi-u.ac.jp, Tel. 0836 22 2814					
稲垣順子:e-mail, jinagaki@yamaguchi-u.ac.jp, Tel. 0836 22 2851					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	315160011
開設科目名	看護教育学特論			単位	2単位
対象学生				学年	～
担当教員	正村 啓子			区分	
授業の概要					
看護教育学の本質を理解するとともに、質の高い看護を提供できることを目指して、看護学生を含む看護職者個々人の発達を支援する能力を育成するために、看護学教育制度論・看護学教育課程論・看護学教育組織運営論・看護学教育授業展開論・看護学教育評価論・看護継続教育論等教育実践の基盤となる知識技術について概説する。また、専門看護師により看護における実践教育の実際、及び、看護管理者により院内教育における継続教育の実際について教授する。					
授業の一般目標					
看護教育学の本質、及び、教育に必要な基礎的知識を理解するとともに、専門看護師による実践教育の実際、病院看護管理者による院内継続教育の実際について学び、看護学生・看護師の教育のあり方について学ぶ。他のスタッフの能力を向上させるための指導・助言ができる基礎的能力を身につける。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 「看護教育学」の本質及び要素を説明できる。看護学教育制度・看護学教育課程・看護学教育組織運営・看護学教育授業展開・看護学教育評価・看護継続教育について基礎的知識を理解する。専門看護師の実践教育の実際を知る。看護師の継続教育に必要な知識・技術を学び、院内における継続教育の実際を理解する。					
思考・判断の観点: 質の高い看護の提供を目指した看護教育の実践において、学習者のレディネスを十分に踏まえ、看護教育の基礎的知識・技術を適切に選択し、またさらに探索して、看護学教育に活用することができる。					
関心・意欲の観点: 教授者・学習者ともに成長しあう存在として他者の考え・意見から学ぶことができる。学習者のレディネスを理解し、もっとも適切な教育を提供できるよう自己の実践力・教育力を高めるという姿勢で臨む。					
態度の観点: 教授者・学習者ともに成長しあう存在として他者の考え・意見から学ぶことができる。学習者のレディネスを理解し、もっとも適切な教育を提供できるよう自己の実践力・教育力を高めるという姿勢で臨む。					
技能・表現の観点: 対象者に最も適切な教育を工夫創造できる。					
成績評価方法(総合)					
講義への参加状況、及びレポートにより総合的に行う。					
教科書					
看護教育学 / 杉森みどり、舟島なをみ:医学書院, 2004					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
正村啓子 masamura@yamaguchi-u.ac.jp:0836 22 2860					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	3151600012
開設科目名	病態生理機能学特論			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	清水 昭彦, 野垣 宏			区分	
授業の概要					
人間の加齢・老齢化とともに発生する疾患の病態生理機能学の研究を行う。特に、循環器、脳神経分野を中心に生理学的あるいは病的変性により発生する疾病の病態を基礎的・臨床面から研究し、教育する。					
授業の一般目標					
急性疾患におこる呼吸・循環の病態の変化が理解できるな内容を講義するとともに、集中治療室で管理されるような呼吸・循環の患者の治療全体を理解する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 循環器、呼吸、腎臓、脳神経に関する病態をより深く理解する。					
思考・判断の観点: 循環器、呼吸、腎臓、脳神経に関する病態を思考することができる。					
関心・意欲の観点: 循環器、呼吸、腎臓、脳神経に関する病態に関心を持つ。					
態度の観点: 循環器、呼吸、腎臓、脳神経に関する病態を学ぶ態度を身につける。					
技能・表現の観点: 循環器、呼吸、腎臓、脳神経に関する病態を検査に因る技能とそれを皆わからせる表現力を身につける。					
成績評価方法(総合)					
主としてセミナーでの各自の発表内容によって、評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
清水研究室 EX 2856、 E-mail: ashimizu@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	3151600013
開設科目名	地域看護学特論			単位	2単位
対象学生				学年	～
担当教員	守田 孝恵, 山崎 秀夫, 高橋 郁子			区分	
授業の概要					
地域看護の概念と地域看護活動の方法論、及び歴史的背景を理解させる。さらに、それらの基本的要素を踏まえ、現在の地域保健活動における地域看護の実践的な課題を、研究的な視点で分析することによって地域の健康問題を明らかにし、その解決策を見出すための研究方法を考察できる能力を開発する。					
授業の一般目標					
1.地域看護の概念・背景・方法論等にわたる基本的要素を理解する。2.地域看護の実践的課題を研究視点で分析する。3.地域看護の問題解決のための思考プロセスを構築する。4.地域住民の健康問題を実践的に把握し科学的に分析する。5.地域住民の健康課題解決のための科学的方法論を理解する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 1.地域看護の概念を説明できる。2.地域看護活動の方法論・歴史・背景等を説明できる。3.地域看護の実践上の課題を科学的に分析できる。4.地域看護の課題解決を科学的手法を適用し整理できる。					
思考・判断の観点: 1.地域看護の実践的課題を研究的な視点で捉え明確化する思考プロセスを構築できる。2.地域住民の健康問題等を客観的に認識し科学的課題解決手法を適用できる。					
関心・意欲の観点: 1.地域看護に関する実践的課題を主体的に設定する。2.地域住民の健康課題解決の方法論に興味を持つ。					
態度の観点: 1.地域看護の基本的要素を考えることができる。2.地域の健康問題を構造的に考えることができる。3.地域看護の実際について課題・解決策等を議論することができる					
技能・表現の観点: 1.地域看護の実践的課題を研究的視点で分析できる。2.地域住民の健康問題を研究する視点を持つことができる。3.プレゼンテーションを効果的・適切に行うことができる。					
成績評価方法(総合)					
授業の中で実際の活動展開例を扱い、課題を発見しながら科学的な手法を適用し解決策を設定できるか評価する。合理性・客観性・論理性等が評価の観点となる。出席状況、授業内レポート等も含めて総合的に評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	3151600014
開設科目名	地域看護学特論			単位	2単位
対象学生				学年	～
担当教員	守田 孝恵, 高橋 郁子			区分	
授業の概要					
地域看護学の中で、特に、精神保健福祉に関する課題をテーマとし、その基盤となる概念と精神保健福祉施策、精神障害者を対象とした地域看護の方法論を中心に教授することによって、実践活動の向上をめざした研究課題を考察できる能力を開発する。					
授業の一般目標					
1.地域看護における精神保健福祉に関する概念・背景・方法論等にわたる基本的要素を理解する。2.精神保健福祉の実践的課題を研究視点で分析する。3.精神保健福祉の問題解決のための思考プロセスを構築する。4.精神障害者を対象とした地域リハビリテーション活動を分析する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 1.地域看護における精神保健福祉の概念を説明できる。2.精神保健福祉活動の方法論・歴史・背景等を説明できる。3.精神保健福祉の実践上の課題を科学的に分析できる。4.精神保健福祉の課題解決を科学的手法を適用し整理できる					
思考・判断の観点: 1.地域看護における精神保健福祉の実践的課題を研究的な視点で捉え明確化する思考プロセスを構築できる。2.精神障害者の健康問題等を客観的に認識し科学的課題解決手法を適用できる。					
関心・意欲の観点: 1.地域看護における精神保健福祉に関する実践的課題を主体的に設定する。2.精神障害者の健康問題解決の方法論に興味を持つ。					
態度の観点: 1.地域看護における精神保健福祉の基本的要素を考えることができる。2.地域の健康問題を構造的に考えることができる。3.精神保健福祉の実際について課題・解決策等を議論することができる。					
技能・表現の観点: 1.地域看護における精神保健福祉の実践的課題を研究的視点で分析できる。2.精神障害者の健康問題を研究する視点を持つことができる。3.プレゼンテーションを効果的・適切に行うことができる。					
成績評価方法(総合)					
授業の中で実際の活動展開例を扱い、課題を発見しながら科学的な手法を適用し解決策を設定できるか評価する。合理性・客観性・論理性等が評価の観点となる。出席状況、授業内レポート等も含めて総合的に評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	3151600015
開設科目名	クリティカルケア看護学特論			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	山勢 博彰			区分	
授業の概要					
救急または重篤な患者の身体的問題と心理・社会的問題に対する看護を教授する。特に、危機理論をベースにした患者とその家族の精神的看護、家族の二 ードとコーピングについてのアセスメント、脳死臓器移植と看護の課題などについても触れる。さらに、クリティカルケアでのチーム医療における看護師の役 割、クリティカルケアと救急看護の専門性および看護師のストレスマネジメントなどについて理解を深める。					
授業の一般目標					
1.クリティカルケア看護について理解を深める 2.クリティカルケア看護領域の研究について知る					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: クリティカルケア看護について理解を深める					
思考・判断の観点: クリティカルケア看護について考察できる					
関心・意欲の観点: クリティカルケア看護について意欲を持って探求できる					
成績評価方法(総合)					
ゼミへの参加の様子を評価する					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	3151600016
開設科目名	成人看護学特論			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	齊田 菜穂子			区分	
授業の概要					
慢性疾患・慢性的機能障害を有する成人患者および終末期にある患者の QOL 向上を目指した看護援助のあり方を教授する。さらに、この領域の看護を発展させるうえでの看護研究の意義と研究方法論、ならびに研究の動向について概説する。					
授業の一般目標					
慢性疾患・慢性的機能障害を有する成人患者および終末期にある患者とその家族の健康問題をアセスメントし、健康問題から生じる看護ニーズに対する看護方法、ならびに今後の展望について理解する。さらに、この領域における看護研究の意義と研究の動向、ならびに研究方法について理解する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 生活習慣病の特性を述べることができる。終末期患者の及びその家族の身体的・心理・社会的特性を述べることができる。					
思考・判断の観点: 生活習慣病の要因となる生活習慣と社会心理的関連を述べるができる。終末期患者およびその家族が抱えるニーズと判断尺度を含む対応方法を述べるができる。					
関心・意欲の観点: 生活習慣病の改善および予防に関わる看護課題・研究の動向を述べるができる。終末期患者および家族に対する倫理的課題や看護者の役割・姿勢、研究の動向を述べるができる。					
技能・表現の観点: レポートおよびプレゼンテーション課題に対し、Technical terms を適切に用いて、自らの意見・考えを倫理的に記述・口述できる。					
成績評価方法(総合)					
レポートの内容、プレゼンテーションの的確性及び授業への参加度を総合評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	3151600017
開設科目名	母性看護学特論			単位	2単位
対象学生				学年	～
担当教員	田中 満由美, 戸部 郁代			区分	
授業の概要					
母性看護学領域においては、リプロダクティブヘルス/ライツの観点に立って看護を実践し研究を進めることが求められている。女性のライフサイクル各期における健康問題及び新生児の特性ならびに健康問題を概説し、看護を実践するために必要な諸理論と援助法について教授する。					
授業の一般目標					
女性のライフサイクル各期における健康問題及び新生児の特性ならびに健康問題を理解する。					
母性看護を実践するために必要な諸理論を理解する。					
看護を実践するために必要な援助法について理解する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 女性のライフサイクル各期における健康問題及び新生児の特性ならびに健康問題についてのべることができる。					
母性看護を実践するために必要な諸理論について述べることができる。					
看護を実践するために必要な援助法について述べることができる。					
思考・判断の観点: 女性のライフサイクル各期における健康状態がアセスメントできる。					
新生児の健康状態がアセスメントできる。					
関心・意欲の観点: 授業に関連したことを自己学習によって知識を深める。					
母性看護に関し、日常生活の中で関心を高める。					
態度の観点: 授業は欠席せず、積極的な態度で参加する。					
日常生活の中で母性看護にかかわる出来事や問題点について主体的に考えることができる。					
日常生活の中で母性看護にかかわる出来事や問題点について積極的に文献で調べることができる。					
成績評価方法(総合)					
レポート					
教科書					
参考書					
メッセージ					
自ら積極的に学習に取り組むこと。					
指定された課題に対しては、積極的に行うこと。					
連絡先					
田中満由美(TEL 研 22-2821)					
戸部郁代(TEL 研 22-2825)					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	3151600018
開設科目名	小児看護学特論			単位	2単位
対象学生				学年	～
担当教員	辻野 久美子, 村上 京子			区分	
授業の概要					
<p>(辻野)小児看護の対象を理解し質の高い看護を提供できるように、子どもの気持ちや認識の発達について概説し、小児看護に必要な知識を教授する。事例を通して子どもの発達と看護について考察する。</p> <p>(村上)ライフサイクルの中で移行期にあたる母子と家族の特性を捉えるとともに個性を考慮しながら実践するために必要な知識について講義する。健康問題を自分で表現しにくいという小児の特性、育児不安から病児を持つ母親・家族の心理など、現代の小児と家族の健康問題を取り上げ、看護実践するための基礎知識、アセスメント、問題解決、研究方法、他医療職との連携を図る能力を育てる。</p>					
授業の一般目標					
(辻野)					
1.子どものものの見方、考え方に興味を持ち、子どもの気持ちや認識の発達が理解できる。					
2.子どもの入院・疾病が本人および家族に及ぼす影響について考察できる。					
(村上)					
1.看護の知識と理論を小児・家族に対する看護ケアの実践に応用することができる。					
2.医療・ヘルスケアシステムの中で、看護実践および看護管理に関する専門知識と技術を実践することができる。					
3.小児保健・医療・福祉の専門職との連携において、看護専門職として主体的に行動することができる。					
4.小児看護における看護理論と技術を検証し、小児看護の実践に活用することができる。					
5.小児看護の課題に柔軟に対応し、学術的および国際的視点から考えて行動ができる。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: (辻野)既存の発達理論を理解できる。					
(村上)小児看護に必要な専門的技術・知識や看護理論等を理解することができる。					
小児と家族を取り巻くヘルスケアシステムの役割と現状を理解する。					
現代の小児とその家族が抱える健康問題、看護の課題について理解し、併せて科学的・国際的視点からの知識を得ることができる。					
思考・判断の観点: (辻野) 事例検討を通して、発達理論を小児看護に適用できる。					
(村上)小児看護に必要な専門的技術・知識を持ち、健康問題を持つ小児と家族に合わせた看護実践を考える。小児と家族を取り巻くヘルスケアシステムの中で、看護実践および看護管理について考える。					
小児保健・医療・福祉の専門職との連携において、看護専門職としての役割を考える。					
小児看護における看護理論と技術の現状に疑問を持ち、検証により小児看護の向上を考えることができる。小児看護の課題が、学術的および国際的視点からみるとどのような意味を持つのかを考える。					
関心・意欲の観点: 小児看護に携わる自分自身の資質の向上を目指す。					
態度の観点: 設定された演習の知識と技術を習得できる。自分の意見をまとめ、表現できる。					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
病める子どものことと看護 / 梶山祥子他訳:医学書院,1998					
障害児・病児のための発達理解と発達援助 / 前川喜平・三宅和夫編:ミネルヴァ書房,2004					
家族看護モデル-アセスメントと援助の手引き / 森山美知子:医学書院,1995					
小児看護における技 / 筒井真優美編:南江堂,2003					
メッセージ					
小児看護について、共に考えましょう					
連絡先					
オフィスアワー					
辻野久美子(火木 17:30～) 22-2806 へお電話下さい。(tsujino@yamaguchi-u.ac.jp)					
村上京子(火・木 17:00-18:00)					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	3151600019
開設科目名	遺伝看護学特論			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	塚原 正人, 辻野 久美子, 村上 京子			区分	
授業の概要					
遺伝看護学は出生前診断、遺伝子診断、遺伝子治療などの遺伝医療の中で確立しつつある新しい看護研究分野である。本特論では、出生前から小児期の種々の先天異常(先天奇形、染色体異常、遺伝性疾患)についての知識を習得し、看護学の視点に基づいた看護ケアのあり方及び研究方法を教授する。					
授業の一般目標					
1. 先天異常の成因を理解して述べることができる。 2. 遺伝性疾患、染色体異常、多因子遺伝病、外因による異常を理解し、述べることができる。 3. 遺伝子発現(genomic imprinting, X inactivation など)について理解し、述べることができる。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 1. DNAの構造と機能					
2. 遺伝子発現					
3. 遺伝子異常					
4. 染色体異常					
5. 多因子異常					
6. 染色体不活性化					
思考・判断の観点: 提示された課題に対して、的確な思考・判断ができる。					
関心・意欲の観点: 理解不明な点、関心のある点を解決するために積極的に取り組む。					
態度の観点: 与えられた課題に対して、前向きな姿勢で取り組む。					
技能・表現の観点: レポート、面談において、与えられた課題をわかりやすく説明できる。					
その他の観点: 身近な遺伝に関する問題に興味を示しているかどうか。					
成績評価方法(総合)					
レポート提出により評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	3151600020
開設科目名	老年看護学特論			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	野垣 宏, 堤 雅恵			区分	
授業の概要					
高齢者の形態学的、生理学的特性および好発疾患を理解したうえで、老年看護学の現状や課題を考える。					
授業の一般目標					
高齢者の形態学的、生理学的特性および好発疾患を説明できる。 老年看護学の現状や課題を説明できる。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 老年者の生理学的機能特徴と好発する疾患の病態を理解し、老年者における看護ケアの重要性を説明できる。					
成績評価方法(総合)					
レポート、および授業への参加度で評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
nogaki@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	3151600021
開設科目名	分子細胞解析学特論			単位	2 単位
対象学生				学年	~
担当教員	渡部 省二, 田中 経彦			区分	
授業の概要					
細胞の構造および機能を分子レベルで解説し、それらの構想、機能が明らかにされたプロセス、その研究方法および実験技術について教授する。					
授業の一般目標					
染色体の構造と機能、遺伝子発現の機構とその調節、細胞内の生体膜による区画とそれぞれの区画に分子を輸送する機構、細胞間および細胞内における情報伝達の機構、細胞の形を維持し、また変化させる細胞運動の分子機構、細胞分裂の分子機構等について理解する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: クロマチンの構造について説明できる					
DNA の複製メカニズムについて説明できる					
転写と翻訳のメカニズムおよびその調節について説明できる					
思考・判断の観点: 分子生物学の立場から自分の研究テーマを考え、発展させることができる					
態度の観点: 予習・復習をし、まじめに取り組む					
成績評価方法(総合)					
毎回の講義の内容をレポートにまとめ提出し、それにより評価する。					
教科書					
Molecular Biology of the Cell / Alberts 他: Garland Science, 2008					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
shwatabe@yamaguchi-u.ac.jp					
内線2830					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	3151600022
開設科目名	細胞情報解析学特論			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	高橋 睦夫, 上田 順子, 尾野 緑, 山本 美佐			区分	
授業の概要					
体細胞の腫瘍化のメカニズムや腫瘍細胞の特性を検索する手段である免疫組織化学, 電子顕微鏡(免疫電顕法), 分子病理学的手法について教授する。					
授業の一般目標					
体細胞の腫瘍化のメカニズムや腫瘍細胞の特性が理解でき, 免疫組織化学, 電子顕微鏡(免疫電顕法), 分子病理学的手法などが理解・把握できる。また, 研究に参考となる英語の文献を収集でき, 理解できる。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 細胞の特性について理解できる。					
思考・判断の観点: 研究方法について, 立案できる。					
成績評価方法(総合)					
講義の理解度をレポートで評価					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
E-mail: mutsuo@yamaguchi-u.ac.jp, Tel/Fax: (0836) 22-2845					
オフィスアワー					
随時					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	3151600023
開設科目名	病原体情報解析学特論			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	梅田 昭子, 常岡 英弘			区分	
授業の概要					
<p>感染症の起因微生物の特定は、患者の症状が重篤であればそれだけ迅速になされることが重要になります。現在大きな施設・病院における微生物、特に細菌の同定は機械化されており、山口大学病院の微生物検査室においても同定の機械が導入されています。これは主にキットを用いた細菌の生化学的性状の自動読み取り装置ですが、その他にも毒素検出キット、エンドトキシン検出キット、PCR 法を応用した特定遺伝子検出キット等多くの迅速診断法に関する製品が市販されています。これらの方法の原理を理解し、各起因微生物の診断に重要な部分は何れであるのかを理解することを目的の一つとしています。また、現在重要視されている病原微生物の病原因子について分子生物学的な見地から理解し、感染症とその起因微生物との関係に対する知見を深めることも目的とします。私からの講義ももちろん行いますが、自己学習を主体とし、与えたテーマに関して自分で最新知見を調べて理解するようにしたいと願っています。また、最終的には独自の考えにより新しい診断法を考案してもらう予定です。</p>					
授業の一般目標					
感染症における迅速診断法の知識と理解、および各病原微生物の病原因子に関する知識の習得、新しい診断法の考案					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点:病原微生物における迅速診断法、および病原因子についてさらに理解と知識を高める。</p> <p>思考・判断の観点:学習した迅速診断法をもとに、各自で独自の診断法を考案できる思考を養う</p> <p>関心・意欲の観点:各感染症について報道されている事項に深く興味を示し、自分の評価・判断が出来るようになる。</p> <p>態度の観点:自分で積極的に学習し、新しいものを創造できる思考態度を高める。</p> <p>技能・表現の観点:新しい診断法を考案する際に他人に理解できる表現法を身につける。</p>					
成績評価方法(総合)					
数回のレポート提出により評価する					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	3151600024
開設科目名	高次神経情報科学特論			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	石川 敏三			区分	
授業の概要					
高次神経機能の発現とその傷害を分子レベルで理解させる。環境からのさまざまな情報を感覚受容器が感知し、中枢神経系で高次に情報を認識・記憶・学習・制御するほか、人格をも形成する。これらの機能発現について、生理学・生化学・薬理学的に統合させその関連を理解させる。とくに学習能や知覚・運動能の機能発現とその障害における細胞の基質的あるいは機能的変化をネットワークとしてとらえシナプス伝達と調節より解説する。					
授業の一般目標					
1)脳・脊髄の形態機能が理解できる。2)難治性中枢神経障害の病態の理解が出来る。3)痴呆症や痛みのさまざまな研究方法が理解できる。4)必要な研究を考えることが出来る。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 中枢神経研究の現況と進め方が理解できる。関連資料の分析、整理、および論文の理解が出来る。					
思考・判断の観点: 神経再生研究などの先端研究の戦略がもてる。質の良い情報の取舍選択が出来る。					
関心・意欲の観点: 先端神経研究に対する理解及び意義づけが出来る。					
態度の観点: 実験モデルの意義が分かる。さらに、結果に対する評価系が身に着く。					
技能・表現の観点: 高次神経研究の方法と結果の意義付けが身に着く。					
成績評価方法(総合)					
何らか課題を与え、その理解度や行動決定の態度などで評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
高次神経機能は動物で相似させることに限界はあるが、物質代謝や神経、支持細胞の役割を調べ検証してゆくと、新しい知見に興味を示し、常にどのような研究が必要かを考える習慣を身につける。					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	3151600025
開設科目名	遺伝情報検査学特論			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	服部 幸夫, 山城 安啓			区分	
授業の概要					
分子生物学のバイブル「The Cell」を毎昼(12:05-12:35)抄読することによって、英語力と同時に分子生物学をより深く理解する。大学院生は1回に1人が担当する。教員が適宜説明を加えて理解を深める。 遠隔からの受講者は、同じ教科書の5頁/週を15回、英文サマリーをE-mailで送って戴きます。英文サマリーは教科書からの抜き取りで作成します。					
授業の一般目標					
・分子生物学をより深く理解し、論文の作成に寄与する ・毎日英文を読破することによって、自然科学的英語力、表現力を高める。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 分子生物学を深く理解し、論文の考察、研究の遂行に寄与する					
思考・判断の観点: 深く知ることは、思考・判断力の向上をもたらす。日常的に行っている研究の裏が理解でき、新たな構想を持つように努める					
関心・意欲の観点: 着想が湧くと自ずから関心や意欲が湧いてくるはずである					
態度の観点: 実験の結果をきちんと考察し、その対策を考えられるような真摯な態度が望まれる					
技能・表現の観点: 知識と技術は表裏一体しているべきである。となく知識が不十分になりがちであるが、腰を据えて深い知識を獲得することも技術を進歩させるためには必要である。					
成績評価方法(総合)					
出席、および分担が最も重要である。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	3151600026
開設科目名	検査診断情報学特論			単位	2単位
対象学生				学年	～
担当教員	市原 清志			区分	
授業の概要					
<p>大規模で複雑な検査情報、健康や生活環境、労働環境に関する疫学調査情報から、情報技術と統計解析技術を駆使して、検査診断論理を導いたり、疫学的知識を得るための方法論を体系的に教授する。</p> <p>事実に基づく検査診断の実践に必要な疾患別症例別データベースの構築法とそれを活用した動的な診断システムの開発法、生活習慣調査成績から疾病の発症前予測を行う健康管理システムの開発法、大規模な日常検査情報から、データマイニング技術を利用して、臨床診断に役立つ情報システムの構築法(微生物疫学情報システムなど)などを、単純なモデルを例示しながら、システム構築の実際について講義する。また、関連のデータベースを制御する上で必要となるプログラム法や統計解析の手法についても解説する。</p>					
授業の一般目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・検査情報システムに格納された日常検査情報の活用法の事例を列挙できる。 ・データベースのシステムを操作し、基本的なテーブルや入力フォームを作成できる ・SQL言語を用いたデータベースの制御法を理解している。 ・データマイニングの基本技術と目的を理解している。 ・臨床検査の診断的有用性の基本的な評価法(単変量解析法)に通じている ・臨床検査の診断的有用性を複数の検査法に照らしえ比較評価できる(多変量解析) 					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点:各種データマイニングのアルゴリズムを理解し、それらを的確に使い分けできる</p> <p>思考・判断の観点:医療データベースから得た知識やルールの妥当性を評価できる</p> <p>関心・意欲の観点:データマイニング技術の可能性に触れ、その活用に関心を持っている</p> <p>技能・表現の観点:データベースシステムの基本的な操作をできる。臨床検査の診断的有用性を多変量解析で評価できる。医療データベースを利用して、そこから様々な検査疫学的な知識を導ける。</p>					
成績評価方法(総合)					
ゼミナールへの参加と、理解力を討議を通して総合的に評価					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	3151600027
開設科目名	機能情報解析学特論			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	松田 昌子, 清水 昭彦, 野垣 宏			区分	
授業の概要					
生体から得られる電気生理学的情報や画像情報を解析し、生体の各器官の特性とその制御システムの機能を明らかにし、統合的に疾患の診断や治療に応用していく手法を教授する。					
授業の一般目標					
脳波解析の実際、心臓の電気生理学的検査をはじめとする超音波検査、運動負荷試験、心拍変動解析等、生理学的検査法の応用を学ぶ。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: それぞれの検査法を統合的に理解し、診断に応用できる。					
思考・判断の観点: 生理学的臨床データを診断できる。					
技能・表現の観点: 超音波検査法の手技を磨く。					
成績評価方法(総合)					
レポート、授業内でのディスカッションの内容により評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
松田 0836-22-2832 [matsudam@yamaguchi-u.ac.jp]					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	3151600028
開設科目名	病態応用検査学特論			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	山田 治, 野島 順三, 岡野 こずえ			区分	
授業の概要					
白血病などの造血器疾患や、HIV 感染症および肝炎ウイルスによる肝疾患の検査診断法や予後(微小残存腫瘍の測定など)に関する病態解析法について教授するとともに、臨床検査管理に必要なリスクマネージメントについて解説する。					
授業の一般目標					
1)造血器腫瘍の遺伝子診断について説明できる。 2)HIV 感染症におけるウイルス動態について説明できる。 3)C 型肝炎の進行における病態を説明できる。 4)医療におけるリスクマネージメントについて説明できる。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 1)造血器腫瘍や HIV 感染症における分子レベル検査法と形態検査の意義、治療に伴う残存病変・予後解析についてを理解する。また、医療におけるリスクマネージメントについて理解する。 2)火疾患、とくに肝炎の分子機構からみた病態について理解する。肝炎ウイルス並びに肝病態検査の意義を分子レベルで理解する。 3)HIV 感染症において重要な役割を持つ免疫担当細胞の解析、白血病細胞の分子生物学的な同定を理解する。					
思考・判断の観点: 1)造血器腫瘍や HIV 感染症における分子レベル検査法と形態検査の意義、治療に伴う残存病変・予後解析についてを理解する。また、医療におけるリスクマネージメントについて理解する。 2)火疾患、とくに肝炎の分子機構からみた病態について理解する。肝炎ウイルス並びに肝病態検査の意義を分子レベルで理解する。 3)HIV 感染症において重要な役割を持つ免疫担当細胞の解析、白血病細胞の分子生物学的な同定を理解する。					
関心・意欲の観点: 造血器腫瘍、HIV 感染症、肝炎病態に関する英文論文を自分で探し、その内容を簡潔に説明できる。					
態度の観点: 授業中の質問や論文発表が熱心である。					
技能・表現の観点: 授業およびお互いの発表に対し、議論し自分の意見を述べることができる。					
成績評価方法(総合)					
授業の到達目標に従って、学生の評価を行う。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	3152000001
開設科目名	器官病態内科学特論			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	三浦 俊郎			区分	
授業の概要					
内科学、特に循環器病態学、腎臓病態学、呼吸器病態学の基礎を学び、臨床内科学における現状を理解する。さらに臨床の場で今必要とされているME機器について考察を行う。					
授業の一般目標					
内科学における診断と治療を考える上で、最小限の基礎的事項を理解する。 ・循環器病態学の基礎的事項を理解する。 ・腎臓病態学の基礎的事項を理解する。 ・呼吸器病態学の基礎的事項を理解する					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 内科学における診断と治療を考える上で、最小限の基礎的事項を理解する。 ・循環器病態学の基礎的事項を説明できる。 ・腎臓病態学の基礎的事項を説明できる。 ・呼吸器病態学の基礎的事項を説明できる。 思考・判断の観点: 内科学における病態診断に使用される機器の問題点を指摘できる。 関心・意欲の観点: 内科学の診断に必要な新たなME機器を指摘できる。 態度の観点: 臨床診療の現場において、診断使用する機器の概要を理解でき、診療活動に参加できる。 技能・表現の観点: 簡単なME機器を操作できる。					
成績評価方法(総合)					
成績評価は口頭試問、または課題に伴うレポートで行う。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	3152000002
開設科目名	器官病態外科学特論			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	榎 忠彦			区分	
授業の概要					
各疾患の外科治療法を基礎的に講義する。					
授業の一般目標					
外科治療の考え方を理解する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 外科治療の概念を説明できる。					
成績評価方法(総合)					
成績評価は基本的に、出席(60%)と授業態度(40%)で行う。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	3152000003
開設科目名	情報科学特論			単位	1 単位
対象学生				学年	~
担当教員	山本 隆, 松野 浩嗣, 小宮 克弘, 松村 澄子, 末竹 規哲, 廣澤 史彦			区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期集中	曜日時限	集中	時間割コード	3152000004
開設科目名	物理・地球科学特論			単位	1単位
対象学生				学年	~
担当教員	野崎 浩二, 三浦 保範			区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	3152000005
開設科目名	化学・生物科学特論			単位	1単位
対象学生				学年	~
担当教員				区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	3152000006
開設科目名	知的財産権特論			単位	1単位
対象学生				学年	~
担当教員	三木 俊克			区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	3152000007
開設科目名	ネットワーク情報倫理特論			単位	1単位
対象学生				学年	~
担当教員				区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	3152000008
開設科目名	労働安全衛生特論			単位	1単位
対象学生				学年	~
担当教員	中山 則昭			区分	
授業の概要					
労働安全衛生法にもとづき必要とされる安全衛生管理等について概説するとともに、事故・災害対策、化学物質の管理と環境配慮、工作機械・放射線装置・高圧ポンプなどの利用に伴う安全管理の実際について講述する。					
授業の一般目標					
1.労働安全衛生法に基づく、安全管理、衛生管理の概要について理解する。					
2.一般的な労働環境管理、健康管理、火災予防、地震対策、負傷・事故時の応急措置などについて理解するとともに、応急措置について講述する。					
3.大学において取り扱う化学物質に対する法規制、危険性・有害性、管理方法、廃棄処理法について理解する。					
4.工作機械・電気機器・放射線装置・高圧ポンプ・寒剤(液化ガス)などの安全な取扱い方法、危機管理の方法について理解する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 1.労働安全衛生法に基づく、安全管理、衛生管理の概要が説明出来、日常的な安全点検・衛生点検が実施出来ること。					
2.各自の実験・実習作業環境において、危険予知が出来、事故時に適切な処置が可能となる知識を身に付けていること。					
思考・判断の観点: 1.各自の実験・実習作業環境において、安全管理・衛生管理が必要な事項を認知し、適切な管理・点検を実施出来ること。					
成績評価方法(総合)					
各講義においては、小テストを課し、合格点を得ることにより出席とする。救急救命1及び救急救命2においてはレポートを課題とする。これらの評点で成績を評価する。7コマ分以上受講し、各講義の小テスト・レポートについて合格点を得ることにより、1単位を取得することが出来る。					
教科書					
「安全・衛生と健康のてびき」/ 国立大学法人山口大学労働安全衛生委員会編					
参考書					
大学人のための安全衛生管理ガイド/ 鈴木直他著: 東京化学同人, 2005					
環境・安全・衛生 大学のアピール/ 伊永 隆史: 三共出版, 2006					
メッセージ					
連絡先					
中山則昭(山口大学労働安全衛生委員会工学部委員) : E-mail naka@yamaguchi-u.ac.jp, 電話 0836-85-9650, 研究室 工本館北3F338					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	3152000009
開設科目名	医工学基礎科目 (医学分野)			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	小林 誠			区分	
授業の概要					
医学と工学との統合的な基礎知識の習得に必要な講義。医学部卒業者は工学分野を、工学部卒業者は医学分野の基本的知識及び視点を学習する。					
授業の一般目標					
医学と工学との統合的な基礎知識を習得する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 医学の基礎的知識を説明できる。					
思考・判断の観点: 医学の基礎的現象につき考察できる。					
関心・意欲の観点: 医学・生命現象につき関心をもてる。					
態度の観点: 医学・生命現象についての討論に参加できる。					
成績評価方法(総合)					
成績評価は基本的に、出席(60%)と授業態度(40%)で行う。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	3152000010
開設科目名	医工学基礎科目 (工学分野)			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	小林 誠			区分	
授業の概要					
医学部卒業者が工学領域の基本的知識及び視点を学習する。					
授業の一般目標					
医学と工学の融合領域研究の基礎となる工学知識を獲得する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 機械工学と情報工学を中心とした工学的知識の体得					
成績評価方法(総合)					
講義内容に対するレポート, および, 講義中に実施する意見交換におけるディスカッション内容により評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	3152300001
開設科目名	情報科学特論			単位	1単位
対象学生				学年	~
担当教員	山本 隆, 松野 浩嗣, 小宮 克弘, 松村 澄子, 廣澤 史彦			区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期集中	曜日時限	集中	時間割コード	3152300002
開設科目名	物理・地球科学特論			単位	1単位
対象学生				学年	~
担当教員	野崎 浩二, 三浦 保範			区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	3152300003
開設科目名	化学・生物科学特論			単位	1単位
対象学生				学年	~
担当教員				区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	3152300004
開設科目名	知的財産権特論			単位	1単位
対象学生				学年	~
担当教員	三木 俊克			区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	3152300005
開設科目名	ネットワーク情報倫理特論			単位	1単位
対象学生				学年	~
担当教員				区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	3152300006
開設科目名	労働安全衛生特論			単位	1 単位
対象学生				学年	~
担当教員	中山 則昭			区分	
授業の概要					
労働安全衛生法にもとづき必要とされる安全衛生管理等について概説するとともに、事故・災害対策、化学物質の管理と環境配慮、工作機械・放射線装置・高圧ポンペなどの利用に伴う安全管理の実際について講述する。					
授業の一般目標					
1.労働安全衛生法に基づく、安全管理、衛生管理の概要について理解する。					
2.一般的な労働環境管理、健康管理、火災予防、地震対策、負傷・事故時の応急措置などについて理解するとともに、応急措置について講述する。					
3.大学において取り扱う化学物質に対する法規制、危険性・有害性、管理方法、廃棄処理法について理解する。					
4.工作機械・電気機器・放射線装置・高圧ポンペ・寒剤(液化ガス)などの安全な取扱い方法、危機管理の方法について理解する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 1.労働安全衛生法に基づく、安全管理、衛生管理の概要が説明出来、日常的な安全点検・衛生点検が実施出来ること。					
2.各自の実験・実習作業環境において、危険予知が出来、事故時に適切な処置が可能となる知識を身に付けていること。					
思考・判断の観点: 1.各自の実験・実習作業環境において、安全管理・衛生管理が必要な事項を認知し、適切な管理・点検を実施出来ること。					
成績評価方法(総合)					
各講義においては、小テストを課し、合格点を得ることにより出席とする。救急救命1及び救急救命2においてはレポートを課題とする。これらの評点で成績を評価する。7コマ分以上受講し、各講義の小テスト・レポートについて合格点を得ることにより、1単位を取得することが出来る。					
教科書					
「安全・衛生と健康のてびき」/ 国立大学法人山口大学労働安全衛生委員会編					
参考書					
大学人のための安全衛生管理ガイド/ 鈴木直他著: 東京化学同人, 2005					
環境・安全・衛生 大学のアピール/ 伊永 隆史: 三共出版, 2006					
メッセージ					
連絡先					
中山則昭(山口大学労働安全衛生委員会工学部委員) : E-mail naka@yamaguchi-u.ac.jp, 電話 0836-85-9650, 研究室 工本館北3F338					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	3152600001
開設科目名	医療倫理学特論			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	谷田 憲俊, 正村 啓子			区分	
授業の概要					
<p>医学の発展に伴う多様な医療問題に応えるには、方針決定に患者や家族の参画が必要となる。その新しい医療の姿を理解し適切な対応ができる技能を修得し指導できるようになるため、講義では討論を重視し、理論的、実践的な医療倫理学の教育を行う。</p> <p>「日常的な人間相互の関係における倫理学」は、専門職者としての質の高い実践の重要な基盤である。医療現場において日常遭遇する患者-医療者関係や医療者相互の関係など様々な人間相互関係における倫理問題及びその倫理的解決について理論的・実践的に教授するとともに、最も日常的な身近な具体的な実践事例を用いて検討することにより、専門職者として高い倫理性を備えるとともに適切な指導助言ができるように教授する。</p>					
授業の一般目標					
<p>医療倫理の諸問題について自らが考え・判断する能力を養い、かつコミュニケーション技能を得て医療倫理について指導できる。</p> <p>質の高い看護を提供できる看護専門職者が求められている今日、「日常的な人間相互の関係における倫理」は、質の高い看護実践の重要な基盤である。自分自身の最も日常的な看護の実践事例を用いて分析し、高い倫理性を備えるための自己の改善点を明らかにし、さらに質の高い看護実践家となることを目指して努力するとともに、これを基盤にスタッフに適切な指導助言ができるように教授する。</p>					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点: 歴史から今日に至る医療倫理の問題を理解し、解決への道筋を考えられる。</p> <p>思考・判断の観点: 自己の価値観を大切に、異なる価値観の他者と対話できるようになる。</p> <p>関心・意欲の観点: 課題を分析し論理的な解決方法を模索できる。</p> <p>態度の観点: 医療倫理の学びを深め、教育に実践できる。</p> <p>技能・表現の観点: コミュニケーション術を学び、指導できる基礎を得る。</p>					
成績評価方法(総合)					
出席を重視し、課題に関するレポートを評価する。					
教科書					
インフォームド・コンセント その誤解・曲解・正解 / 谷田憲俊: NPO 医薬ビジランスセンター, 2008					
参考書					
<p>幸せをよぶコミュニケーション / ジャック・サロメ: 行路社, 2004</p> <p>患者・家族の緩和ケアを支援するスピリチュアルケア 初診から悲嘆まで / 谷田憲俊: 診断と治療社, 2008</p>					
メッセージ					
PowerPoint ファイル講義資料を希望する学生は、tanida@yamaguchi-u.ac.jp までメールすること。なお、ファイルが大きいので2Mほどの容量を要する。					
連絡先					
tanida@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
学生はいつでも訪問歓迎(留守の時はご容赦を)。					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	3152600002
開設科目名	医療情報学特論			単位	2単位
対象学生				学年	～
担当教員	市原 清志, 清水 昭彦			区分	
授業の概要					
医療、保健、福祉の分野で推進されている IT (Information Technology) に対応するための技術を実際にコンピューターを使用して修得する。医療情報の特性や複雑性を学び、それらを体系的に収集・蓄積し、さらに、その情報をより科学的に証明・活用できるような多次元の統計処理を行う能力を高める。また、医療における情報開示と守秘義務という医療社会の課題を学び、関連の法的整備に関して教授する。					
授業の一般目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1) 医療分野での調査研究のための適切なデザインを選択できる 2) 収集した医療情報を的確に解析できるようにするために必要な前処理法が分かる 3) 調査結果を的確に要約できる 4) 調査研究結果を基本的な多変量解析手法で処理し、その意義を的確に解釈できる 5) 医療システムと医療と行政、倫理、個人情報保護との関係を理解する 					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 研究デザインによって統計処理法が異なること、多変量解析の理論を理解できる					
思考・判断の観点: 研究デザインによって、どの統計処理法が適切かを判断できる。多変量解析を用いた要因分析で、変数の選択を定説に行える。					
関心・意欲の観点: 統計学のパワフルな情報解析能力の可能性に関心を抱く					
態度の観点: 自らの研究の企画や研究結果の処理を念頭に置いて、講義演習を受けている					
技能・表現の観点: 表計算ソフト、統計ソフトを医療情報の基礎的な処理と統計処理を抵抗なく行える					
成績評価方法(総合)					
演習問題に対する統計処理結果をレポート					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	3152600003
開設科目名	医療コミュニケーション特論			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	山田 治, 清 俊夫			区分	
授業の概要					
生活習慣病からがん診療におけるインフォームド・コンセント、終末期医療における患者支援で求められるのは医療場面におけるコミュニケーションスキル(傾聴技法)である。保健・医療として、患者の誤った行動を修正するために一方的になりがちな教育指導の問題点を検討し、より有効な患者の行動変容を促すコミュニケーションについて学ぶ。					
授業の一般目標					
基本的な、人の防衛機制について述べるができる。					
一般人にも多い高頻度な精神疾患についてその特徴、病因と対応方法を述べるができる。					
行動科学についてその必要性を説明できる。					
マイクロカウンセリング「基本的かかわり技法」の個々の技法を説明し、有効に使うことができる。					
マイクロカウンセリング「基本的かかわり技法」を統合し、傾聴できる。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: ヒトの精神的発達段階を説明できる。精神発達の障害と性格形成を関係づけることができる。					
自分の性格についてプラス面、マイナス面を説明できる。					
人間関係で起こりやすい防衛機制を説明できる。					
マイクロカウンセリングにおける「基本的関わり技法」を説明できる"					
思考・判断の観点: "自分および他者の性格を類別し、プラス面を伸ばすように指摘できる。					
「基本的関わり技法」を類別し、その問題点や有効な技法の使用を指摘できる。"					
関心・意欲の観点: カウンセリング技法の演習に当たっては、積極的に討議し、グループの活性化に寄与できる。					
態度の観点: グループのメンバーと協調し、積極的に演習に参加できる。					
技能・表現の観点: 指導されたカウンセリング技法を適切に使用することができる。					
自己開示ができる。					
相手の会話より適切なテーマを「言い換え技法」で表現できる。"					
成績評価方法(総合)					
授業の参加時の態度とグループ学習の態度を評価します。					
レポートを課題提出を指示します。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	3152600004
開設科目名	国際保健・医療特論			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	TURALE SUSAN			区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	3152600005
開設科目名	ジェンダー保健学特論			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	松田 昌子, 田中 満由美, 山田 治, 村上 京子, 上田 順子			区分	
授業の概要					
性染色体上の遺伝子および性ホルモンが、生殖器およびその他の多くの臓器に作用していることが近年明らかになっている。これらの作用機序、疾患の症状や治療、予後、予防に及ぼす影響について教授する。					
授業の一般目標					
性染色体上の遺伝子および性ホルモンの、生殖器、循環器、消化器、骨などに対する作用を理解し、各専門分野で作り出される性差について考え、まとめる。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 性差の作り出される仕組みを理解する。					
思考・判断の観点: 自分の専門分野の研究を性差の視点から見直す。					
関心・意欲の観点: 自分の研究内容を性差の視点で見直し、まとめてみる。					
成績評価方法(総合)					
担当教員の課す課題に対してそれぞれが評価し、担当時間により点数配分する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
松田 0836-22-2832 [matsudam@yamaguchi-u.ac.jp]					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	3152600006
開設科目名	危機理論			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	山勢 博彰			区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	3152600007
開設科目名	基礎看護学演習			単位	2単位
対象学生				学年	～
担当教員	正村 啓子, 藤澤 怜子, 稲垣 順子			区分	
授業の概要					
看護実践の質の向上を目指して、看護師の職務ストレスマネジメント、看護管理学領域、看護技術・看護介入に関する文献を講読し、研究課題を扱することができるよう教授する。					
授業の一般目標					
1)看護師の職務ストレスマネジメントに関する文献を講読し、研究課題を扱することができる。2)看護職の人的資源管理や医療安全管理に関する文献を購読し、人的資源管理としてのキャリア開発や、医療安全管理について看護の課題を討議する。また、演習の中で看護職のキャリア開発プログラムの検討や医療事故事例の分析を行うことで、看護管理の視点から研究課題を明確にする。3)看護技術・看護介入に関する文献を講読し、研究課題を扱することができる。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 自己の研究への興味と関連ある重要な論文を抽出し、理解し、説明することができる。					
思考・判断の観点: 自己の研究について焦点を絞り込み、これまでの研究の中で位置づけることができる。					
関心・意欲の観点: 自己の研究を、これまでの研究の中で正しく位置づけようと意欲をもって取り組むことができる。					
態度の観点: その研究者の視点から文献を理解する姿勢でよむことができる。自分の研究、考えとの連関を考えることができる。					
技能・表現の観点: 自己の研究の歴史的な位置づけを明確に分かりやすく表現できる。					
成績評価方法(総合)					
出席を重視し、参加の状況、課題に関するレポートにより総合的に行う。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
正村啓子:e-mail, masamura@yamaguchi-u.ac.jp, Tel. 0836 22 2860					
藤澤怜子:e-mail, reiko@yamaguchi-u.ac.jp, Tel. 0836 22 2814					
稲垣順子:e-mail, jinagaki@yamaguchi-u.ac.jp, Tel. 0836 22 2851					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	3152600008
開設科目名	看護教育学演習			単位	2単位
対象学生				学年	～
担当教員	正村 啓子			区分	
授業の概要					
看護実践の質の向上を目指した看護及び看護教育に関する研究論文、及びそれに関連する国内外の論文を講読することにより、自身の研究課題を掴むことができるよう教授する。					
授業の一般目標					
関連ある重要な文献の講読を通して、自己の研究テーマを絞り込み、歴史的位置付けを明確にして、自己の研究計画を表現できる。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 自己の研究への興味と関連ある重要な論文を抽出し、理解することができる。					
思考・判断の観点: 自己の研究について焦点を絞り込み、これまでの研究の中で位置づけることができる。					
関心・意欲の観点: 自己の研究について焦点を絞り込み、これまでの研究の中で位置づけることができる。					
態度の観点: その研究者の視点から文献を理解する姿勢でよむことができる。自分の研究、考えとの連関を考えることができる。					
技能・表現の観点: 自己の研究の歴史的位置づけを明確に分かりやすく表現できる。					
研究計画を表現できる。					
成績評価方法(総合)					
出席を重視し、課題に関するレポートにより総合的に行う。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					
正村啓子: E-mail masamura@yamaguchi-u.ac.jp TEL:0836-22-2860					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	3152600009
開設科目名	病態生理機能学演習			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	清水 昭彦, 野垣 宏			区分	
授業の概要					
急性疾患におこる呼吸・循環の病態の変化が理解できるな内容を主として英論文より読み取りする演習を行い呼吸・循環の患者の治療全体を理解できるような演習を行う。また、中枢神経の加齢による変性・退行に伴い発生するパーキンソン病、痴呆性疾患の病態解明、および脳血管障害後遺症や痴呆症に対する新しいリハビリテーション技法の開発を目指した教育・研究を行えるような演習を行う。					
授業の一般目標					
急性疾患におこる呼吸・循環の病態の変化の理解を深める。中枢神経の加齢による変性・退行に伴い発生する病気をより深く理解する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 急性疾患におこる呼吸・循環の病態、中枢神経の加齢による変性・退行に伴い発生する病気を理解する。					
思考・判断の観点: 急性疾患におこる呼吸・循環の病態、中枢神経の加齢による変性・退行に伴い発生する病気に対して施行判断できるようにする。					
関心・意欲の観点: 急性疾患におこる呼吸・循環の病態、中枢神経の加齢による変性・退行に伴い発生する病気に関心を持ち、意欲を示す。					
態度の観点: 急性疾患におこる呼吸・循環の病態、中枢神経の加齢による変性・退行に伴い発生する病気を学ぶ態度を培う。					
技能・表現の観点: 急性疾患におこる呼吸・循環の病態、中枢神経の加齢による変性・退行に伴い発生する病気を学び、それを応用して治療に役立てる技能を身に付け、それを表現することができる。					
成績評価方法(総合)					
発表時の内容により評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
清水研究室 EX 2856、 E-mail: ashimizu@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	3152600010
開設科目名	地域看護学演習			単位	2単位
対象学生				学年	～
担当教員	守田 孝恵, 山崎 秀夫, 高橋 郁子			区分	
授業の概要					
地域看護の実践事例をもとにして、学生の問題意識を明確にし、現在の地域保健活動における地域看護の実践的な課題について、研究的視点で現象を捉える演習を行う。実践活動に参加しながら、活動方法について考察できる能力を開発する。					
授業の一般目標					
1.地域保健活動における地域看護の実践事例を基に問題意識を明確化する。 2.地域看護の実践的課題を研究的視点で捉える。 3.実践活動への参画を踏まえて活動方法を科学的に考察する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 1.地域看護の実践事例を研究的視点で問題化できる。2.研究課題に関連する国内外の先行研究を読むことができる。3.研究に関する一連の手続きや内容を理解することができる。					
思考・判断の観点: 1.地域看護の実践事例に基づき問題意識を明確化できる。2.問題意識を言語化し論理的な思考が展開できる。3.保健所・市町村保健センター等の共同研究の重要性を認識できる。					
関心・意欲の観点: 1.地域看護における研究展開について関心を高める。2.国内外の関連研究の整理に対して積極的に取り組む。					
態度の観点: 1.地域看護の研究展開について考えることができる。2.地域の健康問題を研究的に捉え考えることができる。3.地域看護の実践事例について課題・解決策等を議論することができる。					
技能・表現の観点: 1.地域看護の実践的課題を研究的視点で分析し結果を提示することができる。2.地域住民の健康問題を研究展開し仮説を検証することができる。3.プレゼンテーションを効果的・適切に行うことができる。					
成績評価方法(総合)					
授業の中で実際の活動展開例を扱うとともに、実践活動に参画し把握した現象を研究対象として位置付け課題解決が図れるか評価する。最終的には出席状況、授業内レポート等も含めて総合的に評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	3152600011
開設科目名	地域看護学演習			単位	2単位
対象学生				学年	～
担当教員	守田 孝恵, 高橋 郁子			区分	
授業の概要					
地域の精神保健福祉活動の現状と関連する国内外の研究活動の実態を把握し、精神障害者のQOLとノーマライゼーションを向上させるために必要な地域看護の実践上の課題と研究課題を明確にする。さらに、演習として地域精神保健福祉活動の場に参加し、研究的な視点で議論できる能力を開発する。					
授業の一般目標					
1. 地域看護における精神保健福祉の実践事例を基に問題意識を明確化する。 2. 精神保健福祉の実践的課題を研究的視点で捉える。 3. 実践活動への参画を踏まえて活動方法を科学的に考察する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 1. 地域看護における精神保健福祉の実践事例を研究的視点で問題化できる。2. 研究課題に関連する国内外の先行研究を読むことができる。3. 研究に関する一連の手続きや内容を理解することができる					
思考・判断の観点: 1. 地域看護における精神保健福祉の実践事例に基づき問題意識を明確化できる。2. 問題意識を言語化し論理的な思考が展開できる。3. 保健所・市町村保健センター等との共同研究の重要性を認識できる。					
関心・意欲の観点: 1. 精神保健福祉における研究展開について関心を高める。2. 国内外の関連研究の整理に対して積極的に取り組む。					
態度の観点: 1. 精神保健福祉の研究展開について考えることができる。2. 地域の健康問題を研究的に捉え考えることができる。3. 精神保健福祉の実践事例について課題・解決策等を議論することができる。					
技能・表現の観点: 1. 地域看護における精神保健福祉の実践的課題を研究的視点で分析し結果を提示することができる。2. 地域住民(精神障害者)の健康問題を研究展開し仮説を検証することができる。3. プレゼンテーションを効果的・適切に行うことができる。					
成績評価方法(総合)					
授業の中で実際の活動展開例を扱うとともに、実践活動に参画し把握した現象を研究対象として位置付け課題解決が図れるか評価する。最終的には出席状況、授業内レポート等も含めて総合的に評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	3152600012
開設科目名	クリティカルケア看護学特論			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	山勢 博彰			区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	3152600013
開設科目名	クリティカルケア看護学演習			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	山勢 博彰, 清水 昭彦, 齊田 菜穂子			区分	
授業の概要					
救急または重篤な患者の身体的問題と心理・社会的問題に対する看護を教授する。特に、危機理論をベースにした患者とその家族の精神的看護、家族の二 ードとコーピングについてのアセスメント、脳死臓器移植と看護の課題などについても触れる。さらに、クリティカルケアでのチーム医療における看護師の役 割、クリティカルケアと救急看護の専門性および看護師のストレスマネジメントなどについて理解を深める。					
授業の一般目標					
1.クリティカルケア看護について理解を深める 2.クリティカルケア看護領域の研究について知る					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: クリティカルケア看護について理解を深める					
思考・判断の観点: クリティカルケア看護について考察できる					
関心・意欲の観点: クリティカルケア看護について意欲を持って探求できる					
成績評価方法(総合)					
ゼミへの参加の様子を評価する					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	3152600014
開設科目名	成人看護学演習			単位	2単位
対象学生				学年	～
担当教員	齊田 菜穂子			区分	
授業の概要					
慢性疾患・慢性的機能障害を有する成人患者および終末期にある患者が抱える療養上の問題・困難を解決していくための看護方法について学ぶ。看護実践における既存の研究成果の活用の可能性を検討する。さらに今後、開発されるべき看護方法について議論する					
授業の一般目標					
慢性疾患・慢性的機能障害を有する成人患者および終末期にある患者とその家族の健康問題や看護に関わる国内外の文献をクリティークし、関連領域の研究の動向及び研究方法について自らの意見を述べるができる。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 慢性疾患・慢性的機能障害を有する成人患者および終末期患者とその家族が抱える療養上の問題・困難を述べるができる。対象を理解し援助していくための概念・理論を列挙できる。量的・質的研究方法論を述べるができる。					
思考・判断の観点: 関連する研究論文・看護実践報告を批判的に考察し述べるができる。今後、開発されるべき看護方法について述べるができる。					
態度の観点: 慢性期・終末期病態に関わる機能障害と健康問題が及ぼす生活上の困難について研究的思考で臨む。					
技能・表現の観点: レポートおよびプレゼンテーション課題に対し、自らの意見・考えを論理的に記述・口述できる。					
成績評価方法(総合)					
レポート内容、プレゼンテーションの的確性及び授業参加態度を総合的に評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	3152600015
開設科目名	母性看護学演習			単位	2単位
対象学生				学年	～
担当教員	田中 満由美, 戸部 郁代			区分	
授業の概要					
科学的根拠に基づいた専門的援助を創造し、実践の変革が期待できる能力を育てるために、母性看護特論を基盤とし、リプロダクティブヘルス/ライツの観点からライフサイクル各期の女性および新生児に対して実践されている専門的援助や研究に関する国内外の文献を講読し、分析・討議し、問題を明らかにする。					
授業の一般目標					
母性看護特論を基盤とし、リプロダクティブヘルス/ライツの観点からライフサイクル各期の女性および新生児に対して実践されている専門的援助や研究に関する国内外の文献を講読し、分析・討議し、問題を明らかにする。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: リプロダクティブヘルス/ライツの観点からライフサイクル各期の女性および新生児に対して実践されている国内外の専門的援助について概説できる。					
リプロダクティブヘルス/ライツの観点からライフサイクル各期の女性および新生児に対して実践されている国内外の研究について概説できる。					
思考・判断の観点: リプロダクティブヘルス/ライツの観点からライフサイクル各期の女性および新生児に対して実践されている国内外の専門的援助について文献や討論からアセスメントできる。					
リプロダクティブヘルス/ライツの観点からライフサイクル各期の女性および新生児に対して実践されている国内外の研究について文献や討論からアセスメントできる。					
関心・意欲の観点: 積極的に関連文献を調べる。					
態度の観点: 自ら積極的に学ぶ					
積極的に討論に参加する。					
積極的に関連文献を調べる。					
成績評価方法(総合)					
レポート・討議の参加態度・プレゼン					
教科書					
参考書					
メッセージ					
積極的に学習に取り組むこと。					
連絡先					
田中満由美(研 TEL 22-2821)					
戸部郁代(研 TEL 22-2825)					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	3152600016
開設科目名	小児看護学演習			単位	2単位
対象学生				学年	～
担当教員	辻野 久美子, 村上 京子			区分	
授業の概要					
(辻野) 小児看護学領域の論文クリティークを行い、小児看護実践におけるさまざまな課題とその解決方法を探る。					
(村上) 小児看護学特論を基盤とし周産期から乳幼児期にかけて、また、健康に問題を持つ小児とその家族に対して、個性を踏まえたケアが展開できる能力を育成する。周産期から小児期における高度医療の現状について理解を深め、母子と家族の個性をアセスメントする能力を育てるとともに倫理面を考慮しながら看護実践、調整・連携が行えるようにする。					
授業の一般目標					
(辻野)小児看護に対する理解を深め、看護職者としての資質を向上させる。					
(村上)					
(1) 小児の看護について、知識と技術の根拠を考え発展させることができる。					
(2) 小児と家族、それをとりまく看護職や他職種との連携について理解し、調整できる能力を養う。					
(3) 小児看護ケアの実践について根拠をもとに理解し、看護職間で意見を交換し、また、他者の相談・指導を実施する能力を養う。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: (辻野)					
小児看護学領域の論文クリティークができる。					
(村上)					
・小児のフィジカルアセスメントについて理解し、観察技術の視点や能力を向上することができる。					
・小児の侵襲的処置や痛みについて理解し、軽減するためのケアについて考える。					
思考・判断の観点: (辻野)					
小児看護学領域の論文クリティークを通して、小児看護におけるさまざまな課題とその解決方法について考察できる。					
(村上)					
・小児とその家族への適切な看護支援について、適切に実践するための視点を考察できる。					
・小児医療チームにおける看護職の役割を理解し、他職種と連携を取りながら調整できるよう考えることができる。					
関心・意欲の観点: (辻野)					
小児看護におけるさまざまな課題に関心を持ち、小児看護研究について理解することができる。					
態度の観点: (辻野)					
積極的に授業に参加し、発言できる。					
(村上)					
・グループワークやディスカッションを通して、自分の意見を適切に表現し、他者の意見を参考にすることができる。					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	3152600017
開設科目名	遺伝看護学演習			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	塚原 正人, 辻野 久美子, 村上 京子			区分	
授業の概要					
遺伝看護に関連した小児の健康問題・看護実践に関する国内外の研究論文をレビューし、遺伝看護の実践と研究の国際的動向及び研究方法について考え、遺伝看護学における研究課題・方法を明確にし、和文及び英文による論文作成法を演習する。					
授業の一般目標					
1) 遺伝看護に関連した小児の健康問題・看護実践に関する国内外の研究論文をレビューできる。 2) 遺伝看護の実践と研究の国際的動向を把握し、遺伝看護学の和文及び英文論文を作成できる。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 遺伝看護学の和文及び英文論文を容易に理解し、レビューできる。					
思考・判断の観点: 遺伝看護学の和文及び英文論文をレビューし、新たな課題を探索できる。					
関心・意欲の観点: 積極的に課題に取り組む。					
態度の観点: 前向きな姿勢で演習に取り組む。					
技能・表現の観点: 遺伝看護に関する和文および英文論文を書く能力をもつ。					
成績評価方法(総合)					
レポート提出により評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	3152600018
開設科目名	老年看護学演習			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	野垣 宏, 堤 雅恵			区分	
授業の概要					
老年看護学に関する国内外の文献を通読し、最新の知見を得る。					
授業の一般目標					
老年看護学に関する最新の情報を説明できる。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 老年看護学に関する最新の知見を説明できる。					
成績評価方法(総合)					
レポートおよび授業への参加度で評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
nogaki@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	3152600019
開設科目名	分子細胞解析学演習			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	渡部 省二, 田中 経彦			区分	
授業の概要					
分子細胞生物学分野の最近のオリジナル文献(英文)を読み、その内容を発表する。					
授業の一般目標					
分子細胞生物学分野の最近のオリジナル文献(英文)を読み、理解し、内容をその説明でし、さらに、それを研究テーマに応用できるようにする。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 分子細胞生物学分野の最近のオリジナル文献(英文)を読み、理解することができる。					
思考・判断の観点: 読んだ論文の内容を自分の研究テーマに応用できる。					
技能・表現の観点: 理解した内容をその内容を知らない人が理解できるように説明できる。					
成績評価方法(総合)					
毎回の発表から、理解度、発表の方法等を総合判断して評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	3152600020
開設科目名	細胞情報解析学演習			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	高橋 睦夫, 上田 順子, 尾野 緑, 山本 美佐			区分	
授業の概要					
腫瘍細胞の同定法に関する内外の研究論文を講読させ、研究の基礎的知識及び最新情報を得させるとともに、和文及び英文による論文作成法を学ばせる。					
授業の一般目標					
腫瘍細胞の同定法に関する内外の研究論文が理解・把握でき、研究の基礎的知識及び最新情報が習得できる。和文及び英文による論文作成ができる。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 細胞の特性について理解できる。					
思考・判断の観点: 研究方法について、立案できる。					
成績評価方法(総合)					
演習の習得度を評価					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
E-mail: mutsuo@yamaguchi-u.ac.jp , Tel/Fax: (0836) 22-2845					
オフィスアワー					
随時					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	3152600021
開設科目名	病原体情報解析学演習			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	梅田 昭子, 常岡 英弘			区分	
授業の概要					
<p>感染症の疫学的調査法として、病原体の DNA を特定の制限酵素で切断したパターンを解析するパルスフィールドゲル電気泳動(PFGE)によるフィンガー・プリンティング法があります。この方法を用いて自分の鼻腔に生息するブドウ球菌について解析する実習を行い、手法の習得と応用を目指します。また、最近重要視され話題となっている感染症があります。新興感染症や再興感染症として分類されているものです。これらのうちいくつかを取り上げ、数年内に発表された興味深い原著論文を読み、現在の感染症に対する最新情報を取得することを目的としています。</p>					
授業の一般目標					
<p>PFGE 法の手技の習得と応用。 感染症に対する最新情報の取得、英語論文の読み方、書き方の習得。</p>					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点:PFGE 法の意味を理解し手技を実習により理解する。また、英語による論文を読み、内容を理解する。 思考・判断の観点:PFGE 法での解析法について考察する。また、読んだ論文内容から自分だったらどのような実験方法で始めるかを思考する。 関心・意欲の観点:感染症に対して報道されている内容が専門的に理解でき、さらなる関心を持つことができる。 態度の観点:自分で積極的に情報を得、学習する態度を身に付ける。 技能・表現の観点:実習により習得した技術を応用できる力を養う。また、英語の科学論文の構成を学び、読み書きがさらに上達できるようにする。</p>					
成績評価方法(総合)					
数回のレポート提出により評価します。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	3152600022
開設科目名	高次神経情報科学演習			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	石川 敏三			区分	
授業の概要					
<p>生体の感覚情報の認識、伝達と中枢における制御、および記憶・学習機能と統御された機構について解析された内外の研究論文を講読させ、研究の基礎的及び最新の情報を得させるとともに、和文及び英文による論文作成法を演習させる。また、動物を使った脳・脊髄血管障害や痛覚過敏症モデルを作成し、高次神経機能障害への研究の取り組み、たとえばどのように記憶、痛覚機能評価あるいは細胞機能を探るかを実際に演習させる。</p>					
授業の一般目標					
<p>1)脳・脊髄の形態機能が理解できる。2)難治性中枢神経障害の病態の理解が出来る。3)痴呆症や痛みのさまざまな研究方法が理解できる。4)必要な研究を考えることが出来る。</p>					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点: 中枢神経研究の現況と進め方が理解できる。関連資料の分析、整理、および論文の理解が出来る。</p> <p>思考・判断の観点: 戦略がもてる。質の良い情報の取舍選択が出来る。</p> <p>関心・意欲の観点: 先端研究に対する分析及び意義づけが出来る。</p> <p>態度の観点: 実験の組み立てや能動的行動が身に着く。さらに、結果に対する評価系が身に着く。</p> <p>技能・表現の観点: 高次神経研究の方法と結果の意義付けが身に着く。</p>					
成績評価方法(総合)					
<p>期末試験で60%を越えること。課題も評価に考慮する。</p>					
教科書					
参考書					
メッセージ					
<p>高次神経機能は動物で相似させることに限界はあるが、物質代謝や神経、支持細胞の役割を調べ検証してゆくので、新しい知見に興味を示し、常にどのような研究が必要かを考えることを進める。</p>					
連絡先					
22-2888					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	3152600023
開設科目名	遺伝情報検査学演習			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	服部 幸夫, 山城 安啓			区分	
授業の概要					
<p>当研究室のテーマであるヘモグロビン関係の勉強会を充てている。月1回(90分)のヘモグロビン・カンファランスでは過去1ヵ月間に分析した血色素異常の詳細な検討や技術的側面、今後の検討課題などを話し合っている。残りの3回はヘモグロビンに関する海外の文献を広く紹介したり(主に大学院生)、学会発表の紹介や総説の解説(教員)などヘモグロビンを中心として幅広い分子生物学の素養の修得を図る。</p> <p>遠隔受講生には課題として、この講義で用いた主にヘモグロビンに関する文献(英文、6個)をアップロードするので、それを読んで、自分が学んだことをレポートする。</p>					
授業の一般目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・ヘモグロビン異常症の表現型に関して、エピジェネティックな要素の検討 ・ヘモグロビン異常症と遺伝子異常 ・英語文献を読めるようにする 					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 分子生物学の知識を深める					
思考・判断の観点: 検討方法を考える					
関心・意欲の観点: 自ら疑問に思ったり、考案したことを、実験で行ってみる					
態度の観点: 積極性					
成績評価方法(総合)					
出席がもっとも重要である。その他に、授業中の発言(疑問、着想)も重要な評価基準である。小人数なので、積極的な討論を期待する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	3152600024
開設科目名	検査診断情報学演習			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	市原 清志			区分	
授業の概要					
<p>大規模で複雑な検査情報、健診検査情報、疫学調査情報から、情報技術と統計解析技術を駆使して、検査診断論理を導いたり、疫学的知識を得るための方法論を体系的に教授する。</p> <p>事実に基づく検査診断の実践に必要な疾患別症例別データベースの構築法とそれを活用した動的な診断システムの開発法、生活習慣調査成績から疾病の発症前予測を行う健康管理システムの開発法、大規模な日常検査情報から、データマイニング技術を利用して、臨床診断に役立つ情報システムの構築法(微生物疫学情報システムなど)などを、単純なモデルを例示しながら、システム構築の実際について講義する。また、関連のデータベースを制御する上で必要となるプログラム法や統計解析の手法についても解説する。</p>					
授業の一般目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・検査情報システムに格納された日常検査情報の活用法の事例を列挙できる。 ・データベースのシステムを操作し、基本的なテーブルや入力フォームを作成できる ・SQL言語を用いたデータベースの制御法を理解している。 ・データマイニングの基本技術と目的を理解している。 ・臨床検査の診断的有用性の基本的な評価法(単変量解析法)に通じている ・臨床検査の診断的有用性を複数の検査法に照らしえ比較評価できる(多変量解析) 					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点:各種データマイニングのアルゴリズムを理解し、それらを的確に使い分けできる</p> <p>思考・判断の観点:医療データベースから得た知識やルールの妥当性を評価できる</p> <p>関心・意欲の観点:データマイニング技術の可能性に触れ、その活用に関心を持っている</p> <p>技能・表現の観点:データベースシステムの基本的な操作をできる。臨床検査の診断的有用性を多変量解析で評価できる。医療データベースを利用して、そこから様々な検査疫学的な知識を導ける。</p>					
成績評価方法(総合)					
演習課題に対する、問題解決の思考過程とそのデータ解析技術を評価					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	3152600025
開設科目名	機能情報解析学演習			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	松田 昌子, 野垣 宏			区分	
授業の概要					
生理学的検査法を用いた最新の英語論文を読み、実験への検査の応用法を教授する。					
授業の一般目標					
英語論文に慣れ、生理学的検査を用いた研究の手法と最新の動向を学ぶ。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 英語論文を正確に読み、論文の書き方、実験の進め方を理解する。					
思考・判断の観点: 循環器系研究の最新の知見を理解する。					
成績評価方法(総合)					
論文の理解度、ディスカッションの内容等を総合的に評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	3152600026
開設科目名	病態応用検査学演習			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	山田 治, 野島 順三, 岡野 こずえ			区分	
授業の概要					
白血病などの造血器疾患や、HIV 感染症および肝炎ウイルスによる肝疾患の検査診断法や予後(微小残存腫瘍の測定など)に関する病態解析法について実施方法を検討し、その一部を経験する。					
授業の一般目標					
1)造血器腫瘍の遺伝子診断方法について説明できる。 2)HIV 感染症におけるウイルス動態測定における検査方法について説明できる。 3)C 型肝炎の進行における病態の測定方法について説明できる。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 1)造血器腫瘍や HIV 感染症における分子レベル検査法と形態検査の意義、治療に伴う残存病変・予後解析についてを理解する。また、医療におけるリスクマネジメントについて理解する。 2)肝疾患、とくに肝炎の分子機構からみた病態について理解する。肝炎ウイルス並びに肝病態検査の意義を分子レベルで理解する。 3)HIV 感染症において重要な役割を持つ免疫担当細胞の解析、白血病細胞の分子生物学的な同定を理解する。					
思考・判断の観点: 1)HIV の遺伝子変異がもたらす薬剤耐性測定手技について理解し判断することができる。 2)肝病態検査の意義を分子レベルで理解した上で、今後の検査法の構築に必要な技術を推論できる。 3)造血器腫瘍の遺伝子変異に伴う診断・予後・治療について推論できる。					
関心・意欲の観点: 造血器腫瘍、HIV 感染症、肝炎病態測定に関する英文論文を自分で探し、その内容を簡潔に説明できる。					
態度の観点: 授業中の質問や論文抄読発表の態度が熱心である。					
技能・表現の観点: 授業およびお互いの発表に対し、議論し自分の意見を述べることができる。					
成績評価方法(総合)					
到達目標の観点に従い学生の評価を行う。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	3153000001
開設科目名	学外特別研修			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	小林 誠			区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	3153000002
開設科目名	応用医工学演習			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	小林 誠			区分	
授業の概要					
講義内容に対するレポート, および, 講義中に実施する意見交換におけるディスカッション内容により評価する.					
授業の一般目標					
応用医工学に関連した研究テーマを進める基礎的な勉強会や討論会に参加する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 応用医工学に関連した研究テーマについての基礎的知識を理解する。					
思考・判断の観点: 応用医工学に関連した研究テーマの基礎的な考え方について指摘できる。					
関心・意欲の観点: 応用医工学に関連した研究テーマについて、更なる知識を検索できる。					
技能・表現の観点: 応用医工学に関連した研究テーマに必要とされる手技等について理解できる。					
成績評価方法(総合)					
成績評価は基本的に、出席(60%)と授業態度(40%)で行う。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	3153000003
開設科目名	医化学演習			単位	2 単位
対象学生				学年	~
担当教員	藤本 充章			区分	
授業の概要					
<p>医化学は人体の生理的状态と病態を物質レベルで化学的に理解する学問である。組換え DNA 技術を用いる分子生物学の爆発的ともいえる進歩により、生体機能とその異常を物質レベルで実証することが可能となった。我々の健康がどのように維持されているかを知り、疾患の原因と合理的な治療法を理解する。</p>					
授業の一般目標					
<p>分子生物学で利用される組換え DNA 技術、またその技術を利用した疾患への治療方法を説明できる。</p>					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点:論文の読解することで疾患への治療方法を理解する。 関心・意欲の観点:他の学生と活発に討論する。 態度の観点:講義に出席し、討論を良く行う。</p>					
成績評価方法(総合)					
<p>授業態度及び出席で評価する。</p>					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	3153000004
開設科目名	細胞シグナル解析学演習			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	河野 道生			区分	
授業の概要					
<p>形質細胞の腫瘍である多発性骨髄腫を含む様々な腫瘍を理解し、対処法を構築するために、正常B細胞と形質細胞、および骨髄腫細胞に於けるシグナルを中心に様々な組織に於けるシグナルとの比較更にシグナルの下流に現われる転写因子の制御とアウトプットまでを明らかにする必要がある。そのために、最新の情報を入手し分析し有効に利用することが必要であるが、評価の定まっていない科学論文をただ教科書を学習するように無批判に受け入れることは非常に危険である。論文に於けるデータの信憑性まで考察しながら論理に破綻が無いか、その論文に於ける新規な発見はなにか、欠けていることは何か、あるいはそこで使われた方法が有用であるかと考察しながら読むという態度を身につけられるよう演習を行う。</p>					
授業の一般目標					
<p>科学論文を正しく読み明かす能力を身につけ、自らの科学する能力を高め、成果を正しく発信する能力を身につける。</p>					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点: 科学するために必要な知識をその根拠とともに身につけ、他人にも説明できるようになる。</p> <p>思考・判断の観点: 論文の論理展開が正しいか、その解析法は正しいか、データの解釈は正しいか、この新知見は信頼に値するか、現在までの知見との違いとその理由はなにか、限界はどこか、限界を乗り越えるにはどうすればよいかを考えられるようになる。</p> <p>関心・意欲の観点: 院生自身の生来の興味や論文を読む事により発生する興味や知りたい事をどうすれば実現できるが分かり実験を立案・計画できるようになる。</p> <p>態度の観点: 論文を正しく評価できるようになり、自分の研究を計画できるようになる。指導者の指導が理解でき、討論できるようになる。</p> <p>技能・表現の観点: 論文で使われた方法論の優位性と限界を理解し他人に説明し必要に応じて使えるようになる。成果をまとめ発信できるようになる。</p> <p>その他の観点: 科学研究は社会にとっては両刃の剣となり得る。科学する者一人一人の良識は最低限必要である。データ捏造などは自然の真理を解き明かそうとする科学の本質からはありえないことであるが、現実には、学位が欲しいとか、研究費が欲しい、名声を得たい等々の誘惑に駆られた捏造事件がときに発生している。演習を通じて科学に対する真摯な態度を養い、道を誤らないモラルをわきまえた人に成長する。</p>					
成績評価方法(総合)					
<p>論理的、批判的あるいは建設的に論文が読めるようになったか、あるいは他人にうまくそれを伝えられるようになったか、そして演習の場で討論に参加できるようになったかを評価する。</p>					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	3153000005
開設科目名	病態制御内科学演習			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	奥屋 茂			区分	
授業の概要					
<p>内分泌・代謝疾患、血液疾患の病因や病態の基礎を学習し、分子レベルで理解するため、必要な情報を探索しさらに検証する技能を身につける。また診断法、治療法の開発に役立てるために必要な事項について考察し、プレゼンテーションする能力を身につける。</p>					
授業の一般目標					
<p>内分泌・代謝疾患、血液疾患の病因や病態の基礎を分子レベルで理解し、診断法、治療法の開発に役立てる。必要な情報を探索し、さらに検証・考察したことをプレゼンテーションする。</p>					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点:1. 分子生物学的手法の原理を説明できる。 2. 仮説・仮定をたて、それを実証・検証する手法を身につける。</p> <p>思考・判断の観点:得られた情報を分析できる。</p> <p>関心・意欲の観点:いろいろな現象に対して、疑問を抱き、深く掘り下げるようにする。</p> <p>態度の観点:プレゼンテーションに対して適切な評価ができる。</p> <p>技能・表現の観点:実習内容をパワーポイントファイルにまとめてプレゼンテーションし、最終的に A4 用紙2枚程度のレポートを作成する。</p>					
成績評価方法(総合)					
<p>出席と演習への取り組み態度、演習内容のプレゼンテーション、A4 用紙2枚程度のレポートで評価する。なお、出席が所定の回数に満たない場合は、単位を与えない。</p>					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	3153000006
開設科目名	生体機能分子制御学演習			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	岸 博子			区分	
授業の概要					
基本的な論文を読み、細胞内カルシウムイオンなどのシグナル伝達分子からの生体情報のデジタル化の方略とその制御法につき議論する。					
授業の一般目標					
論文を読み、その内容についての討論を通じて、シグナル伝達分子からの生体情報のデジタル化の方略とその制御法についての理解を深める。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: シグナル伝達分子からの生体情報のデジタル化の方略とその制御法につき理解できる。					
思考・判断の観点: シグナル伝達分子からの生体情報のデジタル化の方略とその制御法につき考察できる。					
関心・意欲の観点: シグナル伝達分子からの生体情報のデジタル化の方略とその制御法につき関心が持てる。					
態度の観点: シグナル伝達分子からの生体情報のデジタル化の方略とその制御法につき、討論できる。					
技能・表現の観点: シグナル伝達分子からの生体情報のデジタル化の方略とその制御法につき、説明できる。					
成績評価方法(総合)					
授業態度及び出席で評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	3153000007
開設科目名	器官病態内科学演習			単位	2 単位
対象学生				学年	~
担当教員	三浦 俊郎			区分	
授業の概要					
内科学の臨床から得られたデジタル情報, 例えば画像, 検査数値などのデータを解析し, その病態をデジタル化して分析・診断する方法を学ぶ。					
授業の一般目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・内科学のデジタル情報の基礎的な内容を理解する。 ・画像診断の基礎的な内容を理解して, 臨床診断に応用する。 ・検査値などのデータを解析し, 内科診断学における有用性を理解する。 					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 内科学のデジタル情報の基礎的な内容を理解する。					
・画像診断の基礎的な内容を理解して, 臨床診断に応用する。					
・検査値などのデータを解析し, 内科診断学における有用性を理解する。					
思考・判断の観点: 内科学における病態診断に使用される機器の問題点を指摘できる。					
関心・意欲の観点: 内科学の診断に必要な新たな ME 機器を指摘できる。					
態度の観点: 臨床診療の現場において, 診断使用する機器の概要を理解でき, 診療活動に参加できる。					
技能・表現の観点: 簡単な ME 機器を操作できる。					
成績評価方法(総合)					
成績評価は口頭試問, または課題に伴うレポートで行う。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	3153000008
開設科目名	器官病態外科学演習			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	榎 忠彦			区分	
授業の概要					
外科治療に利用される人工臓器の機能や操作法を紹介する.					
授業の一般目標					
外科治療に利用される人工臓器の機能や操作法を体得する.					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 外科治療に利用される人工臓器の機能や操作法を説明できる.					
成績評価方法(総合)					
成績評価は基本的に、出席(60%)と演習態度(40%)で行う.					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	3153000009
開設科目名	特別研究			単位	6単位
対象学生				学年	~
担当教員	小林 誠			区分	
授業の概要					
医工学に関連した研究テーマにつき、研究を進める。その成果を修士論文発表会で報告する。					
授業の一般目標					
医工学に関連した基礎的な研究を行い、修士論文発表会で報告する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 研究テーマに関する基礎的な知識を学習する。					
思考・判断の観点: 研究テーマに関して、その研究の将来および展開につき説明できる。					
関心・意欲の観点: 研究の展開を説明できる。					
技能・表現の観点: 研究計画を達成できるような手技等を修得する。					
成績評価方法(総合)					
成績評価は基本的に、演習態度(50%)と実験成果の報告書(50%)で行う。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	3153000016
開設科目名	特別研究			単位	6単位
対象学生				学年	~
担当教員	岡 正朗			区分	
授業の概要					
<p>応用分子生命科学に関連した研究テーマに対して、指導教員の指導の下に研究を進めさせる。また、企業や大学の研究者などによる講演会に参加させ、研究テーマや方法などの討議を行わせ、研究能力を身につけさせる。</p>					
授業の一般目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・研究テーマについて議論できる。 ・講演会での発表を理解、質問を行う能力を身につける。 					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点: 研究テーマについての発表を理解し、質問を行う能力を身につける。</p> <p>関心・意欲の観点: 研究テーマについて、更に踏み込んだ議論ができる。</p>					
成績評価方法(総合)					
成績評価は、出席と授業態度で行う。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	3153300007
開設科目名	応用分子生命科学基礎ゼミナル			単位	4単位
対象学生				学年	~
担当教員	岡 正朗			区分	
授業の概要					
基本的な教科書や文献の輪読や最新の論文講読を行わせ、それぞれの学生に見合った詳しい解説や指導を行う。また英文論文を読みこなす能力をあわせて身につけさせる。					
授業の一般目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・英語論文の検索方法を身につける。 ・英文論文の読みこなす能力を身につける。 					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 英語論文の検索方法を身につける。					
・英文論文の読みこなす能力を身につける。					
技能・表現の観点: 英文論文購読に必要な技法を習得する。					
成績評価方法(総合)					
成績評価は、出席と授業態度で行う。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	3153300008
開設科目名	臨床体験実習			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	岡 正朗			区分	
授業の概要					
内科および外科のカンファレンスに参加させると共に、診断・治療現場では、内視鏡および超音波診断・治療、血管内治療、外科手術、薬物治療の見学を行わせ、内科および外科における臨床現場の問題点を体験・理解させる(岡 正朗教授、坂井田 功教授)。また、顕微鏡レベルでの病態を理解するための実習を受けさせる。(佐々木功典教授)。なお、実習に際しては、あらかじめ守秘義務に関する誓約書の書類に署名することを習得させる。					
授業の一般目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・臨床現場を理解する。 ・医療の倫理を理解する。 ・臨床に役立つ研究分野を理解する。 					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 臨床現場、医療倫理、臨床に役立つ研究分野を理解する。					
成績評価方法(総合)					
出席及び授業態度で評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	3153300009
開設科目名	短期インターンシップ			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	岡 正朗			区分	
授業の概要					
共同研究を行っている企業に学生を派遣し、短期間ではあるが企業での研究体験を実施する。					
授業の一般目標					
企業での研究体験を通じ、大学院での教育研究の効果を一層高めることを目的とする。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 企業・仕事に対する理解を深める。					
・実社会への適応能力を身につける。					
・大学で学ぶべきことを明確にする。					
成績評価方法(総合)					
成績評価は、出席及び授業態度で行う。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	3153300010
開設科目名	分子病理学特論			単位	4単位
対象学生				学年	~
担当教員	佐々木 功典			区分	
授業の概要					
分子病理学概論で一般的な分子病理学(病気の成り立ち、その原因、病態、診断等)について一般的な知識レベルで提供するとともに、腫瘍を例にしてその知識を深める。					
授業の一般目標					
病理病態学を研究ならびに臨床医学に応用するために、医学・生物学的な基礎知識をもち、先天異常、物質代謝障害、循環障害、進行性病変、炎症および腫瘍に関する基礎的かつ広範な知識を分子レベルで修得する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 分子病理学について説明出来る。					
疾患の発生機序、病態を分子レベルで説明できる。					
発癌機序を説明できる。					
癌の病態を遺伝子レベルで説明できる。					
思考・判断の観点: 疾患を大きく分類できる。					
癌と肉腫とを鑑別できる。					
技能・表現の観点: PCを操作して、資料を収集することができる。					
成績評価方法(総合)					
成績評価は、出席(60%)と課題に対するレポート提出(40%)で行う。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	3153300011
開設科目名	分子病理学演習			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	佐々木 功典			区分	
授業の概要					
分子病理学基礎の修得に大きく益する演習を提供する。					
授業の一般目標					
各種の疾患を分子レベルで広く理解するために、分子病理学演習を通じて医学研究ならびに診療に有用な知識と技術を修得する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 病気と遺伝子異常との関係を説明できる。					
細胞障害・変性と細胞死の細胞と組織の形態的变化の特徴を説明できる。					
ネクローシスとアポトーシスの違いを説明できる。					
炎症の定義を説明できる。					
良性腫瘍と悪性腫瘍の違いを説明できる。					
上皮性腫瘍と非上皮性腫瘍の違いを説明できる。					
腫瘍細胞の異型性と多型性を説明できる。					
腫瘍と遺伝子異常の関係を説明できる。					
思考・判断の観点: 遺伝子異常の原因を具体的に例示できる。					
組織像からネクローシスとアポトーシスを鑑別できる。					
良性腫瘍と悪性腫瘍とを鑑別できる。					
発癌・進展過程を遺伝子、分子レベルで説明できる。					
上皮性腫瘍と非上皮性腫瘍とを鑑別できる。					
組織像の主な所見を列挙できる。					
関心・意欲の観点: 必要な資料の検索が自らできる。					
態度の観点: 病理試料の取扱に心遣いができる。					
病理診断時に患者の気持ちに配慮できる。					
技能・表現の観点: データの整理ができる。					
病理標本の取扱ができる。					
成績評価方法(総合)					
成績評価は出席と演習態度、提出レポートにより行いが、目安としては、各々50%、30%、20%とする。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	3153300012
開設科目名	消化器病態内科学特論			単位	4単位
対象学生				学年	~
担当教員	坂井田 功			区分	
授業の概要					
消化器内科における、基本的な検査手技・診断法と内科的治療の実際を理解するために、消化器臓器の解剖学的構造・生理機能学的特長を学習する。各種疾患の特徴と診断方法とそれに必要な検査手技を理解し、それぞれの治療法の相同について理解・習熟する。					
授業の一般目標					
1)消化器臓器の解剖と生理機能の特徴を説明できる。 2)上記の正常と各種疾患での違いを説明できる。 3)診断に必要な検査手技を説明できる。 4)鑑別診断ができる。 5)治療法について説明できる。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 基本的知識を習得し、疾患の診断手順を理解する。					
思考・判断の観点: 鑑別診断と必要検査を正確に説明できる。					
関心・意欲の観点: 消化器病に限らず、関連疾患について学習する。					
態度の観点: 積極的に質問する。					
技能・表現の観点: 必要事項を簡潔に説明できる能力を身につける。					
成績評価方法(総合)					
消化器臓器の解剖生理、消化器疾患の基本知識と診断治療法を理解し、説明できる。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	3153300013
開設科目名	消化器病態内科学演習			単位	4単位
対象学生				学年	~
担当教員	坂井田 功			区分	
授業の概要					
研究テーマを決定し、現在までの研究成果から判っていることを整理し、最終目標まで仮説を組み立て、論理的展開とそれに必要な研究成果をまとめる。					
授業の一般目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1 研究テーマの決定 2 決定した研究テーマについての研究計画書を作成する。 3 研究に必要な実験器具や臨床症例では必要な検査値などを整理する。 4 研究遂行上での倫理的問題点とその解決策を学習する。臨床研究であれば、インフォームドコンセントの作成、動物実験であれば実験動物の具体的な取り扱いについて学ぶ。 5 文献検索を行い、自分のテーマに関連する事実を整理する。研究計画の方向性と最終目標(何を明らかにするのか)についてグループで討議するよう指導する。疑問点や必要事項を補足説明できる。 6 実際に英語論文を作成する。 					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 現在までにわかっている知識を理解することができる。					
思考・判断の観点: 研究テーマの最終成果目標を思考し仮説を組み立てることができる。					
関心・意欲の観点: 関連した論文の検索が行なえる。					
態度の観点: 自主性が認められる。					
技能・表現の観点: 思考過程を表現できる。					
成績評価方法(総合)					
現時点でわかっていることから、未知の研究テーマ決定と最終目標研究成果の仮説を組み立て実行できる能力を評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	3153300014
開設科目名	消化器・腫瘍外科学特論			単位	4単位
対象学生				学年	～
担当教員	岡 正朗			区分	
授業の概要					
消化器外科および乳腺・甲状腺外科について、基本的な手術手技と術前後管理を学習すると共に、研究の基本的事項を理解する。					
授業の一般目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・消化器外科について、基本的な手術手技を習得する。 ・乳腺・甲状腺外科について、基本的な手術手技を習得する。 ・術前後管理の実際を理解する。 ・研究に関連する、実験計画法、論文作成法の具体的な方法を理解する。 ・研究に関連する統計処理法を理解する。 					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
授業態度及び出席で評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	3153300015
開設科目名	消化器・腫瘍外科学演習			単位	4単位
対象学生				学年	～
担当教員	岡 正朗			区分	
授業の概要					
研究における,論文の書き方,文献検索の方法,臨床研究および動物実験における計画書の作成,等を理解する。					
授業の一般目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・与えられた研究テーマについて,実際の研究計画を英文にて作成し,論文作成法の基本を理解する。 ・経験した症例をまとめ,論文作成を行う。 ・英語文献を要約し,セミナーにて発表,グループ内で討議することができる。 ・研究に当たって,臨床研究であれば,インフォームドコンセントの作成,動物実験であれば実験計画書の作成について学び,研究の倫理性について理解する。 ・文献検索をコンピューターで行い,自分のテーマに関連する review を作成,研究計画の方向性及び重要性についてグループ内で発表し,討議する能力を身につける。 					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
授業態度及び出席で評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	3153300016
開設科目名	応用分子生命科学基礎演習			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	岡 正朗			区分	
授業の概要					
生命科学の様々なテーマについての討論やディベートにより異なった研究手法やアプローチをし、応用力を身につけさせる。また、修士論文テーマに関する発表や討議により助言、指導を行う。					
授業の一般目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・発表の準備やプレゼンテーション能力を身につける。 ・論文作成の方法を理解する。 					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 発表の準備やプレゼンテーション能力を身につける。					
<ul style="list-style-type: none"> ・論文作成の方法を理解する。 					
関心・意欲の観点: 発表の準備やプレゼンテーションについて、更なる技法を追究できる。					
<ul style="list-style-type: none"> ・論文作成の方法について、更なる技法を追究できる。 					
技能・表現の観点: プレゼンテーション、論文作成に必要な手技等について、理解できる。					
成績評価方法(総合)					
成績評価は、出席と授業態度で行う。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開講期	通年	曜日時間	未定	時間割コード	3153500005
開講科目名	生物反応工学演習			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	吉本 誠			区分	
授業の概要					
<p>酵素、修飾酵素および微生物を生体触媒として有用物質を生産する各種バイオリクターの設計と操作を合理的に行うために、各バイオリクターの設計式に基づく反応経過、触媒失活および反応系の速度論的特性等の計算方法を理解する。特に、工業的に重要となる各種固定化生体触媒の設計および開発とそれぞれの固定化触媒に適したバイオリクターの選定、設計、操作法および反応成績の予測に関して、実際の研究開発事例をもとに理解する。</p>					
授業の一般目標					
<p>1. 理想流れ反応器の解析・設計法について理解する。2. 実在反応器内の不均一系反応の速度論的解析方法を理解する。3. 固定化生体触媒反応操作に適したバイオリクターの選定・設計方法を理解する。4. 環境調和型バイオリクターの意義について理解する。</p>					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点:1. 生体触媒を活用するバイオリクターの意義と特徴を理解する。2. 固定化生体触媒の意義、調製法および特徴を理解する。3. 理想流れ反応器の流動状態と設計法を理解する。4. 実在反応器の流動状態、滞留時間分布および反応成績解析法を理解する。5. 多相接触型バイオリクターの特徴を理解する。6. 環境調和型バイオリクターの特徴を理解する。</p> <p>思考・判断の観点:1. 固定化生体触媒を活用するバイオリクターの意義と特徴について指摘できる。2. 理想流れ反応器と非理想流れ反応器の流動状態と解析法を説明できる。3. 多相接触型バイオリクターの選定、設計を行うことができる。</p>					
成績評価方法(総合)					
出席、課題レポートを総合評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
yosimoto@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
在室時部廊時					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	3153500006
開設科目名	バイオ分子機能工学演習			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	赤田 倫治			区分	
授業の概要					
生命を物質として捉え、生命体を構成する重要分子であるタンパク質の構造形成原理を学ぶ。さらに、構造と機能との関連、最新のバイオインフォマティクスによるタンパク質およびDNAの操作と構造機能抽出法について演習を通じて理解する。加えてゲノミクス、プロテオミクスなどをコンピュータを利用して理解する。					
授業の一般目標					
生命を分子の統合体として捉え、最新のゲノミクス、プロテオミクス、および、バイオインフォマティクスに対応できる知識と考え方を演習を通じて習得する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 生命体を分子から説明できるようにする。 さらに、生命体全体からも概観できるようにする。					
思考・判断の観点: 生命体を構成する物質の概念を捉え、それを応用できるようにする。					
関心・意欲の観点: 生物工学や医療、食品などの生物を利用した産業への関心を深める。					
成績評価方法(総合)					
出席と演習、発表で評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
rinji@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	3153500007
開設科目名	分子パターン認識演習			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	平林 晃			区分	
授業の概要					
<p>本演習では、生体からの遺伝子情報等の信号を訓練データと捉え、その背後に潜む未知の法則を推定するというパターン処理の演習を行う。特に識別理論に焦点をあて、学習理論・標本化理論の援用のもと確固たる数学的基盤のもとで従来個別に議論されてきた各種アルゴリズムを統一的に捉えるための基本的な考え方を解説し、実データを使ったシミュレーション作業をパーソナルコンピュータ上で行うことにより、パターン処理に対する理解を深め、実践力を身につけさせる。</p>					
授業の一般目標					
概要に示す内容の理解 および現実問題への応用能力を習得すること。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 逆問題、関数解析、射影学習、標本化理論などの項目の基本的な理解。					
成績評価方法(総合)					
期末レポートによって評価します。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
内線9516, アドレス:a-hira@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	3153600001
開設科目名	クリティカルケア看護学実習			単位	6単位
対象学生				学年	~
担当教員	山勢 博彰			区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	3153600002
開設科目名	特別研究			単位	10 単位
対象学生				学年	~
担当教員	守田 孝恵			区分	
授業の概要					
<p>地域保健・地域の看護教育における具体的な実践プロセスを対象とした研究の指導。複雑に因子が絡み合った事象の構造解明に関する研究指導を行う。具体的には、地域看護に関する修士論文作成のための全要素が含まれる。</p>					
授業の一般目標					
<p>1.研究プロセスの全体像を理解する。2.修士論文における研究設計を構築する。3.研究を実施する。4.研究結果をまとめる。5.研究成果を公表する。6.修士論文を作成する。7.修士論文を公表する。</p>					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点:1.地域看護の研究課題・背景を説明できる。2.研究設計の内容を理解できる。3.研究方法を説明できる。4.修士論文作成に関する一連の手続きや内容を理解することができる。</p> <p>思考・判断の観点:1.地域看護の研究課題を明確化できる。2.研究設計を論理的に思考することができる。3.研究プロセスの全体像を認識できる。4.研究成果を客観的に分析し判断することができる。</p> <p>関心・意欲の観点:1.地域看護における研究展開について関心を高める。2.国内外の関連研究の整理に対して積極的に取り組む。</p> <p>態度の観点:1.地域看護の研究展開について考えることができる。2.研究プロセスにおける要素の分析・統合について議論することができる。3.修士論文作成までの長期的展望を計画的に持つことができる。</p> <p>技能・表現の観点:1.地域看護の研究課題設定・研究設計等を行うことができる。2.研究の実際的展開を遂行することができる。3.研究結果を科学的にまとめることができる。4.研究成果を公表することができる。5.修士論文を作成することができる。6.修士論文を公表することができる。</p>					
成績評価方法(総合)					
<p>修士論文作成に向けて授業内外での取り組みの「結果の提示」が評価のポイントになる。特に、修士論文の公表の成否が最終評価される。</p>					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	3153600003
開設科目名	特別研究			単位	10 単位
対象学生				学年	~
担当教員	山勢 博彰			区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	3153600004
開設科目名	特別研究			単位	10 単位
対象学生				学年	~
担当教員	山田 治			区分	
授業の概要					
特別研究では、HIV感染症の耐性発現あるいは、HIV感染症の健康科学的な根拠に基づく有効な予防介入方法の検討を行う。					
授業の一般目標					
1. HIVのライフサイクルを説明できる。2. HIV増殖過程の阻害部位とその主要な薬剤が言える。3. HIV感染症に対する抗HIV療法を説明し、その主要な耐性部位と検査法を述べるができる。					
4. 行動科学の主要な理論を説明できる。5. 行動科学的なHIV予防介入を企画・実施できる。6. 行動科学に基づく調査研究計画を立案し実施し、その結果を解析・評価ができる。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: ・HIVのライフサイクルを説明できる。ハイリスクな感染行動を説明できる。					
・HIV耐性検査の意義を説明し、検査方法を述べるができる。					
・行動科学の主要な理論を説明できる。					
思考・判断の観点: ・関連文献を読み、現状の分析を行い、問題点を指摘できる。また、問題解決方法を検討できる。					
関心・意欲の観点: ・広くHIV感染症に関心を持ち、その拡大の背景と社会に及ぼす影響を説明できる。					
態度の観点: ・真理の追究に弛まぬ熱意をもち、それを行動として現すことができる。					
技能・表現の観点: ・研究計画を立案し、実施・dataの回収とその解析を行う際の問題点を述べるができる。					
・data 解析から、文献考察を行い、客観的な論文作成ができる。					
成績評価方法(総合)					
週1回3時間程度の検討時間を持ち、課題の英語論文の抄読を行う(10%)。全体像の把握から、実施する研究計画の立案を検討し、実施方法について述べるができる。データ解析とその評価に基づく、結果の発表が行える(40%)。全体のストーリーをまとめて話すことができる(50%)。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	3161000001
開設科目名	医療診断支援工学特論			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	木戸 尚治			区分	
授業の概要					
コンピュータ支援診断とはコンピュータを用いて医療画像に対して画像解析を行うことにより、病変部の存在診断や質的診断に関する定量的なデータを取得し、その情報を第二に意見として放射線科医がおこなう高度な画像診断のことである。本講義は、コンピュータ支援診断に関する技術と実際の両面を学ぶ。					
授業の一般目標					
コンピュータ支援診断に関する技術を得得し、コンピュータ支援診断システムの実際について学ぶ。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: (1)医療画像の診断支援をするための画像処理・画像認識の技術を得得する。 (2)医療画像診断の基礎を学び理解する。 (3)コンピュータ診断支援の具体例を学び理解する。					
思考・判断の観点: コンピュータ支援診断の現状を理解し問題点を考える。					
関心・意欲の観点: 具体的な疾患に対してコンピュータ支援診断システムを考える。					
成績評価方法(総合)					
成績の評価は課題の提出と発表によりおこなう。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
E-mail:kido@ai.csse.yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
火曜 17:00-19:00					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	3161000002
開設科目名	生体医療工学特論			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	齊藤 俊			区分	
授業の概要					
多体系動力学に基づき、機械システム設計における解析と統合技術について紹介する。					
授業の一般目標					
設計問題における多体系動力学の考え方を体得すること					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 1. システム設計に関する概念の理解					
2. 計算機援用技術に関する理解					
3. 多体系モデリングに関する理解					
思考・判断の観点: 1. 機械システムを多体系でモデル化し、数式で表現できること					
成績評価方法(総合)					
機械システムの多体系へのモデル化とその解析、統合に関するレポートにより評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
Tel. 0836-85-9142					
E-mail: tsaito@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
火曜日 14:00 ~ 16:00					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	3161000003
開設科目名	微小生体機械学特論			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	南 和幸			区分	
授業の概要					
医療やバイオ分野などで有用な MEMS (Micro Electro Mechanical Systems) の設計論 およびその製作に用いられる半導体微細加工技術を基本とした微細加工技術の基礎となる物理・化学的な事項 ならびにその特徴と応用について講述する。					
授業の一般目標					
医療やバイオ分野などで有用な MEMS (Micro Electro Mechanical Systems) の設計論 およびその製作に用いられる半導体微細加工技術を基本とした微細加工技術の基礎となる物理・化学的な事項 ならびにその特徴と応用について理解する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 微細加工における物理・化学現象および物理・化学的モデルを説明できる。					
・各種加工法を理解し、加工原理(物理・化学)の利用の仕方について説明できる。					
・加工できる形状と微小機械製作における利用方法・有用性を説明できる。					
・微細加工技術により製作する微小機械の設計方法を説明できる。					
・微小機械を設計する上で考慮しなければならない支配的な物理法則を説明できる。					
思考・判断の観点: 簡単な微小機械構造を提案できる。					
・現実課題に対する微細加工技術の応用を提案できる。					
成績評価方法(総合)					
レポートにより評価する。					
教科書					
超微細加工の基礎 第2版 電子デバイスプロセス技術 / 麻蒔立男: 日刊工業新聞社, 2001					
参考書					
マイクロマシーニングとマイクロメカトロニクス / 五十嵐伊勢美 他: 培風館, 1992					
マイクロ加工の物理と応用 応用物理学選書8 / 吉田善一: 裳華房, 1998					
マイクロ・ナノマシン技術入門 / 藤田博之: 工業調査会, 2003					
メッセージ					
連絡先					
南 和幸 E-mail: minamik@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	3161000004
開設科目名	医用機械工学特論			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	大木 順司			区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	3161500001
開設科目名	生命有機合成化学特論			単位	2 単位
対象学生				学年	~
担当教員	上村 明男			区分	
授業の概要					
The aim of the course is to show organic reaction as a tool of constructing desired molecules. Important principles for organic synthesis such as stereoselection, chemoselection, orbital symmetry, and so on, are also included.					
授業の一般目標					
<ul style="list-style-type: none"> - To have deep insight on organic chemistry as a tool to construct complex molecules - To use the knowledge for planning a synthesis for simple organic molecules - To evaluate a synthetic plan properly 					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: After finishing this course, the students are expected:					
<ul style="list-style-type: none"> - to obtain general knowledge of synthetic organic chemistry. - to make proper explanation for given reaction 					
思考・判断の観点: After finishing this course, the students are expected:					
<ul style="list-style-type: none"> - to judge whether the proposed reaction pathway is proper or not. - to make a synthetic plan for given molecule. - to choose proper reaction conditions for planned reaction scheme. 					
成績評価方法(総合)					
Total evaluation of your reports and research proposal. Short presentation and interview will be required for every student.					
教科書					
有機合成のナビゲーター, / 上村明男: 丸善, 2004					
参考書					
Classics in total synthesis : targets, strategies, methods / K.C. Nicolaou and E.J. Sorensen: VCH, 1996					
March's advanced organic chemistry : reactions, mechanisms, and structure[5th ed], / Michael B. Smith, Jerry March: John Wiley, 2001					
Classics in Organic Synthesis II / K. C. Nicolaou: VCH, 2003					
メッセージ					
Finishing this course will be a passport for your future as an independent researcher in the field of synthetic organic chemistry					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	3161500002
開設科目名	生命有機反応化学特論			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	野口 三千彦			区分	
授業の概要					
本講義では、先ずアミノ酸のエナンチオ選択的な合成方法論の変遷を天然型および非天然型アミノ酸合成について解説する。また、生物活性研究における非天然型アミノ酸の役割をペプチドを例に説明する。最後に、最近注目を集めている天然型アミノ酸を有機触媒とした選択的炭素-炭素結合形成反応について最新の研究成果をもとに解説する。					
授業の一般目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1) アミノ酸誘導体を効率的かつ選択的に合成するための反応を理解する。 2) 選択的反応を組み合わせることによって天然型および非天然型アミノ酸合成のプロセスを理解する。 3) 不斉合成反応におけるアミノ酸誘導体の役割を理解する。 4) 選択性発現の過程を理解する。 5) 「最新の化学」の中でのアミノ酸誘導体の寄与について理解を深める。 					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 目的化合物を効率的かつ選択的に合成するための反応を理解する。					
アミノ酸誘導体を用いた選択的合成反応やキラリティの応用について理解する。					
思考・判断の観点: 選択性発現過程を考察する。					
有機触媒による不斉合成反応を考察する。					
関心・意欲の観点: 分析化学や機能素子のシステムアップに用いられているアミノ酸誘導体について調査する。					
態度の観点: 「最新の化学」におけるアミノ酸誘導体の役割を考える。					
成績評価方法(総合)					
毎回の講義内容をもとに「ディスカッション」を行いその理解度を評価する。					
調査演習では「最新の化学」におけるアミノ酸誘導体の役割について 20-25 分間のプレゼンテーションに対して 10-15 分間のディスカッションを行い研究調査に関する理解と報告のスタイルを評価する。					
これらの結果ならびに出席状況などを総合的に判断して評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
メールアドレス: org-chem@yamaguchi-u.ac.jp					
研究室: 工学部本館北側4階 432 号室					
オフィスアワー					
火～金曜日 17:30-19:00					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	3161500003
開設科目名	高分子機能化学特論			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	堤 宏守			区分	
授業の概要					
高分子材料特有の性質を、低分子材料との対比や高分子合成手法の影響などを交えながら講述する。次に、高分子材料に様々な機能を付与する際の基本的な考え方や手法について具体的に解説する。さらに、機能を付与した高分子材料のバイオ関連分野や医療分野における応用について、ドラッグデリバリーシステム、生体適合材料、生分解性高分子材料などの実例を挙げながら解説する。					
授業の一般目標					
高分子材料特有の性質を、低分子材料との対比から理解する。高分子材料に様々な機能を付与する際の基本的な考え方や手法について理解する。さらに、機能を付与した高分子材料のバイオ関連分野や医療分野における応用について、ドラッグデリバリーシステム、生体適合材料、生分解性高分子材料などの実例について理解し、例示することができる。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 高分子材料特有の性質を、低分子材料との対比から理解する。高分子材料に様々な機能を付与する際の基本的な考え方や手法について理解する。さらに、機能を付与した高分子材料のバイオ関連分野や医療分野における応用について、ドラッグデリバリーシステム、生体適合材料、生分解性高分子材料などの実例について理解し、例示することができる。					
関心・意欲の観点: 高分子材料の機能化について関心をもつことができる。					
成績評価方法(総合)					
出席を重視する。また、講義時間内に小レポートなどを課す。最終試験は、レポートあるいは、発表により行う。成績は、それぞれの評価の総合点により評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
高分子化学の基礎を学部などで学んでいることを前提に講義を行うが、講義の最初の方では復習を兼ねて高分子化学の基礎の確認を行います。					
連絡先					
講義開始時に連絡する。					
オフィスアワー					
講義開始時に連絡する。					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	3161500004
開設科目名	バイオプロセス工学特論			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	山本 修一			区分	
授業の概要					
<p>さまざまな反応・分離プロセスにおいて重要な役割を果たしている移動現象を学習する。特に物質移動(輸送)現象について実際のバイオ・食品・医用工学に関連したプロセス(クロマトグラフィー、吸着、乾燥)を例に数値計算や実験をして学習する。英語で記述された専門内容を理解する。</p>					
授業の一般目標					
<p>移動現象の基礎式とその応用について式の理解と計算方法を学ぶ。またバイオプロセスの特徴について理解する。物質移動現象の基礎式とその応用について式の理解と計算方法を学ぶ。数値計算を理解する。英語による専門内容を短時間に理解できる力をつける。</p>					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点:規格化、無次元化、収支を完全に理解する。 思考・判断の観点:異なる物理量の移動を類似の法則で表現できることやモデル化について理解する。 関心・意欲の観点:実際のプロセスの理解と設計へつながることを学習する。</p>					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	3161500005
開設科目名	生物反応工学特論			単位	2単位
対象学生				学年	～
担当教員	吉本 誠			区分	
授業の概要					
<p>酵素・微生物等の生体触媒による物質変換の特性とこれらを実施するためのバイオリアクターの特性について, 1) バイオプロセスの特質とバイオプロセスにおけるバイオリアクターの位置付け, 2) 不均一系触媒における物質移動を伴う反応速度論, 3) 実在バイオリアクターの混合状態と生物反応成績の関係, 4) 生体触媒の種類・特性とそれぞれに適したバイオリアクター形式の関係の各観点から講述する。</p>					
授業の一般目標					
<p>1. バイオプロセスの特質とバイオプロセスにおけるバイオリアクターの位置付けを理解する。2. 固定化酵素をはじめとする不均一系触媒における物質移動・反応について理解する。3. 実在バイオリアクターの混合状態と生物反応成績の関係を理解する。4. 生体触媒の種類・特性とそれぞれに適したバイオリアクター形式の関係を理解する。</p>					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点: 1. 生体触媒を活用するバイオリアクターの特徴を理解する。2. バイオリアクターにおける生体触媒反応の速度論的解析法を理解する。3. バイオリアクター内の流動特性と物質移動特性を理解する。4. 固定化生体触媒の意義と調製法を理解する。5. 細胞反応用バイオリアクターの特徴と設計法を理解する。</p> <p>思考・判断の観点: 1. バイオリアクターに関連する生体触媒の特性を指摘できる。2. バイオリアクターの特性と反応成績を関連付けることができる。3. 多相接触を伴う反応に適したバイオリアクターを選定、設計することができる。</p> <p>関心・意欲の観点: バイオリアクターの工業的利用を推進することの意義に関心をもつ。</p> <p>態度の観点: 生物、化学工学など関連する分野の基礎理論を有機的に活用する。</p>					
成績評価方法(総合)					
出席, レポート, 期末試験を総合評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
yosimoto@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
在室時部随時					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	3163000001
開設科目名	医療診断支援工学演習			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	庄野 逸			区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	3163000002
開設科目名	生体医療工学演習			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	佐伯 壮一			区分	
授業の概要					
<p>生体可視化・光計測技術の習得を目標とする。</p> <p>特に、光を用いた診断技術として、生体マイクロ断層可視化計測のトレンドである、Optical Coherence Tomography (OCT)と取り上げ、光の波動基礎理論から干渉計測法の理解を行う。更に、実際のOCTにより生体計測を実験実施し、生体可視化計測の理解を深める。これと共に、生体と光の相互作用に関して、「散乱」と「偏光」にターゲット絞り、光特性の理解を深める。これらにより、臨床生体計測について、議論を行う。</p>					
授業の一般目標					
生体情報可視化計測技術の習得					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点: 1. 光の基礎方程式を理解する。</p> <p>2. 光干渉計測の基礎理論を理解する。</p> <p>3. 生体と光の相互作用を理解する。</p> <p>思考・判断の観点: 1. 生体組織の診断計測において、光を用いた計測法を自ら提案し新計測法について考察を、実施してみる能力を持つ。</p> <p>関心・意欲の観点: 1. 生体組織の診断計測において、光を用いた計測法を自ら提案する関心を持つ。</p> <p>技能・表現の観点: 1. OCT 計測システムを実際に起動し、生体組織のマイクロ断層画像を取得し、その画像処理を行う体験をする。</p>					
成績評価方法(総合)					
基本的に、講義中に指定した、生体光診断の論文に対するレポートにて評価を行う。					
教科書					
<p>ヘクト光学I:丸善</p> <p>ヘクト光学II:丸善</p> <p>応用光学・光計測入門 / 谷田貝豊彦:丸善</p>					
参考書					
<p>光による医学診断 / 田村守:共立出版, 2001</p> <p>バイオイメージング / 曾我部正博:共立出版, 2000</p> <p>生体情報の可視化技術:コロナ社, 1998</p>					
メッセージ					
連絡先					
総合研究棟 4 階 415, s-saeki@yamaguchi-u.ac.jp, Tel 0836-85-9145					
オフィスアワー					
月曜日 13:30 ~ 15:30					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	3163000003
開設科目名	微小生体機械学演習			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	森 浩二			区分	
授業の概要					
<p>生体組織に関する工学モデルに関して、初期の工学者達がどのような試行錯誤をしながら確立していったのかについて代表的な論文を取り上げながら学んでいく。</p> <p>また学術的な成果を社会に還元する際に重要な要素となる特許についても、その意義・手続きなどを学び、知識を深め、学問と社会の関わりについて学んでいく。</p>					
授業の一般目標					
<p>医療デバイスを設計する際に考慮すべき諸条件を見つけ出し、それらを工学的手法を用いて解決していくというプロセスを理解し、習得することを目的とする。</p> <p>特許についての知識を学び、自分の研究成果と他者の先行技術を区別する方法を身につけ、自己の研究成果を正しく社会に還元することを意識することを目的とする。</p>					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点: 工学的手法で生体モデルを評価することを習得する。</p> <p>特許の意義・手続き・注意点について習得する。</p> <p>思考・判断の観点: 工学的手法と生体組織の関係を理解できる。</p> <p>自分の研究と特許の関わりを意識する事ができる。</p> <p>関心・意欲の観点: 工学的手法に基づいて記述された生体モデルを第三者に客観的に伝えられる。</p> <p>自分の研究における特許性について第三者に伝える事ができる。</p> <p>態度の観点: 演習課題に真面目に取り組む。</p> <p>技能・表現の観点: 自己の研究成果と他者に先行技術の違いを区別してレポートが書ける。</p>					
成績評価方法(総合)					
レポートを重視して評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
<p>生体組織について考察を深めるために、様々な工学的手法が応用できます。そのことを理解し、将来的に医療デバイスの研究開発に役立ててください。また正しい知的財産権に関する知識を持ち、第三者の権利を尊重することを学び、自身の創造性を高める意識を身に付けてください。</p>					
連絡先					
kjmori@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
金曜日 10:00 ~ 11:30					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	3163000004
開設科目名	医用機械工学演習			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	大木 順司			区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	3163500001
開設科目名	生命有機合成化学演習			単位	2 単位
対象学生				学年	~
担当教員	上村 明男			区分	
授業の概要					
<p>全合成的研究を行うのに、どのような反応条件が最適であるか、あるいは与えられた反応の条件ではどのような反応が起こることが想定されるか、などについて最近の合成反応実施例を使って問題演習を行う。一つ一つの反応を反応機構を考えながら理解すると同時に、その合成全体のなかで一つ一つの反応がどのような位置づけになっているかを分析できる力を養う。</p>					
授業の一般目標					
<ul style="list-style-type: none"> - To have deep insight on organic chemistry as a tool to construct complex molecules - To use the knowledge for planning a synthesis for simple organic molecules - To evaluate a synthetic plan properly. 					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: After finishing this course, the students are expected:					
<ul style="list-style-type: none"> - to obtain general knowledge of synthetic organic chemistry. - to make proper explanation for given reaction. 					
思考・判断の観点: After finishing this course, the students are expected:					
<ul style="list-style-type: none"> - to judge whether the proposed reaction pathway is proper or not. - to make a synthetic plan for given molecule. - to choose proper reaction conditions for planned reaction scheme 					
成績評価方法(総合)					
出席と演習の発表による					
教科書					
有機合成のナビゲーター, / 上村明男: 丸善, 2004					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	3163500002
開設科目名	生命有機反応化学演習			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	野口 三千彦			区分	
授業の概要					
本演習では、最近のアミノ酸誘導体を用いた有機合成化学、分子認識化学、機能素子などに関する文献を取り上げ、その意義や特徴、その研究が関連する分野に与える影響等についてグループ内で議論して、まとめ、AV 機器を使って発表する。					
授業の一般目標					
反応の遷移状態の考察や、分子を配列させる化学的技術、その技術によって開発される新たな化学分野などについて理解を深めるためのさらなる検索を行う。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 1) 結合形成や結合開裂に基づく選択的有機反応のダイナミズムを理解する。					
2) 遷移状態の考察等による選択性発現過程を理解する。					
思考・判断の観点: 文献の検索、これまでの研究背景や展開、問題点を説明できる。					
関心・意欲の観点: 議論を通して自分の考えを積極的に理解させる能力と技術を養う。					
成績評価方法(総合)					
1) 各回ごとの報告(プレゼンテーション発表と議論)に基づき知識と理解を評価する。					
2) 議論を通して自分の考えを積極的に理解させる能力と技術について評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
メールアドレス: org-chem@yamaguchi-u.ac.jp					
研究室: 工学部本館北側4階 432 号室					
オフィスアワー					
火~金曜日: 17:30-19:00					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	3163500003
開設科目名	高分子機能化学演習			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	堤 宏守			区分	
授業の概要					
高分子機能化学特論と関連した事項、例えばドラッグデリバリーシステム、生体適合材料、生分解性高分子材料、分子認識材料などについて受講者の文献調査に基づく発表、発表内容に関する質疑応答や討論などにより、バイオ関連分野や医療分野に関連の深い機能高分子材料についての理解を深める。さらに、関連内容の演習として簡単なケーススタディなどを適宜行う。					
授業の一般目標					
高分子機能化学特論と関連した事項、例えばドラッグデリバリーシステム、生体適合材料、生分解性高分子材料、分子認識材料などについて文献調査に基づく発表、発表内容に関する質疑応答や討論などができるようになる。 さらに、バイオ関連分野や医療分野に関連の深い機能高分子材料についての理解を深める。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 高分子機能化学特論と関連した事項、例えばドラッグデリバリーシステム、生体適合材料、生分解性高分子材料、分子認識材料などについての知識、理解を深める。					
思考・判断の観点: 高分子機能化学特論と関連した事項、例えばドラッグデリバリーシステム、生体適合材料、生分解性高分子材料、分子認識材料などについての基礎的な仕組みを理解し、展開する基礎力を身につける。					
成績評価方法(総合)					
講義への出席、演習問題の解答、プレゼンテーションの内容などにより評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
文献調査やプレゼンテーションが中心になるので、準備の時間がかかりますので、そのつもりで受講して下さい。					
連絡先					
講義時に連絡する。					
オフィスアワー					
講義時に連絡する。					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	3163500004
開設科目名	バイオプロセス工学演習			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	山本 修一			区分	
授業の概要					
バイオプロセス工学特論の演習をする。コンピュータを利用したプログラミング計算や実験も実施する。					
授業の一般目標					
演習を通じてバイオプロセス工学特論の理解を深める。					
授業の一般目標					
演習を通じてバイオプロセス工学特論の理解を深める。					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	3171000001
開設科目名	遺伝子工学特論			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	山田 守			区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	3171000002
開設科目名	遺伝子工学演習			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	山田 守			区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	3171000003
開設科目名	応用生理学特論			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	宮田 浩文			区分	
授業の概要					
様々な刺激に対する骨格筋とその支配神経(運動ニューロン)の適応を論じ、神経と筋の基本的な構造と機能およびその可塑性を概説する。					
授業の一般目標					
行動の企画・発生に関わるニューロンと筋細胞の構造機能を理解し、細胞レベルで適応変化を理解できるようにする。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 1. 細胞の基本構造と機能を詳細に説明できる。 2. 細胞の適応変化を詳細に説明できる。					
思考・判断の観点: 1. 適応変化の過程と結果を詳細に推察できる。 2. 適応変化に必要な刺激を詳細に考察できる。					
関心・意欲の観点: 1. 自分を含む身の回りの生物機能について感心を示す。					
態度の観点: 1. 分かっていないことに関する疑問を具体的に提示することができる。					
成績評価方法(総合)					
授業中のプレゼンテーションと小レポートの内容を主な評価の対象とする。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
遅刻、私語、飲食は厳禁					
連絡先					
hiro@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
月曜日午前中					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	3171000004
開設科目名	応用生理学演習			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	宮田 浩文			区分	
授業の概要					
様々な刺激に対する骨格筋とその支配神経(運動ニューロン)の適応を論じ、神経と筋の基本的な構造と機能およびその可塑性を概説する。					
授業の一般目標					
行動の企画・発生に関わるニューロンと筋細胞の構造機能を理解し、細胞レベルで適応変化を理解できるようにする。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 1. 細胞の基本構造と機能を詳細に説明できる。 2. 細胞の適応変化を詳細に説明できる。					
思考・判断の観点: 1. 適応変化の過程と結果を詳細に推察できる。 2. 適応変化に必要な刺激を詳細に考察できる。					
関心・意欲の観点: 1. 自分を含む身の回りの生物機能について感心を示す。					
態度の観点: 1. 分かっていないことに関する疑問を具体的に提示することができる。					
成績評価方法(総合)					
授業中のプレゼンテーションと小レポートの内容を主な評価の対象とする。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
遅刻、私語、飲食は厳禁					
連絡先					
hiro@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
月曜日午前中					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	3171000005
開設科目名	応用微生物学特論			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	薬師 寿治			区分	
授業の概要					
人類が古来より利用してきた微生物の持つ機能を分子レベルで解説する。その他ユニークな特長を持つ微生物の機能を解説し、未来に向けた微生物利用の可能性を議論する。					
授業の一般目標					
微生物利用の具体例を分子レベルで理解する。様々な微生物の機能を分子レベルで理解する。					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
出席、講義への参加態度、レポートなどにより評価する。					
教科書					
参考書					
応用微生物学 / 村尾 沢夫 (編集), 荒井 基夫 (編集): 培風館, 1993 Brock Biology of Microorganisms, 11th edition / Steven K. Alexander (著), Dennis Strete (著), Michael T. Madigan (著), John Martinko (著), Paul V. Dunlap (著), David P. Clark (著): Pearson Prentice Hall, 2006					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	3171000006
開設科目名	応用微生物学演習			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	薬師 寿治			区分	
授業の概要					
広い意味での応用微生物学に関する最新の論文について発表・討論し、未来に向けた応用微生物学の発展を議論する。					
授業の一般目標					
広い意味での応用微生物学に関して、分子メカニズムの解明に迫る研究論文を講読・理解し、その優れた点や問題点を抽出できるようにする。					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
出席、プレゼンテーション、講義への参加態度などから総合的に評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	3172000001
開設科目名	分子細胞生化学特論			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	内海 俊彦			区分	
授業の概要					
細胞間及び細胞内における細胞情報伝達の分子機構ならびにその制御機構の概要を理解するとともに、それらの解析に用いられる分子生物学的手法を学ぶ。さらに細胞増殖、細胞分化、細胞死等の過程で機能する細胞情報伝達機構に関して最近の知見を含め学習する。					
授業の一般目標					
細胞情報伝達の分子機構ならびにその制御機構の概要、さらにそれらの解析に用いられる分子生物学的手法を学ぶ。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 細胞間及び細胞内における細胞情報伝達の分子機構ならびにその制御機構の概要を理解する。					
関心・意欲の観点: 細胞増殖、細胞分化、細胞死等の過程で機能する細胞情報伝達機構に関して感心を持つ。					
成績評価方法(総合)					
出席およびレポートにより評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					
随時					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	3172000002
開設科目名	分子細胞生化学演習			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	内海 俊彦			区分	
授業の概要					
細胞情報伝達機構およびその制御機構に関する最新のトピックスをとりあげ、関係する研究論文を精読し理解するとともに、その方法論、論理展開、研究結果の解釈等の妥当性について議論する。					
授業の一般目標					
細胞情報伝達機構およびその制御機構に関する最新の研究論文を読み、その内容を正確に理解できる能力を身につける。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 細胞情報伝達機構およびその制御機構に関する最新の知見を身につける。					
思考・判断の観点: 論文の方法論、論理展開、研究結果の解釈等の妥当性を評価できる能力を身につける。					
技能・表現の観点: 英文の研究論文の読解力を身につける。					
成績評価方法(総合)					
出席およびプレゼンテーションにより評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					
随時					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	3172000003
開設科目名	植物代謝生理学特論			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	松井 健二			区分	
授業の概要					
植物由来の二次代謝産物には多くの生理活性物質が含まれ、人類は古来よりこれらを医薬品、嗜好品等として利用してきた。本特論では生理活性物質の生成機構を概説し、各生成ステップの反応の分子機構を講義する。					
授業の一般目標					
植物の多彩な生理活性物質を理解し、その生合成代謝経路を把握する。また、メタボロミクスの思考法を修得する。					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
授業への出席、レポート課題、試験により評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	3172000004
開設科目名	植物代謝生理学演習			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	松井 健二			区分	
授業の概要					
植物の二次代謝産物生合成経路は微生物や動物と共通する部分と植物固有の部分がある。ここでは植物に固有な代謝反応について分子レベルでの知見を得るための演習を行う。					
授業の一般目標					
微生物、動物と比較しながら植物特有の問題について理解する。					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
授業への出席、レポート課題、試験により評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	4143000001
開設科目名	細胞動態学特論			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	室伏 擴			区分	
授業の概要					
細胞を構成する各種構造体の構造、機能、およびその動態について、それらを構成する分子の構造、機能、動態と関連づけて概説する。特に、細胞周期、分化、がん化などに伴う細胞構造の変化と、変化の原因となる生体分子の質的、量的変化、局在部位の変化について述べる。また、それらの変化を引き起こす機構について、最新のデータを含めて概説する。					
授業の一般目標					
細胞を構成する各種構造体の構造、機能、およびその動態について、それらを構成する分子の構造、機能、動態と関連づけて理解する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 細胞を構成する各種構造体の構造、機能、およびその動態について、それらを構成する分子の構造、機能、動態と関連づけて理解する。					
成績評価方法(総合)					
レポート、プレゼンテーション					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
理3号館107室 murofusi@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
いつでも					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	4143000002
開設科目名	細胞動態学演習			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	室伏 擴			区分	
授業の概要					
細胞とそれを構成する分子の動態について、個々の学生に適切なテーマを選んでもらい、あるいは学生の研究テーマについて細胞や生体分子の動態と関連づけて、発表を行ってもらい、その後、全員で議論を行う。					
授業の一般目標					
細胞とそれを構成する分子の動態についての理解、発表、質疑応答ができるようになる。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 細胞とそれを構成する分子の動態についての理解、発表、質疑応答ができるようになる。					
成績評価方法(総合)					
発表、討論					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
理3号館107室 murofusi@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
いつでも					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	414300003
開設科目名	内分泌調節機構学特論			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	山中 明			区分	
授業の概要					
節足動物、特に昆虫類は、地球上の陸上生物で最も繁栄している動物である。生命の多様性を考えるためには、生物の環境に適応するための代謝調節機構の理解が必要である。本講義において、その繁栄を支える昆虫類やむ脊椎動物の様々な生体の調節機構を、内分泌学および分子細胞生物学的な側面から解説する。					
授業の一般目標					
昆虫の内分泌調節系の解剖学的な知見及びホルモンの分泌調節機構を中心にして、神経系と内分泌系の役割分担及び内分泌系が発生過程の調節・体内の恒常性の維持に果たしている役割を理解させる。					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
期末試験の成績と授業内容の理解度によって総合的に評価する					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
総合研究棟506西; yamanaka@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
火曜日 18:00-19:00					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	4143000004
開設科目名	内分泌調節機構学演習			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	山中 明			区分	
授業の概要					
生命の多様性を考える上で、環境に適応するために個々の生物が持つ独自の代謝調節機構の理解が必要である。本演習において、生物の様々な内分泌調節機構に関する論文発表を行い、最新の知識の習得、発表内容に関する議論の展開とともに、プレゼンテーション能力の向上を目指す。					
授業の一般目標					
特定のテーマについて学生と教員の相互討論などで進行する双方向の授業で、テーマの内容をより深く理解し、討論する能力を養う。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 環境に適応するために個々の生物が持つ独自の代謝調節機構について理解ができる。					
思考・判断の観点: 様々な生物が持つ内分泌制御系を説明できる。					
技能・表現の観点: 適切に内容、意見を伝えることができる。					
成績評価方法(総合)					
論文の理解、表現技法、および討議への参加度により総合的に評価。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
総合研究棟506西; yamanaka@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
火曜日 18:00-19:00					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	4143000005
開設科目名	生殖機能科学特論			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	岩尾 康宏			区分	
授業の概要					
動物の生殖機構のうち、配偶子成熟および受精の分子メカニズムについて我々の研究を含めた最新の研究を紹介しながら説明する。とくに、卵成熟過程における細胞周期の調節機構や卵付活の分子メカニズム、多精防止機構などの細胞内シグナル伝達機構の分子メカニズムを十分に理解させることを目的とする。これらの分子メカニズムの動物界における多様性とその進化過程で保存されてきた普遍的メカニズムについて説明する。将来の生殖補助技術等の生殖応用分野の発展を目指した基礎研究の方法論、技術を理解させる。					
授業の一般目標					
動物の生殖における分子メカニズムの多様性とその進化過程で保存されてきた普遍的メカニズムについて説明できる。将来の生殖補助技術等の生殖応用分野の発展を目指した基礎研究の方法論、技術を理解できる。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 1. 配偶子成熟および受精の分子メカニズムについて説明できる。2. 卵成熟過程における細胞周期の調節機構や卵付活の分子メカニズム、多精防止機構などの細胞内シグナル伝達機構の分子メカニズムについて説明できる。3. これらの分子メカニズムの動物界における多様性とその進化過程で保存されてきた普遍的メカニズムを説明できる。4. 将来の生殖補助技術等の生殖応用分野の発展を目指した基礎研究の方法論、技術について説明できる。					
思考・判断の観点: 1. 生殖・受精のしくみについて興味をもち、他の生物科学の分野への適用に関心をもつ。					
成績評価方法(総合)					
(1)動物の受精・生殖現象に関する英文課題についてレポートを作成する。					
教科書					
新編 精子学 / 毛利・星 編: 東京大学出版会, 2006					
参考書					
メッセージ					
講義以外の時間にも積極的に質問して疑問点を解決して下さい。					
連絡先					
総合研究棟5F507室 TEL:933-5713					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	4143000006
開設科目名	生殖機能科学演習			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	岩尾 康宏			区分	
授業の概要					
動物の配偶子成熟および受精の分子メカニズム、とくに、卵成熟過程における細胞周期の調節機構や卵付活の分子メカニズム、多精防止機構などの細胞内シグナル伝達機構の分子メカニズム、および、これらの動物界における多様性とその進化過程で保存されてきた普遍的メカニズムについて理解することは将来の生殖補助技術等の生殖応用分野の発展を目指した基礎研究に重要である。本演習では、これらの研究の最新の論文を読み、発表することで、知識とともにプレゼンテーションの能力を高める。					
授業の一般目標					
動物の生殖の分子機構に関する英文原著論文を読み、発表するとともに、内容を討論してその研究価値を吟味できる能力を養う。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 生殖の分子機構に関する英語の論文の内容を理解できる。					
関心・意欲の観点: 生殖・受精のしくみについて興味をもち、他の生物科学の分野への適用に関心をもつ。					
成績評価方法(総合)					
(1)動物の受精・生殖現象に関する英文課題についてレポートを作成する。					
教科書					
参考書					
新編 精子学 / 毛利・星 編; 東京大学出版会, 2006					
メッセージ					
講義以外の時間にも積極的に質問して疑問点を解決して下さい。					
連絡先					
総合研究棟5F507室 TEL:933-5713					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	4143000007
開設科目名	細胞分子機械学特論			単位	2 単位
対象学生				学年	~
担当教員	祐村 恵彦			区分	
授業の概要					
細胞は分子の集合体でしかないが、自己複製、増殖、組織化する能力を有する。細胞内の個々の分子もしくはそれが集合した超分子は細胞の生の営みに必要な多くの分子機械として働いている。これらの分子機械のしくみを理解することで、生命とは何かを理解するてがかりが得られるかもしれない。本講義では、細胞分子機械のうち、特に研究が進んでいるいくつかの例を挙げ、動作原理について概説する。					
授業の一般目標					
最新の研究論文を紹介しながら、細胞分子機械の動作原理について学ぶ。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 細胞分子機械の動作原理について学ぶ。					
成績評価方法(総合)					
定期試験と出席により評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
総合棟 401					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	4143000008
開設科目名	細胞分子機械学演習			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	祐村 恵彦			区分	
授業の概要					
細胞は分子の集合体ではないが、自己複製、増殖、組織化する能力を有する。細胞内の個々の分子もしくはそれが集合した超分子は細胞の生の営みに必要な多くの分子機械として働いている。これらの分子機械のしくみを理解することで、生命とは何かを理解するてがかりが得られるかもしれない。本演習では、細胞分子機械のうち、特に研究が進んでいる分野での原書論文を読み、発表し、プレゼンテーション能力も養う。					
授業の一般目標					
細胞分子機械についての原著論文を読んで、内容を理解し、発表できる能力を養う。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 細胞分子機械についての原著論文を読んで、内容を理解し知識を深める。					
技能・表現の観点: 細胞分子機械についての原著論文を読んで、内容を理解し、発表できる能力を養う。					
成績評価方法(総合)					
出席とプレゼンテーションから判定する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
総合棟 401					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	414300009
開設科目名	発生遺伝学特論			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	村上 柳太郎			区分	
授業の概要					
<p>次のような課題を受講者に与え、インタビュー形式で解説してもらい、議論する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 胚発生における遺伝子発現調節メカニズムの理解。 2. 多細胞動物胚における遺伝子発現調節研究で用いられる研究手法の理解。 3. 細胞分化機構に関する研究動向。 4. その他の生物学分野の最新研究 					
授業の一般目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 転写因子と細胞間シグナル因子の関係を理解する。 2. 最先端の論文内容を解説が可能な程度まで理解する。 3. 具体的な研究手法に踏み込んだ理解をめざす。 					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
研究内容,または論文紹介のプレゼンテーションを課する場合がある.					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	4143000010
開設科目名	発生遺伝学演習			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	村上 柳太郎			区分	
授業の概要					
発生遺伝学分野の最新の論文についての内容を解説するプレゼンテーションおよび討議を行う。受講者の行っている研究内容についても(差し支えない部分について)プレゼンテーションを課す。					
授業の一般目標					
1. 細胞分化に関する最先端の論文内容を理解し、内容紹介のプレゼンテーションを行う。 2. 細胞分化関係のトピックスの解説ができる程度に、最近の論文と総説を読みこなす。					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
プレゼンテーションと討議への参加度で評価する					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	4143000011
開設科目名	複素環化学特論			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	阿部 憲孝			区分	
授業の概要					
複素環化合物は天然物や生体成分に多く認められ、医薬品を含めて生物活性を有する化合物を開発する際、最も有用な化合物群である。この幅広い複素環化学を、ピロール等の複素環の基本的合成と反応からはじめ、ポリアゾール等の複数のヘテロ原子を含む環の合成法や、やや特殊な縮合複素環の合成法にいたるまでの、方法論等を概説する。					
授業の一般目標					
複素環化合物の合成法や反応と性質について理解するとともに、生体中での役割などについての考え方を理解する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 5員環、6員環の複素環の合成と反応について理解する。					
思考・判断の観点: 複素環の生物活性や有用薬物としての観点から、反応等を理解し、合成目的に即した反応に思いをいたすかなど、幅広い思考力を獲得する。					
成績評価方法(総合)					
教科書、調査論文等の理解度、発表内容、議論の内容に基づき評価する。					
教科書					
新編 ヘテロ環化合物 基礎編 / 山中、日野、中川、坂本共著・講談社、2004					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	4143000012
開設科目名	複素環化学演習			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	阿部 憲孝			区分	
授業の概要					
講義で学んだ複素環化合物に関する理解を深めるために、反応と合成に関しての演習を行うことにより、複素環の各種構築法を学ぶ。その方法としては、複素環化学に関する外国語論文の講読ととりまとめ、発表を行い、多種多様な反応式の作成を演習により試みて、複素環合成法を身につける。基本的なインドール等の合成からはじめて複数のヘテロ原子を含む系に進み、特に、アルカロイド等の薬理活性を有する複雑な構造の化合物の合成にも理解を深めるようにする。					
授業の一般目標					
複素環の各種構築法を理解する。外国語論文の内容への理解度を高め、十分な内容の発表ができる。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 有機化学的理解を持って複素環合成法を身につける。					
思考・判断の観点: 複雑な複素環合成に必要な化学反応や条件について考えることができる。					
関心・意欲の観点: 的確なプレゼンテーションができる。					
成績評価方法(総合)					
複素環化学に対する理解度とプレゼンテーションの内容によって評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	4143000013
開設科目名	生体分子機能化学特論			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	村藤 俊宏			区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	4143000014
開設科目名	生体分子機能化学演習			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	村藤 俊宏			区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	4143000015
開設科目名	生命情報学特論			単位	2単位
対象学生				学年	～
担当教員	青島 均			区分	
授業の概要					
生体内の情報伝達機構特に脳内の神経伝達機構を述べる。また香りの体内に取り込まれて生じる生理作用を話す。その後、学生に生体情報伝達に関係した英文の論文や総説を読み、まとめてパワーポイントにより発表してもらう。それに対して質問をしてもらう。質問をすることにより出席とする。					
授業の一般目標					
生体内の兵法伝達機構を理解する。この分野に関係した論文を読み理解して発表する力をつける。発表を聞いて理解し、質問をすることにより理解を深める。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 生体内の情報伝達機構を理解し、自分の研究分野と結びつけ、知識を広げて学際分野に興味を持つ。					
思考・判断の観点: 生体内の情報伝達機構の研究に使われている研究手法を理解し、自分の研究分野に適用できるか検討する。					
関心・意欲の観点: 自分の研究分野にとらわれず、広い分野に興味を持つ。					
態度の観点: 受身ではなく、自分から進んで新しい分野に興味を持ち、調査する態度を養う。					
技能・表現の観点: 自分で発表するとともに、他人の発表内容に質問する力をつける。					
成績評価方法(総合)					
論文紹介の発表内容と質問内容を評価する。					
教科書					
参考書					
香りの科学はどこまで解明されたか / 青島均:フレグランスジャーナル社, 2007					
神経情報伝達の本質 / ニコルス著、青島均訳:シュプリンガー・フェアラーク東京, 1997					
メッセージ					
自分から積極的に取り組んでください。					
連絡先					
理学部本館北棟403号室、電話:933-5762, E-mail:aoshima@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
いつでも良いですが、会議などありますので、電話あるいはメールで前もってご連絡ください。					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	4143000016
開設科目名	生命情報学演習			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	青島 均			区分	
授業の概要					
学生に興味を持った論文や総説を読み、まとめてパワーポイントにより発表してもらい、それに対して質問をしてもらい、質問受けたり質問することにより理解を深める。					
授業の一般目標					
幅広く科学の分野に興味を持ち理解する。自分の研究分野に関連した論文や総説を読み理解して発表する力をつける。発表を聞いて理解し、質問をすることにより理解を深める。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 自分の研究分野に関連した知識を広げて学際分野に興味を持つ。					
思考・判断の観点: 研究に使われている研究手法を理解し、自分の研究分野に適用できるか検討する。					
関心・意欲の観点: 自分の研究分野にとらわれず、広い分野に興味を持つ。					
態度の観点: 受身ではなく、自分から進んで新しい分野に興味を持ち、調査する態度を養う。					
技能・表現の観点: 自分で発表するとともに、他人の発表内容に質問する力をつける。					
成績評価方法(総合)					
論文紹介の発表内容と質問内容を評価する。					
教科書					
参考書					
香りの科学はどこまで解明されたか / 青島均:フレグランスジャーナル社, 2007					
神経情報伝達のカニシズム / ニコルス著、青島均訳:シュプリンガー・フェアラーク東京, 1997					
ライフサイエンス基礎化学 / 青島・右田著:化学同人, 2000					
メッセージ					
自分から積極的に取り組んでください。					
連絡先					
理学部本館北棟403号室、電話:933-5762、E-mail:aoshima@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
いつでも良いですが、会議などありますので、電話あるいはメールで前もってご連絡ください。					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	4143000017
開設科目名	分子集合体特論			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	川俣 純			区分	
授業の概要					
分子や分子集合体の解析に必要な物質の対称性を解説する。また、回折や分光を利用した有機分子、高分子・タンパク質などの構造解析法を講義する。					
授業の一般目標					
有機物や生体高分子の集合体の性質や機能を、理論的に解析するための基礎知識を身につける。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 物質の対称性を理解し、分子や分子集合体の解析に応用できるようにするとともに、回折や分光の手法を利用した、有機分子、高分子・タンパク質などの構造解析手法の原理を知る。					
思考・判断の観点: 研究対象とする分子集合体の機能・物性解析研究において、必要とされる情報を得るために最も有効な手段を適切に選択できる能力を身につける。					
関心・意欲の観点: 自分の研究対象が示す機能も含め、全ての機能物質が示す性質が、物質の対称性と重要な関わりを持っていることに関心をもつ。					
態度の観点: 物質の性質が対称性に大きく支配されていることに気付き、対称性の重要性を認識できる。					
成績評価方法(総合)					
宿題、小テスト、レポートを総合的に判断する。					
教科書					
結晶としての固体 / Gerald Burns [著] ; 寺内暉, 中村輝太郎監訳: 東海大学出版会, 1989					
参考書					
メッセージ					
化学のおもしろさの一つは、新しい物質を作り出せることです。物質そのもの、あるいは分子や原子の集合形態の持つ構造上の特徴と物理的性質との間の関係について理解を深め、新しい機能を持った材料を創造する際に必要な「物質設計」の考え方を身につけてください。					
連絡先					
理学部 434 号室					
オフィスアワー					
随時					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	4143000018
開設科目名	分子集合体演習			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	川俣 純			区分	
授業の概要					
生体は究極のナノマシーンと呼ばれている。生体分子の自己組織化メカニズムを用いた機能素子は、既成の人工技術で得られる機能素子を大きく上回る集積度や機能を呈する可能性を持っている。生物の自己組織系を固体の中で実現し、新しい機能を創造するために行われている研究を内外の文献から広く学ぶ。					
授業の一般目標					
自分の特別研究を、関連する他の研究と対比させて、理論的に解釈できるようになる。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 最先端の分子集合体研究の新規性、背景にある問題点や解決方法を知る。					
思考・判断の観点: 新しい設計原理に基づく高機能・高性能な分子集合体を構築するための戦略を身につける。					
関心・意欲の観点: 自分の特別研究と他の研究とを比べ、それぞれの位置づけができる。					
態度の観点: 自分以外の研究を理解することで、自分の特別研究の方向性を見極める。					
技能・表現の観点: 最先端の研究をわかりやすく説明できる。					
成績評価方法(総合)					
取り上げた論文の理解度、説明の適切さ、他人の発表に対する討論への参加度を総合的に判断する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
理学部 434 号室					
オフィスアワー					
随時					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	4151000001
開設科目名	医化学特論			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	中井 彰			区分	
授業の概要					
<p>ヒトの体は、生命活動の最小単位である様々な細胞が集合し、個体として統御されて成り立っています。多様な細胞は、それぞれ個性ある蛋白質の活動により維持されており、その指令を行うのがゲノム DNA です。本授業では、生命の基本単位である細胞の基本的な営みを、蛋白質や DNA などの分子の働きとして学び、病気の発症を分子の異常として論理的に理解します。</p>					
授業の一般目標					
<p>生命の基本単位である細胞の基本的な営みが蛋白質や遺伝子の働きにより成り立っていることを理解し、病気の発症を分子の異常として説明できる。</p>					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点:細胞に基本的な営みの基本となる分子の働きとその異常による病気について説明できる。</p> <p>思考・判断の観点:分子から個体の営み、ならびに病気について統合的に関連づけられる。</p> <p>関心・意欲の観点:与えられたテーマに関して自発的に学習する。</p> <p>態度の観点:意欲的に講義に出席する。</p>					
成績評価方法(総合)					
<p>成績評価は出席(60%)と授業態度(40%)で行う。</p>					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	4151000002
開設科目名	病態制御内科学特論			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	谷澤 幸生			区分	
授業の概要					
<p>内分泌・代謝疾患、血液疾患の病因や病態を学習し、分子レベルで理解する。診断法、治療法の開発への応用に役立てるために必要な事項について考察を加える。</p> <p>関連の海外文献から最新の情報を得る。</p>					
授業の一般目標					
<p>内分泌・代謝疾患、血液疾患の病因や病態を分子レベルで理解し、診断法、治療法の開発に役立てる。</p>					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点: 内分泌・代謝疾患、血液疾患の病因や病態を学習し、分子レベルで理解する。</p> <p>関連の海外文献から最新の情報を得る。</p> <p>思考・判断の観点: 診断法、治療法の開発への応用に役立てるために必要な事項について考察を加える。</p>					
成績評価方法(総合)					
<p>出席と受講態度、積極的に討論に参加したか等を加味して評価する。</p>					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	4151600001
開設科目名	探索的医療情報解析学特講			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	市原 清志			区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	4151600002
開設科目名	地域保健看護学特講			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	守田 孝恵, 山崎 秀夫			区分	
授業の概要					
地域保健看護学に関する博士論文を完成させる					
授業の一般目標					
地域保健看護学に関する博士論文を完成させる					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 地域保健看護学に関する博士論文を完成させる					
思考・判断の観点: 地域保健看護学に関する博士論文を完成させる					
関心・意欲の観点: 地域保健看護学に関する博士論文を完成させる					
態度の観点: 地域保健看護学に関する博士論文を完成させる					
技能・表現の観点: 地域保健看護学に関する博士論文を完成させる					
成績評価方法(総合)					
博士論文					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	4151600003
開設科目名	高度侵襲医療看護学特講			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	山勢 博彰			区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	4151600004
開設科目名	母子発達・遺伝看護学特講			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	塚原 正人, 田中 満由美, 辻野 久美子, 村上 京子			区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	4151600005
開設科目名	細胞情報応用解析学特講			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	渡部 省二, 高橋 睦夫, 服部 幸夫, 田中 経彦, 上田 順子, 山城 安啓			区分	
授業の概要					
分子細胞生物学分野の最近のオリジナル文献(英文)を読み、その内容を発表する。					
授業の一般目標					
分子細胞生物学分野の最近のオリジナル文献(英文)を読み、理解し、内容をその説明し、さらに、受講者自身の研究テーマにどのような応用が可能かを考えることができるようにする。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 分子細胞生物学分野の最近のオリジナル文献(英文)を読み、理解することができる。					
思考・判断の観点: 読んだ論文の内容を自分の研究テーマに応用できる。					
技能・表現の観点: 理解した内容をその内容を知らない人が理解できるように説明できる。					
成績評価方法(総合)					
毎回の発表から、理解度、発表の方法等を総合判断して評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	4151600006
開設科目名	病態情報解析学特講			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	市原 清志, 梅田 昭子, 常岡 英弘, 山田 治, 松田 昌子, 石川 敏三, 野島 順三, 岡野 こずえ			区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	4152000001
開設科目名	応用医工学展開科目			単位	4単位
対象学生				学年	~
担当教員	小林 誠			区分	
授業の概要					
医工学に関連したテーマにつき、将来的な医療機材の開発、生体情報のデジタル化による新たな診断法や治療機器の開発等の視点をもとに演習を行う。					
授業の一般目標					
医工学的視点をもとにした発表および討論を行う。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 研究テーマにつき、医工学的視点をもとにした知識および理解を高める。					
関心・意欲の観点: 研究テーマにつき、医工学的視点をもとにした説明ができる。					
態度の観点: 研究テーマの発表ができる。発表に対する討論ができる。					
成績評価方法(総合)					
成績評価は基本的には、出席(60%)と演習態度(40%)で行う。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	4152000002
開設科目名	生体機能分子制御学特論			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	小林 誠, 川道 穂津美			区分	
授業の概要					
細胞内 Ca イオンなどのシグナル伝達分子の動態情報のデジタル化の方法とともに、そのリアルタイム解析・制御についても学習する。					
授業の一般目標					
シグナル伝達分子の動態情報のデジタル化の方法とともに、そのリアルタイム解析・制御について理解し、説明できる。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: シグナル伝達分子の動態情報のデジタル化の方法および、そのリアルタイム解析・制御について学習し、理解できる。					
思考・判断の観点: シグナル伝達分子の動態情報のデジタル化の方法および、そのリアルタイム解析・制御について学習し、考察できる。					
関心・意欲の観点: シグナル伝達分子の動態情報のデジタル化の方法および、そのリアルタイム解析・制御について学習し、現在あるいは将来的な研究テーマと関連づけられる。					
成績評価方法(総合)					
成績評価は基本的に、出席(60%)と授業態度(40%)で行う。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	415200003
開設科目名	器官病態内科学特論			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	大草 知子			区分	
授業の概要					
内科学、特に循環器病学について学ぶ。					
授業の一般目標					
内科学、特に循環器病学について理解する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 循環器系の構造、機能、病態について学び、病気の発生機序について理解する。					
思考・判断の観点: 心臓の収縮、拡張機能の仕組みについて考え、心不全の発生する機序を考察する。					
関心・意欲の観点: 動脈硬化の予防、治療法について自分なりに考えてみる。					
態度の観点: 積極的に質問したか。					
成績評価方法(総合)					
試験8割					
出席2割					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	4152000004
開設科目名	器官病態外科学特論			単位	2 単位
対象学生				学年	~
担当教員	濱野 公一			区分	
授業の概要					
重要臓器に対する外科学各論, 人工臓器学(移植手技, 機能)を発展的に講義する.					
授業の一般目標					
重要臓器に対する外科治療と人工臓器学(移植手技, 機能)を理解する.					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 重要臓器に対する外科治療と人工臓器の移植手技や機能を説明できる.					
成績評価方法(総合)					
成績評価は基本的に, 出席(60%)と授業態度(40%)で行う.					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	4152000005
開設科目名	細胞シグナル解析学特論			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	河野 道生			区分	
授業の概要					
骨髄腫細胞の増殖機構において、その細胞内シグナル伝達機構、増殖因子 IL-6 の作用、転写因子 NF- κ B 等につき最新の情報とともに学習する。					
授業の一般目標					
研究テーマである骨髄腫細胞の増殖機構につき、最新の詳細な知識を習得する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 骨髄腫細胞の増殖機構の最新情報につき説明できる。					
思考・判断の観点: 将来的な研究の方向性につき説明できる。					
態度の観点: 骨髄腫細胞の増殖機構につき、自ら最新の論文等を購読する。					
成績評価方法(総合)					
成績評価は基本的には、出席(60%)と授業態度(40%)で行う。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	4152300001
開設科目名	応用分子生命科学展開科目			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	岡 正朗			区分	
授業の概要					
生命科学の様々なテーマについての討論やディベートにより異なった研究手法やアプローチを理解させ、応用力を身につけさせる。また、博士論文テーマに関する発表や討議により助言、指導を与え、論文を作成させる。					
授業の一般目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・研究発表を行い、専門的な討議ができるようになる。 ・英語論文を実際に作成し、投稿することができるようになる。 					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 研究発表、専門的討議の方法について理解する。					
英語論文作成に関する知識を得る。					
技能・表現の観点: 研究発表、専門的討議の技能を身につける。					
英語論文作成技能を身につける。					
成績評価方法(総合)					
成績評価は、授業態度と出席で行う。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	4152600001
開設科目名	比較文化保健医療学特講			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	TURALE SUSAN			区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	4152600002
開設科目名	地域保健看護学演習			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	守田 孝恵, 山崎 秀夫			区分	
授業の概要					
地域保健看護学に関する博士論文を完成させる					
授業の一般目標					
地域保健看護学に関する博士論文を完成させる					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 地域保健看護学に関する博士論文を完成させる					
思考・判断の観点: 地域保健看護学に関する博士論文を完成させる					
関心・意欲の観点: 地域保健看護学に関する博士論文を完成させる					
態度の観点: 地域保健看護学に関する博士論文を完成させる					
技能・表現の観点: 地域保健看護学に関する博士論文を完成させる					
成績評価方法(総合)					
地域保健看護学に関する博士論文を完成させる					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	4152600003
開設科目名	高度侵襲医療看護学演習			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	山勢 博彰			区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	4152600004
開設科目名	母子・発達遺伝看護学演習			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	塚原 正人, 田中 満由美, 辻野 久美子, 村上 京子			区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	4152600005
開設科目名	細胞情報応用解析学演習			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	渡部 省二, 高橋 睦夫, 服部 幸夫, 田中 経彦, 上田 順子, 山城 安啓			区分	
授業の概要					
分子細胞生物学分野の最近のオリジナル文献(英文)を読み、その内容を発表する。					
授業の一般目標					
分子細胞生物学分野の最近のオリジナル文献(英文)を読み、理解し、内容をその説明でし、さらに、それを研究テーマに応用できるようにする。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 分子細胞生物学分野の最近のオリジナル文献(英文)を読み、理解することができる。					
思考・判断の観点: 読んだ論文の内容を自分の研究テーマに応用できる。					
技能・表現の観点: 理解した内容をその内容を知らない人が理解できるように説明できる。					
成績評価方法(総合)					
毎回の発表から、理解度、発表の方法等を総合判断して評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	4152600006
開設科目名	病態情報解析学演習			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	市原 清志, 梅田 昭子, 常岡 英弘, 山田 治, 松田 昌子, 石川 敏三, 野島 順三, 岡野 こずえ			区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	4153000001
開設科目名	最先端ライフサイエンス研究科目			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員				区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	4153000002
開設科目名	医化学演習			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	藤本 充章			区分	
授業の概要					
ヒトの身体は、糖質、脂質、タンパク質、核酸から構成されています。これらの物質の合成や分解など、生命現象を化学反応としてとらえるのが生化学であり、さらに、分子のレベルで理解しようとするのが分子生物学です。本演習では、ヒトのさまざまな生命活動を、分子のレベルで説明できるよう演習を行います。					
授業の一般目標					
ヒトの基本的な生命活動を分子のレベルで理解する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: ヒトの生命活動に必要な分子の働きについて説明できる。					
思考・判断の観点: ヒトを構成する様々な分子の働きの相互作用について関連づけられる。					
関心・意欲の観点: 自らテーマを選び、進んで学習する。					
態度の観点: 意欲的に演習に参加する。					
技能・表現の観点: 学んだことを、わかりやすく説明できる。					
成績評価方法(総合)					
成績評価は、出席(60%)と参加態度(40%)で行う。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	4153000003
開設科目名	細胞シグナル解析学演習			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	河野 道生			区分	
授業の概要					
研究テーマ、特に骨髄腫細胞の増殖シグナルについて、実際の実験データの提示、データに対する解釈さらには今後の研究計画等について発表するとともに討論する。					
授業の一般目標					
研究テーマに対する実験データの提示、データの解釈さらには今後の実験計画等について発表するとともに討論する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 研究テーマについての最新の知見を説明できる。					
思考・判断の観点: 実験計画の案作成ができる。					
関心・意欲の観点: 実験計画および実験データにつき発表できる。実験データについての解釈およびその批判ができる。					
技能・表現の観点: 実験に必要な手技を習得する。					
成績評価方法(総合)					
成績評価は基本的には、出席(60%)と演習態度(40%)で行う。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	4153000004
開設科目名	病態制御内科学演習			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	奥屋 茂			区分	
授業の概要					
<p>内分泌・代謝疾患、血液疾患の病因や病態を学習し、分子レベルで理解するため、必要な情報を探索しさらに検証する技能を身につける。また診断法、治療法の開発に役立てるために必要な事項について考察し、プレゼンテーションする能力を身につける。</p>					
授業の一般目標					
<p>内分泌・代謝疾患、血液疾患の病因や病態を分子レベルで理解し、診断法、治療法の開発に役立てる。必要な情報を探索し、さらに検証・考察したことをプレゼンテーションする。</p>					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点:1. 分子生物学的手法の原理を説明できる。 2. 仮説・仮定をたて、それを実証・検証する手法を身につける。</p> <p>思考・判断の観点:得られた情報を分析できる。</p> <p>関心・意欲の観点:いろいろな現象に対して、疑問を抱き、深く掘り下げるようにする。</p> <p>態度の観点:プレゼンテーションに対して適切な評価ができる。</p> <p>技能・表現の観点:実習内容をパワーポイントファイルにまとめてプレゼンテーションし、最終的にA4用紙2枚程度のレポートを作成する。</p>					
成績評価方法(総合)					
<p>出席と演習への取り組み態度、演習内容のプレゼンテーション、A4用紙2枚程度のレポートで評価する。なお、出席が所定の回数に満たない場合は、単位を与えない。</p>					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	4153000005
開設科目名	生体機能分子制御学演習			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	小林 誠			区分	
授業の概要					
実験から得られるデータをもとに、細胞内 Ca イオンなどのシグナル伝達分子の動態をリアルタイムに解析・制御する方法につき討論するとともに、そのデジタル情報をどう診断機器等へ発展利用できるかを討論する。					
授業の一般目標					
討論を通じて、シグナル伝達分子の動態をリアルタイムに解析・制御する方法についての理解を深め、更に、得られたデジタル情報を、診断機器の発展利用につなげる能力を養う。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 討論を通じて、実験から得られるデータをもとに、細胞内 Ca イオンなどのシグナル伝達分子の動態をリアルタイムに解析・制御する方法につき、理解できる。					
思考・判断の観点: 討論を通じて、実験から得られるデータをもとに、細胞内 Ca イオンなどのシグナル伝達分子の動態をリアルタイムに解析・制御する方法につき、考察できる。					
関心・意欲の観点: シグナル伝達分子の動態をリアルタイムに解析・制御して取得したデジタル情報を、どう診断機器等へ発展利用できるかを説明できる。					
態度の観点: シグナル伝達分子の動態をリアルタイムに解析・制御して取得したデジタル情報を、どう診断機器等へ発展利用できるかを討論できる。					
成績評価方法(総合)					
成績評価は基本的に、出席(60%)と、授業態度(40%)で行う。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	4153000006
開設科目名	器官病態内科学演習			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	松崎 益徳			区分	
授業の概要					
器官病態内科学、とくに循環器内科学に関連した領域の病態、診断、治療について、最新の研究テーマを取り上げ、それを進めるにあたって必要となる基礎知識理論、手法などについて修得し、将来この領域の研究者になりうる礎を築くことにある。					
授業の一般目標					
循環器内科学に関連した研究を進めるための医学的知識と研究の手法を学ぶ。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 循環器内科学領域の自主的研究が将来できるようになるための、解剖、生理、病態生理、疾患についての基礎知識を理解する。					
思考・判断の観点: 循環器内科学の分野において、生体から発せられる情報をどう把握し、解剖、生理、病態生理、疾患がどのような状況になっているかについて判断することができる素養を持つ。					
関心・意欲の観点: 循環器内科学において、現在一般に理解されている部分と、未知の部分の区別ができるようにし、さらなる研究を行うモチベーションをどう築いていくかを学び、関心、意欲を循環器内科学研究に向ける手法を身につける。					
態度の観点: 循環器内科学研究は、基本的には臨床研究であり、あるいは患者の治療に還元すべきものであるから、人権や倫理について十二分な配慮ができるように学ぶ。					
技能・表現の観点: 循環器内科学領域における研究の具体的手法を学ぶ。学会、研究会での参加、発表に対する姿勢を身につける。					
成績評価方法(総合)					
レポートないし小論文による。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	4153000007
開設科目名	器官病態外科学演習			単位	2 単位
対象学生				学年	~
担当教員	濱野 公一			区分	
授業の概要					
重要臓器に対する臓器機能再生手技の実際を紹介する。					
授業の一般目標					
重要臓器に対する臓器機能再生手技を理解する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 重要臓器に対する臓器機能再生手技を説明できる。					
成績評価方法(総合)					
成績評価は基本的に、出席(60%)と演習態度(40%)で行う。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	4153300001
開設科目名	応用分子生命科学展開セミナー			単位	4単位
対象学生				学年	~
担当教員	岡 正朗			区分	
授業の概要					
文献の輪読や最新の論文講読を行わせる。さらに、自立して、修士院生・学生などへの研究指導が行える能力を養わせる。また、英語発表などのプレゼンテーション能力及び英文論文を作成する能力を身につける。					
授業の一般目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・英語によるプレゼンテーション能力を身につける。 ・英語論文を作成する能力を身につける。 ・修士および学部学生の指導ができる能力を身につける。 					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 英語によるプレゼンテーション、英語論文の作成、修士および学部学生の指導の技能について理解する。					
技能・表現の観点: 英語によるプレゼンテーション能力、英語論文を作成する能力、修士および学部学生の指導ができる能力を身につける。					
成績評価方法(総合)					
成績評価は、出席と授業態度で行う。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	4153300002
開設科目名	最先端ライフサイエンス研究科目			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員				区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	4153300003
開設科目名	応用分子生命科学展開合同演習			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	岡 正朗			区分	
授業の概要					
生命科学の様々なテーマについての討論やディベートにより、異なった研究手法やアプローチを理解させ、応用力を身につけさせる。また、博士論文テーマに関する発表や討議を行い、助言、指導を与え、論文を作成させる。					
授業の一般目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・英語によるプレゼンテーション能力を身につける。 ・英語論文を作成する能力を身につける。 ・修士および学部学生の指導ができる能力を身につける。 					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 英語によるプレゼンテーション技能、英語論文作成方法、修士および学部学生の指導について理解する。					
技能・表現の観点: 英語によるプレゼンテーションの技能、英語論文作成の手法、また、修士及び学部学生の指導ができる能力を身につける。					
成績評価方法(総合)					
成績評価は、授業態度と出席で行う。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	4153300004
開設科目名	長期インターンシップ			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	岡 正朗			区分	
授業の概要					
産学連携共同研究契約にもとづき、当該研究に関して長期間にわたって企業の中で研究開発業務に従事する。従事期間は3～6ヶ月を基本とする。企業での研究業務に本格的に従事し、その研究体験を大学院での教育研究に生かすと同時に、最終製品を想定した企業の研究開発の進めかたなどのノウハウも習得させる。					
授業の一般目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・企業での研究を深く理解する。 ・研究から実用化までのプロセスを理解する。 					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 企業での研究、研究成果の実用化について理解する。					
成績評価方法(総合)					
成績評価は、出席及び授業態度で行う。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	4153600001
開設科目名	特別研究			単位	6単位
対象学生				学年	~
担当教員	守田 孝恵			区分	
授業の概要					
地域保健看護学に関する博士論文を完成させる					
授業の一般目標					
地域保健看護学に関する博士論文を完成させる					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 地域保健看護学に関する博士論文を完成させる					
思考・判断の観点: 地域保健看護学に関する博士論文を完成させる					
関心・意欲の観点: 地域保健看護学に関する博士論文を完成させる					
態度の観点: 地域保健看護学に関する博士論文を完成させる					
技能・表現の観点: 地域保健看護学に関する博士論文を完成させる					
成績評価方法(総合)					
博士論文					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	4153600002
開設科目名	特別研究			単位	6単位
対象学生				学年	~
担当教員	高橋 睦夫			区分	
授業の概要					
癌組織あるいは癌細胞の細胞・病理学的特徴を酵素抗体法や電子顕微鏡を用いて解析する方法を伝授する。					
授業の一般目標					
特別研究の成果を学会発表と論文にまとめることができる。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 研究に関連する欧文の文献を理解・把握できる。					
思考・判断の観点: 研究の計画をたて、遂行できる。					
成績評価方法(総合)					
研究論文の内容で評価					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
E-mail: mutsuo@yamaguchi-u.ac.jp , Tel/Fax: (0836) 22-2845					
オフィスアワー					
随時					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	4153600005
開設科目名	分子病理学特論			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	佐々木 功典, 河内 茂人			区分	
授業の概要					
分子病理学特論Iで学んだ知識を具体的データを利用して一層の疾患に対する理解を深める					
授業の一般目標					
医学生物学領域での研究を効率的かつ効果的に行うために、分子病理学的应用知識を種々の分野と有機的に結合できるだけ幅広い知識を習得する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 疾患の発生機序とその病態を分子レベルで説明できる。					
代表的癌に係る癌遺伝子と癌抑制遺伝子を列挙できる。					
癌における遺伝子不安定性について説明できる。					
癌の悪性度について説明できる。					
異型性について説明できる。					
思考・判断の観点: 癌の発生、進展を遺伝子、分子レベルで具体的に説明できる。					
癌の生物学的性状の症例間の差異を分子レベルで説明できる。					
症例間での細胞や組織構造異型度について具体的に比較できる。					
技能・表現の観点: PCを利用した文献検索ができる。					
成績評価方法(総合)					
成績評価は、出席(60%)とレポート(40%)で行う。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	4153600006
開設科目名	分子病理学演習			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	佐々木 功典, 河内 茂人			区分	
授業の概要					
分子病理学基礎の修得に大きく益する演習を提供する。					
授業の一般目標					
各種の疾患を分子レベルで広く理解するために、分子病理学演習を通じて医学研究ならびに診療に有用な知識と技術を修得する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 病気と遺伝子異常との関係を説明できる。					
良性腫瘍と悪性腫瘍の違いを説明できる。					
上皮性腫瘍と非上皮性腫瘍の違いを説明できる。					
腫瘍細胞の異型性と多型性を説明できる。					
腫瘍と遺伝子異常の関係を説明できる。					
癌における染色体異常、遺伝子異常、分子異常を説明できる。					
思考・判断の観点: 遺伝子異常の原因を具体的に例示できる。					
良性腫瘍と悪性腫瘍とを鑑別できる。					
発癌・進展過程を遺伝子、分子レベルで説明できる。					
上皮性腫瘍と非上皮性腫瘍とを鑑別できる。					
組織像の主な所見を列挙できる。					
胃癌や大腸癌を染色体異常、遺伝子異常、分子異常を説明できる。					
癌の個性を遺伝子、染色体レベルで具体的に説明できる。					
関心・意欲の観点: 必要な資料の検索が自らできる。					
態度の観点: 病理試料の取扱に心遣いができる。					
病理診断時に患者の気持ちに配慮できる。					
技能・表現の観点: データの整理ができる。					
病理標本の取扱ができる。					
成績評価方法(総合)					
成績評価は出席と演習態度、発表(提出レポートを含む)とにより総合的に行うが、目安としては、各々50%、20%、30%とする。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	4153600007
開設科目名	消化器病態内科学特論			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	坂井田 功			区分	
授業の概要					
消化器疾患の発症, 病態に関して分子生物学的観点から専門的に詳しく学習する。					
授業の一般目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1 消化器疾患における慢性炎症からの発癌に至るメカニズムを詳しく理解し, 分子メカニズムに基づいた診断法と治療法の専門的学習を身につける。 2 肝癌細胞の分子生物学的特長と抗癌剤耐性のメカニズム, および抗癌剤を用いた化学療法を学習する。 3 消化管感染症における¹³C同位元素を用いた診断法の原理を理解する。炎症性腸疾患の発生メカニズムと白血球除去などによる治療法を学習する。 4 消化管・肝胆膵臓器の再生機序を分子生物学的観点から教育し, 臨床での実用化における問題点とその解決策を学習する。 					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 消化器疾患の分子生物学的, 遺伝子レベルでの知識と理解ができる。					
思考・判断の観点: 遺伝子情報が, 生物学的表現になる過程を思考判断できる。					
関心・意欲の観点: 関連論文の検索が行なえる。					
態度の観点: 自主的に学習できる。					
技能・表現の観点: 理解したことを正確に表現できる。					
成績評価方法(総合)					
専門的知識を正確に把握理解できていること。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	4153600008
開設科目名	消化器病態内科学演習			単位	2単位
対象学生				学年	～
担当教員	坂井田 功			区分	
授業の概要					
消化器内科に関する研究の指導を受け、その成果を学会・英文誌に発表する。テーマに関しては、慢性肝炎・脂肪性肝炎における活性酸素障害、肝硬変発生のメカニズムと治療、肝発癌と内科的治療、肝再生を中心に選択させる。研究に関して、グループ内で発表し、討議することにより数々の問題点を指摘・修正する。また、修士学生の実験指導を行い、研究指導の素地を身につける。					
授業の一般目標					
1 研究全体の指導を受け、その成果を英語論文にまとめる。					
2 消化管領域の研究のデザインを学び、論文作成時の個別の疑問点について指導を受け、グループ討論を効率良く行える能力を身につける。					
3 統計学の基本の講義を受け、各研究に適した統計学的処理法について学習する。					
4 課題研究遂行における医学倫理上の問題点について理解し、検討課題について学習する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 研究全体の理解と類似論文の知識を習得する。					
思考・判断の観点: 研究成果の正当性と疑問点を思考判断できる。					
関心・意欲の観点: 関連論文を検索批判できる。					
態度の観点: 自主性をもつ。					
技能・表現の観点: 英語で思考・研究成果・討論を表現できる。					
成績評価方法(総合)					
受理された英語論文の評価。英語での討論できる能力を身につける。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	4153600009
開設科目名	消化器 腫瘍外科学特論			単位	2 単位
対象学生				学年	~
担当教員	岡 正朗			区分	
授業の概要					
消化器癌および乳腺・甲状腺外科に関する、高度な外科治療、手術管理、さらには癌補助療法の専門的知識を理解する。					
授業の一般目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・消化器癌における外科治療を専門的に理解する。 ・消化器癌における定型的手術の手順を十分に理解し、実施できる。 ・手術における生体反応を分子レベルで理解し、術後管理ができる。 ・癌化学療法では遺伝子多型や癌遺伝子の解析から、適当な抗癌剤選択を行う最先端知識を理解する。 ・免疫療法では、最先端の癌細胞療法および癌ワクチン療法について理解し、臨床において実践できる。 ・乳腺・甲状腺癌における外科治療を専門的に理解する。 ・乳腺・甲状腺癌における定型的手術の手順を十分に実施できる。 ・乳癌のホルモン療法、化学療法の最先端を理解し、実施できる。 					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
授業態度及び出席で評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	4153600010
開設科目名	消化器 腫瘍外科学演習			単位	2 単位
対象学生				学年	~
担当教員	岡 正朗			区分	
授業の概要					
<p>消化器癌および乳腺・甲状腺外科に関する研究を行い、その成果を学会発表および国際誌に論文発表する。テーマに関しては、癌遺伝子解析、癌蛋白解析、癌細胞療法、癌遺伝子療法を中心に選択する。研究に関して、グループ内で発表し、討議することにより、方法の修正、結果解釈の問題点、統計処理の問題点、結論に関連する問題点を修正する。また、修士学生の実験指導を行い、研究指導の素地を身に付ける。</p>					
授業の一般目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・消化器癌に関する研究を行い、その成果を英語論文にまとめることができる。 ・論文作成時の統計処理に関して、問題点を修正し、グループ討論を効率良く行うことができる。 ・乳腺・甲状腺外科に関する研究を行い、その成果を英語論文にまとめることができる。 ・修士および学部学生の指導ができる。 					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
授業態度及び出席で評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	4161000001
開設科目名	バイオプロセス設計工学特論			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	山本 修一			区分	
授業の概要					
運動量移動、エネルギー移動、物質移動の3つの移動(輸送)現象について特に拡散現象を中心に説明する。実際のバイオ・食品・医用工学プロセスを例に基礎方程式からはじめて実際の適用例を通して学習する。理解を深めるために数値計算演習や実験をする。英語のテキストも利用する。					
授業の一般目標					
移動現象の基礎式の理解と応用における計算方法を学ぶ。数値計算を理解する。バイオプロセスの特徴を理解する。英語による専門内容を短時間に理解できる力をつける。					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
出席と演習レポート(時間中と時間外)およびプレゼンテーション					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	4163000001
開設科目名	医療診断支援工学特論			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	木戸 尚治			区分	
授業の概要					
<p>コンピュータ支援診断とはコンピュータを用いて医療画像に対して画像解析を行うことにより、病変部の存在診断や質的診断に関する定量的なデータを取得し、その情報を第二に意見として放射線科医がおこなう高度な画像診断のことである。本講義は、コンピュータ支援診断に関する最新の知見を取得することをめざす。</p>					
授業の一般目標					
<p>コンピュータ支援診断に関する最新の知見を取得する。</p>					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点: コンピュータ支援診断に関する最新の知見を取得する。 思考・判断の観点: コンピュータ支援診断の現状を理解し問題点を考える。 関心・意欲の観点: コンピュータ支援診断に関する新たなテーマを発見する。</p>					
成績評価方法(総合)					
<p>出席と論文購読の結果による総合判定をおこなう。</p>					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
<p>E-mail:kido@ai.csse.yamaguchi-u.ac.jp</p>					
オフィスアワー					
<p>火曜 17:00-19:00</p>					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	4163000002
開設科目名	医療診断支援工学演習			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	庄野 逸			区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	416300003
開設科目名	生体医療工学特論			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	齊藤 俊			区分	
授業の概要					
生体などの分布パラメータ系解析のための基礎理論について学習する。					
授業の一般目標					
テンソル解析に基づく数値計算技術の基礎理論を理解する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 1. テンソル(ベクトル)解析の理解 2. 離散化と重み付き残差表現の理解					
成績評価方法(総合)					
課題に対するレポートにより評価					
教科書					
参考書					
シェルの振動と座屈ハンドブック, 社団法人機械学会編, / 鈴木勝義, 成田吉弘, 齊藤 俊他: 技報堂出版, 2003 シェルの振動入門 / 鈴木勝義, 山田 元, 成田吉弘, 齊藤 俊: コロナ社, 1996 テンソル解析と連続体力学 / W. Flugge: ブレイン図書出版, 1979 変分法/応用数学講座第13巻 / 林 毅, 村 外志夫: コロナ社, 1990 境界要素法入門 / C. A. プレビア: 培風館, 1982					
メッセージ					
連絡先					
Tel. 0836-85-9142 E-mail: tsaito@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
火曜日 14:00 ~ 16:00					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	4163000004
開設科目名	生体医療工学演習			単位	2単位
対象学生				学年	～
担当教員	佐伯 壮一			区分	
授業の概要					
<p>生体可視化・光計測技術の習得を目標とする。</p> <p>特に、光を用いた診断技術として、生体マイクロ断層可視化計測のトレンドである、Optical Coherence Tomography (OCT)と取り上げ、光の波動基礎理論から干渉計測法の理解を行う。更に、実際のOCTにより生体計測を実験実施し、生体可視化計測の理解を深める。これと共に、生体と光の相互作用に関して、「散乱」と「偏光」にターゲット絞り、光特性の理解を深める。これらにより、臨床生体計測について、議論を行う。</p>					
授業の一般目標					
生体情報可視化計測技術の習得					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点: 1. 光の基礎方程式を理解する。</p> <p>2. 光干渉計測の基礎理論を理解する。</p> <p>3. 生体と光の相互作用を理解する。</p> <p>思考・判断の観点: 1. 生体組織の診断計測において、光を用いた計測法を自ら提案し新計測法について考察を、実施してみる能力を持つ。</p> <p>関心・意欲の観点: 1. 生体組織の診断計測において、光を用いた計測法を自ら提案する関心を持つ。</p> <p>技能・表現の観点: 1. OCT 計測システムを実際に起動し、生体組織のマイクロ断層画像を取得し、その画像処理を行う体験をする。</p>					
成績評価方法(総合)					
基本的に、講義中に指定した、生体光診断の論文に対するレポートにて評価を行う。					
教科書					
<p>ヘクト光学I: 丸善</p> <p>ヘクト光学II: 丸善</p> <p>応用光学・光計測入門 / 谷田貝豊彦: 丸善</p>					
参考書					
<p>光による医学診断 / 田村守: 共立出版, 2001</p> <p>バイオイメージング / 曾我部正博: 共立出版, 2000</p> <p>生体情報の可視化技術: コロナ社, 1998</p>					
メッセージ					
連絡先					
総合研究棟 4 階 415, s-saeki@yamaguchi-u.ac.jp, Tel 0836-85-9145					
オフィスアワー					
月曜日 13:30 ~ 15:30					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	4163000005
開設科目名	微小生体機械学特論			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	南 和幸			区分	
授業の概要					
<p>微小なセンサやアクチュエータ、生体を模倣したデバイス、および医療などに用いられる微小な機械デバイスなどについて、これまでの研究開発の実例とともに、それを実現する各種微細加工技術について原理の基礎となる物理・化学を交えて解説する。</p>					
授業の一般目標					
<p>微小なセンサやアクチュエータ、生体を模倣したデバイス、および医療などに用いられる微小な機械デバイスなどについて、これまでの研究開発の実例とともに、それを実現する各種微細加工の原理の基礎となる物理・化学を理解する。</p>					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点: 1. 微細加工における重要な物理化学を説明できる。 2. 物理化学の加工への応用方法と材料との相性を説明できる。 3. 原子レベルでの加工現象をイメージできる。 4. デバイスの機能を説明できる。</p> <p>思考・判断の観点: 1. 各加工技術の問題点を指摘できる。 2. 新しい微細加工プロセスを提案できる。 3. 簡単なデバイス案を提案できる</p>					
成績評価方法(総合)					
レポートで評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
電子メールアドレス: minamik@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	4163000006
開設科目名	微小生体機械学演習			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	森 浩二			区分	
授業の概要					
生体組織と医療デバイスの相互作用に関する工学モデルに関して、それを応用して設計された医療デバイスを取り上げ、主として機械工学的観点から親和性を重要視した設計法・考え方について紹介し、医療デバイスの設計について演習する。					
授業の一般目標					
1)医療デバイスを設計する際に考慮すべき諸条件(制約条件)を見つけ出す。 2)それらを工学的手法を用いて解決していくというプロセスを習得することにとどまらず、それらの諸条件を満足させつつ、最適な効果を与える設計法を身につけることを目的とする。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 1)医療デバイスを設計する際に考慮すべき諸条件(制約条件)を見つけ出す。 2)それらを工学的手法を用いて解決していくというプロセスを習得することにとどまらず、それらの諸条件を満足させつつ、最適な効果を与える設計法を身につけることを目的とする。					
思考・判断の観点: 1)医療デバイスを含む様々なデバイスの設計手法を習得する。 2)最適設計法についての知識を習得する。					
技能・表現の観点: 医療デバイスを含む様々なデバイスの設計手法・思想を第三者に客観的に伝えられる。					
成績評価方法(総合)					
レポートを重視して評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
医療デバイスには、様々な工学的手法が応用できます。そのことを理解しよりよい医療デバイスの研究開発に役立ててください					
連絡先					
kjmori@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
金曜日 10:00 ~ 11:30					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	4163000007
開設科目名	医用機械工学特論			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	大木 順司			区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	4163000008
開設科目名	医用機械工学演習			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	大木 順司			区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	416300009
開設科目名	生体触媒反応工学特論			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	吉本 誠			区分	
授業の概要					
高機能化生体触媒を活用する環境調和型生体触媒反応プロセスの設計と開発について、1) 自然界の物質変換における生体触媒の役割、2)人工脂質二分子膜小胞(リポソーム)と酵素等との複合化による高機能化生体触媒の調製と特性、3) 高機能化生体触媒の担体への固定化法、4) 高機能化生体触媒に適したバイオリアクターの設計、5) 高機能化生体触媒を活用する環境調和型バイオリアクターの研究開発事例の各観点から講述する。					
授業の一般目標					
1. 物質変換における生体触媒および固定化生体触媒の機能と特徴を理解する。2. 人工脂質二分子膜小胞(リポソーム)の生成原理と調製法を理解する。3. リポソームと生体触媒との複合化による高機能化生体触媒の調製と特性を理解する。4. 高機能化生体触媒に適したバイオリアクターの設計法を理解する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 1. 固定化生体触媒の機能と特徴を理解する。2. 脂質分子集合体の形態制御と調製法を理解する。3. 脂質分子集合体内で進行する反応の速度論について理解する。4. 高機能化生体触媒を懸濁したバイオリアクターの選定・設計法を理解する。					
思考・判断の観点: 1. バイオリアクターに適する生体触媒の修飾法を指摘できる。2. 脂質分子集合体複合化酵素の調製法、特性、反応速度論を指摘できる。3. 高機能化生体触媒に適したバイオリアクターを選定、設計できる。					
関心・意欲の観点: 高機能化生体触媒を活用するバイオリアクターの利用を推進することに関心をもつ。					
態度の観点: 生物、化学工学などの関連する分野を有機的に活用する。					
成績評価方法(総合)					
出席、レポート課題を総合評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
yosimoto@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
在室時随時					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	4163000010
開設科目名	生体触媒反応工学演習			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	吉本 誠			区分	
授業の概要					
<p>酵素や微生物を修飾した高機能化生体触媒を活用する環境調和型生体触媒反応プロセスの設計方法と操作について理解する。特に、酵素や両親媒性分子等から形成される生体分子の自己集合系を活用する高機能化生体触媒の設計、触媒性能の評価および担体への固定化方法についての理解を深める。加えて、固定化した高機能化生体触媒を活用する環境調和型のバイオリアクターの設計開発のための方法論について最新の研究開発事例をもとに理解する。</p>					
授業の一般目標					
<p>1. 酵素や両親媒性分子等から形成される高機能化生体触媒の設計、触媒性能の評価および担体への固定化方法を理解する。2. 固定化高機能化生体触媒を活用する環境調和型バイオリアクターの設計開発のための方法論を理解する。</p>					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点:1. 脂質分子集合の形成原理と酵素との複合化について理解する。2. 高機能化生体触媒と遊離酵素の特徴の相違について理解する。3. 高機能化生体触媒の担体への固定化による触媒耐久性・再利用性の変化について理解する。3. 高機能化生体触媒を活用する環境調和型バイオリアクターについて理解する。</p> <p>思考・判断の観点:1. 酵素と脂質二分子膜の複合化による酵素機能の変化を指摘できる。2. 固定化高機能化生体触媒による反応の速度論を指摘できる。3. 高機能化生体触媒を活用する環境調和型バイオリアクターの設計開発の方法と意義を指摘できる。</p> <p>関心・意欲の観点:高機能化生体触媒を活用するバイオリアクターを開発することの意義に関心をもつ。</p>					
成績評価方法(総合)					
出席、レポート課題により評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
yosimoto@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
在室時節時					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	4163000011
開設科目名	ゲノム生物学特論			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	赤田 倫治			区分	
授業の概要					
ゲノムレベルでの生命理解を進め、すべての遺伝子や、すべてのタンパク質の統合体としての生命活動を理解する。さらに、ゲノムレベルでの解析法や応用科学の最先端を講義し、先端生物学と産業のつながりを個々の事例をもとに学ぶ。					
授業の一般目標					
興味あるゲノムレベルでの生命像を探りながら応用への展開について議論する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 遺伝子、分子生物学、ゲノムレベルの生物学に対する高度な知識を身につける					
思考・判断の観点: 最新の論文から科学的結果の理解と評価の基準を身につける					
関心・意欲の観点: あらゆる生命科学に対する興味を身につける					
技能・表現の観点: プレゼンテーションにより自分の知識や思考をディスカッションする能力を身につける					
成績評価方法(総合)					
プレゼンテーションにより評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
rinji@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	4163000012
開設科目名	ゲノム生物学演習			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	赤田 倫治			区分	
授業の概要					
ゲノムレベルでの生命理解を進め、すべての遺伝子や、すべてのタンパク質の統合体としての生命活動を理解する。さらに、ゲノムレベルでの解析法や応用科学の最先端を講義し、先端生物学と産業のつながりを個々の事例をもとに学ぶ。					
授業の一般目標					
興味あるゲノムレベルでの生命像を探りながら応用への展開について議論する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 遺伝子、分子生物学、ゲノムレベルの生物学に対する高度な知識を身につける					
思考・判断の観点: 最新の論文から科学的結果の理解と評価の基準を身につける					
関心・意欲の観点: あらゆる生命科学に対する興味を身につける					
技能・表現の観点: プレゼンテーションにより自分の知識や思考をディスカッションする能力を身につける					
成績評価方法(総合)					
プレゼンテーションにより評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
rinji@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	4163000013
開設科目名	分子パターン認識特論			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	浜本 義彦			区分	
授業の概要					
統計的パターン認識における特徴選択法と特徴抽出法を学び、さらに教師なし学習としてクラスタ分析についても学ぶ。					
授業の一般目標					
(1)ゲノム解析における特徴選択の意義を理解する。 (2)次元圧縮の概要とその必要性を理解する。 (3)教師なし学習の概要を理解する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: (1)統計的パターン認識における特徴選択と特徴抽出の概念を説明できる。 (2)ゲノム解析における特徴選択の意義を説明できる。 (3)基本的な特徴選択法と特徴抽出法を説明できる。 (4)教師なし学習の仕方を説明できる。					
成績評価方法(総合)					
小テストとレポートを総合的に評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
線形代数と確率統計の初歩について予備知識が必要					
連絡先					
hamamoto@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
hamamoto@yamaguchi-u.ac.jp					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	4163000014
開設科目名	分子パターン認識演習			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	平林 晃			区分	
授業の概要					
<p>遺伝子情報等のパターン処理では、実際の信号データは連続量であるにも関わらず、計測で得られる信号は離散的なデジタル量であるという問題に対する対策を講じる必要がある。本演習では、生体から計測によって得られるデジタル信号やデジタル画像を用いて、その背後に潜む真の連続信号や連続画像を推定する問題を学習理論として定式化し、この問題に対する様々な解決法を講述し、シミュレーション作業をパーソナルコンピュータ上で行うことにより、学習理論的アプローチに対する理解を深める。</p>					
授業の一般目標					
<p>信号推定問題の「逆問題」による定式化と、それに基づく射影学習およびその後の発展的項目に関して理解する。</p>					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点:射影フィルタ理論に関する理解</p>					
成績評価方法(総合)					
<p>期末レポートによって評価する。</p>					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
<p>内線9516、メール:a-hira@yamaguchi-u.ac.jp</p>					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	4163000015
開設科目名	生命有機合成化学特論			単位	2 単位
対象学生				学年	~
担当教員	上村 明男			区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	4163000016
開設科目名	生命有機合成化学演習			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	上村 明男			区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	4163000017
開設科目名	生命有機反応化学特論			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	野口 三千彦			区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	4163000018
開設科目名	生命有機反応化学演習			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	野口 三千彦			区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	4163000019
開設科目名	機能高分子材料科学特論			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	堤 宏守			区分	
授業の概要					
機能高分子材料の分子設計の考え方,機能付与の手法,機能の解析について講述する。さらに実際の例において,具体的に材料がどのように設計され機能展開しているかを学ぶ。特に,医療分野やバイオ関連分野における機能高分子材料の応用展開の実例として,生体適合材料,分子認識材料,センサー材料について詳細に講述する。これらの基礎となる考え方を学ぶと共に,実際の系への展開の際に必要な応用力の育成を目指した学習を行う。					
授業の一般目標					
機能高分子材料の分子設計の考え方,機能付与の手法,機能の解析について理解する。実際の例において,具体的に材料がどのように設計され機能展開しているかを理解する。 医療分野やバイオ関連分野における機能高分子材料の応用展開の実例として,生体適合材料,分子認識材料,センサー材料について理解する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 機能高分子材料の分子設計の考え方,機能付与の手法,機能の解析について理解する。実際の例において,具体的に材料がどのように設計され機能展開しているかを理解する。 医療分野やバイオ関連分野における機能高分子材料の応用展開の実例として,生体適合材料,分子認識材料,センサー材料について理解する。					
思考・判断の観点: 機能高分子材料の実際の系(医療・生命化学系)への展開の際に必要な応用力の育成を目指した学習を行う。					
成績評価方法(総合)					
受講希望者数により授業形態を変えるので,それに伴い成績評価方法も変わる。基本的にはレポートなどで最終的な成績評価を行う。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
受講者の人数により講義形態を変えるので,事前に問い合わせること。					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	4163000020
開設科目名	機能高分子材料科学演習			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	堤 宏守			区分	
授業の概要					
能高分子材料科学特論の内容について、演習や受講者の文献調査・調査内容の発表・内容の討論などにより講義内容の理解を深める。さらに、医療分野やバイオ関連分野において、機能高分子材料を用いる際の応用力を、実際の応用を想定した課題やケーススタディなどにより育成する。					
授業の一般目標					
機能高分子材料科学特論の内容について、演習や受講者の文献調査・調査内容の発表・内容の討論などにより講義内容の理解を深める。さらに、医療分野やバイオ関連分野において、機能高分子材料を用いる際の応用力を、実際の応用を想定した課題やケーススタディなどにより育成する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 機能高分子材料科学特論の内容について、演習や受講者の文献調査・調査内容の発表・内容の討論などにより講義内容の理解を深める。					
思考・判断の観点: さらに、医療分野やバイオ関連分野において、機能高分子材料を用いる際の応用力を、実際の応用を想定した課題やケーススタディなどにより育成する。					
成績評価方法(総合)					
講義形態などに依存して成績評価方法は異なるが、基本的には、課題などの提出と提出物の内容により成績を評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
受講者数により実施形態を変えますので、事前に受講希望者は問い合わせして下さい。					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	4163000021
開設科目名	バイオプロセス設計工学演習			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	山本 修一			区分	
授業の概要					
バイオプロセス設計工学特論に関する演習を実施する。コンピュータによるプログラミング計算や実験も行う。					
授業の一般目標					
演習を通じてバイオプロセス設計工学特論の理解を深める。					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	4173000001
開設科目名	微生物分子生物学特論			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	山田 守			区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	4173000002
開設科目名	微生物分子生物学演習			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	山田 守			区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	4173000003
開設科目名	分子細胞生化学特論			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	内海 俊彦			区分	
授業の概要					
細胞間及び細胞内における細胞情報伝達に機能する生体機能分子の構造とその機能発現機構を分子レベルで理解するとともに、それらの解析に用いられる分子生物学的手法を学ぶ。さらに、タンパク質工学的手法を用いた機能改変により新規な有用バイオ分子を創生する手法やその実施例について最近の知見を含め学習する。					
授業の一般目標					
細胞情報伝達に機能する生体機能分子の構造とその機能発現機構を分子レベルで理解するとともに、新規な有用バイオ分子を創生するための手法や、実施例等についての理解を深める。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 細胞間及び細胞内における細胞情報伝達に機能する生体機能分子の構造とその機能発現機構を分子レベルで理解する。					
関心・意欲の観点: 最新の分子生物学的手法、タンパク質工学的手法、バイオインフォーマティクスによる手法に感心を持ち、これら取り入れる積極的な研究態度を身につける。					
成績評価方法(総合)					
出席およびレポートにより評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					
随時					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	4173000004
開設科目名	分子細胞生化学演習			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	内海 俊彦			区分	
授業の概要					
細胞情報伝達に機能する生体機能分子の構造とその機能発現機構に関する最新のトピックスをとりあげ、関係する研究論文を精読し理解するとともに、その方法論、論理展開、研究結果の解釈等の妥当性について議論する。					
授業の一般目標					
生体機能分子の構造とその機能発現機構に関する最新の研究論文を読み、その内容を理解するとともに、その方法論、論理展開、研究結果の解釈等の妥当性について議論する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 生体機能分子の構造とその機能発現機構に関する最新の知見を得る。					
思考・判断の観点: 研究論文の内容に関して、その方法論、論理展開、研究結果の解釈等の妥当性について客観的評価を行うことのできる能力を養う。					
成績評価方法(総合)					
出席およびプレゼンテーションにより評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					
随時					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	4173000005
開設科目名	運動生理学特論			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	宮田 浩文			区分	
授業の概要					
運動に対する骨格筋とその支配神経(運動ニューロン)の適応を論じ、神経と筋の基本的な構造と機能およびその可塑性を概説する。					
授業の一般目標					
運動に対する適応変化を細胞レベル、タンパクレベル、遺伝子レベルで理解できるようにする。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 運動に対する適応変化を、細胞レベル、タンパクレベル、遺伝子レベルで理解できる。					
思考・判断の観点: 異なる運動に対する適応変化を、細胞レベル、タンパクレベル、遺伝子レベルで推察できる。					
関心・意欲の観点: 自分を含む身の回りの適応について感心を示す。					
態度の観点: 分かっていないことに関する疑問を具体的に提示することができる。					
成績評価方法(総合)					
授業中のプレゼンテーションと小レポートの内容を主な評価の対象とする。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
遅刻、私語、飲食は厳禁					
連絡先					
hiro@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
月曜日午前中					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	4173000006
開設科目名	運動生理学演習			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	宮田 浩文			区分	
授業の概要					
様々な刺激に対する骨格筋とその支配神経(運動ニューロン)の適応を論じ、神経と筋の基本的な構造と機能およびその可塑性を概説する。					
授業の一般目標					
行動の企画・発生に関わるニューロンと筋細胞の構造機能を理解し、細胞レベルで適応変化を理解できるようにする。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 1. 細胞の基本構造と機能を詳細に説明できる。 2. 細胞の適応変化を詳細に説明できる。					
思考・判断の観点: 1. 適応変化の過程と結果を詳細に推察できる。 2. 適応変化に必要な刺激を詳細に考察できる。					
関心・意欲の観点: 1. 自分を含む身の回りの生物機能について感心を示す。					
態度の観点: 1. 分かっていないことに関する疑問を具体的に提示することができる。					
成績評価方法(総合)					
授業中のプレゼンテーションと小レポートの内容を主な評価の対象とする。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
遅刻、私語、飲食は厳禁					
連絡先					
hiro@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
月曜日午前中					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	4173000007
開設科目名	植物代謝生理学特論			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	松井 健二			区分	
授業の概要					
植物由来の二次代謝産物には多くの生理活性物質が含まれ、人類は古来よりこれらを医薬品、嗜好品等として利用してきた。現在ではこうした植物の能力を巧みに引き出し、利用する様々な手法が開発されてきている。本特論では植物を中心に生物一般の分子遺伝学的アプローチについて概説し、植物代謝工学の最新の動向を詳説する。					
授業の一般目標					
植物の多彩な生理活性物質を理解し、その生合成代謝経路を把握する。また、メタボロミクスの思考法を修得する。					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
出席、レポート課題、試験を総合的に評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	4173000008
開設科目名	植物代謝生理学演習			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	松井 健二			区分	
授業の概要					
植物が有する生理活性物質合成経路を分子遺伝学的に明らかにし、その成果を代謝工学に応用して効率良く目的とする生理活性物質を単離するための戦略について演習を行う。					
授業の一般目標					
微生物、動物と比較しながら植物特有の問題について理解する。					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
出席、レポート課題、試験を総合的に評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	4173000009
開設科目名	酵素化学特論			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	薬師 寿治			区分	
授業の概要					
酵素, 機能タンパク質の作用を分子レベル, 原子レベルで解説する。特に分子モーターと呼ばれる機能タンパク質群を中心に, 原子 / 分子のレベルで起きるイベントが, 細胞や個体の生理に繋がる部分について解説する。					
授業の一般目標					
酵素, 機能タンパク質の作用を分子レベル, 原子レベルで理解する。そのミクロなイベントが, 細胞や個体レベルでどのような機能に関連するのかを理解する。					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
出席, 講義への参加態度, レポートなどにより評価する。					
教科書					
参考書					
Biochemistry, 6th edition / Jeremy M. Berg (著), John L. Tymoczko (著), Lubert Stryer (著): W.H. Freeman & Co Ltd, 2006					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	4173000010
開設科目名	酵素化学演習			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	薬師 寿治			区分	
授業の概要					
広い意味での酵素化学に関する最新の論文について発表・討論し、未来に向けた酵素科学の発展を議論する。					
授業の一般目標					
広い意味での酵素化学に関して、分子メカニズムの解明に迫る研究論文を講読・理解し、その優れた点や問題点を抽出できるようにする。					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
出席、プレゼンテーション、講義への参加態度などから総合的に評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	5151000001
開設科目名	生命倫理学特論			単位	1単位
対象学生				学年	~
担当教員	谷田 憲俊			区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	5151000002
開設科目名	医療情報倫理学特論			単位	1単位
対象学生				学年	~
担当教員	井上 裕二			区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	515100003
開設科目名	医学共通基礎科目			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員				区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	5151500001
開設科目名	生命倫理学特論			単位	1単位
対象学生				学年	~
担当教員	谷田 憲俊			区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	5151500002
開設科目名	医療情報倫理学特論			単位	1単位
対象学生				学年	~
担当教員	井上 裕二			区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	5151500003
開設科目名	医学共通基礎科目			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員				区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	5152000001
開設科目名	情報科学特論			単位	1単位
対象学生				学年	~
担当教員	山本 隆, 松野 浩嗣, 小宮 克弘, 松村 澄子, 末竹 規哲, 廣澤 史彦			区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期集中	曜日時限	集中	時間割コード	5152000002
開設科目名	物理・地球科学特論			単位	1単位
対象学生				学年	~
担当教員	野崎 浩二, 三浦 保範			区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	5152000003
開設科目名	化学・生物科学特論			単位	1単位
対象学生				学年	~
担当教員				区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	5152000004
開設科目名	知的財産権特論			単位	1単位
対象学生				学年	~
担当教員	三木 俊克			区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	後期	曜日時限	未定	時間割コード	5152000005
開設科目名	ネットワーク情報倫理特論			単位	1単位
対象学生				学年	~
担当教員				区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	前期	曜日時限	未定	時間割コード	5152000006
開設科目名	労働安全衛生特論			単位	1単位
対象学生				学年	~
担当教員	中山 則昭			区分	
授業の概要					
労働安全衛生法にもとづき必要とされる安全衛生管理等について概説するとともに、事故・災害対策、化学物質の管理と環境配慮、工作機械・放射線装置・高圧ポンプなどの利用に伴う安全管理の実際について講述する。					
授業の一般目標					
1.労働安全衛生法に基づく、安全管理、衛生管理の概要について理解する。					
2.一般的な労働環境管理、健康管理、火災予防、地震対策、負傷・事故時の応急措置などについて理解するとともに、応急措置について講述する。					
3.大学において取り扱う化学物質に対する法規制、危険性・有害性、管理方法、廃棄処理法について理解する。					
4.工作機械・電気機器・放射線装置・高圧ポンプ・寒剤(液化ガス)などの安全な取扱い方法、危機管理の方法について理解する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 1.労働安全衛生法に基づく、安全管理、衛生管理の概要が説明出来、日常的な安全点検・衛生点検が実施出来ること。					
2.各自の実験・実習作業環境において、危険予知が出来、事故時に適切な処置が可能となる知識を身に付けていること。					
思考・判断の観点: 1.各自の実験・実習作業環境において、安全管理・衛生管理が必要な事項を認知し、適切な管理・点検を実施出来ること。					
成績評価方法(総合)					
各講義においては、小テストを課し、合格点を得ることにより出席とする。救急救命1及び救急救命2においてはレポートを課題とする。これらの評点で成績を評価する。7コマ分以上受講し、各講義の小テスト・レポートについて合格点を得ることにより、1単位を取得することが出来る。					
教科書					
「安全・衛生と健康のてびき」/国立大学法人山口大学労働安全衛生委員会編					
参考書					
大学人のための安全衛生管理ガイド/鈴木直他著:東京化学同人,2005					
環境・安全・衛生 大学のアピール/伊永 隆史:三共出版,2006					
メッセージ					
連絡先					
中山則昭(山口大学労働安全衛生委員会工学部委員):E-mail naka@yamaguchi-u.ac.jp, 電話 0836-85-9650, 研究室 工本館北3F338					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153000004
開設科目名	最先端ライフサイエンス研究科目			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員				区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153000005
開設科目名	人体機能形態学特論(組織学演習)			単位	3単位
対象学生				学年	~
担当教員	大和田 祐二			区分	
授業の概要					
人体を構成する組織や細胞について、顕微鏡を通して観察される構造物の形と機能を関連させて理解することを目標とする。					
授業の一般目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1 細胞構造の基本的な成り立ちを理解する。 2 細胞の集合としての組織構造とその多様性について理解する。 3 細胞や組織の構造的な特徴が、各々の固有な働きと密接に関連していることを理解する。 					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 正確な単語を使って、細胞や組織の特徴を説明することができる。					
態度の観点: 受身ではなく、積極的に問題や疑問を解決する。					
その他の観点: 専門的用語や、表現法を用いて説明やディスカッションができる。					
成績評価方法(総合)					
口頭試問を行う。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153000006
開設科目名	人体機能形態学特論(組織学実験実習)			単位	3単位
対象学生				学年	~
担当教員	大和田 祐二			区分	
授業の概要					
人体を構成する組織や細胞について、顕微鏡を通して観察される構造物の形と機能を関連させて理解することを目標とする。					
授業の一般目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1 細胞構造の基本的な成り立ちを理解する。 2 細胞の集合としての組織構造とその多様性について理解する。 3 細胞や組織の構造的な特徴が、各々の固有な働きと密接に関連していることを理解する。 					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 正確な単語を使って、細胞や組織の特徴を説明することができる。					
態度の観点: 受身ではなく、積極的に問題や疑問を解決する。					
技能・表現の観点: 専門的用語や、表現法を用いて説明やディスカッションができる。					
成績評価方法(総合)					
口頭試問を行う。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153000007
開設科目名	人体機能形態学特論(器官解剖学演習)			単位	3単位
対象学生				学年	~
担当教員	徳田 信子			区分	
授業の概要					
人体機能を形態学的に学ぶ。					
授業の一般目標					
形態学を基として人体機能を説明することができる。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 人体の構造を理解する。					
思考・判断の観点: 人体の構造に基づいて機能を考察することができる。					
態度の観点: 人体や生命に対して敬意を持って行動できる。					
成績評価方法(総合)					
口頭質問を行う。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	515300008
開設科目名	人体機能形態学特論(器官解剖学実験実習)			単位	3単位
対象学生				学年	~
担当教員	徳田 信子			区分	
授業の概要					
実習を通して人体機能を形態学的に学ぶ。					
授業の一般目標					
形態学を基として人体機能を説明することができる。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 人体の構造を理解する。					
思考・判断の観点: 人体の構造に基づいて機能を考察することができる。					
態度の観点: 人体や生命に対して敬意を持って行動できる。					
技能・表現の観点: 実験や実習を自分で行い、得た知識を発表することができる。					
成績評価方法(総合)					
口頭試問を行う。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153000009
開設科目名	人体機能形態学特論(脂肪酸の細胞生物学演習)			単位	3単位
対象学生				学年	~
担当教員	大和田 祐二			区分	
授業の概要					
人体とその構成要素である細胞の機能を、脂質特に脂肪酸の動きや生理活性の観点から理解することを目的とする。					
授業の一般目標					
1 生体膜の構成要素である脂質の変化が、細胞機能の変化につながる機序について理解する。					
2 食餌性脂質(脂肪酸)が神経系や免疫系などの細胞に及ぼす影響について理解する。					
3 脂質(脂肪酸)代謝や動態を制御する分子が、いかなる機序で細胞機能の表出に関わるのかを理解する。					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
口頭質問を行う。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153000010
開設科目名	人体機能形態学特論(脂肪酸の細胞生物学実験実習)			単位	3単位
対象学生				学年	~
担当教員	大和田 祐二			区分	
授業の概要					
人体とその構成要素である細胞の機能を、脂質特に脂肪酸の動きや生理活性の観点から理解することを目的とする。					
授業の一般目標					
1 生体膜の構成要素である脂質の変化が、細胞機能の変化につながる機序について理解する。					
2 食餌性脂質(脂肪酸)が神経系や免疫系などの細胞に及ぼす影響について理解する。					
3 脂質(脂肪酸)代謝や動態を制御する分子が、いかなる機序で細胞機能の表出に関わるのかを理解する。					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
□頭稯諮問を行う。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153000011
開設科目名	人体機能形態学特論(免疫細胞の生物学演習)			単位	3単位
対象学生				学年	~
担当教員	澤田 知夫			区分	
授業の概要					
免疫現象を多種多様の細胞からなる細胞集団(細胞社会)が作り出す現象として捉え、免疫現象を細胞生物学的側面から考えることを目標として、原著論文・総説(英語文献を主とする)を読み内容を基にディスカッションを行う。					
授業の一般目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1. 免疫システムの中では多くの細胞が機能的ネットワークを形成していることを理解する。 2. 免疫担当細胞(リンパ球など)が持つ、細胞として一般的な性質について理解する。 3. 各種の免疫担当細胞(リンパ球など)が特有に持つ細胞学的性質が何であるかを理解する。 4. 一種類の細胞あるいは細胞群の変化が、どのようにしてシステム全体に影響を与えるかについて推理する。 					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点: 免疫システム全体に関わる細胞群の種類やその多様性の広がりについて概ねの知識を持ち、それぞれに関する詳細な情報を何処でどのようにして得ることができるか(その情報の信頼性を確認する方法も加えて)を知っている。</p> <p>思考・判断の観点: 免疫現象やそれに関わる細胞を探究し理解するために、免疫学以外の分野の知識や情報を有効に適用・活用できる。またそれによって、免疫学独自の考え方や概念、あるいは問題を見出すことができる。</p> <p>関心・意欲の観点: 1. 免疫学・免疫現象への興味に限らず、広く多様な細胞の活動や発生分化、機能の発現・停止のスイッチ、細胞死などに興味を持つ。 2. ある細胞や生体における現象を見る時に、常に前後の時間経過に関心を持つ。例: 個体や細胞の発生 分化・成長(成熟) 老化(死)</p> <p>態度の観点: 1. 自ら考え、自ら探究する態度。 2. 自らの考えと先人たちの考えを識別し、双方を客観的に比較検討する態度。</p> <p>技能・表現の観点: 1. 専門的な用語、概念、表現手法などを用いて情報収集・情報伝達ができる能力。 2. 英語文献その他の情報源を有効に活用できる能力。</p>					
成績評価方法(総合)					
各回ごとの演習内容における理解度、向上への意欲、自主自発的に課題を達成しようとする態度、科学的客観性を高めようとする努力、などを総合的に判断し評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153000012
開設科目名	人体機能形態学特論(免疫細胞の生物学実験実習)			単位	3単位
対象学生				学年	~
担当教員	澤田 知夫			区分	
授業の概要					
免疫現象を細胞生物学的側面から考えることを目標として、主に免疫担当細胞(リンパ球など)に対する細胞生物学的な研究手法を実習により学ぶ。					
授業の一般目標					
免疫担当細胞(リンパ球など)に対する一般的な細胞生物学研究手法を体験し、主な手法を修得する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 1. 各種実験それぞれにおいて、その目的を理解する。 2. 各種実験それぞれの利点・欠点を理解する。 3. 各種実験それぞれの構成要件・成立要件を理解する。					
思考・判断の観点: 1. 生命現象の探究において実験という手法の持つ意義を考える。 2. 各種実験それぞれにおいて、手順や構成要素の重要度を比較・整理する。 3. 各種実験それぞれにおいて、得られた結果を客観的・正等に評価する。 4. 各種実験それぞれにおいて、得られたデータを整理し有効な提示方法を考える。 5. 実験におけるデータと、正常・自然下で見られる現象の差について考える。 6. 実験結果に及ぼす人為的要素の影響について考える。					
関心・意欲の観点: 1. 生命現象を実験という手法によって解析することに関心を持つ。 2. 生命の尊重と、実験の重要性のバランスについて感心を持つ。 3. 主体的に実験・実習を行おうという意欲を持つ。 4. ミスや失敗の原因についての関心を持つ。					
態度の観点: 1. 実験・実習における集中力。 2. 実験・実習において自ら工夫する態度。					
技能・表現の観点: 1. 正確な実験操作。 2. 実験への集中力。 3. 手順の工夫					
成績評価方法(総合)					
実験実習における主体性、手技の正確性、知識の正確性、などを総合的に判断・評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153000013
開設科目名	人体機能形態学特論(上皮系細胞の生物学演習)			単位	3単位
対象学生				学年	~
担当教員	大和田 祐二			区分	
授業の概要					
種々の組織・細胞の中から特に上皮系細胞に着目し、その形態学的・生物学的な特性について理解を深める。					
授業の一般目標					
上皮系細胞の光顕・電顕的特徴を知るとともに、細胞の接着・遊走などの機能について生物学的特性を理解する。さらに上皮系細胞特有の機能を調節する細胞内シグナル伝達機構について理解する。					
授業の到達目標					
関心・意欲の観点: 自ら最新の知見が記載された学術論文を読み、その理解に努める。					
技能・表現の観点: 細胞培養や基本的な形態学的・分子生物学的実験手法を習得する。					
成績評価方法(総合)					
口頭諮問を行う。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153000014
開設科目名	人体機能形態学特論(上皮系細胞の生物学実験実習)			単位	3単位
対象学生				学年	~
担当教員	大和田 祐二			区分	
授業の概要					
種々の組織・細胞の中から特に上皮系細胞に着目し、その形態学的・生物学的な特性について理解を深める。					
授業の一般目標					
上皮系細胞の光顕・電顕的特徴を知るとともに、細胞の接着・遊走などの機能について生物学的特性を理解する。さらに上皮系細胞特有の機能を調節する細胞内シグナル伝達機構について理解する。					
授業の到達目標					
関心・意欲の観点: 自ら最新の知見が記載された学術論文を読み、その理解に努める。					
技能・表現の観点: 細胞培養や基本的な形態学的・分子生物学の実験手法を習得する。					
成績評価方法(総合)					
口頭諮問を行う。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153000015
開設科目名	整形外科科学特論(整形外科診断学演習)			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	田口 敏彦			区分	
授業の概要					
整形外科的診断に必要な電気生理学的検査、画像検査、組織学的検査の原理および意義と評価法について講義する。					
授業の一般目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・脊髄症および脊髄損傷時の脊髄形態から、臨床的病態をバイオメカニカルに把握する。 ・脊髄の電気生理学的な異常により、脊髄の病態の空間的・時間的に把握する。 ・運動器外傷における損傷パターンと治癒機転を総合的に理解する。 					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 運動器疾患における予防について理解し、理学所見ならびに画像検査所見による鑑別診断ができる。					
思考・判断の観点: 運動器疾患に対する標準的治療法とその適応について述べることができる。					
成績評価方法(総合)					
成績評価は基本的には、出席(30%)と発表(70%)で行う。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153000016
開設科目名	整形外科科学特論(整形外科診断学実験実習)			単位	4単位
対象学生				学年	~
担当教員	田口 敏彦			区分	
授業の概要					
実際の症例について、電気生理学的検査、画像検査、組織学的検査の手技と評価の実習を行う。					
授業の一般目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・脊髄症および脊髄損傷時の脊髄形態から、臨床的病態をバイオメカニカルに把握する。 ・脊髄の電気生理学的な異常により、脊髄の病態の空間的・時間的に把握する。 ・運動器外傷における損傷パターンと治癒機転を総合的に理解する。 					
授業の到達目標					
技能・表現の観点: 運動器疾患の診断のための理学所見をとることができ、必要な検査ができる。					
成績評価方法(総合)					
成績は基本的には出席(30%)および発表(70%)で行う。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153000017
開設科目名	整形外科科学特論(整形外科治療学演習)保存的治療学			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	田中 浩			区分	
授業の概要					
整形外科疾患に対する薬物療法、理学療法、リハビリテーションについて、その作用機序と効果、評価法について講義する。					
授業の一般目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・脊髄症および脊髄損傷時の脊髄形態から、臨床的病態をバイオメカニカルに把握する。 ・脊髄の電気生理学的な異常により、脊髄の病態の空間的・時間的に把握する。 ・運動器外傷における損傷パターンと治癒機転を総合的に理解する。 					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 整形外科の保存的治療に関して、概略を理解し、具体的方法について説明できる。					
成績評価方法(総合)					
筆記試験、レポート提出は行わず、出席、授業態度、理解度を総合的に評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153000018
開設科目名	整形外科科学特論(整形外科治療学実験実習)保存的治療学			単位	4単位
対象学生				学年	~
担当教員	田中 浩			区分	
授業の概要					
整形外科疾患に対する薬物療法、理学療法、リハビリテーションについて、その作用機序と効果、評価法について実習する。					
授業の一般目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・脊髄症および脊髄損傷時の脊髄形態から、臨床的病態をバイオメカニカルに把握する。 ・脊髄の電気生理学的な異常により、脊髄の病態の空間的・時間的に把握する。 ・運動器外傷における損傷パターンと治癒機転を総合的に理解する。 					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 整形外科の保存的治療に関して、実験実習を通して概略を理解し、具体的方法について説明できる。					
成績評価方法(総合)					
筆記試験、レポート提出は行わず、出席、実験実習の態度、理解度を総合的に評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153000019
開設科目名	整形外科科学特論(整形外科治療学演習)手術的治療学			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	・ 富 充則			区分	
授業の概要					
整形外科疾患に対する手術的治療法について、その適応と禁忌、効果、評価法について講義する。					
授業の一般目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 脊髄症および脊髄損傷時の脊髄形態から、臨床的病態をバイオメカニカルに把握する。 ・ 脊髄の電気生理学的な異常により、脊髄の病態の空間的・時間的に把握する。 ・ 運動器外傷における損傷パターンと治癒機転を総合的に理解する。 					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 整形外科関連の代表的骨代謝性疾患について、その病態・診断法(鑑別診断を含む)・治療法について説明できる。					
成績評価方法(総合)					
成績評価は基本的に、出席(30%)と試験(70%)で行う。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153000020
開設科目名	整形外科科学特論(整形外科治療学実験実習)手術的治療学			単位	4単位
対象学生				学年	~
担当教員	・ 富 充則			区分	
授業の概要					
実際の症例に対する手術的治療法を行い、その適応と禁忌、効果、評価について講義する。					
授業の一般目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・ 脊髄症および脊髄損傷時の脊髄形態から、臨床的病態をバイオメカニカルに把握する。 ・ 脊髄の電気生理学的な異常により、脊髄の病態の空間的・時間的に把握する。 ・ 運動器外傷における損傷パターンと治癒機転を総合的に理解する。 					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 骨・軟部組織の研究を行う場合の方法について説明できる。					
成績評価方法(総合)					
成績評価は基本的に、出席(30%)と試験(70%)で行う。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153000021
開設科目名	整形外科科学特論(脊椎外科学演習)			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	田口 敏彦			区分	
授業の概要					
脊椎・脊髄疾患の病態の理解、その診断法、治療法について学習する。					
授業の一般目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・脊髄症および脊髄損傷時の脊髄形態から、臨床的病態をバイオメカニカルに把握する。 ・脊髄の電気生理学的な異常により、脊髄の病態の空間的・時間的に把握する。 ・運動器外傷における損傷パターンと治癒機転を総合的に理解する。 					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 脊椎・脊髄疾患について病態を理解し、鑑別診断ができる。					
成績評価方法(総合)					
基本的には出席(30%)および発表(70%)で行う。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153000022
開設科目名	整形外科科学特論(脊椎外科学実験実習)			単位	4単位
対象学生				学年	~
担当教員	田口 敏彦			区分	
授業の概要					
脊椎・脊髄疾患に対する保存的・手術的治療法について、実際に、その適応と禁忌、効果、評価について講義する。					
授業の一般目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・脊髄症および脊髄損傷時の脊髄形態から、臨床的病態をバイオメカニカルに把握する。 ・脊髄の電気生理学的な異常により、脊髄の病態の空間的・時間的に把握する。 ・運動器外傷における損傷パターンと治癒機転を総合的に理解する。 					
授業の到達目標					
技能・表現の観点: 脊椎・脊髄疾患に対する保存的治療および標準的手術ができる。					
成績評価方法(総合)					
成績評価は基本的には出席(30%)と発表(70%)で行う。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153000023
開設科目名	整形外科科学特論(運動器外傷学演習)			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	村松 慶一			区分	
授業の概要					
運動器外傷の病態を理解し、その診断法、治療法について原理、評価法について講義する					
授業の一般目標					
運動器外傷における損傷パターンと治癒機転を総合的に理解する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 整形外科学において基本である外傷特に、骨折や脱臼についてのプライマリケアーや基本的治療法について説明できる。					
思考・判断の観点: 疾患の診断法や基本的治療法についての知識を身につけ、症例についても応用できるようになる。					
成績評価方法(総合)					
授業態度、授業への参加度、また、理解度で総合的に判断する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153000024
開設科目名	整形外科科学特論(運動器外傷学実験実習)			単位	4単位
対象学生				学年	~
担当教員	村松 慶一			区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153000025
開設科目名	機能神経解剖学特論(脳の性分化演習)			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	篠田 晃			区分	
授業の概要					
脳の性分化に関連する文献および既存の組織資料や自分の実験で得られたデータを検討して、同分野の最先端および新しい仮説や考え方の方向性を意見を出し合い、議論する。					
授業の一般目標					
脳の性分化に関連する文献および既存の組織資料や自分の実験で得られたデータを検討して、同分野の最先端および新しい仮説や考え方の方向性を意見を出し合い、議論する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 脳の性分化に関連する文献および既存の組織資料や自分の実験で得られたデータを検討して、同分野の最先端および新しい仮説や考え方の方向性を意見を出し合い、議論する。					
思考・判断の観点: 脳の性分化に関連する文献および既存の組織資料や自分の実験で得られたデータを検討して、同分野の最先端および新しい仮説や考え方の方向性を意見を出し合い、議論する。					
関心・意欲の観点: 脳の性分化に関連する文献および既存の組織資料や自分の実験で得られたデータを検討して、同分野の最先端および新しい仮説や考え方の方向性を意見を出し合い、議論する。					
態度の観点: 脳の性分化に関連する文献および既存の組織資料や自分の実験で得られたデータを検討して、同分野の最先端および新しい仮説や考え方の方向性を意見を出し合い、議論する。					
技能・表現の観点: 脳の性分化に関連する文献および既存の組織資料や自分の実験で得られたデータを検討して、同分野の最先端および新しい仮説や考え方の方向性を意見を出し合い、議論する。					
成績評価方法(総合)					
文献および既存の組織資料や自分の実験に対する理解度、議論の論理性、プレゼンテーション能力、積極性、他者の意見の摂取能力、発想力、実践的構築力等の総合評価					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153000026
開設科目名	機能神経解剖学特論(脳の性分化実験実習)			単位	4単位
対象学生				学年	~
担当教員	國分 啓司			区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153000027
開設科目名	機能神経解剖学特論(神経発生学演習)			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	篠田 晃			区分	
授業の概要					
脳の発生に関連する文献および既存の組織資料や自分の実験で得られたデータを検討して、同分野の最先端および新しい仮説や考え方の方向性を意見を出し合い、議論する。					
授業の一般目標					
脳の発生に関連する文献および既存の組織資料や自分の実験で得られたデータを検討して、同分野の最先端および新しい仮説や考え方の方向性を意見を出し合い、議論する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 脳の発生に関連する文献および既存の組織資料や自分の実験で得られたデータを検討して、同分野の最先端および新しい仮説や考え方の方向性を意見を出し合い、議論する。					
思考・判断の観点: 脳の発生に関連する文献および既存の組織資料や自分の実験で得られたデータを検討して、同分野の最先端および新しい仮説や考え方の方向性を意見を出し合い、議論する。					
関心・意欲の観点: 脳の発生に関連する文献および既存の組織資料や自分の実験で得られたデータを検討して、同分野の最先端および新しい仮説や考え方の方向性を意見を出し合い、議論する。					
態度の観点: 脳の発生に関連する文献および既存の組織資料や自分の実験で得られたデータを検討して、同分野の最先端および新しい仮説や考え方の方向性を意見を出し合い、議論する。					
技能・表現の観点: 脳の発生に関連する文献および既存の組織資料や自分の実験で得られたデータを検討して、同分野の最先端および新しい仮説や考え方の方向性を意見を出し合い、議論する。					
その他の観点: 脳の発生に関連する文献および既存の組織資料や自分の実験で得られたデータを検討して、同分野の最先端および新しい仮説や考え方の方向性を意見を出し合い、議論する。					
成績評価方法(総合)					
文献及び既存の組織資料や自分の実験に対する理解度、議論の論理性、プレゼンテーション能力、積極性、他社の意見の摂取能力、発想力、実戦的構築力等の総合評価					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153000028
開設科目名	機能神経解剖学特論(神経発生学実験実習)			単位	4単位
対象学生				学年	~
担当教員	柳井 章江			区分	
授業の概要					
脳の発生に関連する領域の遺伝子発現、タンパク質発現を in situ hybridization 法や免疫組織化学法を用いて、組織化学染色を行う。					
授業の一般目標					
脳の発生に関連する領域の遺伝子発現、タンパク質発現を in situ hybridization 法や免疫組織化学法を用いて、組織化学染色を行う。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 脳の発生に関連する領域の遺伝子発現、タンパク質発現を in situ hybridization 法や免疫組織化学法を用いて、組織化学染色を行う。					
思考・判断の観点: 脳の発生に関連する領域の遺伝子発現、タンパク質発現を in situ hybridization 法や免疫組織化学法を用いて、組織化学染色を行う。					
関心・意欲の観点: 脳の発生に関連する領域の遺伝子発現、タンパク質発現を in situ hybridization 法や免疫組織化学法を用いて、組織化学染色を行う。					
態度の観点: 脳の発生に関連する領域の遺伝子発現、タンパク質発現を in situ hybridization 法や免疫組織化学法を用いて、組織化学染色を行う。					
技能・表現の観点: 脳の発生に関連する領域の遺伝子発現、タンパク質発現を in situ hybridization 法や免疫組織化学法を用いて、組織化学染色を行う。					
成績評価方法(総合)					
文献および既存の組織資料や自分の実験に対する理解度、議論の論理性、プレゼンテーション能力、積極性、他者の意見の摂取能力、発想力、実践的構築力等の総合評価					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153000029
開設科目名	機能神経解剖学特論(神経細胞学演習)			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	篠田 晃			区分	
授業の概要					
神経細胞の細胞内微細構造や機能に関連する文献および既存の組織資料や自分の実験で得られたデータを検討して、同分野の最先端および新しい仮説や考え方の方向性を意見を出し合い、議論する。					
授業の一般目標					
神経細胞の細胞内微細構造や機能に関連する文献および既存の組織資料や自分の実験で得られたデータを検討して、同分野の最先端および新しい仮説や考え方の方向性を意見を出し合い、議論する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 神経細胞の細胞内微細構造や機能に関連する文献および既存の組織資料や自分の実験で得られたデータを検討して、同分野の最先端および新しい仮説や考え方の方向性を意見を出し合い、議論する。					
思考・判断の観点: 神経細胞の細胞内微細構造や機能に関連する文献および既存の組織資料や自分の実験で得られたデータを検討して、同分野の最先端および新しい仮説や考え方の方向性を意見を出し合い、議論する。					
関心・意欲の観点: 神経細胞の細胞内微細構造や機能に関連する文献および既存の組織資料や自分の実験で得られたデータを検討して、同分野の最先端および新しい仮説や考え方の方向性を意見を出し合い、議論する。					
態度の観点: 神経細胞の細胞内微細構造や機能に関連する文献および既存の組織資料や自分の実験で得られたデータを検討して、同分野の最先端および新しい仮説や考え方の方向性を意見を出し合い、議論する。					
技能・表現の観点: 神経細胞の細胞内微細構造や機能に関連する文献および既存の組織資料や自分の実験で得られたデータを検討して、同分野の最先端および新しい仮説や考え方の方向性を意見を出し合い、議論する。					
成績評価方法(総合)					
文献および既存の組織資料や自分の実験に対する理解度、議論の論理性、プレゼンテーション能力、積極性、他者の意見の摂取能力、発想力、実践的構築力等の総合評価					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153000030
開設科目名	機能神経解剖学特論(神経細胞学実験実習)			単位	4 単位
対象学生				学年	~
担当教員	藤永 竜太郎			区分	
授業の概要					
培養細胞および脳の組織切片を用いて、神経細胞内の微細構造やその機能を、遺伝子導入したり、実験的操作を施し、組織化学的染色を行った後、形態変化や遺伝子発現、タンパク質発現の変化を電子顕微鏡観察により解析する。					
授業の一般目標					
培養細胞および脳の組織切片を用いて、神経細胞内の微細構造やその機能を、遺伝子導入したり、実験的操作を施し、組織化学的染色を行った後、形態変化や遺伝子発現、タンパク質発現の変化を電子顕微鏡観察により解析する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 培養細胞および脳の組織切片を用いて、神経細胞内の微細構造やその機能を、遺伝子導入したり、実験的操作を施し、組織化学的染色を行った後、形態変化や遺伝子発現、タンパク質発現の変化を電子顕微鏡観察により解析する。					
思考・判断の観点: 培養細胞および脳の組織切片を用いて、神経細胞内の微細構造やその機能を、遺伝子導入したり、実験的操作を施し、組織化学的染色を行った後、形態変化や遺伝子発現、タンパク質発現の変化を電子顕微鏡観察により解析する。					
関心・意欲の観点: 培養細胞および脳の組織切片を用いて、神経細胞内の微細構造やその機能を、遺伝子導入したり、実験的操作を施し、組織化学的染色を行った後、形態変化や遺伝子発現、タンパク質発現の変化を電子顕微鏡観察により解析する。					
態度の観点: 培養細胞および脳の組織切片を用いて、神経細胞内の微細構造やその機能を、遺伝子導入したり、実験的操作を施し、組織化学的染色を行った後、形態変化や遺伝子発現、タンパク質発現の変化を電子顕微鏡観察により解析する。					
技能・表現の観点: 培養細胞および脳の組織切片を用いて、神経細胞内の微細構造やその機能を、遺伝子導入したり、実験的操作を施し、組織化学的染色を行った後、形態変化や遺伝子発現、タンパク質発現の変化を電子顕微鏡観察により解析する。					
成績評価方法(総合)					
文献および既存の組織資料や自分の実験に対する理解度、議論の論理性、プレゼンテーション能力、積極性、他者の意見の摂取能力、発想力、実践的構築力等の総合評価					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153000031
開設科目名	機能神経解剖学特論(嗅覚系の神経解剖学演習)			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	篠田 晃			区分	
授業の概要					
嗅覚系に関連する文献および既存の組織資料や自分の実験で得られたデータを検討して、同分野の最先端および新しい仮説や考え方の方向性を意見を出し合い、議論する。					
授業の一般目標					
嗅覚系に関連する文献および既存の組織資料や自分の実験で得られたデータを検討して、同分野の最先端および新しい仮説や考え方の方向性を意見を出し合い、議論する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 嗅覚系に関連する文献および既存の組織資料や自分の実験で得られたデータを検討して、同分野の最先端および新しい仮説や考え方の方向性を意見を出し合い、議論する。					
思考・判断の観点: 嗅覚系に関連する文献および既存の組織資料や自分の実験で得られたデータを検討して、同分野の最先端および新しい仮説や考え方の方向性を意見を出し合い、議論する。					
関心・意欲の観点: 嗅覚系に関連する文献および既存の組織資料や自分の実験で得られたデータを検討して、同分野の最先端および新しい仮説や考え方の方向性を意見を出し合い、議論する。					
態度の観点: 嗅覚系に関連する文献および既存の組織資料や自分の実験で得られたデータを検討して、同分野の最先端および新しい仮説や考え方の方向性を意見を出し合い、議論する。					
技能・表現の観点: 嗅覚系に関連する文献および既存の組織資料や自分の実験で得られたデータを検討して、同分野の最先端および新しい仮説や考え方の方向性を意見を出し合い、議論する。					
成績評価方法(総合)					
文献および既存の組織資料や自分の実験に対する理解度、議論の論理性、プレゼンテーション能力、積極性、他者の意見の摂取能力、発想力、実践的構築力等の総合評価					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153000032
開設科目名	機能神経解剖学特論(嗅覚系の神経解剖学実験実習)			単位	4 単位
対象学生				学年	~
担当教員	柳井 章江			区分	
授業の概要					
嗅覚系関連領域の組織切片を用いて、実験的操作を施し、免疫組織化学法や in situ hybridization 法等の組織化学的染色を行った後、嗅覚系の投射様式や遺伝子発現、タンパク質発現の変化を光学顕微鏡や電子顕微鏡により解析する。					
授業の一般目標					
脳の主要な領域をマクロ及びミクロレベルで同定できる。脳の切片標本が作成出来る。脳の標本の基本的染色が出来る。免疫組織化学法ができる。In situ hybridization ができる。電顕観察が出来る。脳の領域を同定できる。脳の発生過程を観察できる。培養細胞を扱うことが出来る。形態学的データを解析できる。専門分野に関連する英文論文から情報が収集できる。解析した結果を整理して発表できる。					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
理解度等を見て、総合的に評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153000033
開設科目名	機能神経解剖学特論(辺縁系の神経解剖学演習)			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	篠田 晃			区分	
授業の概要					
辺縁系に関連する文献および既存の組織資料や自分の実験で得られたデータを検討して、同分野の最先端および新しい仮説や考え方の方向性を意見を出し合い、議論する。					
授業の一般目標					
辺縁系に関連する文献および既存の組織資料や自分の実験で得られたデータを検討して、同分野の最先端および新しい仮説や考え方の方向性を意見を出し合い、議論する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 辺縁系に関連する文献および既存の組織資料や自分の実験で得られたデータを検討して、同分野の最先端および新しい仮説や考え方の方向性を意見を出し合い、議論する。					
思考・判断の観点: 辺縁系に関連する文献および既存の組織資料や自分の実験で得られたデータを検討して、同分野の最先端および新しい仮説や考え方の方向性を意見を出し合い、議論する。					
関心・意欲の観点: 辺縁系に関連する文献および既存の組織資料や自分の実験で得られたデータを検討して、同分野の最先端および新しい仮説や考え方の方向性を意見を出し合い、議論する。					
態度の観点: 辺縁系に関連する文献および既存の組織資料や自分の実験で得られたデータを検討して、同分野の最先端および新しい仮説や考え方の方向性を意見を出し合い、議論する。					
技能・表現の観点: 辺縁系に関連する文献および既存の組織資料や自分の実験で得られたデータを検討して、同分野の最先端および新しい仮説や考え方の方向性を意見を出し合い、議論する。					
成績評価方法(総合)					
文献および既存の組織資料や自分の実験に対する理解度、議論の論理性、プレゼンテーション能力、積極性、他者の意見の摂取能力、発想力、実践的構築力等の総合評価					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153000034
開設科目名	機能神経解剖学特論(辺縁系の神経解剖学実験実習)			単位	4 単位
対象学生				学年	~
担当教員	藤永 竜太郎			区分	
授業の概要					
<p>辺縁系関連領域の組織切片を用いて、実験的操作を施し、免疫組織化学法や in situ hybridization 法等の組織化学的染色を行った後、辺縁系の回路や組織構築を解析したり、同領域での遺伝子発現、タンパク質発現の違いを光学顕微鏡や電子顕微鏡により解析する。</p>					
授業の一般目標					
<p>辺縁系関連領域の組織切片を用いて、実験的操作を施し、免疫組織化学法や in situ hybridization 法等の組織化学的染色を行った後、辺縁系の回路や組織構築を解析したり、同領域での遺伝子発現、タンパク質発現の違いを光学顕微鏡や電子顕微鏡により解析する。</p>					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点: 辺縁系関連領域の組織切片を用いて、実験的操作を施し、免疫組織化学法や in situ hybridization 法等の組織化学的染色を行った後、辺縁系の回路や組織構築を解析したり、同領域での遺伝子発現、タンパク質発現の違いを光学顕微鏡や電子顕微鏡により解析する。</p> <p>思考・判断の観点: 辺縁系関連領域の組織切片を用いて、実験的操作を施し、免疫組織化学法や in situ hybridization 法等の組織化学的染色を行った後、辺縁系の回路や組織構築を解析したり、同領域での遺伝子発現、タンパク質発現の違いを光学顕微鏡や電子顕微鏡により解析する。</p> <p>関心・意欲の観点: 辺縁系関連領域の組織切片を用いて、実験的操作を施し、免疫組織化学法や in situ hybridization 法等の組織化学的染色を行った後、辺縁系の回路や組織構築を解析したり、同領域での遺伝子発現、タンパク質発現の違いを光学顕微鏡や電子顕微鏡により解析する。</p> <p>態度の観点: 辺縁系関連領域の組織切片を用いて、実験的操作を施し、免疫組織化学法や in situ hybridization 法等の組織化学的染色を行った後、辺縁系の回路や組織構築を解析したり、同領域での遺伝子発現、タンパク質発現の違いを光学顕微鏡や電子顕微鏡により解析する。</p> <p>技能・表現の観点: 辺縁系関連領域の組織切片を用いて、実験的操作を施し、免疫組織化学法や in situ hybridization 法等の組織化学的染色を行った後、辺縁系の回路や組織構築を解析したり、同領域での遺伝子発現、タンパク質発現の違いを光学顕微鏡や電子顕微鏡により解析する。</p>					
成績評価方法(総合)					
<p>文献および既存の組織資料や自分の実験に対する理解度、議論の論理性、プレゼンテーション能力、積極性、他者の意見の摂取能力、発想力、実践的構築力等の総合評価</p>					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153000035
開設科目名	システム神経科学特論(基礎神経科学演習)			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	中村 章台			区分	
授業の概要					
神経科学の基礎的知識を習得する。					
授業の一般目標					
神経系の形態学、生理学、生化学、薬理学の基礎的知識を習得する。					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
出席と演習態度で評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153000036
開設科目名	システム神経科学特論(基礎神経科学実験実習)			単位	4単位
対象学生				学年	~
担当教員	木田 裕之			区分	
授業の概要					
研究の遂行に必要な実験手技を習熟する。神経細胞の電気活動の記録法、行動実験法、イメージング法、免疫組織化学法を学ぶ。					
授業の一般目標					
1) 脳の解剖を説明できる。 2) 神経核と大脳の機能を説明できる。 3) 各実験手技を説明できる。 4) 統計検定を説明できる。					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
全体を100点とする。観点別:演習(50点)、セミナー発表(20点)、出席(30点)とする。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153000037
開設科目名	システム神経科学特論(応用神経科学演習)			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	中村 章台			区分	
授業の概要					
神経系の疾患について学ぶ。					
授業の一般目標					
神経系の疾患の中で特に情動障害の研究の現状を学ぶ。					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
出席と演習態度で評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153000038
開設科目名	システム神経科学特論(応用神経科学実験実習)			単位	4単位
対象学生				学年	~
担当教員	石川 晃教			区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153000039
開設科目名	システム神経科学特論(脳細胞環境科学演習)			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	中村 章台			区分	
授業の概要					
脳細胞のストレス反応について学ぶ。					
授業の一般目標					
脳細胞のストレスによる反応を神経回路および分子レベルで理解する。					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
出席と演習態度で評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153000040
開設科目名	システム神経科学特論(脳細胞環境科学実験実習)			単位	4単位
対象学生				学年	~
担当教員	石川 晃教			区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153000041
開設科目名	高次脳機能病態学特論(老年精神医学演習)			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	秋元 隆志			区分	
授業の概要					
痴呆の症状評価法、痴呆疾患の神経画像・病理、抗痴呆薬の作用機序に関する講義を行う。					
授業の一般目標					
痴呆の症状について理解する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 様々な認知症の、症状や特徴を知り、理解する。					
思考・判断の観点: 認知機能の低下を呈する老年期の症例に対して、適切な診断が出来る。さらに治療計画や、ケアの計画を立てることが出来る。					
関心・意欲の観点: 老年期の精神障害者に対して、適切な心理的サポートを配慮できる。					
態度の観点: 老年期の精神障害者のチーム医療において、他の職種 看護、PSW、ケアマネージャー等と適切な連携が取れる。					
技能・表現の観点: 老年期の精神障害の診断において、適切な心理検査、脳画像検査をオーダーし、理解し判断することが出来る。					
成績評価方法(総合)					
口頭での試問によって行う。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153000042
開設科目名	高次脳機能病態学特論(精神薬理学演習)			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	渡邊 義文			区分	
授業の概要					
抗精神病薬、抗うつ薬、抗不安薬の薬理作用について、分子レベルから臨床レベルまでの統合的な講義を行う。					
授業の一般目標					
脳内神経情報伝達系の理解の上に、抗精神病薬、抗うつ薬、抗不安薬の分子レベルから臨床レベルまでの薬理作用について理解する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 1. 抗精神病薬、抗うつ薬、抗不安薬の薬理学的分類が説明できる。					
2. 脳内神経情報伝達系について説明できる。					
3. 抗精神病薬、抗うつ薬、抗不安薬の作用機序に関する仮説が説明できる。					
4. 副作用出現の機序が説明できる。					
5. 抗精神病薬、抗うつ薬、抗不安薬の各薬剤の臨床作用の特徴が説明できる。					
思考・判断の観点: 精神症状について神経情報伝達、分子レベルから考察できる。					
関心・意欲の観点: 神経科学と精神医学の関連に関心を持つ。					
技能・表現の観点: テクニカルタームを適切に用いて、口頭もしくは文章で説明できる。					
成績評価方法(総合)					
レポートならびに課題発表によって評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153000043
開設科目名	高次脳機能病態学特論(精神薬理学実験実習)			単位	4単位
対象学生				学年	~
担当教員	渡邊 義文			区分	
授業の概要					
抗精神病薬、抗うつ薬について各種神経伝達物質受容体ならびにトランスポーターとの結合実験をオートラジオグラフィ法を用いて行う。					
授業の一般目標					
神経情報伝達系、精神薬理学の基本を理解し、神経化学実験の進め方ならびに手技を修得する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 神経情報伝達系のメカニズムが説明できる。					
抗精神病薬、抗うつ薬の薬理作用が説明できる。					
結合実験の原理を理解する。					
思考・判断の観点: 神経化学実験の進め方の判断値からを身につける。					
技能・表現の観点: 結合実験に習熟する。					
成績評価方法(総合)					
課題レポート、実験レポートによって評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153000044
開設科目名	高次脳機能病態学特論(精神生理学演習)			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	末次 正知			区分	
授業の概要					
脳波の記録・判読ができるようになるために、脳波に関する基本事項を講義し、その後実習を行う。					
授業の一般目標					
脳波の原理を理解し、脳波の記録および判読ができる。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 脳波型の原理、人工雑音とその除去法、脳波検査の適応を理解できる。					
技能・表現の観点: 人工雑音の無い、脳波記録を取る事ができる。また、検査結果を十分に解釈できる。					
成績評価方法(総合)					
実際に、脳波記録を施行し、その検査結果の解釈をレポートにまとめる。10段階評価とする。					
教科書					
参考書					
臨床脳波学 / 大熊輝雄:医学書院, 1999					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153000045
開設科目名	高次脳機能病態学特論(精神生理学実験実習)			単位	4単位
対象学生				学年	~
担当教員	末次 正知			区分	
授業の概要					
各種薬物や不安が脳機能に及ぼす影響を、脳波型を使用して検討する。					
授業の一般目標					
脳波型を使用して、脳機能を解析できる。					
授業の到達目標					
技能・表現の観点: 脳機能の測定に、脳波型を使いこなす事ができる。					
成績評価方法(総合)					
各テーマごとにレポートを作成させ、評価する。					
教科書					
薬物脳波学の進歩 / フラン・クリツァー、ベルナ・M・ハーマン編、星和書店、2001					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153000046
開設科目名	高次脳機能病態学特論(神経画像学演習)			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	松尾 幸治			区分	
授業の概要					
MRI, SPECT の原理 ならびに統合失調症や気分障害患者における神経画像研究を解説する。					
授業の一般目標					
MRI, SPECT の原理 ならびに統合失調症や気分障害における神経画像研究の概要が説明できる。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: MRI, SPECT の原理が説明できる。					
統合失調症や気分障害における神経画像研究の概要が説明できる。					
統合失調症や気分障害における脳形態変化と機能変化(精神症状)の関連を理解できる。					
関心・意欲の観点: 脳の形態、機能と精神疾患の関連に興味を抱く。					
技能・表現の観点: テクニカルタームを用いて、口頭ならびに文章で適切な表現ができる。					
成績評価方法(総合)					
課題レポート、発表を評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153000047
開設科目名	高次脳機能病態学特論(神経画像学実験実習)			単位	4単位
対象学生				学年	~
担当教員	松尾 幸治			区分	
授業の概要					
気分障害患者の MRI, SPECT のコンピュータシステムによる解析を行う。					
授業の一般目標					
MRI, SPECT ならびに、そのコンピュータシステムによる解析の原理を理解し、実施できる。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: MRI, SPECT ならびに、そのコンピュータシステムによる解析の原理が説明できる。					
技能・表現の観点: MRI, SPECT のコンピュータシステムによる解析が実践できる。					
成績評価方法(総合)					
課題レポート、画像解析結果報告書ならびに発表を評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153000048
開設科目名	高次脳機能病態学特論(分子精神医学演習)			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	内田 周作			区分	
授業の概要					
精神疾患の分子病態に関する理論の習得を行う。					
授業の一般目標					
精神疾患の生物学的基盤の理解と研究手法の理解習得を目指す。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 精神疾患の生物学的基盤の概要を説明できる。					
思考・判断の観点: 精神医学的判断を生物学的観点から行える。					
関心・意欲の観点: 精神医学の分子生物学的発展に寄与できる。					
技能・表現の観点: 精神 脳機能の分子生物学的研究一般を説明できる。					
成績評価方法(総合)					
成績評価は基本的に出席 30%と試験 70%とする。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153000049
開設科目名	高次脳機能病態学特論(分子精神医学実験実習)			単位	4単位
対象学生				学年	~
担当教員	内田 周作			区分	
授業の概要					
精神疾患の分子病態に関する実験手技の習得を行う。					
授業の一般目標					
精神疾患の生物学的基盤の理解に基づいた研究手法の理解習得を目指す。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 精神疾患の生物学的基盤の研究手技を説明できる。					
思考・判断の観点: 精神医学的判断を生物学的観点から行える。					
関心・意欲の観点: 精神医学の分子生物学的発展に寄与できる。					
技能・表現の観点: 精神 脳機能の分子生物学的研究一般を操作できる。					
成績評価方法(総合)					
成績評価は基本的に出席 30%と試験 70%とする。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153000050
開設科目名	神経内科学特論(神経生理学演習)			単位	3単位
対象学生				学年	~
担当教員	川井 元晴			区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153000051
開設科目名	神経内科学特論(神経生理学実験実習)			単位	3単位
対象学生				学年	~
担当教員	川井 元晴			区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153000052
開設科目名	神経内科学特論(神経放射線学演習)			単位	3単位
対象学生				学年	~
担当教員	根来 清			区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153000053
開設科目名	神経内科学特論(神経放射線学実験実習)			単位	3単位
対象学生				学年	~
担当教員	根来 清			区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153000054
開設科目名	神経内科学特論(神経形態学演習)			単位	3単位
対象学生				学年	~
担当教員	神田 隆			区分	
授業の概要					
神経疾患の診断の基礎となる中枢神経・末梢神経・筋肉の正常な形態学を光学顕微鏡のレベルで講義する。続いて、各疾患固有の病理学的変化につき、中枢神経系・末梢神経系・筋肉のそれぞれ代表的疾患を選択して講義する。					
授業の一般目標					
1.神経生理学 とくに電気生理学の基礎を理解し、中枢神経、末梢神経および筋疾患患者の診断ができる。2.神経放射線の基礎を理解し、画像診断ができる。 3.中枢神経、末梢神経および筋肉の正常像と病理所見を理解し、病理学的診断ができる。4.主要な神経内科疾患の病態生理を理解し、個々の患者にあった治療法を選択、実施できる 5.神経系のリハビリテーションの理論的基礎を理解し、個々の患者にあった処方ができる。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 中枢神経、末梢神経、筋肉の主要疾患について、基本的な病理所見を把握するとともにレポートの作成ができる。					
成績評価方法(総合)					
成績評価は基本的に出席(30%)とレポート(70%)で行う。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153000055
開設科目名	神経内科学特講(神経形態学実験実習)			単位	3単位
対象学生				学年	~
担当教員	神田 隆			区分	
授業の概要					
パーキンソン病や筋萎縮性側索硬化症、脊髄小脳変性症などの神経変性疾患、多発性硬化症などの脱髄疾患、アルツハイマー病などの痴呆性疾患、ギラン・バレー症候群、筋ジストロフィー症などの神経筋疾患等、代表的な神経疾患の患者から生検あるいは剖検で得られた中枢神経・末梢神経・筋肉材料を用いて、実際に標本を作製・検鏡して診断に至るプロセスを実習する。					
授業の一般目標					
1.神経生理学、とくに電気生理学の基礎を理解し、中枢神経、末梢神経および筋疾患患者の診断ができる。2.神経放射線の基礎を理解し、画像診断ができる。3.中枢神経、末梢神経および筋肉の正常像と病理所見を理解し、病理学的診断ができる。4.主要な神経内科疾患の病態生理を理解し、個々の患者にあった治療法を選択、実施できる。5.神経系のリハビリテーションの理論的基礎を理解し、個々の患者にあった処方ができる。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 中枢神経、末梢神経、筋肉の病理標本の作成と適切な染色法の選択ができる。					
成績評価方法(総合)					
成績評価は基本的に出席(30%)と演習(70%)でおこなう。					
教科書					
経病理学-基礎と臨床- / 朝長正徳、桶田理喜: 朝倉書店, 1993					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153000056
開設科目名	神経内科学特論(神経治療学演習)			単位	3単位
対象学生				学年	~
担当教員	神田 隆			区分	
授業の概要					
パーキンソン病をはじめとする錐体外路系疾患、多発性硬化症・重症筋無力症・自己免疫性ニューロパチーなどの免疫性神経疾患、片頭痛など近年急速に治療法が進歩してきた代表的な神経疾患を取り上げ、治療手段の概要を説明し、治療薬の薬理効果や副作用について講義する。					
授業の一般目標					
1.神経生理学 とくに電気生理学の基礎を理解し、中枢神経、末梢神経および筋疾患患者の診断ができる。2.神経放射線の基礎を理解し、画像診断ができる。 3.中枢神経、末梢神経および筋肉の正常像と病理所見を理解し、病理学的診断ができる。4.主要な神経内科疾患の病態生理を理解し、個々の患者にあった治療法を選択、実施できる 5.神経系のリハビリテーションの理論的基礎を理解し、個々の患者にあった処方ができる。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 主要神経疾患の治療法とその基礎となる思考ロジックが習得できる。					
成績評価方法(総合)					
成績評価は基本的に出席(30%)とレポート(70%)で行う。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153000057
開設科目名	神経内科学特論(神経治療学実験実習)			単位	3単位
対象学生				学年	~
担当教員	神田 隆			区分	
授業の概要					
パーキンソン病をはじめとする錐体外路系疾患、多発性硬化症・重症筋無力症・自己免疫性ニューロパチーなどの免疫性神経疾患、片頭痛など近年急速に治療法が進歩してきた代表的な神経疾患患者の診察を行い、臨床的に治療効果を判定するプロセスを実習する。					
授業の一般目標					
1.神経生理学 とくに電気生理学の基礎を理解し、中枢神経、末梢神経および筋疾患患者の診断ができる。2.神経放射線の基礎を理解し、画像診断ができる。 3.中枢神経、末梢神経および筋肉の正常像と病理所見を理解し、病理学的診断ができる。4.主要な神経内科疾患の病態生理を理解し、個々の患者にあった治療法を選択、実施できる 5.神経系のリハビリテーションの理論的基礎を理解し、個々の患者にあった処方ができる。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 主要な中枢神経、末梢神経、筋疾患について、病態生理を把握するための検査計画を立てる事ができ、それに基づいた治療計画を立て、実際の患者について実践することができる。					
成績評価方法(総合)					
成績評価は基本的に出席(30%)とレポート(70%)が中心となる。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153000058
開設科目名	神経内科学特論(神経リハビリテーション学演習)			単位	3単位
対象学生				学年	~
担当教員	根来 清			区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153000059
開設科目名	神経内科学特論(神経リハビリテーション学実験実習)			単位	3単位
対象学生				学年	~
担当教員	根来 清			区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153000060
開設科目名	脳神経外科学特論(脳腫瘍学演習)			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	梶原 浩司			区分	
授業の概要					
脳腫瘍総論として脳腫瘍の分類、疫学、発生頻度、臨床症候について学習する。さらに各脳腫瘍について、疫学臨床症候、診断法、治療法、病理、予後などについて系統的に講義する。また最新の診断法、治療法について授業及び開発を行う。					
授業の一般目標					
脳神経外科医療・研究を行ううえで、最低限度の知識を身につける。また、脳腫瘍について理解する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 脳腫瘍について理解する					
成績評価方法(総合)					
質疑応答から判定する					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153000061
開設科目名	脳神経外科学特論(脳腫瘍学実験実習)			単位	4単位
対象学生				学年	~
担当教員	梶原 浩司			区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153000062
開設科目名	脳神経外科学特論(脳血管障害・血管内手術演習)			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	鈴木 倫保			区分	
授業の概要					
脳血管障害総論として脳血管障害の分類、疫学、発生頻度、臨床症候について学習する。さらに各脳血管障害について、疫学臨床症候、診断法、治療法、予後などについて系統的に学習する。また最新の診断法、治療法について学び、また開発を行う。					
授業の一般目標					
脳神経外科医療・研究を行ううえで、最低限度の知識を身につける。また、脳血管障害について理解する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 脳血管障害を説明できる。					
成績評価方法(総合)					
質疑応答から判定する					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153000063
開設科目名	脳神経外科学特論(脳血管障害・血管内手術実験実習)			単位	4単位
対象学生				学年	~
担当教員	加藤 祥一			区分	
授業の概要					
脳血管障害の外科治療技術拾得のための微小血管ふん合のトレーニング、脳血管攣縮の病態生理及び治療の実験的研究、血液脳関門の解剖学的、機能的解析、血栓溶解療法の実験的研究と新しい装置の開発など最新の診断法、治療法について実習する。					
授業の一般目標					
脳神経外科医療・研究を行ううえで、最低限度の知識を身につける。また、脳血管障害について理解する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 脳血管内手術について理解する					
成績評価方法(総合)					
口頭質問を行う					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153000064
開設科目名	脳神経外科学特論(機能的脳外科演習)			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	藤井 正美			区分	
授業の概要					
てんかん、三叉神経痛、顔面痙攣、パーキンソン病に伴う諸症状、痛み、痙攣など機能的神経疾患について系統的に講義する。					
授業の一般目標					
脳神経外科医療・研究を行ううえで、最低限度の知識を身につける。また、機能的脳神経外科について理解する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 機能的脳外科について理解する					
成績評価方法(総合)					
質疑応答から判定する					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153000065
開設科目名	脳神経外科学特論(機能的脳外科実験実習)			単位	4 単位
対象学生				学年	~
担当教員	藤井 正美			区分	
授業の概要					
てんかん、など機能的神経疾患について実験モデルを作成して、新しい治療法の開発を行う。					
授業の一般目標					
脳神経外科医療・研究を行ううえで、最低限度の知識を身につける。また、機能的脳神経外科について理解する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 機能的脳外科について理解する					
成績評価方法(総合)					
口頭試問を行う					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153000066
開設科目名	脳神経外科学特論(神経外傷学演習)			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	藤澤 博亮			区分	
授業の概要					
神経外傷総論として神経外傷の分類、発生機序、臨床症候について講義する。さらに各神経外傷害について、疫学、臨床症候、診断法、治療法、予後などについて系統的に説明する。また最新の診断法、治療法について授業する。					
授業の一般目標					
脳神経外科医療・研究を行ううえで、最低限度の知識を身につける。また、神経外傷について理解する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 神経外傷について理解する					
成績評価方法(総合)					
質疑応答から判定する					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153000067
開設科目名	脳神経外科学特論(神経外傷学実験実習)			単位	4単位
対象学生				学年	~
担当教員	藤澤 博亮			区分	
授業の概要					
実験モデルを用いた神経外傷の病態生理及び治療の実験的研究、最新の診断法、治療法について実習する。					
授業の一般目標					
脳神経外科医療・研究を行ううえで、最低限度の知識を身につける。また、神経外傷について理解する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 神経外傷について理解する					
成績評価方法(総合)					
質疑応答から判定する					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153000068
開設科目名	脳神経外科学特論(小児脳神経外科学・定位放射線手術演習)			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	鈴木 倫保			区分	
授業の概要					
<ul style="list-style-type: none"> ・小児脳神経外科学において対象となるの代表的な疾患の分類、発生機序、臨床症候について講義する。 ・小児脳神経外科疾患について、疫学、臨床症候、診断法、治療法、予後などについて系統的に説明する。 ・最新の診断法、治療法についても説明する。 ・定位放射線手術の対象となる疾患の種類、適応、治療方法、治療効果について授業する。 					
授業の一般目標					
脳神経外科医療・研究を行ううえで、最低限度の知識を身につける。また、小児脳神経外科について理解する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 小児神経、定位放射線学について理解する					
成績評価方法(総合)					
質疑応答から判定する					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153000069
開設科目名	脳神経外科学特論(小児脳神経外科学・定位放射線手術実験実習)			単位	4単位
対象学生				学年	~
担当教員	鈴木 倫保			区分	
授業の概要					
小児脳神経外科疾患について、基本的また最新の診断法、治療法について実際に治療に参加して体験する。定位放射線手術のプランニングから実施まで実際に体験実習する。					
授業の一般目標					
脳神経外科医療・研究を行ううえで、最低限度の知識を身につける。また、小児脳神経外科について理解する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 小児神経、定位放射線学について説明できる					
成績評価方法(総合)					
質疑応答から判定する					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153000070
開設科目名	麻酔・蘇生・疼痛管理学分論(麻酔と神経演習)			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	松本 美志也			区分	
授業の概要					
<p>循環、代謝、情報伝達から見た全身麻酔薬、局所麻酔薬の神経機能に対する作用に関する講義演習を行う。</p> <p>さらに、麻酔薬の脳循環・脳代謝に及ぼす影響や麻酔薬の神経毒性、脳・脊髄の機能モニターに関する講義演習を行う。</p> <p>また、脳・脊髄の虚血を含む各種神経系病態における神経機能の温存、改善をはかるための薬理学、分子生物学的アプローチの理解を深めるための演習を行う。</p>					
授業の一般目標					
<p>中枢神経、末梢神経の解剖と機能が説明できる。</p> <p>麻酔薬の作用機序が説明できる。</p> <p>麻酔薬の脳循環代謝への影響が説明できる。</p> <p>脳・脊髄の機能モニターが説明できる。</p> <p>低酸素・虚血の病態を説明できる。</p>					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
理解度等を見て、総合的に評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153000071
開設科目名	麻酔・蘇生・疼痛管理学分論(麻酔と神経実験実習)			単位	4単位
対象学生				学年	~
担当教員	松本 美志也			区分	
授業の概要					
<p>動物を用いて脳・脊髄・末梢神経・自律神経に対する麻酔薬の作用について演習を行う。</p> <p>また、脳・脊髄の虚血の病態と治療に関する実験実習を行う。</p> <p>局所麻酔薬の神経毒性に関して神経学的、組織学的評価の実習を行う。</p> <p>また、臨床では麻酔中の脳・脊髄の機能モニターに関する実習を行う。</p> <p>基礎研究と臨床の現場のつながりを経験することで、麻酔中の中枢神経系の働きについての理解を深める。</p>					
授業の一般目標					
<p>脳・脊髄・末梢神経・自律神経に対する麻酔薬の作用について理解し説明できる。</p> <p>脳・脊髄の虚血モデルについて理解し、その病態と治療に関する知識を深める。</p> <p>神経組織の病変を評価できる。</p> <p>脳・脊髄の機能モニターを理解し、扱える。</p> <p>麻酔中の中枢神経系の働きについて、総合的に理解し、説明できる。</p>					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
理解度を見て、総合的に評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153000072
開設科目名	麻酔・蘇生・疼痛管理学特論(麻酔と循環演習)			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	松本 美志也			区分	
授業の概要					
<p>循環を制御する重要な要素、体循環、肺循環に関する講義演習を行う。</p> <p>麻酔薬及び麻酔補助薬の循環系に及ぼす影響の理解を深める。</p> <p>各種循環障害の発生機序と最新の治療に関する講義演習を行う。</p> <p>さらに、循環系の各種モニターの特性を理解し、麻酔中の循環動態に関する理解を深めるための演習を行う。</p>					
授業の一般目標					
<p>循環を制御する重要な要素を説明できる。</p> <p>体循環、肺循環の生理学的相違が説明できる。</p> <p>各種循環障害の発生機序と治療について説明できる。</p> <p>循環系の各種モニターの特性を説明できる。</p> <p>麻酔中の循環動態の変動を評価し、適切な処置が選択できる。</p>					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
理解度を見て、総合的に評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153000073
開設科目名	麻酔・蘇生・疼痛管理学分論(麻酔と循環実験実習)			単位	4単位
対象学生				学年	~
担当教員	石田 和慶			区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153000074
開設科目名	麻酔・蘇生・疼痛管理学分論(全身麻酔演習)			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	松本 美志也			区分	
授業の概要					
<p>全身管理にとくに重要な呼吸、循環、代謝の基礎について講義を行う。</p> <p>麻酔薬、麻酔関連薬の作用を理解し、気道確保、人工呼吸、循環維持の基本的な手技についての演習を行う。</p> <p>全身麻酔の基本要素である無痛、健忘、筋弛緩、有害反射の抑制をどのようにバランス良く維持し、手術侵襲から生体を守るための管理法を演習する。</p> <p>全身麻酔の合併症について講義、演習を行う。</p>					
授業の一般目標					
<p>人工呼吸の生理について説明でき、呼吸管理が適切に行える。</p> <p>気道確保、人工呼吸、循環維持の基本的な手技についての演習を行う。</p> <p>輸液、輸血の意義を理解し、循環、代謝の維持管理ができる。</p> <p>麻酔薬、麻酔関連薬の作用を説明でき、手術侵襲から生体を守るための管理法を理解する。</p> <p>全身麻酔に伴ってみられる合併症を理解し、適切な処置の選択、実施ができる。</p>					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
理解度を見て、総合的に評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153000075
開設科目名	麻酔・蘇生・疼痛管理学分論(全身麻酔実験実習)			単位	4単位
対象学生				学年	~
担当教員	石田 和慶			区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153000076
開設科目名	麻酔・蘇生・疼痛管理学特論(蘇生・集中治療演習)			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	若松 弘也			区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153000077
開設科目名	麻酔・蘇生・疼痛管理学特論(蘇生・集中治療実験実習)			単位	4単位
対象学生				学年	~
担当教員	若松 弘也			区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153000078
開設科目名	麻酔・蘇生・疼痛管理学分論(疼痛管理演習)			単位	2単位
対象学生				学年	～
担当教員	川井 康嗣			区分	
授業の概要					
<p>末梢から中枢への痛みの伝達機構の基本を講義演習する。</p> <p>急性痛、慢性痛の病態、生体における受容機構の変調についての理解を深め、疼痛疾患に対する治療のアプローチについて演習する。</p> <p>生体に備わる疼痛抑制機構およびその賦活の意義、および治療への応用の理解を深める。</p> <p>さらに、緩和医療の概念、生活の質の向上をはかるための治療について演習する。</p>					
授業の一般目標					
<p>疼痛患者の病態評価ができる。</p> <p>画像診断、薬理的疼痛判別診断法を理解する。</p> <p>各種神経ブロックの適応と、実際について理解する。</p> <p>鎮痛薬、鎮痛補助薬の特徴を理解し、その選択基準が説明できる。</p> <p>薬物療法、神経ブロックの合併症理解し、その対処できる。</p> <p>緩和医療における総合的医療の実際を学ぶ。</p> <p>疼痛患者の社会復帰の支援ができ、生活の質の向上をはかる能力をつける。</p>					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
理解度等を見て、総合的に評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153000079
開設科目名	麻酔・蘇生・疼痛管理学科特論(疼痛管理実験実習)			単位	4単位
対象学生				学年	～
担当教員	川井 康嗣			区分	
授業の概要					
人間の最大の愁訴である疼痛について、その適切な評価と、疼痛を緩和する治療手段について講義する。疼痛にはいろいろな種類があり、それぞれに対して最適な治療手段が存在する。これらを説明するとともに、臨床の場において、ペインクリニックや緩和ケアとして活動していることについて紹介する。					
授業の一般目標					
疼痛の定義、種類・分類について理解し、痛覚伝導路と脳内鎮痛系について説明できる。鎮痛薬や医療用麻薬、鎮痛補助薬の種類を挙げて、それぞれの特徴、利点、欠点、用法、効果、副作用などについて解説できる。薬物療法以外の治療法、特に神経ブロックや手術療法、電気刺激療法などについて概説できる。疾患としては、三叉神経痛や複合性局所疼痛症候群、帯状疱疹後神経痛などの疼痛疾患について理解する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 疼痛の定義、種類・分類について説明できる。					
痛覚伝導路と脳内鎮痛系について説明できる。					
鎮痛薬の種類を挙げて、それぞれの特徴を述べることができる。					
鎮痛薬の利点、欠点、用法、効果、副作用などについて説明できる。					
医療用麻薬の利点、欠点、用法、効果、副作用などについて説明できる。					
鎮痛補助薬の利点、欠点、用法、効果、副作用などについて説明できる。					
薬物療法以外の治療法、特に神経ブロックや手術療法、電気刺激療法などについて概説できる。疾患としては、三叉神経痛や複合性局所疼痛症候群、帯状疱疹後神経痛などの疼痛疾患について説明できる。					
思考・判断の観点: 提示された症例で、疼痛の程度、種類などについての正しい評価ができる。					
提示された症例で、疼痛の分類のどれに該当するかを指摘できる。					
疼痛に対する適切な薬物治療が選択できる。					
薬物療法抵抗性の患者に対する侵襲的治療法について列挙できる。					
関心・意欲の観点: 疼痛患者のもつ苦痛を理解し、その問題点に配慮できる。					
態度の観点: 疼痛患者のもつ苦痛を理解し、共感的態度で接することができる。					
疼痛治療のスタッフに協調的で治療に寄与できる。					
成績評価方法(総合)					
成績評価は、出席と試験で行う。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153000080
開設科目名	法医・生体侵襲解析(医学特論(法医病理学演習))			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	藤宮 龍也			区分	
授業の概要					
生体侵襲要因による生体への影響を病理学的見地から解析する研究を学び、社会問題への科学的で公正な医科学の適応を目指す研究を学ぶ。					
授業の一般目標					
生体侵襲要因による生体への影響を病理学的見地から解析する研究を学び、社会問題への科学的で公正な医科学の適応を目指す研究手法を修得する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 生体侵襲要因による生体への影響を病理学的見地から述べることができる。					
思考・判断の観点: 実際の事例について、生体侵襲要因による生体への影響を病理学的見地から解析することができる。					
関心・意欲の観点: 社会問題への科学的で公正な医科学の適応をすることの重要性を実例をあげて討議できる。					
態度の観点: 社会問題への医科学を適応する上で、科学性や公正性について配慮することができる。					
技能・表現の観点: 実際の事例について、生体侵襲要因による生体への影響を病理学的見地から解析することができる。					
成績評価方法(総合)					
事例検討を通じて、総合的に判定する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153000081
開設科目名	法医・生体侵襲解析(医学特論(法医病理学実験実習))			単位	4単位
対象学生				学年	~
担当教員	藤宮 龍也			区分	
授業の概要					
生体侵襲要因による生体への影響を病理学的見地から解析する研究を学び、社会問題への科学的で公正な医科学の適応を目指す研究を学ぶ。					
授業の一般目標					
生体侵襲要因による生体への影響を病理学的見地から解析する研究を学び、社会問題への科学的で公正な医科学の適応を目指す研究手法を修得する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 生体侵襲要因による生体への影響を病理学的見地から述べることができる。					
思考・判断の観点: 実際の事例について、生体侵襲要因による生体への影響を病理学的見地から解析することができる。					
関心・意欲の観点: 社会問題への科学的で公正な医科学の適応をすることの重要性を実例をあげて討議できる。					
態度の観点: 社会問題への医科学を適応する上での、科学性や公正性について配慮することができる。					
技能・表現の観点: 実際の事例について、生体侵襲要因による生体への影響を病理学的見地から解析することができる。					
成績評価方法(総合)					
事例検討を通じて、総合的に判定する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153000082
開設科目名	法医・生体侵襲解析(医学特論(アルコール・薬物医学演習))			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	藤宮 龍也			区分	
授業の概要					
アルコールによる生体への影響を病理学的・中毒学見地から解析する研究を学び、社会問題への科学的で公正な医科学の適応を目指す研究を学ぶ。					
授業の一般目標					
アルコールによる生体への影響を中毒学的見地から解析する研究を学び、社会問題への科学的で公正な医科学の適応を目指す研究手法を修得する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: アルコールによる生体への影響を中毒学的見地から述べることができる。					
思考・判断の観点: 実際の事例や実験結果について、アルコールによる生体への影響を中毒学的見地から解析することができる。					
関心・意欲の観点: 社会問題への科学的で公正な医科学の適応をすることの重要性を実例をあげて討議できる。					
態度の観点: 社会問題への医科学を適応する上で、科学性や公正性について配慮することができる。					
技能・表現の観点: 実際の事例や実験結果について、アルコールによる生体への影響を中毒学的見地から解析することができる。					
成績評価方法(総合)					
事例検討や実験・結果解釈を通じて、総合的に判定する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153000083
開設科目名	法医・生体侵襲解析(医学特論(アルコール・薬物医学実験実習))			単位	4単位
対象学生				学年	~
担当教員	劉 金耀			区分	
授業の概要					
アルコールによる生体への影響を病理学的・中毒学見地から解析する研究を学び、社会問題への科学的で公正な医科学の適応を目指す研究を学ぶ。					
授業の一般目標					
アルコールによる生体への影響を中毒学的見地から解析する研究を学び、社会問題への科学的で公正な医科学の適応を目指す研究手法を修得する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: アルコールによる生体への影響を中毒学的見地から述べることができる。					
思考・判断の観点: 実際の事例や実験結果について、アルコールによる生体への影響を中毒学的見地から解析することができる。					
関心・意欲の観点: 社会問題への科学的で公正な医科学の適応をすることの重要性を実例をあげて討議できる。					
態度の観点: 社会問題への医科学を適応する上で、科学性や公正性について配慮することができる。					
技能・表現の観点: 実際の事例や実験結果について、アルコールによる生体への影響を中毒学的見地から解析することができる。					
成績評価方法(総合)					
事例検討や実験・結果解釈を通じて、総合的に判定する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153000084
開設科目名	法医・生体侵襲解析(医学特論(医事)法学演習)			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	藤宮 龍也			区分	
授業の概要					
社会問題への科学的で公正な医科学・医療学の適応を目指す研究を、医事法学的見地から行う。					
授業の一般目標					
社会問題への科学的で公正な医科学・医療学の適応を目指す研究を学び、医事法学的見地からの研究手法を修得する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 社会問題への科学的で公正な医科学・医療学の適応を目指す研究を実例をあげて説明することができる。					
思考・判断の観点: 社会問題への科学的で公正な医科学・医療学の適応を目指して、医事法学的検討を加えることができる。					
関心・意欲の観点: 社会問題への科学的で公正な医科学の適応をすることの重要性を実例をあげて討議できる。					
態度の観点: 社会問題への医科学を適応する上で、科学性や公正性について配慮することができる。					
技能・表現の観点: 社会問題への科学的で公正な医科学・医療学の適応を目指して、実際の事例について医事法学的検討を加えることができる。					
成績評価方法(総合)					
事例検討を通じて、総合的に判定する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153000085
開設科目名	法医・生体侵襲解析医学特論(医事判例演習)			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	藤宮 龍也			区分	
授業の概要					
社会問題への科学的で公正な医科学・医療学の適応を目指す研究を、医事法学的見地から行う。					
授業の一般目標					
社会問題への科学的で公正な医科学・医療学の適応を目指す研究を学び、医事法学的見地からの研究手法を修得する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 社会問題への科学的で公正な医科学・医療学の適応を目指す研究を実例をあげて説明することができる。					
思考・判断の観点: 社会問題への科学的で公正な医科学・医療学の適応を目指して、医事法学的検討を加えることができる。					
関心・意欲の観点: 社会問題への科学的で公正な医科学の適応をすることの重要性を実例をあげて討議できる。					
態度の観点: 社会問題への医科学を適応する上で、科学性や公正性について配慮することができる。					
技能・表現の観点: 社会問題への科学的で公正な医科学・医療学の適応を目指して、実際の事例について医事法学的検討を加えることができる。					
成績評価方法(総合)					
事例検討を通じて、総合的に判定する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153000086
開設科目名	法医・生体侵襲解析(医学特論(法医中毒学演習))			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	藤宮 龍也			区分	
授業の概要					
毒物や薬物による生体への影響を病理学的・中毒学見地から解析する研究を学び、社会問題への科学的で公正な医科学の適応を目指す研究を学ぶ。					
授業の一般目標					
毒物や薬物による生体への影響を中毒学的見地から解析する研究を学び、社会問題への科学的で公正な医科学の適応を目指す研究手法を修得する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 毒物や薬物による生体への影響を中毒学的見地から述べることができる。					
思考・判断の観点: 実際の事例や実験結果について、毒物や薬物による生体への影響を中毒学的見地から解析することができる。					
関心・意欲の観点: 社会問題への科学的で公正な医科学の適応をすることの重要性を実例をあげて討議できる。					
態度の観点: 社会問題への医科学を適応する上で、科学性や公正性について配慮することができる。					
技能・表現の観点: 実際の事例や実験結果について、毒物や薬物による生体への影響を中毒学的見地から解析することができる。					
成績評価方法(総合)					
事例検討や実験・結果解釈を通じて、総合的に判定する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153000087
開設科目名	法医・生体侵襲解析(医学特論(法医中毒学実験実習))			単位	4単位
対象学生				学年	~
担当教員	劉 金耀			区分	
授業の概要					
毒物や薬物による生体への影響を病理学的・中毒学見地から解析する研究を学び、社会問題への科学的で公正な医科学の適応を目指す研究を学ぶ。					
授業の一般目標					
毒物や薬物による生体への影響を中毒学的見地から解析する研究を学び、社会問題への科学的で公正な医科学の適応を目指す研究手法を修得する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 毒物や薬物による生体への影響を中毒学的見地から述べることができる。					
思考・判断の観点: 実際の事例や実験結果について、毒物や薬物による生体への影響を中毒学的見地から解析することができる。					
関心・意欲の観点: 社会問題への科学的で公正な医科学の適応をすることの重要性を実例をあげて討議できる。					
態度の観点: 社会問題への医科学を適応する上で、科学性や公正性について配慮することができる。					
技能・表現の観点: 実際の事例や実験結果について、毒物や薬物による生体への影響を中毒学的見地から解析することができる。					
成績評価方法(総合)					
事例検討や実験・結果解釈を通じて、総合的に判定する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153000088
開設科目名	救急・生体侵襲制御医学特論(救急医療と社会演習)			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	前川 剛志			区分	
授業の概要					
救急医療の現状を把握するために厚生労働省、総務省(消防庁)のデータベースの検索法を演習する。また、山口県内の現状も救急医療ネットワーク上のデータベースから把握し、救急医療情報をより良く社会に還元する方策を構築する。					
授業の一般目標					
救急医療体制を理解し、救急医療情報ネットワーク、中毒情報ネットワーク、大災害対策ネットワークなど情報技術(IT)時代の救急医療に対応できる情報収集能力を養う。またチーム医療の重要性を理解し、救急医療従事者に対する配慮、および救急患者とその家族に対する精神的サポートができるよう教授する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 救急医療体制について理解する。					
成績評価方法(総合)					
試験(50%)、講義(50%)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153000089
開設科目名	救急・生体侵襲制御医学特論(救急医療と社会実験実習)			単位	4単位
対象学生				学年	~
担当教員	藤田 基			区分	
授業の概要					
救急患者にみられる種々のストレスに対する生体反応を理解するために小動物を用いた実験を行う。					
授業の一般目標					
救急患者にみられる種々のストレスに対する生体反応について理解する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 救急患者にみられる種々のストレスに対する生体反応について理解する。					
技能・表現の観点: 小動物を用いた実験方法について学ぶ。					
成績評価方法(総合)					
基本的に、出席および実習態度(50%)と発表(50%)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153000090
開設科目名	救急・生体侵襲制御医学特論(集中治療演習)			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	笠岡 俊志			区分	
授業の概要					
本院先進救急医療センター集中治療室に入院する三次救急患者の診断と治療を実習し、関連する文献を検索、読解して、各種病態のマニュアルを作成、更新する。					
授業の一般目標					
重症救急患者の病態解明や新たな治療法の開発に関する基礎的・臨床的アプローチについて理解する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 集中治療患者の病態を把握し、診断・治療・管理について把握する					
思考・判断の観点: 患者のデータから状態を把握し、即座に対応できること。					
関心・意欲の観点: 積極的に治療に参加したり、病態把握のための文献情報などを収集する。					
態度の観点: 患者とその家族に対する対応、スタッフとのコミュニケーションがスムーズにかつ適格に行えるようにする。					
成績評価方法(総合)					
出席(30%)、演習(20%)、試験(50%)で行う。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153000091
開設科目名	救急・生体侵襲制御医学特論(集中治療実験実習)			単位	4単位
対象学生				学年	~
担当教員	鶴田 良介			区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153000092
開設科目名	救急・生体侵襲制御医学特論(心肺蘇生と脳演習)			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	笠岡 俊志			区分	
授業の概要					
心肺蘇生法およびその後の脳障害の病態生理について理解するために講義および演習を行う。					
授業の一般目標					
心肺蘇生後の脳障害の病態生理について理解する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 講義と演習により、心肺蘇生後の脳障害の病態生理について理解する。					
成績評価方法(総合)					
出席(30%)、演習(20%)、試験(50%)で行う。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153000093
開設科目名	救急・生体侵襲制御医学特論(心肺蘇生と脳実験実習)			単位	4単位
対象学生				学年	~
担当教員	河村 宜克			区分	
授業の概要					
心肺停止・蘇生患者の中枢神経障害の病態を解明するために、ラットの脳虚血モデルを作成し、神経生理・生化学・免疫系からアプローチする。					
授業の一般目標					
<ul style="list-style-type: none"> 救命救急医療や集中治療に関する専門的知識を習得する。 重症救急患者の病態解明や新たな治療法の開発に関する基礎的・臨床的アプローチについて理解する。 					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 心肺蘇生法およびその後の脳障害の病態生理について理解する。					
成績評価方法(総合)					
出席(30%)、演習(20%)、試験(50%)で行う。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153000094
開設科目名	救急・生体侵襲制御医学特論(プロテオーム解析と臓器演習)			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	前川 剛志			区分	
授業の概要					
重症脳障害患者の病態解析のためのプロテオーム解析について理解する。					
授業の一般目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・救命救急医療や集中治療に関する専門的知識を習得する。 ・重症救急患者の病態解明や新たな治療法の開発に関する基礎的・臨床的アプローチについて理解する。 					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 急性中枢神経障害の分子機序解明,病態把握や予後予測に有用なマーカーや治療ターゲットの同定のためのプロテオーム解析について知識と理解を深める。					
成績評価方法(総合)					
講義(20%),演習(30%),試験(50%)で評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153000095
開設科目名	救急・生体侵襲制御医学特論(プロトーム解析と臓器実験実習)			単位	4単位
対象学生				学年	~
担当教員	宮内 崇			区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153000096
開設科目名	救急・生体侵襲制御医学特論(軽度低体温療法演習)			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	前川 剛志			区分	
授業の概要					
頭部外傷,心肺停止・蘇生後脳症,脳卒中患者に対する軽度低体温療法の脳保護・蘇生効果を神経生理・生化学・免疫系から評価し,より安全で効果のある治療法を開発するための演習を行う。					
授業の一般目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・救命救急医療や集中治療に関する専門的知識を習得する。 ・重症救急患者の病態解明や新たな治療法の開発に関する基礎的・臨床的アプローチについて理解する。 					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 重症救急患者に対する軽度低体温療法の効果について,講義・演習により理解する。					
成績評価方法(総合)					
試験(50%),講義(30%),演習(20%)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153000097
開設科目名	救急・生体侵襲制御医学特論(軽度低体温療法実験実習)			単位	4単位
対象学生				学年	~
担当教員	金子 唯			区分	
授業の概要					
重症脳障害に対する軽度低体温療法の効果について学ぶために、小動物を用いた実験を行う。					
授業の一般目標					
重症脳障害に対する軽度低体温療法の効果について理解する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 重症脳障害に対する軽度低体温療法の効果について理解する。					
技能・表現の観点: 小動物を用いた実験方法について学ぶ。					
成績評価方法(総合)					
出席および実習態度(50%)および発表(50%)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153000098
開設科目名	環境保健医学特論(環境保健学演習)			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	原田 規章			区分	
授業の概要					
人間の健康問題を自然環境、社会環境の中で把握し、解決に寄与する研究を遂行できるための、基本的な知識および測定・解析技術を修得する					
授業の一般目標					
地域における健康問題を自然・社会環境の中で把握し解決方法を検討できる					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
授業への参加内容と発表内容、関連学会・研究会への参加・発表状況、関連論文発表状況などで総合的に評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
Tel:0836-22-2228/2229, Fax:22-2345 harada@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153000099
開設科目名	環境保健医学特論(環境保健学実験実習)			単位	4単位
対象学生				学年	~
担当教員	原田 規章, HOSSAIN MD.MAHBUB			区分	
授業の概要					
人間の健康問題を自然環境、社会環境の中で把握し、解決に寄与する研究を遂行できるための、基本的な知識および測定・解析技術を修得する					
授業の一般目標					
地域における健康問題を自然・社会環境の中で把握し解決方法を検討できる					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
授業への参加内容と発表内容、関連学会・研究会への参加・発表状況、関連論文発表状況などで総合的に評価する					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
Tel:0836-22-2228/2229, Fax:22-2345 harada@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153000100
開設科目名	環境保健医学特論(産業保健学演習)			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	原田 規章			区分	
授業の概要					
人間の健康問題を自然環境、社会環境の中で把握し、解決に寄与する研究を遂行できるための、基本的な知識および測定・解析技術を修得する					
授業の一般目標					
職域における健康問題を自然・社会環境の中で把握し解決方法を検討できる					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
授業への参加内容と発表内容、関連学会・研究会への参加・発表状況、関連論文発表状況などで総合的に評価する					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
Tel:0836-22-2228/2229, Fax:22-2345 harada@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153000101
開設科目名	環境保健医学特論(産業保健学実験実習)			単位	4単位
対象学生				学年	~
担当教員	原田 規章, HOSSAIN MD.MAHBUB			区分	
授業の概要					
人間の健康問題を自然環境、社会環境の中で把握し、解決に寄与する研究を遂行できるための、基本的な知識および測定・解析技術を修得する					
授業の一般目標					
職域における健康問題を自然・社会環境の中で把握し解決方法を検討できる					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
授業への参加内容と発表内容、関連学会・研究会への参加・発表状況、関連論文発表状況などで総合的に評価する					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
Tel:0836-22-2228/2229, Fax:22-2345 harada@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153000102
開設科目名	環境保健医学特論(地域保健学演習)			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	原田 規章			区分	
授業の概要					
人間の健康問題を自然環境、社会環境の中で把握し、解決に寄与する研究を遂行できるための、基本的な知識および測定・解析技術を修得する					
授業の一般目標					
地域社会における健康問題を自然・社会環境の中で把握し解決方法を検討できる					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
授業への参加内容と発表内容、関連学会・研究会への参加・発表状況、関連論文発表状況などで総合的に評価する					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
Tel:0836-22-2228/2229, Fax:22-2345 harada@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153000103
開設科目名	環境保健医学特論(地域保健学実験実習)			単位	4単位
対象学生				学年	~
担当教員	原田 規章, 戸ヶ里 泰典			区分	
授業の概要					
人間の健康問題を自然環境、社会環境の中で把握し、解決に寄与する研究を遂行できるための、基本的な知識および測定・解析技術を修得する					
授業の一般目標					
地域社会における健康問題を自然・社会環境の中で把握し解決方法を検討できる					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
授業への参加内容と発表内容、関連学会・研究会への参加・発表状況、関連論文発表状況などで総合的に評価する					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
Tel:0836-22-2228/2229, Fax:22-2345 harada@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153000104
開設科目名	環境保健医学特論(疫学演習)			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	原田 規章			区分	
授業の概要					
人間の健康問題を自然環境、社会環境の中で把握し、保健・医療・福祉の総合的な立場から問題を解析し、解決に寄与する研究を遂行できるための、基本的な知識および測定・解析技術を修得する					
授業の一般目標					
健康問題の解決のために、疫学的な問題把握と解析、統計学的解析ができる					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
授業への参加内容と発表内容、関連学会・研究会への参加・発表状況、関連論文発表状況などで総合的に評価する					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
Tel:0836-22-2228/2229, Fax:22-2345 harada@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153000105
開設科目名	環境保健医学特論(疫学実験実習)			単位	4単位
対象学生				学年	~
担当教員	原田 規章, HOSSAIN MD.MAHBUB			区分	
授業の概要					
人間の健康問題を自然環境、社会環境の中で把握し、保健・医療・福祉の総合的な立場から問題を解析し、解決に寄与する研究を遂行できるための、基本的な知識および測定・解析技術を修得する					
授業の一般目標					
健康問題の解決のために、疫学的な問題把握と解析、統計学的解析ができる					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
授業への参加内容と発表内容、関連学会・研究会への参加・発表状況、関連論文発表状況などで総合的に評価する					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
Tel:0836-22-2228/2229, Fax:22-2345 harada@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153000106
開設科目名	環境保健医学特論(医用統計学演習)			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	原田 規章			区分	
授業の概要					
人間の健康問題を自然環境、社会環境の中で把握し、保健・医療・福祉の総合的な立場から問題を解析し、解決に寄与する研究を遂行できるための、基本的な知識および測定・解析技術を修得する					
授業の一般目標					
健康問題の解決のために、疫学的な問題把握と解析、統計学的解析ができる					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
授業への参加内容と発表内容、関連学会・研究集会への参加・発表状況、関連論文発表状況などで総合的に評価する					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
Tel:0836-22-2228/2229, Fax:22-2345 harada@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153000107
開設科目名	環境保健医学特論(医用統計学実験実習)			単位	4単位
対象学生				学年	~
担当教員	原田 規章, 戸ヶ里 泰典			区分	
授業の概要					
人間の健康問題を自然環境、社会環境の中で把握し、保健・医療・福祉の総合的な立場から問題を解析し、解決に寄与する研究を遂行できるための、基本的な知識および測定・解析技術を修得する					
授業の一般目標					
健康問題の解決のために、疫学的な問題把握と解析、統計学的解析ができる					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
授業への参加内容と発表内容、関連学会・研究会への参加・発表状況、関連論文発表状況などで総合的に評価する					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
Tel:0836-22-2228/2229, Fax:22-2345 harada@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153000108
開設科目名	環境統御健康医学特論(産業保健学演習)			単位	3単位
対象学生				学年	~
担当教員	芳原 達也			区分	
授業の概要					
地域社会や職場等の人間の生活するコミュニティにおいて、発生しうる健康障害の解明と健康維持・増進に関わる研究を行い、医学・疫学・法律・生態学・衛生学に基づいた行動を実践できる人材を育成する。					
授業の一般目標					
環境中毒学(有機塩素系溶剤や重金属)の説明ができる					
生活習慣病の疫学研究の説明ができる					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
定期試験					
レポート					
プレゼンテーション					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153000109
開設科目名	環境統御健康医学特論(産業保健学実験実習)			単位	3単位
対象学生				学年	~
担当教員	芳原 達也			区分	
授業の概要					
産業現場の工場における労働者の労働実態を把握する。					
授業の一般目標					
労働者の健康管理を行うとともに作業環境を整える。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 労働者の作業環境を把握し改善に努める。					
思考・判断の観点: 労働環境の良し悪しを知る。					
関心・意欲の観点: 労働環境を討議できる。					
態度の観点: まじめな態度で行動できる。					
技能・表現の観点: 安全な労働環境が保たれる。					
成績評価方法(総合)					
試験					
レポート					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153000110
開設科目名	環境統御健康医学特論(疫学演習)			単位	1単位
対象学生				学年	~
担当教員	芳原 達也			区分	
授業の概要					
地域の健康状態を把握するために疫学研究を行う。					
授業の一般目標					
統計学を利用して住民の健康度を分析する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 統計について集団の健康度が説明できる。					
思考・判断の観点: 地域診断が行える。					
関心・意欲の観点: 地域の健康度の改善に貢献できる。					
態度の観点: 地域住民と協調できる。					
技能・表現の観点: パソコンで統計ソフトが使用できる。					
成績評価方法(総合)					
試験					
レポート					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153000111
開設科目名	環境統御健康医学特論(疫学実験実習)			単位	1単位
対象学生				学年	~
担当教員	芳原 達也			区分	
授業の概要					
疫学の介入研究を行う					
授業の一般目標					
介入研究が出来るようになる。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 地域の健康状態を説明できる。					
思考・判断の観点: 地域の公衆衛生状態が良いか否かを区別できる					
関心・意欲の観点: 公衆衛生の向上に寄与できる。					
態度の観点: 地域住民の生活に溶け込むことが出来る。					
技能・表現の観点: 統計的な解析が出来る。					
成績評価方法(総合)					
レポート					
論文					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153000112
開設科目名	環境統御健康医学特論(環境医学演習)			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	芳原 達也			区分	
授業の概要					
生体に影響を及ぼす環境因子(大きく物理的環境と化学的環境に大別される)について学習する。また、環境因子による疾患についての知識を深める。					
授業の一般目標					
ある環境要因による生体の変化(ホルモンなど)や具体的に生じる疾病についての理解と知識を深める。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 生体に影響する物理的環境要因(気圧、温度、放射線など)と化学的環境要因(化学物質など)によるホメオスタシスの変化、発生する疾病を説明できる。					
思考・判断の観点: 産業保健の場での実際の作業環境と結びつけて理解できる。					
関心・意欲の観点: 環境要因による生態変化、疾病を未然に予防できる。					
技能・表現の観点: 生体にある環境要因が曝露された際の指標(尿中代謝物、バイタルサイン)を測定し、検査数値から生体への曝露レベルを知ることができる。					
成績評価方法(総合)					
定期試験 レポート プレゼンテーション					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153000113
開設科目名	環境統御健康医学特論(環境医学実験実習)			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	芳原 達也			区分	
授業の概要					
生体に影響を及ぼす環境因子(大きく物理的環境と化学的環境に大別される)について実験する。機器の扱い方と結果の解釈を学習する。					
授業の一般目標					
生体に影響を及ぼす環境因子(大きく物理的環境と化学的環境に大別される)について実験する。機器の扱い方と結果の解釈を学習する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 生体に影響する物理的環境要因(気圧、温度、放射線など)や化学的環境要因(化学物質濃度など)を測定できる。また、測定機器を扱うことが出来る。					
思考・判断の観点: 実際の産業保健の許容濃度と比較して、解釈することが出来る。					
関心・意欲の観点: 測定結果より環境要因による生態曝露レベルが分かる。					
技能・表現の観点: 環境測定機器の操作が出来る。曝露指標としての生体のバイオマーカーを機器を使用して測定できる。					
成績評価方法(総合)					
定期試験					
機器取り扱い実習					
プレゼンテーション					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153000114
開設科目名	環境統御健康医学特論(環境中毒学演習)			単位	3単位
対象学生				学年	~
担当教員	芳原 達也			区分	
授業の概要					
さまざまな環境化学物質について、その毒性や問題点を客観的データ、文献的に参照し知識を習得する					
授業の一般目標					
さまざまな化学物質について環境中からの暴露での問題を論じることができる。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 中毒物質の測定、影響の評価について論じることが出来る					
思考・判断の観点: 文献の評価について、客観的に判断することが出来る。					
その他の観点: 授業は日本語を中心に行うが、英語論文を多く消毒することができる。					
成績評価方法(総合)					
記述試験、口頭式問等を実施する					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153000115
開設科目名	環境統御健康医学特論(環境中毒学実験実習)			単位	3単位
対象学生				学年	~
担当教員	芳原 達也			区分	
授業の概要					
環境化学物質の測定方法、様々な実験方法論について実施とそのノウハウを学ぶ					
授業の一般目標					
化学物質の環境測定についての方法を実施することが出来る。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: さまざまな測定アッセイについて知っている					
関心・意欲の観点: 実験に対して意欲をみせる					
態度の観点: 長時間に及ぶ測定系に耐えることが出来る					
技能・表現の観点: さまざまな実験室での技術を修得している。					
成績評価方法(総合)					
技能をつかったのアイデア、実験結果、改善やクリエイティブさは、記述試験からは評価することが難しい、しかし、実習での到達技能やその知識は口頭試問で評価することはかのうと思われる。口頭試問を行う。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153000116
開設科目名	環境統御健康医学特論(医療倫理演習)			単位	1単位
対象学生				学年	~
担当教員	芳原 達也			区分	
授業の概要					
医療を行う面での倫理的事項・諸問題の知識向上、議論					
授業の一般目標					
現在日本を中心とした医療の倫理問題の側面を専門的に論じることができる。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 近年の医療倫理・環境倫理の諸問題について論じることができる					
思考・判断の観点: 近年の医療倫理・環境倫理の諸問題について論じることができる					
成績評価方法(総合)					
議論への参加、現状諸問題の知識等を、できればテストではなく討論、ディベート等で評価したい。ただし、評価の客観性で問題となるため、必要があれば記述試験等で補う。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153000117
開設科目名	環境統御健康医学特論(医療倫理実験実習)			単位	1単位
対象学生				学年	~
担当教員	芳原 達也			区分	
授業の概要					
環境と健康の関連における諸問題に対し、実際に概論から発展させて、各論的な演習、より具体的なフィールドワークのノウハウを身に付ける。					
授業の一般目標					
事業所や組織、地域社会・家庭までいたる社会単位において、さまざまな問題点の仮説をたてることができる。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 横断調査、縦断調査の研究計画をたてることができる。					
思考・判断の観点: 現代社会における健康問題から、より具体的な仮説の設定が可能である。					
関心・意欲の観点: 一報で、地域の健康教育やヘルスプロモーションの一環として環境問題と対峙することが出来る。					
態度の観点: コミュニティや組織に対して、より信頼を得られるような会話術・指導力をみにつける					
技能・表現の観点: 調査内容の情報提供をより効果的に実践できる。					
その他の観点: より社会的に、調査対象に容易に人間味をだせるような人物像を確立することが出来る					
成績評価方法(総合)					
上記到達目標について、ゼミやテストを実施する。もちろん直接討論を行いながらも評価に加味していく。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153000118
開設科目名	医療環境学特論(健康科学演習)			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	上田 真寿美			区分	
授業の概要					
<p>高度経済成長以降、我々の生活水準は向上し物的な豊かさは実現しライフスタイルは大きく変化した。しかしその変化は、同時に身体諸機能を低下させ肥満、高血圧、糖尿病などの生活習慣病も増加させた。本授業では乳幼児期から老齢期のライフステージにおけるライフスタイルと健康の関連、望ましいライフスタイルの形成について解説する。そして健康関連行動やパーソナリティー、ストレス等について習熟する。</p>					
授業の一般目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1.医療における健康科学の意義を述べ、具体的な役割について説明することができる。 2.疾病予防と生活習慣の関係について説明できる。 3.健康に対する運動、栄養、休養の有効性について説明できる。 4.生活習慣(運動・栄養・休養)と心の健康について説明できる。 5.健康に関する行動変容の意義や具体的な方法について説明できる。 					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
理解度等を見て、総合的に評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
課題に対して興味を持ち、積極的に意見を交わせたら実りある時間になると思います。					
連絡先					
内線 2365、masumi-u@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153000119
開設科目名	医療環境学特論(健康科学実習)			単位	4単位
対象学生				学年	~
担当教員	上田 真寿美			区分	
授業の概要					
<p>高度経済成長以降、我々の生活水準は向上し物的な豊かさは実現しライフスタイルは大きく変化した。しかしその変化は、同時に身体諸機能を低下させ肥満、高血圧、糖尿病などの生活習慣病も増加させた。本授業では乳幼児期から老齢期のライフステージにおけるライフスタイルと健康の関連、望ましいライフスタイルの形成について学び、具体的な方法を提案・検討する。</p>					
授業の一般目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1.医療における健康科学の意義を述べ、具体的な役割について説明することができる。 2.疾病予防と生活習慣の関係について説明できる。 3.健康に対する運動、栄養、休養の有効性について説明できる。 4.健康に関する行動変容の意義や具体的な方法について説明・提案できる。 5.運動・食行動による具体的な健康づくりについて説明・提案できる。 					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
理解度等を見て、総合的に評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
課題に対して興味を持ち、積極的に参加してくれたら実りある時間になると思います。					
連絡先					
内線 2365、masumi-u@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153000120
開設科目名	医療環境学特論(医療人類学演習)			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	星野 晋			区分	
授業の概要					
医療人類学およびその理解に必要な不可欠な文化人類学の基本的視点、方法論、学説史、近年の動向等について、文献を中心に学習する。					
授業の一般目標					
文化人類学の基本的なものの見方、方法論、学説について理解を深め、文化人類学的アプローチに基づいて、病、健康、医療に関わるさまざまなテーマを分析・解釈できるようになる。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 文化人類学および医療人類学の主な学説・概念を理解する					
思考・判断の観点: 文化人類学的なアプローチを用いて、医療に関わるさまざまなテーマを考察できる					
関心・意欲の観点: 自主的な、資料および文献の収集ができる。					
態度の観点: 積極的にディスカッションができる。					
技能・表現の観点: フィールドワークおよびエスノグラフィー作成のスキルを身につける					
成績評価方法(総合)					
授業への出席、ディスカッションへの参加およびレポート					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
hoshino@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153000121
開設科目名	医療環境学特論(医療人類学実習)			単位	4単位
対象学生				学年	~
担当教員	星野 晋			区分	
授業の概要					
医療人類学(文化人類学)の手法とリわけフィールドワークおよびエスノグラフィについて学習する					
授業の一般目標					
医療人類学的なテーマについて、フィールドワークおよびエスノグラフィの作成ができるようになる。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: フィールドワークおよびエスノグラフィの基本的な事項について理解する					
思考・判断の観点: 自らフィールドワークのデザインを組み立てることができる					
関心・意欲の観点: さまざまなエスノグラフィを集め、読む。					
態度の観点: 積極的に参加する					
技能・表現の観点: 自らフィールドワークのデザインを組み立てることができる					
成績評価方法(総合)					
出席、ディスカッションへの参加、レポート(エスノグラフィ)などを総合的に評価する					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
hoshino@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153000122
開設科目名	医療環境学特論(生命倫理学演習)			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	谷田 憲俊			区分	
授業の概要					
<p>医学の発展で生み出される様々な新医療技術に対して旧来の価値観では一律の判断が困難である。それらの終末期医療や生殖医療などに対応するには、生命倫理的な取り組みが必要になる。その新しい多様な生命倫理問題を理解し、適切な対応ができる技能を修得し指導できるようになるため、討論を重視し、理論的、実践的な生命倫理学の教育を行う。</p>					
授業の一般目標					
<p>生命倫理の諸問題について自らが考え・判断する素養を修得し、研究や臨床において生命倫理に基づいた医療の実践と教育ができる。</p>					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点:生命倫理の諸問題を理解し、解決への道筋を考えられる。 思考・判断の観点:自己の価値観を大切にし、異なる価値観の他者と対話できるようになる。 関心・意欲の観点:課題を分析し論理的な解決方法を模索できる。 態度の観点:生命倫理の学びを深め、教育に実践できる。 技能・表現の観点:コミュニケーション術を学び、指導できる基礎を得る。</p>					
成績評価方法(総合)					
<p>課題に関するレポートを評価する。</p>					
教科書					
<p>インフォームド・コンセント その誤解・曲解・正解 / 谷田憲俊: NPO 医薬ビジネスセンター, 2006 患者・家族の緩和ケアを支援するスピリチュアルケア 初診から悲嘆まで / 谷田憲俊: 診断と治療社, 2008</p>					
参考書					
<p>幸せをよぶコミュニケーション / ジャック・サロメ: 行路社, 2004 患者の権利 患者本位で安全な医療の実現のために / ジョージ・J・アナス: 明石書店, 2007</p>					
メッセージ					
連絡先					
<p>tanida@yamaguchi-u.ac.jp</p>					
オフィスアワー					
<p>学生はいつでも訪問歓迎(留守の時はご容赦を)。</p>					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153000123
開設科目名	医療環境学特論(生命倫理学実習)			単位	4単位
対象学生				学年	~
担当教員	谷田 憲俊			区分	
授業の概要					
<p>医学の発展で生み出される様々な新医療技術に対して旧来の価値観では一律の判断が困難である。それらの終末期医療や生殖医療などに対応するには、生命倫理的な取り組みが必要になる。その新しい多様な生命倫理問題を理解し、適切な対応ができる技能を修得し指導できるようになるため、討論を重視し、理論的、実践的な生命倫理学の教育を行う。</p>					
授業の一般目標					
<p>生命倫理の諸問題について自らが考え・判断する素養を修得し、研究や臨床において生命倫理に基づいた医療の実践と教育ができる。</p>					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点:生命倫理の諸問題を理解し、解決への道筋を考えられる。 思考・判断の観点:自己の価値観を大切にし、異なる価値観の他者と対話できるようになる。 関心・意欲の観点:課題を分析し論理的な解決方法を模索できる。 態度の観点:生命倫理の学びを深め、教育に実践できる。 技能・表現の観点:コミュニケーション術を学び、指導できる基礎を得る。</p>					
成績評価方法(総合)					
<p>課題に関するレポートを評価する。</p>					
教科書					
<p>インフォームド・コンセント その誤解・曲解・正解 / 谷田憲俊: NPO 医薬ビジネスセンター, 2006 患者・家族の緩和ケアを支援するスピリチュアルケア 初診から悲嘆まで / 谷田憲俊: 診断と治療社, 2008</p>					
参考書					
<p>幸せをよぶコミュニケーション / ジャック・サロメ: 行路社, 2004 患者の権利 患者本位で安全な医療の実現のために / ジョージ・J・アナス: 明石書店, 2007</p>					
メッセージ					
連絡先					
<p>tanida@yamaguchi-u.ac.jp</p>					
オフィスアワー					
<p>学生はいつでも訪問歓迎(留守の時はご容赦を)。</p>					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153000124
開設科目名	医療環境学特論(臨床倫理学演習)			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	谷田 憲俊			区分	
授業の概要					
医学の発展で生み出される様々な新医療技術に対して旧来の価値観では一律の判断が困難である。それらの終末期医療や生殖医療などに対応するには、生命倫理的な取り組みが必要になる。その新しい多様な生命倫理問題を理解し、適切な対応ができる技能を修得し指導できるようになるため、討論を重視し、理論的、実践的な生命倫理学の教育を行う。					
授業の一般目標					
生命倫理の諸問題について自らが考え・判断する素養を修得し、研究や臨床において生命倫理に基づいた医療の実践と教育ができる。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 生命倫理の諸問題を理解し、解決への道筋を考えられる。					
思考・判断の観点: 自己の価値観を大切にし、異なる価値観の他者と対話できるようになる。					
関心・意欲の観点: 課題を分析し論理的な解決方法を模索できる。					
態度の観点: 生命倫理の学びを深め、教育に実践できる。					
技能・表現の観点: コミュニケーション術を学び、指導できる基礎を得る。					
成績評価方法(総合)					
課題に関するレポートを評価する。					
教科書					
インフォームド・コンセント その誤解・曲解・正解 / 谷田憲俊: NPO 医薬ビジネスセンター, 2006					
患者・家族の緩和ケアを支援するスピリチュアルケア 初診から悲嘆まで / 谷田憲俊: 診断と治療社, 2008					
参考書					
幸せをよぶコミュニケーション / ジャック・サロメ: 行路社, 2004					
患者の権利 患者本位で安全な医療の実現のために / ジョージ・J・アナス: 明石書店, 2007					
メッセージ					
連絡先					
tanida@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
学生はいつでも訪問歓迎(留守の時はご容赦を)。					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153000125
開設科目名	医療環境学特論(臨床倫理学実習)			単位	4単位
対象学生				学年	~
担当教員	谷田 憲俊			区分	
授業の概要					
医学の発展で生み出される様々な新医療技術に対して旧来の価値観では一律の判断が困難である。それらの終末期医療や生殖医療などに対応するには、生命倫理的な取り組みが必要になる。その新しい多様な生命倫理問題を理解し、適切な対応ができる技能を修得し指導できるようになるため、討論を重視し、理論的、実践的な生命倫理学の教育を行う。					
授業の一般目標					
生命倫理の諸問題について自らが考え・判断する素養を修得し、研究や臨床において生命倫理に基づいた医療の実践と教育ができる。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 生命倫理の諸問題を理解し、解決への道筋を考えられる。					
思考・判断の観点: 自己の価値観を大切にし、異なる価値観の他者と対話できるようになる。					
関心・意欲の観点: 課題を分析し論理的な解決方法を模索できる。					
態度の観点: 生命倫理の学びを深め、教育に実践できる。					
技能・表現の観点: コミュニケーション術を学び、指導できる基礎を得る。					
成績評価方法(総合)					
課題に関するレポートを評価する。					
教科書					
インフォームド・コンセント その誤解・曲解・正解 / 谷田憲俊: NPO 医薬ビジネスセンター, 2006					
患者・家族の緩和ケアを支援するスピリチュアルケア 初診から悲嘆まで / 谷田憲俊: 診断と治療社, 2008					
参考書					
幸せをよぶコミュニケーション / ジャック・サロメ: 行路社, 2004					
患者の権利 患者本位で安全な医療の実現のために / ジョージ・J・アナス: 明石書店, 2007					
メッセージ					
連絡先					
tanida@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
学生はいつでも訪問歓迎(留守の時はご容赦を)。					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153000126
開設科目名	医療環境学特論(医学医療社会論演習)			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	川崎 勝			区分	
授業の概要					
医学医療社会論のトピックを深く学ぶ。					
授業の一般目標					
医学医療と社会の関係に関する諸問題を探求する能力を習得する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 医学医療と社会の関係に関する諸問題を詳述できる。					
技能・表現の観点: 医学医療と社会の関係に関する諸問題について議論できる。					
成績評価方法(総合)					
学習態度と最終発表(場合によってレポート)で行う。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153000127
開設科目名	医療環境学特論(医学医療史演習)			単位	4単位
対象学生				学年	~
担当教員	川崎 勝			区分	
授業の概要					
医学医療史のトピックを深く学ぶ。					
授業の一般目標					
医学医療の歴史に関する諸問題を探求する能力を習得する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 医学医療の歴史に関する諸問題を詳述できる。					
技能・表現の観点: 医学医療の歴史に関係に関する諸問題について議論できる。					
成績評価方法(総合)					
学習態度と最終発表(場合によってレポート)で行う。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153000128
開設科目名	機能神経解剖学特論(神経分子生物学演習)			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	篠田 晃			区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153000129
開設科目名	機能神経解剖学特論(神経分子生物学実験実習)			単位	4 単位
対象学生				学年	~
担当教員	藤永 竜太郎			区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153000130
開設科目名	機能神経解剖学特論(ストレス神経科学演習)			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	篠田 晃			区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153000131
開設科目名	機能神経解剖学特論(ストレス神経科学実験実習)			単位	4単位
対象学生				学年	~
担当教員	藤永 竜太郎			区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153000132
開設科目名	機能神経解剖学特論(神経系の組織化学演習)			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	篠田 晃			区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153000133
開設科目名	機能神経解剖学特論(神経系の組織化学実験実習)			単位	4単位
対象学生				学年	~
担当教員	柳井 章江			区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153000134
開設科目名	機能神経解剖学特論(神経系電子顕微鏡学演習)			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	篠田 晃			区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153000135
開設科目名	機能神経解剖学特論(神経系電子顕微鏡学実験実習)			単位	4単位
対象学生				学年	~
担当教員	柳井 章江			区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153500004
開設科目名	最先端ライフサイエンス研究科目			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員				区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153500005
開設科目名	病理形態学特論(外科病理学演習)			単位	4単位
対象学生				学年	~
担当教員	池田 栄二			区分	
授業の概要					
<p>人体の臓器・組織の正常構造を教授し、代表的な疾患について光学顕微鏡を用いて病理組織学所見を教授し、学生自らに病理組織診断をさせる。症例によっては組織化学的検索方法や電子顕微鏡を用いて病理組織診断を教授する。また、その症例を検討会や学会での発表および論文を書けるように指導する。</p>					
授業の一般目標					
<p>全身臓器の代表的な疾患の臨床診断を理解し、その病理診断の重要性を認識している。 光学顕微鏡を用いて全身臓器の代表的な疾患の病理組織診断が出来るようになる。 疾患により免疫組織化学的検索や電子顕微鏡的検索を指示することができる。</p>					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
理解度を見て、総合的に評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153500006
開設科目名	病理形態学特論(外科病理学実習)			単位	4単位
対象学生				学年	~
担当教員	河野 裕夫			区分	
授業の概要					
病理診断学の重要性について、実習を通じて学ぶ。					
授業の一般目標					
病理診断学の重要性について、実習を通じて学ぶ。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 病理診断学の重要性について説明できる。					
日常的に遭遇する基本的な病変の組織像について説明できる。					
技能・表現の観点: 適切な切り出しができる。					
成績評価方法(総合)					
実習態度や、実習中に適宜行う口頭試問などにより総合的に判定する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153500007
開設科目名	病理形態学特論(病理解剖学演習)			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	河野 裕夫			区分	
授業の概要					
何らかの原因で病院内で死亡したご遺体の病理解剖により、死因、病気の状態(臨床診断の正確さ、治療効果など)を検索し、病理解剖の手技、知識およびその病気に教授する。					
授業の一般目標					
病理解剖の意義を理解し、その手技、知識に加えて、患者さんの死因や病気の状態(臨床診断の正確さ、治療効果など)を理解させる。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 病理解剖の意義を理解し、病理解剖の介助ができる。					
思考・判断の観点: 患者さんの死因を明らかにし、その病気の経過を説明できる。					
症例の病理解剖学的診断および所見を検討会で説明する。					
態度の観点: ご遺体およびその保存した臓器に敬意の念を持って接することができる。					
技能・表現の観点: ご遺体から最小限の侵襲により臓器を取り出すことができる。また、ご遺族に不快感を与えないように縫合してご遺体をお返りする。					
成績評価方法(総合)					
理解度等を見て、総合的に評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153500008
開設科目名	病理形態学特論(病理解剖学実習)			単位	4単位
対象学生				学年	~
担当教員	星井 嘉信			区分	
授業の概要					
<p>病理解剖に関する法令等に関連して、解剖に先立っての準備・注意点について説明する。</p> <p>御遺体に対する敬意をはらい、病理解剖を行う上での、執刀医・介補者としての手技、注意点について説明する。</p> <p>病理解剖における諸臓器の肉眼所見の読み方について説明する。組織の採取法について説明する。</p> <p>病理解剖組織標本の鏡検について説明する。</p> <p>病理解剖学的所見のまとめ方について説明する。</p>					
授業の一般目標					
1人で病理解剖の準備～実施、まとめまでが行えるようになる。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 病理解剖所見が読める。					
思考・判断の観点: 病理解剖診断を挙げる事ができ、それらの因果関係を構築できる。					
技能・表現の観点: 病理解剖が実施できる。					
成績評価方法(総合)					
担当した病理解剖症例に関して、病理臨床検討会を行い、報告書をまとめる。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153500009
開設科目名	病理形態学特論(分子生物学応用演習)			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	池田 栄二			区分	
授業の概要					
病理学における分子生物学について、基礎から実践を説明する。					
授業の一般目標					
病理学における分子生物学について原理を学ぶ。					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
理解度を見て、総合的に評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153500010
開設科目名	病理形態学特論(分子生物学応用実験実習)			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	崔 丹			区分	
授業の概要					
病理分野における分子生物学的手法の重要性について実習を通じて学ぶ。					
授業の一般目標					
病理学分野における分子生物学的手法の重要性について実習を通じて学ぶ。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 基本的な分子病理学的手法の原理を説明できる。					
病理学分野における分子病理学の重要性について説明できる。					
思考・判断の観点: 様々な分子病理学的手法により得られた結果と病変の関連について説明できる。					
成績評価方法(総合)					
実習態度や、実習中に適宜行う口頭試問などにより総合的に判定する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153500011
開設科目名	病理形態学特論(免疫組織化学演習)			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	星井 嘉信			区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153500012
開設科目名	病理形態学特論(免疫組織化学実験実習)			単位	4単位
対象学生				学年	~
担当教員	崔 丹			区分	
授業の概要					
免疫組織化学的手法の基礎を理解し、基本的手技を習得する。					
授業の一般目標					
免疫組織化学的手法の基礎を理解し、基本的手技を習得する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 免疫組織化学的手法の原理を説明できる。					
病理学分野における免疫組織化学の重要性について説明できる					
思考・判断の観点: 免疫組織化学的検討により得られた結果の意味を説明できる。					
技能・表現の観点: ホルマリン固定パラフィン切片を用いた基本的な免疫染色を行うことができる。					
成績評価方法(総合)					
実習態度や、実習中に適宜行う口頭試問などにより総合的に判定する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153500013
開設科目名	病理形態学特論(病理組織学演習)			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	池田 栄二			区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153500014
開設科目名	病理形態学特論(病理組織学実験実習)			単位	4単位
対象学生				学年	~
担当教員	河野 裕夫			区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153500015
開設科目名	放射線医学特論(放射線診断学(頭頸部・骨軟部等)演習)			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	松永 尚文			区分	
授業の概要					
頭頸部・骨軟部等の画像診断の所見と鑑別診断について、理解させる。					
授業の一般目標					
頭頸部・骨軟部等の画像診断の所見と鑑別診断を言える。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 頭頸部・骨軟部疾患と画像所見を説明できる。					
思考・判断の観点: 鑑別疾患をあげることができる。					
関心・意欲の観点: 共同研究に寄与できる。					
態度の観点: カンファレンスに参加できる、他科の医師と協調できる。					
技能・表現の観点: 読影端末が使用できる、ワークステーションを操作できる。					
成績評価方法(総合)					
成績評価は基本的に出席(30%)と試験(70%)で行う。					
教科書					
参考書					
骨・関節のX線診断 / 江原 茂:金原出版j, 1995					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153500016
開設科目名	放射線医学特論(放射線診断学(頭頸部・骨軟部等)実験実習)			単位	4単位
対象学生				学年	~
担当教員	松永 尚文			区分	
授業の概要					
頭頸部・骨軟部等の画像診断の所見と鑑別診断について理解させる。					
授業の一般目標					
頭頸部・骨軟部等の画像診断の所見と鑑別診断を言える。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 頭頸部・骨軟部疾患と画像所見を説明できる。					
思考・判断の観点: 鑑別疾患をあげることができる。					
関心・意欲の観点: 共同研究に寄与できる。					
態度の観点: カンファレンスに参加できる、他科の医師と協調できる。					
技能・表現の観点: 読影端末が使用できる、ワークステーションを操作できる。					
成績評価方法(総合)					
成績評価は基本的に出席(30%)と試験(70%)で行う。					
教科書					
参考書					
骨・関節のX線診断 / 江原 茂: 金原出版j, 1995					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153500017
開設科目名	放射線医学特論(放射線診断学(胸部)演習)			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	田中 伸幸			区分	
授業の概要					
画像診断に必要な、肺の生理、胸腔内、肺の解剖、X線写真の成り立ち、CT、MRI、RI、PETの原理、各疾患の病態・病理、各疾患の画像上の特徴を理解してもら。また、実際の症例を用いて演習してもら。					
授業の一般目標					
画像診断に必要な、肺の生理、胸腔内、肺の解剖、X線写真の成り立ち、CT、MRI、RI、PETの原理、各疾患の病態・病理、各疾患の画像上の特徴につき理解する。 既存の知識を利用して、自分で考案した新たな画像診断法を開発する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 基本的な肺の生理、胸腔内、肺の解剖、X線写真の成り立ち、CT、MRI、RI、PETの原理、各疾患の病態・病理、各疾患の画像上の特徴を説明できる。					
思考・判断の観点: 画像所見から、病理像や機能を思考し、病態を判断する。					
関心・意欲の観点: 新たな画像所見の発見を目指す。鑑別診断の向上を目指す。 新たなモダリティの開発に目を向ける。 治療向上に寄与できる所見の発見を目指す。					
態度の観点: 国内、海外関連学会に応募し発表する。 迅速な論文作成を行う。					
技能・表現の観点: レポートの受け取り手が正確な理解できるよう、添付画像や所見の表現を工夫する。 より多くの正確な所見が作成できるよう工夫する。 アクセプトされやすい論文作成を目指す。					
成績評価方法(総合)					
出席(30%)、試験(10%)実地での診断能(30%)、発表・論文内容(30%)で判断する					
教科書					
参考書					
Diseases of the Chest / Fraser,Saunders, , 1999					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153500018
開設科目名	放射線医学特論(放射線診断学(胸部)実験実習)			単位	4単位
対象学生				学年	~
担当教員	田中 伸幸			区分	
授業の概要					
胸郭内疾患の手術標本について、画像と肉眼像や病理像を対比する					
授業の一般目標					
画像の成り立ちを手術標本を用いて理解ができるよう指導する					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 基本的な胸腔内、肺の解剖、X線写真の成り立ち、各疾患の病態・病理、各疾患の画像上の特徴を説明できる。					
思考・判断の観点: 画像所見から、病理像や機能を思考し、病態を判断する。					
成績評価方法(総合)					
出席(50%)と試験(50%)					
教科書					
参考書					
Diseases of the Chest / Fraser, Saunders, 1999					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153500019
開設科目名	放射線医学特論(放射線診断学(腹部)演習)			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	藤田 岳史			区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153500020
開設科目名	放射線医学特論(放射線診断学(腹部)実験実習)			単位	4単位
対象学生				学年	~
担当教員	藤田 岳史			区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153500021
開設科目名	放射線医学特論(核医学演習)			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	松永 尚文			区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153500022
開設科目名	放射線医学特論(核医学実験実習)			単位	4単位
対象学生				学年	~
担当教員	徳田 修			区分	
授業の概要					
実際に核種を静注、投与してイメージを撮像する。具体的な撮像方法、データ収集の方法を学ぶ。またダイナミックイメージ方法についても習得。					
授業の一般目標					
核種にかんしてその生物学的、物理学的特性に関して十分に理解する。疾患別のイメージに関する理解も理解する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 疾患別のイメージに関して正確な知識、理解が得られるようにする。					
成績評価方法(総合)					
理解度を見て、総合的に評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153500023
開設科目名	放射線医学特論(放射線治療学演習)			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	沖本 智昭			区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153500024
開設科目名	放射線医学特論(放射線治療学実験実習)			単位	4単位
対象学生				学年	~
担当教員	沖本 智昭			区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153500025
開設科目名	生命実験医学特論(感染症病態学演習)			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	未定			区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153500026
開設科目名	生命実験医学特論(感染症病態学実験実習)			単位	4単位
対象学生				学年	~
担当教員	未定			区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153500027
開設科目名	小児科学特論(感染・免疫学演習)			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	市山 高志			区分	
授業の概要					
感染免疫学の実験方法の基礎を習得する					
授業の一般目標					
感染免疫学の基礎的な実験ができる					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
事例研究や討論を通じて、総合的に判断する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153500028
開設科目名	小児科学特論(感染・免疫学実験実習)			単位	4単位
対象学生				学年	~
担当教員	白石 昌弘			区分	
授業の概要					
感染免疫学の実験方法の基礎を習得する					
授業の一般目標					
感染免疫学の基礎的実験ができる					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
事例検討、討論等を通じて総合的に評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153500029
開設科目名	小児科学特論(発達免疫学演習)			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	長谷川 俊史			区分	
授業の概要					
免疫学の実験法の基礎を習得する					
授業の一般目標					
免疫学の基礎的な実験法ができる					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
事例検討、討論等を通じて総合的に評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153500030
開設科目名	小児科学特論(発達免疫学実験実習)			単位	4単位
対象学生				学年	~
担当教員	松重 武志			区分	
授業の概要					
新生児、乳幼児の免疫は成人と異なり、発達段階にある。免疫の発達過程に関して実習をおこなう					
授業の一般目標					
小児の免疫の発達過程を理解すること					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 免疫の基礎を習得する					
技能・表現の観点: 免疫実験の手技を獲得する					
成績評価方法(総合)					
実習態度、習得技術、口答試問で行う					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153500031
開設科目名	小児科学特論(アレルギー学演習)			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	長谷川 俊史			区分	
授業の概要					
小児アレルギー疾患の診療を習得する					
授業の一般目標					
小児アレルギー疾患の問診、診察、検査、診断、治療ができる					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
事例検討、討論等を通じて総合的に評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153500032
開設科目名	小児科学特論(アレルギー-学実験実習)			単位	4単位
対象学生				学年	~
担当教員	橋本 邦生			区分	
授業の概要					
アレルギーについて理解する					
授業の一般目標					
アレルギーの基礎実験の理解と、実験方法の習得					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: アレルギーの基礎として、免疫担当細胞や化学伝達物質の役割を理解する。					
技能・表現の観点: アレルギーに関する実験方法を習得する					
成績評価方法(総合)					
口頭式問					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153500033
開設科目名	小児科学特論(小児膠原病学演習)			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	市山 高志			区分	
授業の概要					
小児膠原病の診療を習得する					
授業の一般目標					
小児膠原病の問診、診察、検査、診断、治療ができる					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
事例検討、討論等を通じて総合的に評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153500034
開設科目名	小児科学特論(小児膠原病学実験実習)			単位	4単位
対象学生				学年	~
担当教員	竹川 剛史			区分	
授業の概要					
フローサイトメーター、ELISA を用いて小児の膠原病の病態解明を行う。					
授業の一般目標					
フローサイトメーター、ELISA の使用方法を習得し、実験結果について考察を行う					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 小児膠原病の個々の疾患について説明できる。					
フローサイトメーターの原理について説明できる。					
ELISA 法について説明できる。					
思考・判断の観点: 実験で得られた結果について考察できる。					
態度の観点: 他の研究者と協力し、議論しあえる。					
技能・表現の観点: フローサイトメーターを操作できる。					
ELISA を行える。					
成績評価方法(総合)					
成績評価は基本的に出席 50 点、口頭試験 50 点で行う。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153500035
開設科目名	小児科学特論(小児神経学演習)			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	市山 高志			区分	
授業の概要					
小児神経疾患の診療法を習得する					
授業の一般目標					
小児神経疾患の問診、診察、検査、診断、治療ができる					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
事例研究、討論等を通じて総合的に評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153500036
開設科目名	小児科学特論(小児神経学実験実習)			単位	4単位
対象学生				学年	~
担当教員	前場 進治			区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153500037
開設科目名	産科婦人科学特論(生殖生物学演習)			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	杉野 法広			区分	
授業の概要					
<p>卵巣機能の正常月経周期に伴う変化および妊娠による変化につき、特に卵胞の発育における局所因子の関与や黄体機能調節における局所因子の関与を中心に解説する。卵の成熟および受精機構、および個体発生につき最新の知見に基づいた解説を行う。子宮内膜機能の正常月経周期に伴う変化と妊娠による変化につき、特に子宮内膜の血流調節や脱落膜化機構を解説する。</p>					
授業の一般目標					
<p>生殖生物学の分野において、生理的現象または病的状態を細胞レベルから器官レベルにおいて総合的に研究することにより、細胞機能や疾患の病態の一端を解明し、新たな診断法や治療法の開発と創薬に結びつく研究成果を発表する。</p>					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点:女性生殖器の生理学的機能を理解する。</p>					
成績評価方法(総合)					
<p>□頭試問による。</p>					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153500038
開設科目名	産科婦人科学特論(生殖生物学実験実習)			単位	4単位
対象学生				学年	~
担当教員	田村 博史			区分	
授業の概要					
<p>黄体内の増殖因子、サイトカインや種々の酵素の発現を分子生物学的手法を用い解析する。2) 卵や卵胞の培養を行い一酸化窒素、サイトカイン、による卵成熟とその細胞内シグナルを解析する。3) 子宮内膜の血管構築の形態的变化を解析する。子宮内膜細胞の培養において脱落膜化を誘導し、その調節因子を分子生物学的手法を用い解析する。</p>					
授業の一般目標					
<p>生殖生物学の分野において、生理的現象または病的状態を細胞レベルから器官レベルにおいて総合的に研究することにより、細胞機能や疾患の病態の一端を解明し、新たな診断法や治療法の開発と創薬に結びつく研究成果を発表する。</p>					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点:ラットの卵巢機能とその調節機構を理解する。 技能・表現の観点:動物実験を指導する。</p>					
成績評価方法(総合)					
<p>口頭式問と実技演習により行う。</p>					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153500039
開設科目名	産科婦人科学特論(不妊治療医学演習)			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	杉野 法広			区分	
授業の概要					
1)不妊症の原因、診断、治療法について解説する。2)黄体機能不全の病態について詳細に解説する。3)排卵機構、卵成熟機構とその細胞内シグナルを詳細に解説する。排卵誘発法について説明する。4)子宮内膜細胞の増殖、分化に関する調節機構を解説する。5)着床不全の病態について説明する。6)生殖補助医療と生殖生命倫理について説明する。					
授業の一般目標					
不妊症学の分野において、生理的現象または病的状態を細胞レベルから器官レベルにおいて総合的に研究することにより、細胞機能や疾患の病態の一端を解明し、新たな診断法や治療法の開発と創薬に結びつく研究成果を発表する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 不妊症の原因、診断、治療法について解説する。					
成績評価方法(総合)					
口頭試問により行う。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153500040
開設科目名	産科婦人科学特論(不妊治療医学実験実習)			単位	4単位
対象学生				学年	~
担当教員	杉野 法広			区分	
授業の概要					
<p>黄体機能不全の病態解明のため黄体内の増殖因子、サイトカインや種々の酵素の発現を分子生物学的手法を用い解析する。2)卵成熟機構とその細胞内シグナルを解析する。3)子宮内膜細胞の培養において脱落膜化を誘導し、その調節因子を分子生物学的手法を用い解析する。</p>					
授業の一般目標					
<p>不妊症学の分野において、生理的現象または病的状態を細胞レベルから器官レベルにおいて総合的に研究することにより、細胞機能や疾患の病態の一端を解明し、新たな診断法や治療法の開発と創薬に結びつく研究成果を発表する。</p>					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点:ヒト子宮内膜間質細胞または黄体化顆粒膜細胞の培養を行う。</p>					
成績評価方法(総合)					
<p>実技演習による。</p>					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153500041
開設科目名	産科婦人科学特論(婦人科腫瘍学演習)			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	縄田 修吾			区分	
授業の概要					
1) 婦人科悪性腫瘍(子宮癌、卵巣癌)の発生要因、疫学、診断、治療法について最近の知見に基づき説明する。悪性腫瘍の浸潤・転移機構について説明する。2) 婦人科良性腫瘍のなかでは、子宮筋腫の発生要因、疫学、診断、治療につき説明する。					
授業の一般目標					
婦人科腫瘍学の分野において、生理的現象または病的状態を細胞レベルから器官レベルにおいて総合的に研究することにより、細胞機能や疾患の病態の一端を解明し、新たな診断法や治療法の開発と創薬に結びつく研究成果を発表する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 婦人科悪性腫瘍(子宮癌、卵巣癌)の発生要因、診断、治療法を理解する。悪性腫瘍の浸潤・転移機構を理解する。					
成績評価方法(総合)					
口頭式問による。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153500042
開設科目名	産科婦人科学特論(婦人科腫瘍学実験実習)			単位	4単位
対象学生				学年	~
担当教員	縄田 修吾			区分	
授業の概要					
<p>摘出標本を用い、病理組織学的診断ができるようにする。また、免疫染色、特殊染色、in situ hybridization を用い、腫瘍細胞の増殖、進展、転移に関する因子を解析する。</p>					
授業の一般目標					
<p>婦人科腫瘍学の分野において、生理的現象または病的状態を細胞レベルから器官レベルにおいて総合的に研究することにより、細胞機能や疾患の病態の一端を解明し、新たな診断法や治療法の開発と創薬に結びつく研究成果を発表する。</p>					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点: 摘出標本を用い、病理組織学的診断ができる。</p> <p>技能・表現の観点: 免疫染色、特殊染色、in situ hybridization を用い、腫瘍細胞の増殖、進展、転移に関する因子を解析することができる。</p>					
成績評価方法(総合)					
<p>口頭試問による。</p>					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153500043
開設科目名	産科婦人科学特論(腫瘍生物学演習)			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	村上 明弘			区分	
授業の概要					
子宮頸部扁平上皮癌の発生、増殖、進展、転移機構について最近の知見に基づき説明する。腫瘍マーカーについてその役割、生物学的意義につき解説する。腫瘍発生における DNA メチル化やヒストンのアセチル化などの epigenetics の関与について説明する。					
授業の一般目標					
婦人科腫瘍学の分野において、生理的現象または病的状態を細胞レベルから器官レベルにおいて総合的に研究することにより、細胞機能や疾患の病態の一端を解明し、新たな診断法や治療法の開発と創薬に結びつく研究成果を発表する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 子宮頸部扁平上皮癌の発生、増殖、進展、転移機構を理解する。腫瘍マーカーについてその役割、生物学的意義を理解する。					
成績評価方法(総合)					
口頭式問による。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153500044
開設科目名	産科婦人科学特論(腫瘍生物学実験実習)			単位	4 単位
対象学生				学年	~
担当教員	村上 明弘			区分	
授業の概要					
子宮頸部扁平上皮癌の発生、増殖、進展、転移機構の解明のため、がん細胞の培養系を用い、特に、腫瘍マーカーである SCC 抗原の役割を電気泳動法、遺伝子導入などの分子生物学的手法を用い解析する。腫瘍発生における DNA メチル化機構の関与を restriction landmark genomic scanning 法や bisulfite PCR 法で解析する。					
授業の一般目標					
婦人科腫瘍学の分野において、生理的現象または病的状態を細胞レベルから器官レベルにおいて総合的に研究することにより、細胞機能や疾患の病態の一端を解明し、新たな診断法や治療法の開発と創薬に結びつく研究成果を発表する。					
授業の到達目標					
技能・表現の観点: 子宮頸部扁平上皮癌の発生、増殖、進展、転移機構の解明のため、がん細胞の培養系を用い、特に、腫瘍マーカーである SCC 抗原の役割を電気泳動法、遺伝子導入などの分子生物学的手法を用い解析する。					
成績評価方法(総合)					
実技演習により達成度を評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153500045
開設科目名	産科婦人科学特論(周産期医学演習)			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	中田 雅彦			区分	
授業の概要					
種々の産科疾患につき、その原因、診断、治療を解説する。胎児の正常発育や異常の超音波断層法を用いた診断法につき解説する。一絨毛膜性双胎における双胎間輸血症候群の病態、診断、治療、およびレーザーを用いた胎内治療について解説する。					
授業の一般目標					
周産期医学のいずれかの分野において、生理的現象または病的状態を細胞レベルから器官レベルにおいて総合的に研究することにより、細胞機能や疾患の病態の一端を解明し、新たな診断法や治療法の開発と創薬に結びつく研究成果を発表する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 種々の産科疾患につき、その原因、診断、治療を理解する。胎児の正常発育や異常を理解する。					
成績評価方法(総合)					
□頭試問による。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153500046
開設科目名	産科婦人科学特論(周産期医学実験実習)			単位	4単位
対象学生				学年	~
担当教員	中田 雅彦			区分	
授業の概要					
胎児の正常発育や異常の超音波断層法を用いた胎児診断を行う。ラットを用い、慢性低酸素状態を作成し、胎児の脳発育や出生後の脳神経発達に及ぼす影響を検討する。					
授業の一般目標					
周産期医学のいずれかの分野において、生理的現象または病的状態を細胞レベルから器官レベルにおいて総合的に研究することにより、細胞機能や疾患の病態の一端を解明し、新たな診断法や治療法の開発と創薬に結びつく研究成果を発表する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 胎児の正常発育や異常の超音波断層法を用いた胎児診断を行うことができる。					
技能・表現の観点: 胎児の正常発育や異常の超音波断層法を用いた胎児診断を行うことができる。または、ラットを用いた動物実験をおこない、胎児の発育や出生後の発達に及ぼす影響を検討することができる。					
成績評価方法(総合)					
口頭試問および実技実習により行う。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153500047
開設科目名	泌尿器科学特論(泌尿器科腫瘍学演習)			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	松山 豪泰			区分	
授業の概要					
泌尿器科腫瘍の一般的な理解を深め、自然科学の一般的な実験の一連の流れを理解し、実践する。					
授業の一般目標					
医学研究に貢献しうる臨床医を育成するために泌尿器科腫瘍の一般的な理解を深め、自然科学の一般的な実験の一連の流れを理解し、実践する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 分子生物学の教科書の抄読会を通じて分子生物学的知識ならびに泌尿器科腫瘍の一般的な理解を深める。					
思考・判断の観点: 臨床的な疑問に対する仮説をたて、それを証明するための実験的方法論を習得実践し、得られた結果を解析することにより仮説に対する証明をおこなう。					
技能・表現の観点: 分子生物学的手法に基づいた実験手技を習得、実践する。					
成績評価方法(総合)					
形成的評価					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153500048
開設科目名	泌尿器科学特論(泌尿器科腫瘍学実験実習)			単位	4単位
対象学生				学年	~
担当教員	松山 豪泰			区分	
授業の概要					
泌尿器科腫瘍の一般的な理解を深め、自然科学の基礎的な実験の一連の流れ(臨床的な疑問に対する仮説をたて、それを証明するための実験的方法論を習得実践し、得られた結果を解析することにより仮説に対する証明をおこなう)を理解し、習得する。					
授業の一般目標					
医学研究に貢献しうる臨床医を育成するために泌尿器科腫瘍の一般的な理解を深め、自然科学の基礎的な実験の一連の流れ(臨床的な疑問に対する仮説をたて、それを証明するための実験的方法論を習得実践し、得られた結果を解析することにより仮説に対する証明をおこなう)を理解し、習得する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 分子生物学の教科書の抄読会を通じて分子生物学的知識ならびに泌尿器科腫瘍の一般的な理解を深める。					
技能・表現の観点: 分子生物学的知識に基づいた実験手技を習得する。					
成績評価方法(総合)					
形成的評価					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153500049
開設科目名	泌尿器科学特論(泌尿器科内分泌学演習)			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	松山 豪泰			区分	
授業の概要					
泌尿器科内分泌疾患の一般的な理解を深め、自然科学の一般的な実験の一連の流れを理解し、習得する。					
授業の一般目標					
医学研究に貢献しうる臨床医を育成するために泌尿器科内分泌疾患の一般的な理解を深め、自然科学の一般的な実験の一連の流れを理解し、実践する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 分子生物学の教科書の抄読会を通じて分子生物学的知識ならびに泌尿器科内分泌疾患の一般的な理解を深める。					
思考・判断の観点: 臨床的な疑問に対する仮説をたて、それを証明するための実験的方法論を習得実践し、得られた結果を解析することにより仮説に対する証明をおこなう。					
技能・表現の観点: 分子生物学的手法に基づいた実験手技を習得、実践する。					
成績評価方法(総合)					
形成的評価					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153500050
開設科目名	泌尿器科学特論(泌尿器科内分泌学実験実習)			単位	4単位
対象学生				学年	~
担当教員	土田 昌弘			区分	
授業の概要					
実験動物を用いて、男性不妊症に対する分子生物学的アプローチ法を教え、不妊症治療に対する深い理解への筋道を指導する。					
授業の一般目標					
男性不妊症に対する専門的知識を得る。					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
技能を中心に評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153500051
開設科目名	泌尿器科学特論(腎臓病学演習)			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	土田 昌弘			区分	
授業の概要					
慢性腎不全の予防, 早期診断, QOL を高める治療法について講義し, さらに腎臓移植の現状と将来の展望(再生医療をも含めて)を講義する。					
授業の一般目標					
慢性腎不全の予防, 診断, 効果的治療に関する専門的知識を得る。					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
口頭諮問を行う。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153500052
開設科目名	泌尿器科学特論(腎臓病学実験実習)			単位	4 単位
対象学生				学年	~
担当教員	内山 浩一			区分	
授業の概要					
腎移植における免疫抑制療法の実際から移植免疫の現状の理解とともに、そのメカニズムを動物実験で解明する方法論を指導する。					
授業の一般目標					
腎移植に関する実践的知識を得る。					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
技能を総合的に評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153500053
開設科目名	泌尿器科学特論(ウロダイナミクス演習)			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	松山 豪泰			区分	
授業の概要					
泌尿器科外来を受診した患者さんを通じて、ウロダイナミクス(尿動力学的検査)の理解を深め、実技に習熟する。					
授業の一般目標					
地域社会に貢献しうる臨床医を養成するために泌尿器科外来を受診した患者さんを通じて、ウロダイナミクス(尿動力学的検査)の理解を深め、実技に習熟する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: ウロダイナミクス(尿動力学的検査)の理解を深める。					
技能・表現の観点: ウロダイナミクス(尿動力学的検査)の実技に習熟する。					
成績評価方法(総合)					
形成的評価					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153500054
開設科目名	泌尿器科学特論(ロダゲイミックス実験実習)			単位	4単位
対象学生				学年	~
担当教員	長尾 一公			区分	
授業の概要					
泌尿器科外来を受診する排尿障害患者さんを通して排尿障害の臨床を理解し、それに基づいた臨床的な疑問を解決するための実験的方法論を確立し、得られたデータを解析する。					
授業の一般目標					
泌尿器科分野の地域医療を指導しうる臨床医を育成するために、泌尿器科外来を受診する排尿障害患者さんを通して排尿障害の臨床を理解し、それに基づいた臨床的な疑問を解決するための実験的方法論を確立し、得られたデータを解析しうる。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 泌尿器科外来を受診する排尿障害患者さんを通して排尿障害の発生機序、基礎疾患、病態、治療法およびその管理法を理解する。					
技能・表現の観点: 臨床的な疑問を解決するための実験手技を習得する。					
成績評価方法(総合)					
形成的評価					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153500055
開設科目名	泌尿器科学特論(尿路結石症演習)			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	坂野 滋			区分	
授業の概要					
尿路結石の疫学, 発生原因, 治療法の変遷に加え, 宇宙では無重力になるが, 結石の発生はどのようになるのか等の最近の知見ならびに予防法について講義する。					
授業の一般目標					
尿路結石についての専門的知識を得る。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 尿路結石の初期評価, 疼痛に対する処置, 結石性状および閉塞状態の評価, 治療指針, 具体的治療法, 再発に対する診断, 再発に対する指導と薬物療法について理解する。					
成績評価方法(総合)					
尿路結石に対する知識・理解について評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153500056
開設科目名	泌尿器科学特論(尿路結石症実験実習)			単位	4単位
対象学生				学年	~
担当教員	原 貴彦			区分	
授業の概要					
尿路結石の治療法の実際を指導し,再発予防に向けての最近の知見を分析し,再発防止策を模索する。					
授業の一般目標					
尿路結石について実践的知識を得る。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 尿路結石の治療指針、治療法の実際、再発に対する診断、再発に対する指導と薬物療法の実際について理解・実践する。					
成績評価方法(総合)					
治療の実際について評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153500057
開設科目名	歯科口腔外科学特論(顔面・口腔の解剖学演習)			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	森 悦秀			区分	
授業の概要					
口腔・顎・顔面の系統的な解剖を、骨学、筋学、脈管学、神経学、内臓学に分けて再確認させ、口腔外科における代表的な手術に必要な解剖学的知識を演習方式で学習させる。					
授業の一般目標					
口腔・顎・顔面の系統的な解剖を理解し、口腔外科における手術の各段階に現れる臓器と取り扱いの注意点を説明できる。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 口腔・顎・顔面の系統的な解剖を説明できる。					
思考・判断の観点: 口腔外科における手術の各段階に現れる臓器の性質と取り扱い法を示すことができる。					
成績評価方法(総合)					
発表の中で、解剖学的知識と考察力を評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153500058
開設科目名	歯科口腔外科学特論(顔面・口腔の解剖学実験実習)			単位	4単位
対象学生				学年	~
担当教員	森 悦秀			区分	
授業の概要					
口腔外科における代表的な手術をビデオ形式で供覧し、実際の手術で解剖学的知識を確認させる。					
授業の一般目標					
口腔・顎・顔面の系統的な解剖を理解し、口腔外科における手術の各段階に現れる臓器と取り扱いの注意点を説明できる。また、術中の解剖学的な危険点を指摘し、その回避策を説明できる。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 口腔・顎・顔面の系統的な解剖を説明できる。					
思考・判断の観点: 口腔外科における手術の各段階に現れる臓器の性質と取り扱い法を示すことができる。					
成績評価方法(総合)					
発表の中で、解剖学的知識と考察力を評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153500059
開設科目名	歯科口腔外科学特論(顎顔面の発育異常演習)			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	森 悦秀			区分	
授業の概要					
口腔・顎・顔面に生じる口唇・口蓋裂をはじめとする先天異常、発育異常の結果生じる顎変形症について発生機序、疫学、診断、治療法について講義する。					
授業の一般目標					
口腔・顎・顔面の先天異常、発育異常を理解し、発生機序、疫学、診断、治療法を説明できる。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 口腔・顎・顔面の先天異常、発育異常を説明できる。					
思考・判断の観点: 口腔・顎・顔面の先天異常、発育異常の診断と治療法の選択ができる。					
成績評価方法(総合)					
試験またはレポートにより評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153500060
開設科目名	歯科口腔外科学特論(顎顔面の発育異常実験実習)			単位	4単位
対象学生				学年	~
担当教員	森 悦秀			区分	
授業の概要					
口腔・顎・顔面領域の先天異常、発育異常の診断、治療法を視聴覚教材を用いて供覧し、診断および治療計画立案法を演習する。					
授業の一般目標					
口腔・顎・顔面領域の先天異常、発育異常の診断、治療法を理解し、診断および治療計画立案ができる。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 口腔・顎・顔面領域の先天異常、発育異常の診断、治療法を説明できる。					
思考・判断の観点: 口腔・顎・顔面領域の先天異常、発育異常の診断、治療法を立案できる。					
関心・意欲の観点: 口腔・顎・顔面領域の先天異常、発育異常の診断、治療法立案の議論に参画できる。					
成績評価方法(総合)					
発表の中で、解剖学的知識と考察力を評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153500061
開設科目名	歯科口腔外科学特論(顔面・頭蓋画像診断学演習)			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	真野 隆充			区分	
授業の概要					
口腔・顎・顔面の X 線画像、CT 画像、MRI 画像、超音波画像等の画像診断法を講義し、症例を用いて演習させる。					
授業の一般目標					
口腔・顎・顔面の X 線画像、CT 画像、MRI 画像、超音波画像等の画像診断法を理解し、症例を用いてこれに習熟する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 口腔・顎・顔面の画像解剖を説明できる。					
思考・判断の観点: 口腔・顎・顔面の画像診断法を説明できる。					
技能・表現の観点: 口腔・顎・顔面の画像診断ができる。					
成績評価方法(総合)					
発表の中で、画像診断法の知識と考察力を評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153500062
開設科目名	歯科口腔外科学特論(顔面・頭蓋画像診断学実験実習)			単位	4単位
対象学生				学年	~
担当教員	真野 隆充			区分	
授業の概要					
口腔・顎・顔面の CT 画像、MRI 画像の 3 次元構築法を講義し、症例を用いて診断、治療計画の実習をさせる。					
授業の一般目標					
口腔・顎・顔面の CT 画像、MRI 画像の 3 次元構築法を理解し、症例を用いて診断、治療計画に習熟する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 口腔・顎・顔面の CT 画像、MRI 画像の 3 次元構築法を説明できる。					
思考・判断の観点: 口腔・顎・顔面の CT 画像、MRI 画像の 3 次元診断法を説明できる。					
技能・表現の観点: 口腔・顎・顔面の CT 画像、MRI 画像の 3 次元診断、治療計画に習熟する。					
成績評価方法(総合)					
発表の中で、画像診断法の知識と考察力を評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153500063
開設科目名	歯科口腔外科学特論(顎顔面外傷学演習)			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	上山 吉哉			区分	
授業の概要					
顎顔面領域に発生する外傷には、顔面損傷、顎骨骨折、歯牙外傷などがあるが、その結果審美障害、開口障害や咀嚼障害などの機能障害が生じるためこれら障害を残さないためには受傷後可及的に早期に適切な治療を行うことが不可欠である。そこで本演習ではいろいろな障害を発生する機序を理解したうえで、この領域に特徴的な治療法を修得する。					
授業の一般目標					
1) 頭頸部領域の解剖を習得する 2) 開口障害、咀嚼障害などの発生原因を説明できる 3) 創傷治癒について説明できる(軟組織、骨折に対し) 4) 外傷における診断の手順と治療方針を説明できる 5) 骨折に対する観血的、非観血的治療法の基礎的原理と方法を習得する 6) 歯牙外傷について説明できる					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
発表の中で、知識と考察力を評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153500064
開設科目名	歯科口腔外科学特論(顎顔面外傷学実験実習)			単位	4単位
対象学生				学年	~
担当教員	上山 吉哉			区分	
授業の概要					
演習ですでに顎骨骨折に対する治療法とその原理を習得しているので、実際に頻繁に用いられる治療法を模型上で実習を行うとともに、使用するプレート類の生体材料に関する知識を習得させる。					
授業の一般目標					
1) 顎間固定法の実習 2) 顎顔面骨骨折に用いられる固定用プレートの使用方法の実習(マイクロプレート, ミニプレート, 骨折用プレート, 下顎骨再建用プレート) 3) 生体材料に関する知識の習得を目指す					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
発表の中で、知識と考察力を評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153500065
開設科目名	歯科口腔外科学特論(口腔腫瘍学演習)			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	上山 吉哉			区分	
授業の概要					
顎、口腔領域には良性・悪性の種々の腫瘍が発生するが、この演習では特に口腔領域に特徴的な歯源性腫瘍と口腔癌について各腫瘍の発生由来から治療法までを学習する。また口腔癌については分子生物学的研究により得られた口腔癌の発生や転位のメカニズムについて最近の知見を交え解説を行う。					
授業の一般目標					
1) 歯原生腫瘍の分類がこれら発生母組織由来により大別されていることを理解する					
2) 口腔癌に対する診断, 集学的治療法を習熟する					
3) 口腔癌に対する非侵襲的治療法として超選択的動注, 放射線密封小線源治療(RALS)について習得するとともに, 口腔領域における保存療法の重要性を認識する					
4) 口腔癌発生に関与する癌抑制遺伝子と癌遺伝子について習得する					
5) 口腔癌における遺伝子染色体異常について理解する					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
発表の中で、知識と考察力を評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153500066
開設科目名	歯科口腔外科学特論(口腔腫瘍学実験実習)			単位	4単位
対象学生				学年	~
担当教員	上山 吉哉			区分	
授業の概要					
<p>口腔癌の疫学について調査することにより口腔癌発生の環境的因子を見つけ出し予防に寄与するかを検討する。さらに前癌病変と言われている白板症について臨床所見や病理所見を習得するとともに遺伝子の変異を検討することにより口腔癌との相違を理解する。</p>					
授業の一般目標					
<p>1) 口腔癌の疫学調査(原因, 誘因, 口腔各部ごとの発現頻度, 人種の差, 生活環境, 嗜好等について) 2) 特に喫煙と飲酒が口腔癌発生に及ぼす影響についての検討を行う 3) 前癌病変である白板症の臨床所見, 病理所見を習得する 4) 遺伝子の変異を検討する方法を習得する</p>					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
発表の中で、知識と考察力を評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153500067
開設科目名	耳鼻咽喉科学特論(めまい平衡医学演習)			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	山下 裕司			区分	
授業の概要					
めまい平衡医学について演習を行う。					
授業の一般目標					
めまい平衡障害を生じるメカニズムについて理解する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 前庭系の末梢から中枢に至る神経経路を理解する。					
眼振のメカニズムを理解できる。					
思考・判断の観点: めまい平衡障害の診断が出来る。					
関心・意欲の観点: めまい平衡障害について、病因について関心・意欲を示す。					
態度の観点: めまい平衡障害患者の診断・治療が適切に出来る。					
技能・表現の観点: めまい平衡障害患者に、日常生活上の指導が出来る。					
成績評価方法(総合)					
めまい平衡障害の患者を診断し、適切な治療法を指示できる。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153500068
開設科目名	耳鼻咽喉科学特論(めまい平衡医学実験実習)			単位	4単位
対象学生				学年	~
担当教員	山下 裕司			区分	
授業の概要					
前庭障害モデル動物を作成、めまい平衡障害の治療法の開発を目指す。					
授業の一般目標					
前庭障害モデル動物を作成できる。					
前庭障害モデル動物の、前庭機能評価が出来る。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 前庭障害を生じるメカニズムを理解し、モデル動物の作成が出来る。					
思考・判断の観点: 前庭障害モデル動物の、機能評価が出来る。					
関心・意欲の観点: 新しい治療法についての意欲がある。					
態度の観点: 前庭機能評価が、正確に出来る。					
技能・表現の観点: 再現性の高い動物モデルが作成できる。					
成績評価方法(総合)					
再現性の高い前庭障害モデル動物を作成し、正確な機能評価が出来る。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153500069
開設科目名	耳鼻咽喉科学特論(聴覚医学演習)			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	下郡・明			区分	
授業の概要					
聴覚系の解剖・生理にふれ、ヒトの聴覚系にどのような仕組みが施されているのか、その巧妙に作られたシステムを理解する。さらに、聴覚系の研究を行うにあたり、基本的な検査法について学ぶ。					
授業の一般目標					
聴覚系の解剖・生理を理解する。 聴覚系の検査法とその意義について概説できる。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 聴覚系の解剖・生理を理解する。 聴覚系の検査法とその意義について概説できる。					
思考・判断の観点: ヒトの聴覚系の優れたシステムの存在意義を考える。					
関心・意欲の観点: 聴覚を失った人の社会生活への適応法について関心を持ってもらう。補聴器でいけるのか、補聴効果がなければ視覚言語を用いるのか、人工内耳を埋め込み、聴覚活用するのか。					
成績評価方法(総合)					
口頭式問					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153500070
開設科目名	耳鼻咽喉科学特論(聴覚医学実験実習)			単位	4単位
対象学生				学年	~
担当教員	下郡・明			区分	
授業の概要					
聴覚系の研究を行うにあたり必要な、実験動物を用いた実習を行う。					
授業の一般目標					
<p>モルモットの聴覚反射の観察を理解する。</p> <p>モルモットの側頭骨を開放して蝸牛を同定できる。</p> <p>モルモットの蝸牛に小孔をあけ、薬物を投与できる。</p> <p>術前術後の実験動物の適切な取り扱いができる。</p>					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 安全な手術手技の理解。適切な実験動物の取り扱い方の獲得。					
態度の観点: 安全な手術手技の理解。適切な実験動物の取り扱い方の獲得。					
技能・表現の観点: 安全な手術手技の理解。適切な実験動物の取り扱い方の獲得。					
成績評価方法(総合)					
実験態度(きちんと尊厳を持って動物に接しているか)。実験のプロセスの実際を見ての評価。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153500071
開設科目名	耳鼻咽喉科学特論(鼻科学演習)			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	山下 裕司			区分	
授業の概要					
鼻・副鼻腔の解剖・生理を理解し、治療法について説明できる。					
授業の一般目標					
鼻・副鼻腔疾患について理解し、治療法を行える。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 鼻・副鼻腔の解剖・生理を理解する。					
思考・判断の観点: 鼻・副鼻腔の疾患の鑑別が出来る。					
関心・意欲の観点: 鼻・副鼻腔の病態についての解明に意欲を持つ。					
態度の観点: 鼻・副鼻腔疾患を持つ患者に、適切に指導できる。					
技能・表現の観点: 鼻・副鼻腔疾患に対する手術的治療の技術を身につける。					
成績評価方法(総合)					
鼻・副鼻腔疾患について理解し、治療法を行える。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153500072
開設科目名	耳鼻咽喉科学特論(鼻科学実験実習)			単位	4単位
対象学生				学年	~
担当教員	山下 裕司			区分	
授業の概要					
嗅覚のメカニズムを理解し、嗅覚動物モデル動物を作成し、治療法の開発を目指す。					
授業の一般目標					
再現性の高い嗅覚障害モデル動物を作成出来、嗅覚行動を解析し、治療法を開発する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 嗅覚のメカニズムを理解する。					
思考・判断の観点: 嗅覚障害の動物モデルを作成できる。					
関心・意欲の観点: 嗅覚障害の治療法の開発に対する意欲。					
態度の観点: 再現性の高い嗅覚障害モデル動物を作成出来る。					
技能・表現の観点: 嗅覚障害モデル動物の、嗅覚行動を観察・評価できる。					
成績評価方法(総合)					
鼻・副鼻腔の解剖・生理を理解し、治療法について説明できる。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153500073
開設科目名	耳鼻咽喉科学特論(音声言語医学演習)			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	原 浩貴			区分	
授業の概要					
音声機能、音声障害について演習を行う。					
授業の一般目標					
音声機能について理解する。					
音声障害を来す疾患について理解する。					
音声障害に対する治療について理解する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 音声機能について理解し、音声障害の種類と治療法について説明できるようになる。					
思考・判断の観点: 音声障害の鑑別診断ができるようになる。					
関心・意欲の観点: 臨床カンファレンスで音声障害患者の治療方針についての議論に参加できる。					
成績評価方法(総合)					
成績評価は基本的に、出席(30%)と口頭試問(70%)で行う。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153500074
開設科目名	耳鼻咽喉科学特論(音声言語医学実験実習)			単位	4単位
対象学生				学年	~
担当教員	原 浩貴			区分	
授業の概要					
音声機能検査について実習を行う。					
授業の一般目標					
音声機能検査が実施できるようになる。					
音声機能検査の結果を判断できるようになる。					
授業の到達目標					
技能・表現の観点: 喉頭ストロボスコープが使用できる。					
音声機能検査が実施できる。					
音声機能検査の結果を判断できる。					
声帯ポリリープ切除ができる。					
成績評価方法(総合)					
成績評価は基本的に、出席(30%)と実技試験(70%)で行う。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153500075
開設科目名	耳鼻咽喉科学特論(頭頸部腫瘍学演習)			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	菅原 一真			区分	
授業の概要					
頭頸部の生理・解剖、頭頸部腫瘍の種類と特性、頭頸部腫瘍の治療と治療後のQOLについて理解し知識を習得する					
授業の一般目標					
頭頸部の生理・解剖を理解し知識を得る					
頭頸部腫瘍の種類と特性を理解し知識を得る					
頭頸部腫瘍の手術治療について理解し知識を得る					
頭頸部腫瘍の放射線治療について理解し知識を得る					
頭頸部腫瘍の化学療法について理解し知識を得る					
頭頸部癌患者のQOLについて理解し知識を得る					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 頭頸部の各臓器、神経、血管の解剖					
口腔、咽頭、喉頭、鼻・副鼻腔の機能の理解					
頭頸部腫瘍の治療法の理解					
それぞれの領域における治療選択基準					
治療とQOL					
成績評価方法(総合)					
試験(50%)とレポート(50%)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153500076
開設科目名	耳鼻咽喉科学特論(頭頸部腫瘍学実験実習)			単位	4単位
対象学生				学年	~
担当教員	菅原 一真			区分	
授業の概要					
頭頸部腫瘍手術の見学・実習					
頭頸部腫瘍放射線治療の見学					
頭頸部腫瘍化学療法の見学・実習					
頭頸部腫瘍患者外来検査の見学・実習					
音声機能喪失患者のリハビリの見学					
授業の一般目標					
頭頸部腫瘍に対する検査、治療及び術後 QOL に関して見学と実習を行い、特に検査に関してはできるだけその手技を習得する					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 各検査法の原理、検査方法、合併症、所見の判断を習得					
治療法の原理、実際の方法、合併症について理解と習得					
思考・判断の観点: 検査所見の判断と診断					
治療法の選択					
治療合併症の回避					
技能・表現の観点: 検査法の習得					
手術法の習得					
成績評価方法(総合)					
実習					
レポート					
試験					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153500077
開設科目名	皮膚科学特論(皮膚病理学演習)			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	武藤 正彦			区分	
授業の概要					
テキストを用いて、代表的皮膚疾患について、臨床と対比させながらその病理組織学的知識を深める。					
授業の一般目標					
1) 皮膚疾患の病理組織を説明できる。 2) 皮膚疾患の臨床像を説明できる。 3) 皮膚疾患の治療法の原理を説明できる。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 代表的皮膚疾患に対する知識・理解が十分にできているかをみる。					
思考・判断の観点: 診断を間違え易い皮膚科症例を利用して、その分析力を通じて思考・判断力が適格になされているかをみる。					
関心・意欲の観点: 医学・生命現象(正常と異常)に関心をもてるかをみる。					
態度の観点: データの読み方などの討論に参加できているかをみる。					
技能・表現の観点: 相手を説得できる技能・表現をなしているかをみる。					
成績評価方法(総合)					
毎回の演習での成績をもとに評価を行う。					
教科書					
最新皮膚科学大系(第1巻~第19巻):中山書店,2002					
参考書					
Fitzpatrick's Dermatology in General Medicine(7th Edition) / Wolff K.et al.: McGraw-Hill, 2008					
Lever's Histopathology of the skin(9th Edition) / Elder.D E.et al.: Lippincott Williams & Wilkins, 2005					
メッセージ					
予習をしておくこと。疑問をみつけたら文献(Journal of Investigative Dermatology 他)等を調べる習慣をつけること。					
連絡先					
内線 2269, mmuto@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
月曜日 17時00分~17時30分					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153500078
開設科目名	皮膚科学特論(皮膚病理学実験実習)			単位	4単位
対象学生				学年	~
担当教員	山口 道也			区分	
授業の概要					
病理組織標本を元に病理組織像から病態解析能力を養うことを目標にする。					
授業の一般目標					
1)皮膚疾患の病理組織を説明できる。 2)皮膚疾患の臨床像を説明できる。 3)皮膚疾患の治療法の原理を説明できる。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 代表的皮膚疾患に対する知識・理解が十分にできているかをみる。					
思考・判断の観点: 診断を間違え易い皮膚科症例を利用して、その分析力を通じて思考・判断力が的確になされているかをみる。					
関心・意欲の観点: 医学・生命現象(正常と異常)に関心をもてるかをみる。					
態度の観点: データの読み方などの討論に参加できているかをみる。					
技能・表現の観点: 相手を説得できる技能・表現をなしているかをみる。					
成績評価方法(総合)					
実習の態度・出席および定期試験にて成績を評価する。					
教科書					
最新皮膚科学大系(第1巻～第19巻) / 玉置邦彦総編集:中山書店, 2002					
参考書					
Fitzpatrick's dermatology in general medicine. (7th edition) / Wolff K. et al.:Mc-Graw-Hill, 2008					
Lever's histopathology of the skin. (10th edition) / Elder.D E, et al.:Lippincott Williams & Wilkins, 2009					
メッセージ					
予習をしておくこと。疑問を見つけたら文献などをしらべて実習にそなえること。					
連絡先					
内線2271 E-mail: yamamic@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
水曜日17:00～18:00					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153500079
開設科目名	皮膚科学特論(皮膚感染症学演習)			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	武藤 正彦			区分	
授業の概要					
問題演習などを通じて、皮膚感染症を理解する。					
授業の一般目標					
代表的な皮膚感染症について、鑑別診断、治療方針決定ができるようになることを目標とする。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 代表的皮膚感染症の鑑別診断に必要な知識、理解を有し、治療方針が決定できる。					
成績評価方法(総合)					
問題に対する解答の採点、理解の程度、授業態度などを総合して成績を評価する。					
教科書					
皮膚科学 / 上野賢一、大塚藤男:金芳堂,2006					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
内線2269、mmuto@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
月曜日17時~17時30分					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153500080
開設科目名	皮膚科学特論(皮膚感染症学実験実習)			単位	4単位
対象学生				学年	~
担当教員	竹本 朱美			区分	
授業の概要					
代表的な皮膚感染症である白癬菌、カンジダの培養同定を行う。					
授業の一般目標					
代表的な皮膚感染症である白癬菌、カンジダの培養同定ができるようになる。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 白癬菌、カンジダを培養した際にどのようなコロニーを形成するか、そして、顕微鏡でどのように観察されるかについて鑑別できる知識、理解を有する。					
成績評価方法(総合)					
白癬菌、カンジダを培養した際にどのようなコロニーを形成するか、そして、顕微鏡でどのように観察されるかについて鑑別できる知識、理解の程度により成績を評価する。					
教科書					
皮膚科学 / 上野賢一、大塚藤男: 金芳堂, 2006					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153500081
開設科目名	皮膚科学特論(メカニズム生物学演習)			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	一宮 誠			区分	
授業の概要					
色素異常症に関し、原因、発症機序、病態の理解を深めるため分子生物学的観点から臨床的観点にいたるまで系統的に講義を行う。					
授業の一般目標					
この演習では英語論文を精読し発表することにより、最近のトピックスについて知識を得るとともにプレゼンテーションの能力を養うことを目指す。					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
毎回の演習をもとに評価を行う。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153500082
開設科目名	皮膚科学特論(メソサイト生物学実験実習)			単位	4単位
対象学生				学年	~
担当教員	一宮 誠			区分	
授業の概要					
色素異常症の代表的疾患である尋常性白斑に関する研究テーマを与え、そのテーマを遂行するための研究計画書の英文による作成から研究結果報告書の作成にいたるまでの指導と実習により、研究者としての基本的な考え方や能力の養成を行う。					
授業の一般目標					
この実習においては、分子生物学的手法、細胞培養法などについての基本的手技や考え方を習得する。					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
毎回の実験実習をもとに評価を行う。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153500083
開設科目名	皮膚科学特論(皮膚免疫遺伝学演習)			単位	4単位
対象学生				学年	~
担当教員	武藤 正彦			区分	
授業の概要					
テキストを用いて、代表的皮膚疾患について、臨床と対比させながらその免疫遺伝学的知識を深める。					
授業の一般目標					
1) 皮膚疾患の免疫遺伝について説明できる。 2) 皮膚疾患の臨床像を説明できる。 3) 皮膚疾患の治療法の原理を説明できる。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 代表的皮膚疾患に対する知識・理解が十分にできているかをみる。					
思考・判断の観点: 診断を間違え易い皮膚科症例を利用して、その分析力を通じて思考・判断力が適格になされているかをみる。					
関心・意欲の観点: 医学・生命現象(正常と異常)に関心をもてるかをみる。					
態度の観点: データの読み方などの討論に参加できているかをみる。					
技能・表現の観点: 相手を説得できる技能・表現をなしているかをみる。					
成績評価方法(総合)					
毎回の演習での成績をもとに評価を行う。					
教科書					
最新皮膚科学大系(第1巻~第19巻):中山書店,2002					
参考書					
Fitzpatrick's Dermatology in General Medicine(7th Edition) / Wolff K.et al.: McGraw-Hill, 2007					
Lever's Histopathology of The Skin(9th Edition) / Elder,D E. et al.: Lippincott Williams & Wilkins, 2005					
メッセージ					
予習をしておくこと。疑問をみつけたら文献(Journal of Investigative Dermatology 他)等を調べる習慣をつけること。					
連絡先					
内線 2269, mmuto@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
月曜日 17時00分~17時30分					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153500084
開設科目名	皮膚科学特論(皮膚免疫遺伝学実験実習)			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	安倍 吉郎			区分	
授業の概要					
HLA タイピングをもとにそのデータから病態解析能力を養うことを目標にする。					
授業の一般目標					
1) 皮膚疾患の免疫遺伝について説明できる。 2) 皮膚疾患の臨床像を説明できる。 3) 皮膚疾患の治療法の原理を説明できる。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 代表的皮膚疾患に対する知識・理解が十分にできているかをみる。					
思考・判断の観点: 診断を間違え易い皮膚科症例を利用して、その分析力を通じて思考・判断力が適格になされているかをみる。					
関心・意欲の観点: 医学・生命現象(正常と異常)に関心がもてるかをみる。					
態度の観点: データの読み方などの討論に参加できているかをみる。					
技能・表現の観点: 相手を説得できる技能・表現をなしているかをみる。					
成績評価方法(総合)					
事例検討、討論及び定期試験等を通じて総合的に評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153500085
開設科目名	皮膚科学特論(皮膚腫瘍学演習)			単位	4単位
対象学生				学年	~
担当教員	武藤 正彦			区分	
授業の概要					
テキストを用いて、代表的皮膚疾患について臨床と対比させながらその腫瘍学的知識を深める。					
授業の一般目標					
1) 皮膚腫瘍について説明できる。 2) 皮膚疾患の臨床像を説明できる。 3) 皮膚疾患の治療法の原理を説明できる。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 代表的皮膚疾患に対する知識・理解が十分にできているかをみる。					
思考・判断の観点: 診断を間違え易い皮膚科症例を利用して、その分析力を通じて思考・判断力が適格になされているかをみる。					
関心・意欲の観点: 医学・生命現象(正常と異常)に関心がもてるかをみる。					
態度の観点: データの読み方などの討論に参加できているかをみる。					
技能・表現の観点: 相手を説得できる技能・表現をなしているかをみる。					
成績評価方法(総合)					
毎回の演習での成績をもとに評価を行う。					
教科書					
最新皮膚科学大系(第1巻~第19巻):中山書店,2002					
参考書					
Fitzpatrick's Dermatology in General Medicine(6th Edition) / Wolff K.et al.:McGraw-Hill,2008					
Lever's Histopathology of The Skin(9th Edition) / Elder.David E, Lever.Walter F:Lippincott Williams & Wilkins,2005					
メッセージ					
予習をしておくこと。疑問をみつけたら文献(Nature 他)等を調べる習慣をつけること。					
連絡先					
内線2269,mmuto@yamaguchi-u.ac.jp					
オフィスアワー					
月曜日 17時00分~17時30分					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153500086
開設科目名	皮膚科学特論(皮膚腫瘍学実験実習)			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	若松 研弥			区分	
授業の概要					
皮膚悪性腫瘍由来培養細胞株、及び、対照としての皮膚正常細胞由来培養細胞をそれぞれ試験管内で培養し、増殖、コロニー形成、増殖抑制因子に対する反応を観察する。					
授業の一般目標					
細胞の培養ができるようになる。加えて、細胞の状態の評価ができるようになる。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 皮膚悪性腫瘍由来培養細胞株、及び皮膚正常細胞由来培養細胞についての知識、理解、および、細胞培養法についての知識、理解を有する。					
成績評価方法(総合)					
培養細胞の増殖、コロニー形成、増殖抑制因子に対する反応における、知識、理解に対して評価を行う。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153500087
開設科目名	眼科学特論(眼病理学演習)			単位	4単位
対象学生				学年	~
担当教員	西田 輝夫			区分	
授業の概要					
眼疾患の病態を理解することは、適切な診断や治療方針を決定するために必要である。角膜上皮創傷治癒過程、アレルギー性角結膜炎、ぶどう膜炎、緑内障、網膜剥離、糖尿病網膜症などの臨床像を基本に、それぞれの疾患における病態や形態学的変化について講義する。					
授業の一般目標					
眼疾患の病態を理解し、適切な診断や治療方針を決定する能力を養う。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 眼疾患の病態病理について理解する。					
成績評価方法(総合)					
全体的に、理解度を評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153500088
開設科目名	眼科学特論(眼病理学実験実習)			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	西田 輝夫			区分	
授業の概要					
角膜上皮創傷治癒不全, アレルギー性角結膜炎, ぶどう膜炎, 緑内障, 網膜剥離, 糖尿病網膜症などの疾患から得られた組織標本などを観察し病態の理解を深める。					
授業の一般目標					
眼疾患の理解を実習を通じて深める。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 眼疾患の病態病理について理解する。					
成績評価方法(総合)					
全体的に, 理解度を評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153500089
開設科目名	眼科学特論(眼生理薬理学演習)			単位	4 単位
対象学生				学年	~
担当教員	相良 健			区分	
授業の概要					
眼生理薬理学を演習を通して修得する					
授業の一般目標					
眼における生理および薬理を理解する					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
理解度を、総合的に評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153500090
開設科目名	眼科学特論(眼生理薬理学実験実習)			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	相良 健			区分	
授業の概要					
実習を通して眼生理薬理学を修得する					
授業の一般目標					
眼における生理および薬理を理解する					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
理解度を総合的に評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153500091
開設科目名	眼科学特論(眼ウイルス学演習)			単位	4単位
対象学生				学年	~
担当教員	相良 健			区分	
授業の概要					
眼ウイルス学について学ぶ。					
授業の一般目標					
眼ウイルス学についての一般的な知識を得る。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 一般的なウイルスの特徴について述べる事が出来る。					
特に眼疾患に関連したウイルスについて述べる事が出来る。					
態度の観点: 積極的に授業に参加する。					
成績評価方法(総合)					
理解度をみて、総合的に判断する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153500092
開設科目名	眼科学特論(眼ウイルス学実験実習)			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	相良 健			区分	
授業の概要					
眼病変の原因がウイルスであることを確定するために用いる種々の検査法について解説し、主として角膜障害を生じるヘルペスウイルスの免疫蛍光法を用いた検出法、流行性角結膜炎の原因であるアデノウイルス検出のために免疫クロマトグラフィー法およびヘルペス性ブドウ膜炎に対する前房水からの PCR を用いたウイルスの検出法について実習する。					
授業の一般目標					
ウイルスあるいはウイルスに対する抗体に対する知識を得る。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 眼のウイルス性疾患において、ウイルスあるいはウイルスに対する抗体を検出するための知識を得る。					
技能・表現の観点: 眼のウイルス性疾患において、ウイルスあるいはウイルスに対する抗体を検出するための技術を身につける。					
成績評価方法(総合)					
理解度、習得した技術を総合的に判断する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時間	未定	時間割コード	5153500093
開設科目名	眼科学特論(眼感染症特論演習)			単位	4単位
対象学生				学年	~
担当教員	近間 泰一郎			区分	
授業の概要					
眼における感染症,特に角膜感染症の総論および各論についてを講義する。					
授業の一般目標					
眼の免疫・防御機構について理解すること。角膜感染症の発症機轉と診断および治療について理解すること。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 感染成立のメカニズムを理解する。					
眼における感染の特徴を知る。					
起炎菌による所見の違いを知る。					
治療法を知る。					
思考・判断の観点: 各感染症に対する診断の根拠を論理的に示せる。					
関心・意欲の観点: 理解できた点とできない点を明確にし,疑問が生じれば質問し解決する。					
態度の観点: 積極的に授業へ参加する。					
成績評価方法(総合)					
成績評価は,試験,出席,授業態度などを総合して行う。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153500094
開設科目名	眼科学特論(眼感染症特論実験実習)			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	近間 泰一郎			区分	
授業の概要					
眼感染症の診断法を知る。					
授業の一般目標					
角結膜擦過物をギムザ染色およびグラム染色を行い起炎病原体の同定を目指す。 特殊染色や他の診断法についても学習する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 組織染色の基本を知る。 各病原体の特徴を知る。					
思考・判断の観点: 観察された病原体などを元に診断ができる。					
関心・意欲の観点: 積極的に実習に参加する。					
態度の観点: 実習における危険な行為について熟知し、適切に実行できる。					
成績評価方法(総合)					
成績評価は、実習の態度・プレゼン能力・意欲と小試験の結果を総合的に判断して行う。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153500095
開設科目名	眼科学特論(眼手術学演習)			単位	4単位
対象学生				学年	~
担当教員	西田 輝夫			区分	
授業の概要					
内科的治療に反応しない眼疾患に対しては、主として視機能の回復を目的とした手術が必要となる。眼科手術を行うに当たって必要な解剖学・生理学・病理学の講義を行う。また、角膜疾患、緑内障、白内障、網膜剥離など代表的な眼疾患に対してそれぞれの病態に応じたアプローチ法について概説する。					
授業の一般目標					
内科的治療に反応しない眼疾患に対しての手術に必要な知識を得る。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 眼科手術の特性と実施上の問題点を理解する。					
成績評価方法(総合)					
全体的に、理解度を評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153500096
開設科目名	眼科学特論(眼手術学実験実習)			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	西田 輝夫			区分	
授業の概要					
眼科手術の特徴の一つに顕微鏡下で行うことがあげられる。眼科手術の基本的な手技を習得する目的で、手術用顕微鏡下で豚眼を用いた実習を行う。具体的に、切開、縫合、超音波白内障手術機械を用いた白内障手術、角膜移植術などを行う。					
授業の一般目標					
眼科手術の基本的な手技を習得する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 眼科手術の特性と実施上の問題点を理解する。					
成績評価方法(総合)					
全体的に、理解度を評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153500097
開設科目名	プロテオーム蛋白機能制御学特論(プロテオーム解析学演習)			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	中村 和行			区分	
授業の概要					
ヒトが機能的に調和のとれた生命現象を維持するために必須なタンパク質群(プロテオーム)の網羅的な解析とその解析方法について講義し、生体内タンパク質群の構造と機能の連関を科学的に説明する。さらに、プロテオーム解析情報をデータベース化して医学・医療へ応用するためにバイオインフォマティクスの演習を行い、生体内のタンパク質分子の情報収集とその情報活用について授業する。					
授業の一般目標					
1. プロテオームとは何か説明できる。2. プロテオームの解析技術(2次元電気泳動法・画像解析法・質量分析法 LC/MS/MS 等)の原理を理解し、応用できる。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 1. プロテオームとその解析を説明できる。2. ゲノムとプロテオームを関係づける。					
思考・判断の観点: 1. プロテオームとその解析法を類別できる。2. プロテオームとその解析法の特徴と応用とその問題点を指摘できる。					
関心・意欲の観点: 1. プロテオームの解析と新しい応用について討議できる。2. プロテオームの新しい解析とその応用に寄与できる。					
態度の観点: 1. プロテオームの解析とその応用についてのセミナーに参加できる。2. プロテオームの解析について共同研究者と協調できる。					
技能・表現の観点: 1. プロテオームの解析に必要な技術と装置が使用できる。2. ゲノムデータベースの検索ができる。3. プロテオームの解析と技術について研究成果を適正に表現できる。					
成績評価方法(総合)					
成績評価は原則として、出席と教室セミナーへの参加(25%)、演習(50%)とレポートや試験(25%)で行う。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153500098
開設科目名	プロテオーム蛋白機能制御学特論(プロテオーム解析学実験実習)			単位	4単位
対象学生				学年	~
担当教員	中村 和行			区分	
授業の概要					
<p>ヒトが機能的に調和のとれた生命現象を維持するために必須なタンパク質群(プロテオーム)の網羅的解析の実際について講義する。とくに、主要なプロテオーム解析技術である2次元電気泳動法と質量分析法を用いてヒト生体試料中のタンパク質群の解析実験を行い、タンパク質群の発現解析と構造・機能解析の技術について説明する。さらに、プロテオーム解析情報をデータベース化して医学・医療へ応用するバイオインフォマティクスの実習を行い、生体内のタンパク質分子の情報収集とその情報活用の技術を授業する。</p>					
授業の一般目標					
<p>1. プロテオームとは何か説明できる。2. プロテオームの解析技術(2次元電気泳動法・画像解析法・質量分析法 LC/MS/MS 等)の原理を理解し、応用できる。</p>					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点: 1. プロテオームの解析法を説明できる。 2. ゲノムおよびプロテオーム解析とデータベースを関係づける。 思考・判断の観点: 1. プロテオームとその解析技術を類別できる。 2. プロテオームの解析技術の特徴と応用について問題点を指摘できる。 関心・意欲の観点: 1. プロテオームの解析技術とその新しい応用例について討議できる。 2. プロテオームの新しい解析とその応用の実施に寄与できる。 態度の観点: 1. プロテオームの解析技術とその新しい応用例について討議できる。 2. プロテオームの新しい解析とその応用の実施に寄与できる。 技能・表現の観点: 1. プロテオームの解析技術に必要な装置が使用できる。 2. プロテオームの解析技術を用いた研究成果について適正に表現できる。</p>					
成績評価方法(総合)					
<p>成績評価は原則として、出席と教室セミナーへの参加(25%)、実験実習(50%)とレポートや試験(25%)で行う。</p>					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時間	未定	時間割コード	5153500099
開設科目名	プロテオーム蛋白機能制御学特論(蛋白機能制御学演習)			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	中村 和行			区分	
授業の概要					
<p>ヒトの調和のとれた生命現象を理解するためには生体の機能分子情報を明らかにする必要がある。生体の機能分子である蛋白質群が「いつ、どこで、どれほど」機能し、どのように制御されるかを明らかにする網羅的な解析について説明し、生体機能情報を科学的に講義する。</p>					
授業の一般目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・蛋白質翻訳後修飾や蛋白質間相互作用による蛋白質機能発現制御について説明できる。 ・蛋白質翻訳後修飾(質量分析法等)や蛋白質間相互作用の解析技術(GFP 融合蛋白質発現法・蛍光画像解析法・プロテインチップ等)の原理を理解し、応用できる。 					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点: 1. 蛋白質の構造と翻訳後修飾の基本を説明できる。 2. 蛋白質の翻訳後修飾と蛋白質間相互作用による蛋白質の機能の制御を関係づける。 3. 蛋白質の翻訳後修飾や蛋白質間相互作用の解析技術の基本と応用を説明できる。</p> <p>思考・判断の観点: 1. 蛋白質の翻訳後修飾と蛋白質間相互作用を分類できる。 2. 蛋白質の翻訳後修飾と蛋白質間相互作用の解析技術の適正な医学研究への応用を指摘できる。</p> <p>関心・意欲の観点: 1. 蛋白質の翻訳後修飾による蛋白質の機能制御について討議できる。 2. 蛋白質の機能制御の研究に寄与できる。</p> <p>態度の観点: 1. 蛋白質の翻訳後修飾と蛋白質間相互作用による蛋白質の機能制御についての議論やセミナーに参加できる。</p> <p>技能・表現の観点: 1. 蛋白質の翻訳後修飾と蛋白質間相互作用の解析に必要な技術と装置が使用できる。 2. 蛋白質の機能制御についての研究成果を適正に表現できる。</p>					
成績評価方法(総合)					
成績評価は原則として、出席と教室セミナーへの参加(25%)、演習(50%)とレポートや試験(25%)で行う。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153500100
開設科目名	プロテオーム蛋白機能制御学特論(蛋白機能制御学実験実習)			単位	4 単位
対象学生				学年	~
担当教員	藏満 保宏			区分	
授業の概要					
機能プロテオミクスを理解するために、蛋白質を用いた実験を行う。					
授業の一般目標					
機能プロテオミクスを理解する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 機能プロテオミクスとは何であるかを理解する。					
成績評価方法(総合)					
実際に実験を一緒に行い、その内容を評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153500101
開設科目名	プロテオーム蛋白機能制御学特論(脂質生化学演習)			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	中村 和行			区分	
授業の概要					
<p>ヒトの生命現象を理解するためには、生体の必須な構成成分である脂質の構造と機能を明らかにする必要がある。とくに生体内で脂質の運搬や代謝を制御するリポ蛋白質の構造と機能の解析について演習し、脂質の機能と代謝ならびに制御機構について講義する。さらには、脂質の代謝の異状と生活習慣病などの発症との関連についても分子レベルで授業する。</p>					
授業の一般目標					
<ul style="list-style-type: none"> ・細胞膜成分である脂質と膜結合蛋白質群について説明できる。 ・脂質及び膜結合蛋白質群の構造と機能の解析技術(2次元 SDS 電気泳動法・MALDI-TOFMS 質量分析法・プロテインチップ等)を理解し、応用できる。 					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点: 1. 脂質の構造と機能の基本を説明できる。2. 脂質代謝および脂質結合蛋白質群の構造と機能の解析技術の原理を説明できる。</p> <p>思考・判断の観点: 1. 脂質の構造と機能を類別できる。2. 膜結合蛋白質群を類別できる。3. 脂質の構造と機能および代謝の特徴を指摘できる。</p> <p>関心・意欲の観点: 1. 脂質の構造と機能について討議できる。2. 膜結合蛋白質群の研究に寄与できる。</p> <p>態度の観点: 1. 脂質の生化学研究の議論や関連のセミナーに参加できる。</p> <p>技能・表現の観点: 1. 脂質および脂質結合蛋白質群の解析に必要な技術と装置が使用できる。2. 研究成果を適正に表現できる。</p>					
成績評価方法(総合)					
成績評価は原則として、出席と教室セミナーへの参加(25%)、演習(50%)とレポートや試験(25%)で行う。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153500102
開設科目名	プロテオーム蛋白機能制御学特論(脂質生化学実験実習)			単位	4単位
対象学生				学年	~
担当教員	古元 礼子			区分	
授業の概要					
脂質の取り扱い方を実験を通して学ぶ。					
授業の一般目標					
脂質を材料とした実験を学ぶ。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 脂質を用いた実験を一人で行えるように学ぶ。					
成績評価方法(総合)					
実際の実験を評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153500103
開設科目名	プロテオーム蛋白機能制御学特論(免疫プロテオミクス演習)			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	藏満 保宏			区分	
授業の概要					
免疫の動態をプロテオミクスを通して理解する。					
授業の一般目標					
プロテオミクスを行うことで、免疫の動態を理解する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 一人で免疫の研究を行えるようになる。					
成績評価方法(総合)					
実際の抄読会を評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153500104
開設科目名	プロテオーム蛋白機能制御学特論(免疫)プロテオミクス実験実習			単位	4単位
対象学生				学年	~
担当教員	藏満 保宏			区分	
授業の概要					
プロテオミクス実験を通して免疫を理解する。					
授業の一般目標					
プロテオミクス実験ができる。 免疫を理解する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: プロテオミクスを通して免疫を理解する。					
成績評価方法(総合)					
実際の実験で評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153500105
開設科目名	プロテオーム蛋白機能制御学特論(分子構造解析学演習)			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	中村 和行			区分	
授業の概要					
<p>ヒトを構成する蛋白質、糖質、脂質ならびに核酸など生体構成分子の構造と機能の連関を明らかにすることによって、様々な生命現象を分子レベルで理解することを目的とする。とくに、蛋白質の機能成熟には糖鎖化や脂肪酸化など翻訳後修飾が重要である。それらの翻訳後修飾と蛋白質・蛋白質間相互作用の解析と方法について演習し、生体分子の構造解析の原理と応用について説明するとともに、生体内分子の構造情報の収集について授業する。</p>					
授業の一般目標					
<p>蛋白質群のみならず、核酸などの生体内高分子の構造と機能の解析技術(電気泳動法・クロマトグラフィー・質量分析等)を理解し、応用できる。</p>					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点: 1. 主要な生体分子である蛋白質・糖質・脂質および核酸の構造と機能の基本を説明できる。2. それら生体分子の構造解析のための基本技術と応用を説明できる。</p>					
<p>思考・判断の観点: 1. 主要な生体分子の構造を類別できる。2. 生体分子の構造解析技術を列挙し、適正な応用を指摘できる。</p>					
<p>関心・意欲の観点: 1. 生体分子の構造とその解析技術について議論できる。2. 生体分子の構造の研究に寄与できる。</p>					
<p>態度の観点: 1. 生体分子の構造解析と解析技術の応用についての議論やセミナーに参加できる。</p>					
<p>技能・表現の観点: 1. 生体分子の構造と機能の解析および分子間相互作用の解析に必要な技術と装置を使用できる。2. 生体分子の構造と機能の研究成果を適正に表現できる。</p>					
成績評価方法(総合)					
<p>成績評価は原則として、出席と教室セミナーへの参加(25%)、演習(50%)とレポートや試験(25%)で行う。</p>					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153500106
開設科目名	プロテオーム蛋白機能制御学特論(分子構造解析学実験実習)			単位	4単位
対象学生				学年	~
担当教員	赤田 純子			区分	
授業の概要					
分子構造を理解する。					
授業の一般目標					
分子構造を理解する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 分子構造を理解する。					
成績評価方法(総合)					
毎日6時間の実験を評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153500107
開設科目名	ゲノム・機能分子解析学特論(微生物遺伝学演習)			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	白井 睦訓			区分	
授業の概要					
微生物のなかでも病原微生物、とりわけ病原細菌の増殖・分裂、生態、および病原性の発現機構に関わる遺伝子の構造と機能およびその制御についてゲノム的に理解するための演習を行う。					
授業の一般目標					
微生物のなかでも病原微生物、とりわけ病原細菌の増殖・分裂、生態、および病原性の発現機構に関わる遺伝子の構造と機能およびその制御についてゲノム的に理解するための演習を行う。					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
口頭試問を行う。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153500108
開設科目名	ゲノム・機能分子解析学特論(微生物遺伝学実験実習)			単位	4単位
対象学生				学年	~
担当教員	白井 睦訓			区分	
授業の概要					
微生物のなかでも病原微生物、とりわけ病原細菌の増殖・分裂、生態、および病原性の発現機構に関わる遺伝子の構造と機能およびその制御についてゲノム的に理解するための実験実習を行う。					
授業の一般目標					
微生物のなかでも病原微生物、とりわけ病原細菌の増殖・分裂、生態、および病原性の発現機構に関わる遺伝子の構造と機能およびその制御についてゲノム的に理解するための実験実習を行う。					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
口頭試問を行う。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153500109
開設科目名	ゲノム・機能分子解析学特論(分子遺伝学演習)			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	白井 睦訓			区分	
授業の概要					
生物 とくにヒトの進化、成長、老化、病気の発生・治癒に関わる遺伝子の構造と機能およびその制御についてゲノムの、分子遺伝学的に理解するための演習を行う。					
授業の一般目標					
生物 とくにヒトの進化、成長、老化、病気の発生・治癒に関わる遺伝子の構造と機能およびその制御についてゲノムの、分子遺伝学的に理解するための演習を行う。					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
口頭試問を行う。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153500110
開設科目名	ゲノム・機能分子解析学特論(分子遺伝学実験実習)			単位	4単位
対象学生				学年	~
担当教員	東 慶直			区分	
授業の概要					
<p>生命・生物の解析においてゲノム DNA 配列は必須な情報である。世界中にあふれているゲノムに関する情報から必要な情報を獲得し、また自らゲノム情報を解析する方法を身につけることにより、自らの生物研究を進展できるようにゲノム情報の取り扱い方を示す。実際には微生物のゲノムを用いて実習を行う。さらに、自らの研究が国際的に認知されるように、論文・学会発表できるように指導する。</p>					
授業の一般目標					
<p>1)ゲノムや遺伝子と生物研究の関連が理解できるよう、生物における基本的な分子機構を知る。 2)既に構築されているゲノム情報の検証方法と獲得方法を理解する。 3)ゲノム情報の基本的な解析方法を理解する。 4)DNA 配列を加工(情報解析)することにより、必要な情報の構築を行う。</p>					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点: 1)生物を分子構造として理解し、その全体像を説明できる。 2)一般的に使用されているゲノム情報解析方法を説明できる。 3)必要なデータベースの存在場所を知り、その特殊性を説明できる。 4)統計学や論理学のうち、ゲノム情報解析に必須な知識を獲得する。</p> <p>思考・判断の観点: 1)知りたい生命・生物現象を形而下の分子機能やゲノム情報として再構築する。 2)ゲノム情報解析を通して、生物現象をシミュレーションする</p> <p>関心・意欲の観点: 生命現象・生物活動が分子メカニズムとして説明されること、逆にそれでは説明不可能な現象に触れて、生物について探究心を養ってもらえるよう配慮する。</p> <p>技能・表現の観点: 1)国際学会・論文での発表に耐えられる表現力を身につける。 2)ゲノム情報解析技術(統計学と論理学、コンピュータの取り扱い)を身につける。</p>					
成績評価方法(総合)					
<p>1)生物の知識、統計学や論理学の理解、コンピュータ操作技術の度合い。 2)生物研究への情熱と探究心 3)論文・学会発表における、論理力(構成など)と表現力(作図など)、語学力(英語)などの発表技術。</p>					
教科書					
参考書					
メッセージ					
<p>生物学、数学、コンピュータ操作、英語のうち、いずれか2つ程度は得意であり、いずれもそんなに苦手ではないことが求められる。</p>					
連絡先					
<p>医学部 0836-22-2227 yazuma@yamaguchi-u.ac.jp</p>					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153500111
開設科目名	ゲノム・機能分子解析学特論(微生物生化学演習)			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	水上 洋一			区分	
授業の概要					
微生物を利用した遺伝生化学の解析手法を身につけるとも微生物のタンパク質の生化学的な解析手法を学ぶ。					
授業の一般目標					
微生物のゲノムを取り出せる。					
微生物のタンパク質を抽出できる。					
微生物のゲノム遺伝子を解析できる。					
微生物を利用して組換え蛋白を作製する。					
微生物を利用して組換え蛋白の精製を行う。					
遺伝子配列を解明する。					
組換え蛋白のアミノ酸配列を解析する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 微生物を応用したゲノム遺伝子やタンパク質の基本的な操作を理解する。					
成績評価方法(総合)					
レポートおよび授業態度					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
山口大学遺伝子実験施設 内線 2183					
オフィスアワー					
水曜日午後5時から6時					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153500112
開設科目名	ゲノム・機能分子解析学特論(微生物生化学実験実習)			単位	4単位
対象学生				学年	~
担当教員	水上 洋一			区分	
授業の概要					
生命機能に関わる遺伝子の解析法やその遺伝子配列の決定に関わる手法を平易に解説します。					
授業の一般目標					
遺伝子配列の決定がおよびタンパク質配列の決定から翻訳後修飾機能の解析を理解する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 遺伝子の構成単位、遺伝子発現からタンパク質の合成まで理解できる。					
思考・判断の観点: 遺伝子配列の解析手法を学ぶ。					
成績評価方法(総合)					
講義の態度、レポート					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
山口大学遺伝子実験施設内線 2183					
オフィスアワー					
水曜日 5時から6時					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153500113
開設科目名	ゲノム・機能分子解析学特論(臨床微生物学演習)			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	白井 睦訓			区分	
授業の概要					
病原微生物、とりわけ病原細菌の増殖・分裂、生態、および病原性の発現機構に関わる生体構造と機能およびその制御を理解した上で臨床・医療に有効な各種感染の診断と制圧の方策を演習する。					
授業の一般目標					
病原微生物、とりわけ病原細菌の増殖・分裂、生態、および病原性の発現機構に関わる生体構造と機能およびその制御を理解した上で臨床・医療に有効な各種感染の診断と制圧の方策を演習する。					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
口頭質問を行う。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153500114
開設科目名	ゲノム・機能分子解析学特論(臨床微生物学実験実習)			単位	4単位
対象学生				学年	~
担当教員	白井 睦訓			区分	
授業の概要					
病原微生物、とりわけ病原細菌の増殖・分裂、生態、および病原性の発現機構に関わる生体構造と機能およびその制御を理解した上で臨床・医療に有効な各種感染の診断と制圧の方策を実験実習する。					
授業の一般目標					
病原微生物、とりわけ病原細菌の増殖・分裂、生態、および病原性の発現機構に関わる生体構造と機能およびその制御を理解した上で臨床・医療に有効な各種感染の診断と制圧の方策を実験実習する。					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
口頭質問を行う。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153500115
開設科目名	ゲノム・機能分子解析学特論(免疫学演習)			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	白井 睦訓			区分	
授業の概要					
病原微生物 とりわけ病原細菌の増殖・分裂や病原性の発現機構を制御するための免疫機能を発生・再生・分化、免疫ワクチン開発など関点からの演習する。					
授業の一般目標					
病原微生物 とりわけ病原細菌の増殖・分裂や病原性の発現機構を制御するための免疫機能を発生・再生・分化、免疫ワクチン開発など関点からの演習する。					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
口頭試問を行う。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153500116
開設科目名	ゲノム・機能分子解析学特論(免疫学実験実習)			単位	4単位
対象学生				学年	~
担当教員	白井 睦訓			区分	
授業の概要					
病原微生物、とりわけ病原細菌の増殖・分裂や病原性の発現機構を制御するための免疫機能を発生・再生・分化、免疫ワクチン開発など関点からの実験実習する。					
授業の一般目標					
病原微生物、とりわけ病原細菌の増殖・分裂や病原性の発現機構を制御するための免疫機能を発生・再生・分化、免疫ワクチン開発など関点からの実験実習する。					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
口頭質問を行う。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153500117
開設科目名	分子薬理学特論(薬理学一般演習)			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	乾 誠 本田 健			区分	
授業の概要					
薬物の作用機序を理解するために、種々の生体機能の発現と調節のメカニズムや薬物の構造と機能との関連を学習し、これらを解析するための方法論および解析法を習得する。					
授業の一般目標					
<ol style="list-style-type: none"> 1) 神経細胞における各種受容体からのシグナル伝達系及び薬物による調節を説明することができる。 2) 神経細胞のシグナル伝達系及び薬理作用の解析法を説明することができる。 3) 神経系の発達に関するシグナルを説明することができる。 4) 心筋細胞の収縮力調節に関与するシグナル伝達系及び薬物による調節を説明することができる。 5) 心筋細胞のシグナル伝達系及び薬理作用の解析法を説明することができる。 6) 骨格筋分化に関するシグナルを説明することができる。 7) 皮膚や角膜の創傷治癒に関するシグナルを説明することができる。 8) 受容体に作用する薬物の構造機能関連について例をあげて説明することができる。 9) 薬物の構造機能関連を解析するための化学構造的基盤を説明することができる。 					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
理解度を見て、総合的に評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153500118
開設科目名	分子薬理学特論(薬理学一般実験実習)			単位	4単位
対象学生				学年	~
担当教員	乾 誠, 本田 健			区分	
授業の概要					
薬物の作用機序を理解するために、種々の生体機能の発現と調節のメカニズムや薬物の構造と機能との関連を学習し、これらを解析するための方法論および解析法を習得する。					
授業の一般目標					
1) 薬物等を用いて受容体刺激からG蛋白質を介したシグナルを解析することができる。 2) 薬物等を用いて神経突起伸長のシグナルを解析することができる。 3) 薬物等を用いて細胞接着因子からの各種シグナルを解析することができる。 4) 薬物等を用いて心筋細胞の収縮力調節に関与するシグナルを解析することができる。 5) 薬物等を用いて骨格筋分化に関係するシグナルを解析することができる。 6) 薬物等を用いて創傷治癒に関係するシグナルを解析することができる。 7) 種々の薬物を用いて構造機能間を解析することができる。					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
理解度を見て、総合的に評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153500119
開設科目名	分子薬理学特論(心臓薬理学演習)			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	乾 誠, 松浦 健二			区分	
授業の概要					
適切な薬物療法の実際を理解するために、心臓血管系の病態生理と分子生理に基づいた薬物の作用を明らかにする。					
授業の一般目標					
1) 心臓血管系の解剖・生理と制御機構を説明できる。 2) 心臓血管系の制御にかかわる細胞内・細胞外の情報伝達系を説明できる。 3) 循環器疾患の病態生理を説明できる。 4) 心臓血管系作用薬の作用機序を分子レベルで説明できる。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 1) 心臓血管系の解剖・生理と制御機構を説明できる。 2) 心臓血管系の制御にかかわる細胞内・細胞外の情報伝達系を説明できる。 3) 循環器疾患の病態生理を説明できる。					
思考・判断の観点: 病態生理と心臓血管系作用薬の作用機序に基づいて心臓血管系疾患の薬物治療計画をたてることができる。					
関心・意欲の観点: 自ら問題点を見出し、解決のための文献検索等を行なう。					
成績評価方法(総合)					
演習への出席、積極的な参加態度と論文紹介のプレゼンテーションを総合的に判断する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153500120
開設科目名	分子薬理学特論(心臓薬理学実験実習)			単位	4単位
対象学生				学年	~
担当教員	乾 誠, 松浦 健二			区分	
授業の概要					
適切な薬物療法の実際を理解するために、心臓血管系の病態生理と分子生理に基づいた薬物の作用を明らかにする。					
授業の一般目標					
1) 心臓血管系の解剖・生理と制御機構を説明できる。 2) 心臓血管系の制御にかかわる細胞内・細胞外の情報伝達系を説明できる。 3) 循環器疾患の病態生理を説明できる。 4) 心臓血管系作用薬の作用機序を分子レベルで説明できる。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 1) 心臓血管系の解剖・生理と制御機構を説明できる。 2) 心臓血管系の制御にかかわる細胞内・細胞外の情報伝達系を説明できる。 3) 循環器疾患の病態生理を説明できる。					
思考・判断の観点: 病態生理と心臓血管系作用薬の作用機序に基づいて心臓血管系疾患の薬物治療計画をたてることができる。					
関心・意欲の観点: 自ら問題点を見出し、解決のための文献検索等を行なう。					
態度の観点: 実験・実習に主体的・積極的に参加する。					
成績評価方法(総合)					
実習への出席、主体的な参加態度と問題探求への積極性を総合的に判断する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153500121
開設科目名	分子薬理学特論(分子薬理学演習)			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	乾 誠 本田 健			区分	
授業の概要					
薬物と生体との相互作用を理解するために、薬物の作用機序を分子レベルで理解し、これらを解析するための方法論および解析法を習得する。					
授業の一般目標					
1)シグナル伝達に関わる機能蛋白質を薬物、核酸、抗体等で制御する方法を説明することができる。					
2)シグナル伝達に関わる蛋白質の蛋白質間相互作用及び薬物の作用を解析する方法を説明することができる。					
3)受容体等のシグナル伝達に関わる膜蛋白質の構造、機能及び薬物の作用を解析する方法を説明することができる。					
4)神経シナプス機能制御に関わる蛋白質の構造、機能及び薬物の作用を説明することができる。					
5)心筋細胞内のカルシウム動態に関わる蛋白質の構造、機能及び薬物の作用を説明することができる。					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
理解度を見て、総合的に評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153500122
開設科目名	分子薬理学特論(分子薬理学実験実習)			単位	4単位
対象学生				学年	~
担当教員	乾 誠 本田 健			区分	
授業の概要					
適切な薬物療法の実際を理解するために、病態生理と分子生理に基づいた薬物の作用を明らかにする。					
授業の一般目標					
1) 細胞内・細胞外の情報伝達系を説明できる。 2) 疾患の病態生理を説明できる。 3) 薬物の作用機序を分子レベルで説明できる。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 1) 細胞内・細胞外の情報伝達系を説明できる。 2) 疾患の病態生理を説明できる。 3) 薬物の作用機序を分子レベルで説明できる。					
思考・判断の観点: 病態生理と薬物の作用機序に基づいた治療計画をたてることができる。					
関心・意欲の観点: 自ら問題点を見出し、解決のための文献検索等を行なう。					
態度の観点: 自主的・主体的に実験を遂行する。					
成績評価方法(総合)					
実習への出席、主体的な参加態度と問題探求への積極性を総合的に判断する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153500123
開設科目名	分子薬理学特論(薬物標的解析学演習)			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	乾 誠, 松浦 健二			区分	
授業の概要					
<p>新たな作用メカニズムに基づく医薬品を開発する能力を身に付けるために、新たな薬物ターゲットを見出しデザインするための原理を学習し、実際にターゲットを見出しデザインするための手法を習得する。</p>					
授業の一般目標					
<p>1) 臓器、細胞、機能分子レベルでの薬物スクリーニング法を説明することができる。 2) 臓器、細胞、機能分子レベルで薬物ターゲットを見出すための原理、手法を説明することができる。 3) ファルマコゲノミクス(Pharmacogenomics)により薬物ターゲットを見出すための原理、手法を説明することができる。 4) 蛋白質結晶構造解析による薬物デザインの原理、手法を説明することができる。</p>					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
理解度を見て、総合的に評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153500124
開設科目名	分子薬理学特論(薬物標的解析学実験実習)			単位	4単位
対象学生				学年	~
担当教員	乾 誠, 松浦 健二			区分	
授業の概要					
<p>新たな作用メカニズムに基づく医薬品を開発する能力を身に付けるために、新たな薬物ターゲットを見出しデザインするための原理を学習し、実際にターゲットを見出しデザインするための手法を習得する。</p>					
授業の一般目標					
<p>1) 臓器、細胞、機能分子レベルでの薬物スクリーニング法を構築することができる。 2) 臓器、細胞、機能分子レベルで薬物ターゲットを見出すためのアッセイ系を構築することができる。 3) 遺伝子を用いて薬物ターゲットを見出すためのアッセイ系を構築することができる。 4) 薬物デザインのための蛋白質の精製法、結晶作成法及び構造解析法を身に付ける。</p>					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
理解度を見て、総合的に評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153500125
開設科目名	臨床検査・腫瘍学特論(遺伝子診断学演習)			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	日野田 裕治			区分	
授業の概要					
<p>遺伝子診断学の基礎となる人類遺伝学について次の基本的事項を理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) Human genetics in perspectives 2) Nucleic acid structure and function 3) DNA analysis 4) Chromosome 5) Gametogenesis 6) Chromosome aberrations 7) Autosomal inheritance 8) Sex-linked inheritance 9) Gene mapping 10) Non-Mendelian inheritance 11) Population genetics 					
授業の一般目標					
<p>遺伝子診断学の基礎となる人類遺伝学について基本的事項を理解する。</p>					
授業の到達目標					
<p>知識・理解の観点: 遺伝子診断学の基礎となる人類遺伝学について次の基本的事項を理解する。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) Human genetics in perspectives 2) Nucleic acid structure and function 3) DNA analysis 4) Chromosome 5) Gametogenesis 6) Chromosome aberrations 7) Autosomal inheritance 8) Sex-linked inheritance 9) Gene mapping 10) Non-Mendelian inheritance 11) Population genetics 					
成績評価方法(総合)					
<p>成績評価方法は、基本的に出席(30%)と試験(70%)による。</p>					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153500126
開設科目名	臨床検査・腫瘍学特論(遺伝子診断学実験実習)			単位	4単位
対象学生				学年	~
担当教員	日野田 裕治			区分	
授業の概要					
遺伝子診断学、とくにがんに関する遺伝子診断研究のために必要な実験手技(核酸抽出、PCR、電気泳動、塩基配列決定、DNAメチル化検出法、遺伝子データベース検索など)について習得し、与えられた課題についての研究を行う。					
授業の一般目標					
遺伝子診断研究のために必要な実験手技を習得し研究を実施する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 遺伝子診断研究のために必要な実験手技(核酸抽出、PCR、電気泳動、塩基配列決定、DNAメチル化検出法、遺伝子データベース検索など)について理解する。					
技能・表現の観点: 遺伝子診断研究のために必要な実験手技(核酸抽出、PCR、電気泳動、塩基配列決定、DNAメチル化検出法、遺伝子データベース検索など)を習得する。					
成績評価方法(総合)					
成績評価方法は、基本的には出席(30%)と与えられた課題に関する実験データの評価(70%)により行う。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153500127
開設科目名	臨床検査・腫瘍学特論(臨床検査医学演習)			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	日野田 裕治			区分	
授業の概要					
臨床検査(血液、輸血、生化学、血清、微生物、遺伝子、生理機能)について毎回テーマを決めてグループディスカッションを行い、基本的知識と実践方法を理解する。					
授業の一般目標					
臨床検査の基本的知識と実践方法を理解する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 臨床検査(血液、輸血、生化学、血清、微生物、遺伝子、生理機能)の基本的知識と実践方法を理解する。					
成績評価方法(総合)					
成績評価方法は、基本的に出席(40%)と試験(60%)による。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153500128
開設科目名	臨床検査・腫瘍学特論(臨床検査医学実習)			単位	4単位
対象学生				学年	~
担当教員	末廣 寛			区分	
授業の概要					
臨床検査医学の中で研究課題に関連する領域について、附属病院における診療活動を見学・実習(実習は有資格者のみ)することによって臨床的側面の理解を深める。課題を決めてチュートリアル形式で行い、レポートを作成する。					
授業の一般目標					
附属病院での見学を通じて臨床検査の実際を理解する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 臨床検査医学の中で大学院の研究課題に関連する領域について、附属病院における診療活動を見学・実習(実習は有資格者のみ)することによってその実際を理解する。					
成績評価方法(総合)					
成績評価方法は、基本的に出席(40%)とレポート(60%)による。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153500129
開設科目名	臨床検査・腫瘍学特論(分子腫瘍学演習)			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	末廣 寛			区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153500130
開設科目名	臨床検査・腫瘍学特論(分子腫瘍学実験実習)			単位	4単位
対象学生				学年	~
担当教員	末廣 寛			区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153500131
開設科目名	総合診療医学特論(臨床中毒と肝臓生理演習)			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	未定			区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153500132
開設科目名	総合診療医学特論(臨床中毒と肝臓生理実験実習)			単位	4単位
対象学生				学年	~
担当教員	村上 不二夫			区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153500133
開設科目名	総合診療医学特論(臨床倫理学演習)			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	未定			区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153500134
開設科目名	総合診療医学特論(臨床倫理学実験実習)			単位	4単位
対象学生				学年	~
担当教員	村上 不二夫			区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153500135
開設科目名	総合診療医学討論(総合診療医学演習)			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	未定			区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153500136
開設科目名	総合診療医学特論(総合診療医学実験実習)			単位	4単位
対象学生				学年	~
担当教員	村上 不二夫			区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153500137
開設科目名	医療情報判断学特論(医療情報学演習)			単位	3単位
対象学生				学年	~
担当教員	井上 裕二			区分	
授業の概要					
医療情報判断学は臨床医学と社会医学の接点にあり、その教育目標は、医学・医療の全ての営みを情報およびシステムという視点で捉え、これを客観的に評価し最適な行動を選択できる能力を修得する。					
授業の一般目標					
医療情報判断学(医療情報学演習)では					
<ul style="list-style-type: none"> ・問題の解決に必要な情報の収集と処理ができる ・ベッドサイドでの判断や診療態勢をシステムとして捉えることができる ・“効率的な医療”を臨床経済の側面から評価できる ・問題解決の目的に応じて診療データベースの再編成ができる ・地域医療連携を活性化する広域情報環境を説明できる ・プライバシー保護と情報開示に対する情報システムの役割を理解することを目標とします。 					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
理解度等を見て、総合的に評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153500138
開設科目名	医療情報判断学特論(医療情報学実験実習)			単位	3単位
対象学生				学年	~
担当教員	石田 博			区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153500139
開設科目名	医療情報判断学特論(医学判断学演習)			単位	3単位
対象学生				学年	~
担当教員	井上 裕二			区分	
授業の概要					
医療情報判断学は臨床医学と社会医学の接点にあり、その教育目標は、医学・医療の全ての営みを情報およびシステムという視点で捉え、これを客観的に評価し最適な行動を選択できる能力を修得する。					
授業の一般目標					
医学判断学演習では					
<ul style="list-style-type: none"> ・問題の解決に必要な情報の収集と処理ができる ・ベッドサイドでの判断や診療態勢をシステムとして捉えることができる ・“根拠に基づく医療”を判断学および疫学の方法から説明できる ・“効率的な医療”を臨床経済の側面から評価できる ・問題解決の目的に応じて診療データベースの再編成ができる を目標とします。					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
理解度等を見て、総合的に評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153500140
開設科目名	医療情報判断学特論(医学判断学実験実習)			単位	3単位
対象学生				学年	~
担当教員	石田 博			区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153500141
開設科目名	医療情報判断学特論(医療システム学演習)			単位	3単位
対象学生				学年	~
担当教員	井上 裕二			区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153500142
開設科目名	医療情報判断学特論(医療システム学実験実習)			単位	3単位
対象学生				学年	~
担当教員	石田 博			区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153500143
開設科目名	臨床薬理学特論(臨床薬理学演習)			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	神谷 晃			区分	
授業の概要					
EBMのための大規模臨床試験を評価し、実践するために最も重要である薬効解析法及びイベント評価法について、世界中の論文を精査して分析する。またこれらに関するメタアナリシスの手法を授業する。					
授業の一般目標					
くすりの体内動態と薬効との関係について時間の概念を加えて理解する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 薬効解析法及びイベント評価法について説明できるようになる。					
成績評価方法(総合)					
理解度を見て総合的に評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153500144
開設科目名	臨床薬理学特論(臨床薬理学実験実習)			単位	4単位
対象学生				学年	~
担当教員	神谷 晃			区分	
授業の概要					
(1)病態時の薬物動態を実際の患者データについて解析し、各種文献に基づく予測値と比較検討しながら、その乖離の原因を検討する。 (2)EBMに関連する文献についてアナリシスを実践する。					
授業の一般目標					
くすりの体内動態と薬効との関係ついて時間の概念を加えて実習する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 病態時の薬物動態を解析できるようになる。					
成績評価方法(総合)					
理解度を見て総合的に評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153500145
開設科目名	臨床薬理学特論(薬物中毒学演習)			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	神谷 晃			区分	
授業の概要					
中毒治療のための情報を、実際の治療に生せるように説明する。また、実際の最新治療の有効性を検証する。					
授業の一般目標					
中毒物質の薬効と毒性との関係について時間の概念を加えて理解する。					
授業の到達目標					
知識・理解の観点: 中毒治療のための情報を収集・整理し、実際の治療に生かすことができるようになる。					
成績評価方法(総合)					
理解度を見て、総合的に評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153500146
開設科目名	臨床薬理学特論(薬物中毒学実験実習)			単位	4単位
対象学生				学年	~
担当教員	神谷 晃			区分	
授業の概要					
中毒起因物質の迅速分析法を実習するとともに、毒性物質のトキシコキネティクスに基づく予後予測法について検証する。					
授業の一般目標					
中毒物質の薬効と毒性との関係について、時間の概念を加えて実習する。					
授業の到達目標					
技能・表現の観点: 中毒起因物質の迅速分析法を修得する。					
成績評価方法(総合)					
理解度を見て、総合的に評価する。					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153500147
開設科目名	臨床薬理学特論(創薬・育薬科学演習)			単位	2単位
対象学生				学年	~
担当教員	神谷 晃			区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					

開設期	通年	曜日時限	未定	時間割コード	5153500148
開設科目名	臨床薬理学特論(創薬・育薬科学実験実習)			単位	4単位
対象学生				学年	~
担当教員	神谷 晃			区分	
授業の概要					
授業の一般目標					
授業の到達目標					
成績評価方法(総合)					
教科書					
参考書					
メッセージ					
連絡先					
オフィスアワー					